

**令和2年度（2020年度）
障害福祉サービス意向調査
報告書**

**令和2年（2020年）9月
中野区**

は じ め に

平成 24 年 6 月、障害者総合支援法（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律）が制定され、制度の谷間を埋めるため難病患者等を障害福祉サービスの対象に加えるとともに、障害支援区分が創設されました。

本調査は、平成 30 年 3 月に策定した中野区健康福祉総合推進計画、第 5 期中野区障害福祉計画及び第 1 期障害児福祉計画が改定時期を迎え、次期計画を策定するにあたり、障害者の健康福祉サービスの利用実態や今後の利用意向を把握するために実施したものです。

この調査結果は計画改定の基礎資料として、また、区の障害福祉施策を改善・充実させるための検討材料として活用させていただきます。

ここに、本調査にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和 2 年（2020 年） 9 月

中野区健康福祉部

中野区子ども教育部

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の項目	3
3. 調査の設計	4
4. 報告書を読む際の留意点	4
II 調査結果の分析	5
障害者調査	7
1. 回答者の属性	9
1.1. アンケートの回答者	9
1.2. 性別	9
1.3. 年齢	10
1.4. 身体障害者手帳の等級	11
1.5. 愛の手帳の度数	11
1.6. 精神障害者保健福祉手帳の等級	11
1.7. 身体障害者手帳に記載された障害名	12
1.8. 精神障害の診断名	12
1.9. 障害支援区分認定	13
1.10. 要支援・要介護認定	14
1.11. 家族構成	14
1.12. 所持手帳別アンケート回答者	15
1.13. 所持手帳別年齢	16
2. 住まいについて	17
2.1. 住居形態	17
2.2. 住宅で困っていることの有無	19
2.2.1. 住宅で困っていること	20
2.3. 将来、生活したいところ	22
2.4. 災害への不安の有無	24
2.4.1. 災害に関して不安を感じていること	25
3. 日常生活の介護や支援について	27
3.1. 日常生活での介助の必要性の有無	27
3.1.1. 日常生活で介助を必要とすること	28
3.1.2. 主な介助者	30

3. 1. 3. 主な介助者を除く日常的な介助者	32
3. 2. 主な介助者が介助困難になった場合の対処	33
3. 3. 平日の日中の過ごし方	35
4. 外出状況について	37
4. 1. 外出の頻度	37
4. 2. 外出の主な目的	39
4. 3. 外出する上での妨げの有無	41
4. 3. 1. 外出する上で妨げになっていること	42
4. 4. 外出の際の主な交通手段	44
5. 働くことについて	46
5. 1. 就労による定期的な収入の有無	46
5. 1. 1. 現在の就労形態	48
5. 1. 2. 仕事を見つけた方法	50
5. 1. 3. 仕事や職場への不安や不満の有無	52
5. 1. 3. 1. 仕事や職場への不安や不満	55
5. 1. 4. 希望する働き方	58
5. 2. 障害者が働くための環境整備	61
6. 健康福祉サービスについて	64
6. 1. 相談サービスの利用有無	64
6. 1. 1. 利用した相談サービス	65
6. 2. 障害福祉サービス	67
6. 2. 1. 障害福祉サービスの利用状況	67
6. 2. 2. 障害福祉サービスの利用意向	69
6. 2. 3. サービス等利用計画について不満に思うこと	71
6. 2. 4. 障害福祉サービスを利用していない理由	73
6. 3. 障害者に対する理解	75
6. 4. ヘルプマークの認知度	77
6. 5. 充実して欲しい施策	78
6. 6. 障害者差別解消法の認知度	80
6. 7. 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと	81
7. 自由回答	83
7. 1. 日常生活で困っていること	83
7. 2. 健康福祉行政全体への意見・要望	87
施設入所者調査	89
1. 回答者の属性	91

1. 1. アンケートの回答者	91
1. 2. 性別	91
1. 3. 年齢	91
1. 4. 身体障害者手帳の等級	92
1. 5. 愛の手帳の度数	92
1. 6. 身体障害者手帳に記載された障害名	92
1. 7. 障害支援区分	93
1. 8. 入所施設の種類	93
2. 入所について	94
2. 1. 入所年数	94
2. 2. 入所理由	95
2. 3. 施設の場所	96
3. 今後の生活について	97
3. 1. 生活したい場所	97
3. 2. 施設退所後の生活	99
3. 2. 1. 施設退所後に住みたい場所	101
4. 自由回答	103
発達支援等調査	105
1. 回答者の属性	107
1. 1. アンケートの回答者	107
1. 2. 性別	107
1. 3. 年齢	107
1. 4. 身体障害者手帳の等級	108
1. 5. 愛の手帳の度数	108
1. 6. 精神保健福祉手帳の等級	108
1. 7. 身体障害者手帳に記載された障害名	109
1. 8. 診断に関することで気がついた年齢	109
1. 9. 家族構成	110
1. 10. 所持手帳別年齢	110
2. 医療的ケア等について	111
2. 1. 医療的ケアの必要性	111
2. 1. 1. 医療的ケアの内容	113
2. 1. 2. 身体能力について	115
2. 2. サービス等の利用状況	116
2. 2. 1. これまで利用できなかったサービス等の有無	120

2.2.2. 利用できなかったサービス等	121
3. 児童福祉法のサービスについて	123
3.1. 児童発達支援の認知度	123
3.2. 児童発達支援の利用の有無	125
3.2.1. 利用している児童発達支援事業所数	127
3.2.2. 児童発達支援事業所に通う日数	129
3.2.3. 児童発達支援を希望する利用日数	130
3.3. 児童発達支援の利用意向	131
3.3.1. 児童発達支援を利用したくない理由	133
3.4. 居宅訪問型児童発達支援の利用意向	134
3.4.1. 利用したい日数	135
3.5. 放課後等デイサービスの認知度	136
3.6. 放課後等デイサービスの利用状況	138
3.6.1. 利用している放課後等デイサービス事業所数	140
3.6.2. 放課後等デイサービス事業所に通う日数	142
3.6.3. 放課後等デイサービス事業所を希望する利用日数	143
3.7. 放課後等デイサービスの利用意向	144
3.7.1. 放課後等デイサービスを利用したくない理由	146
3.7.2. 区外の事業所を利用している理由	147
3.8. 保育所等訪問支援の認知度	148
3.9. 保育所等訪問支援の利用意向	150
3.9.1. 保育所等訪問支援の希望利用日数	152
3.10. 障害児相談支援の認知度	153
3.11. 障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用の有無	155
3.12. 障害児相談支援事業所の利用希望	157
3.13. 障害児相談支援の利用意向	159
3.14. 障害児に対する地域の理解	161
3.15. 充実してほしい施策・サービス	163
4. 自由回答	164
4.1. 日常生活で困っていること	164
4.2. 健康福祉行政全体への意見・要望	169

Ⅲ 調査票と単純集計	173
------------	-----

I 調査の概要

1. 調査の目的

障害者の健康福祉サービスの利用実態や今後の利用意向を把握することを目的とする。

2. 調査の項目

① 障害者調査

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 住まいについて
- (3) 日常生活の介護や支援について
- (4) 外出状況について
- (5) 働くことについて
- (6) 健康福祉サービスについて
- (7) 自由回答

② 施設入所者調査

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 入所について
- (3) 今後の生活について
- (4) 自由回答

③ 発達支援等調査

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 医療的ケア等について
- (3) 児童福祉法のサービスについて
- (4) 自由回答

3. 調査の設計

調査は、以下の①～③について、郵送による配布・回収の方法で行った。

① 障害者調査

- ・調査対象：基準日（令和2年4月1日）時点で、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している区民、及び難病等により障害福祉サービスを利用する区民。ただし、施設入所支援の利用者を除く。
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：1,500人
- ・有効回収数：865人（回収率57.7%）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査期間：令和2年5月8日～5月29日

② 施設入所者調査

- ・調査対象：身体障害者手帳、愛の手帳を所持している障害者のうち、基準日（令和2年4月1日）時点で、施設入所支援を利用している中野区の給付対象者。
- ・調査地域：日本全域
- ・調査標本数：177人
- ・有効回収数：148人（回収率83.6%）
- ・調査期間：令和2年5月8日～5月29日

③ 発達支援等調査

- ・調査対象：基準日（令和2年4月1日）時点で、0歳から18歳までの発達支援の対象児童、および身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している児童。
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：650人
- ・有効回収数：337人（回収率51.8%）
- ・調査期間：令和2年5月8日～5月29日

4. 報告書を読む際の留意点

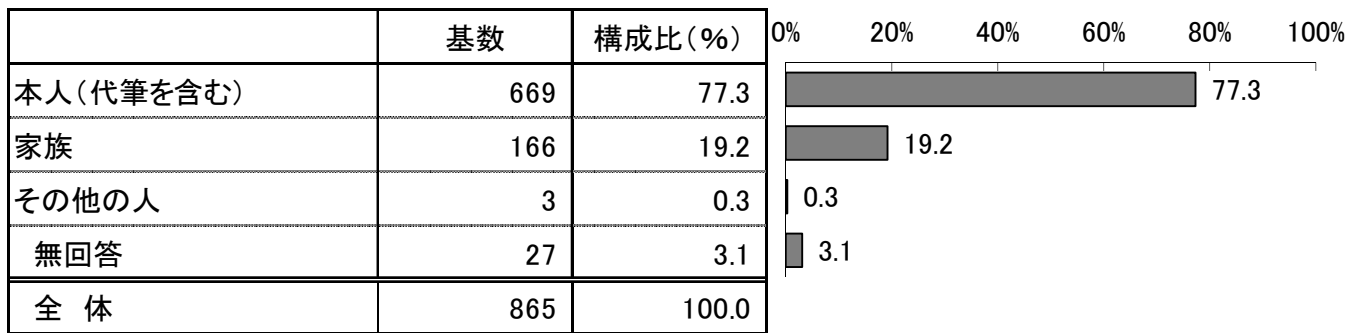
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。
- クロス集計の表の中で、上段の数字は回答者数（単位：人）を、下段の数字は割合（単位：%）を表す。
- 所持手帳別の集計には、複数の手帳所持者も含まれている。

Ⅱ 調査結果の分析

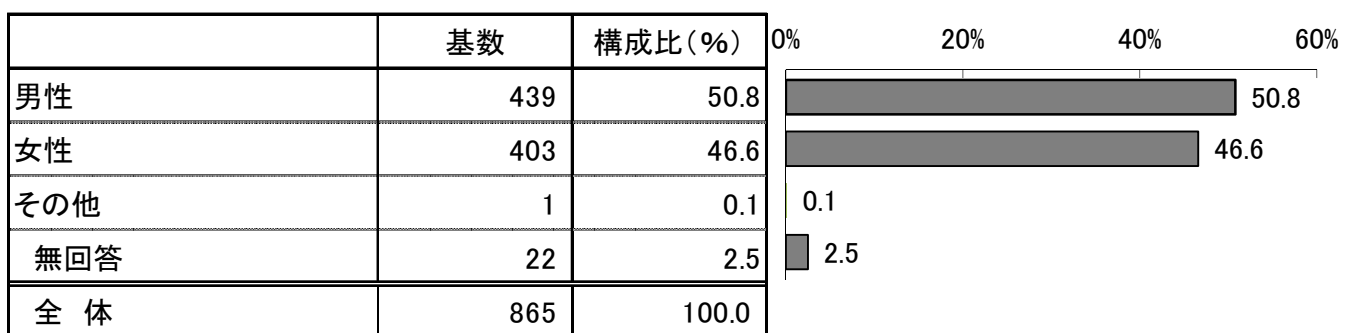
障害者調査

1. 回答者の属性

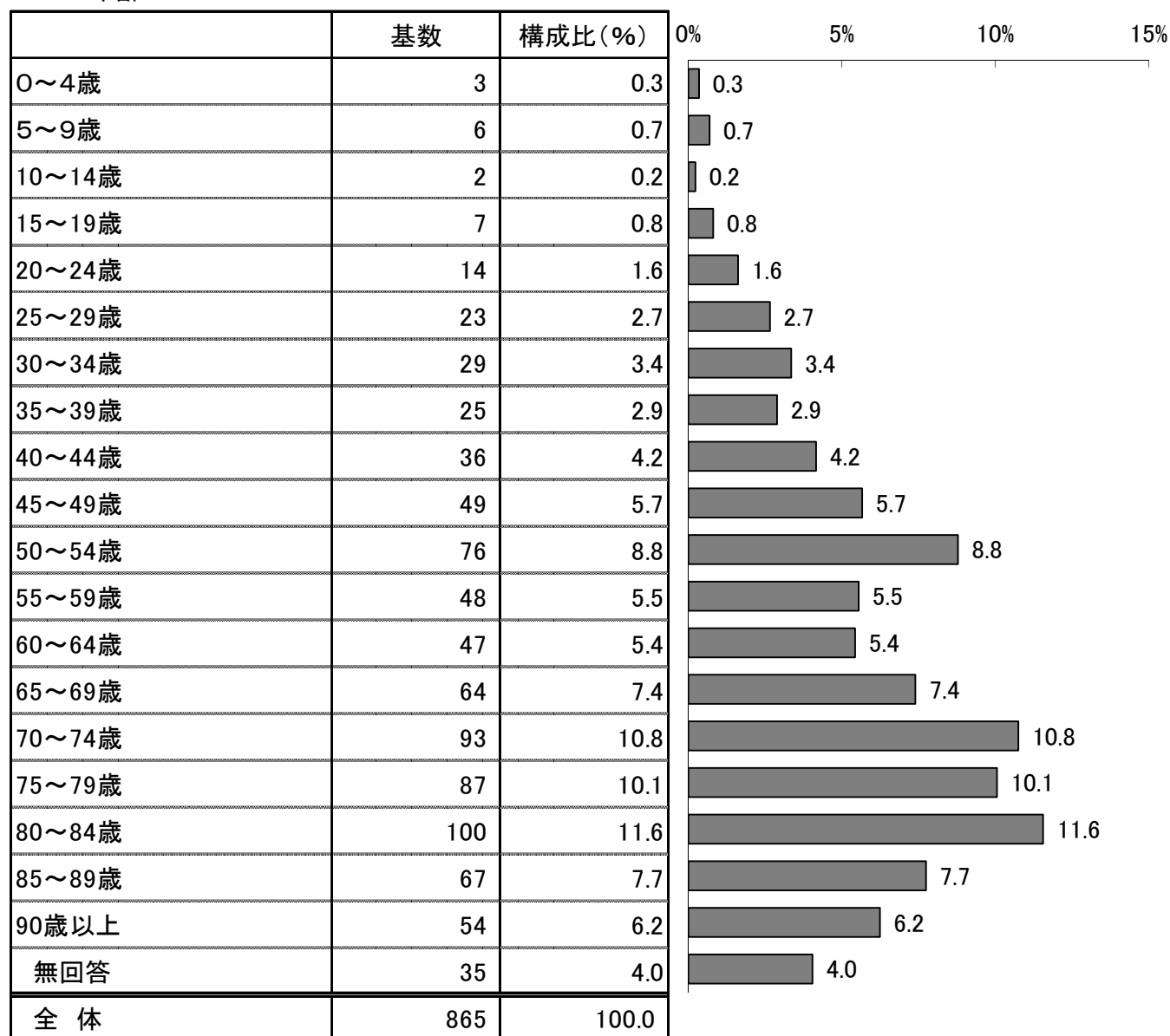
1.1. アンケートの回答者



1.2. 性別

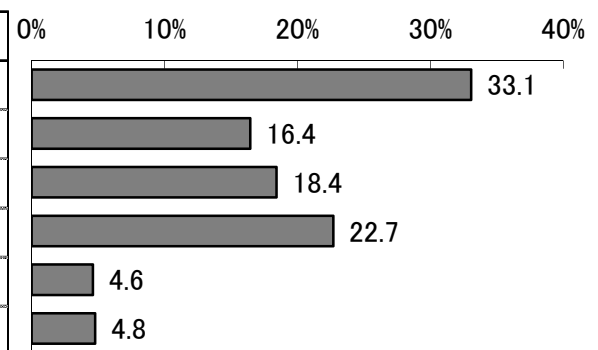


1.3. 年齢



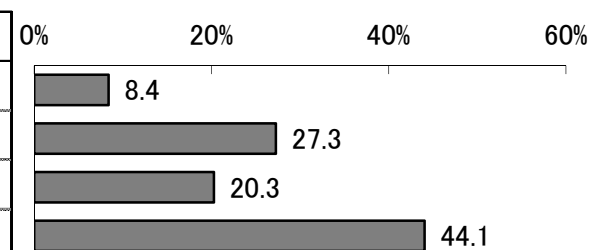
1. 4. 身体障害者手帳の等級

	基数	構成比(%)
1級	201	33.1
2級	100	16.4
3級	112	18.4
4級	138	22.7
5級	28	4.6
6級	29	4.8
全 体	608	100.0



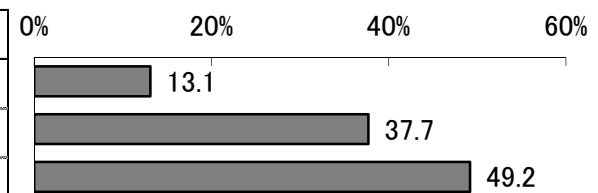
1. 5. 愛の手帳の度数

	基数	構成比(%)
1度	12	8.4
2度	39	27.3
3度	29	20.3
4度	63	44.1
全 体	143	100.0

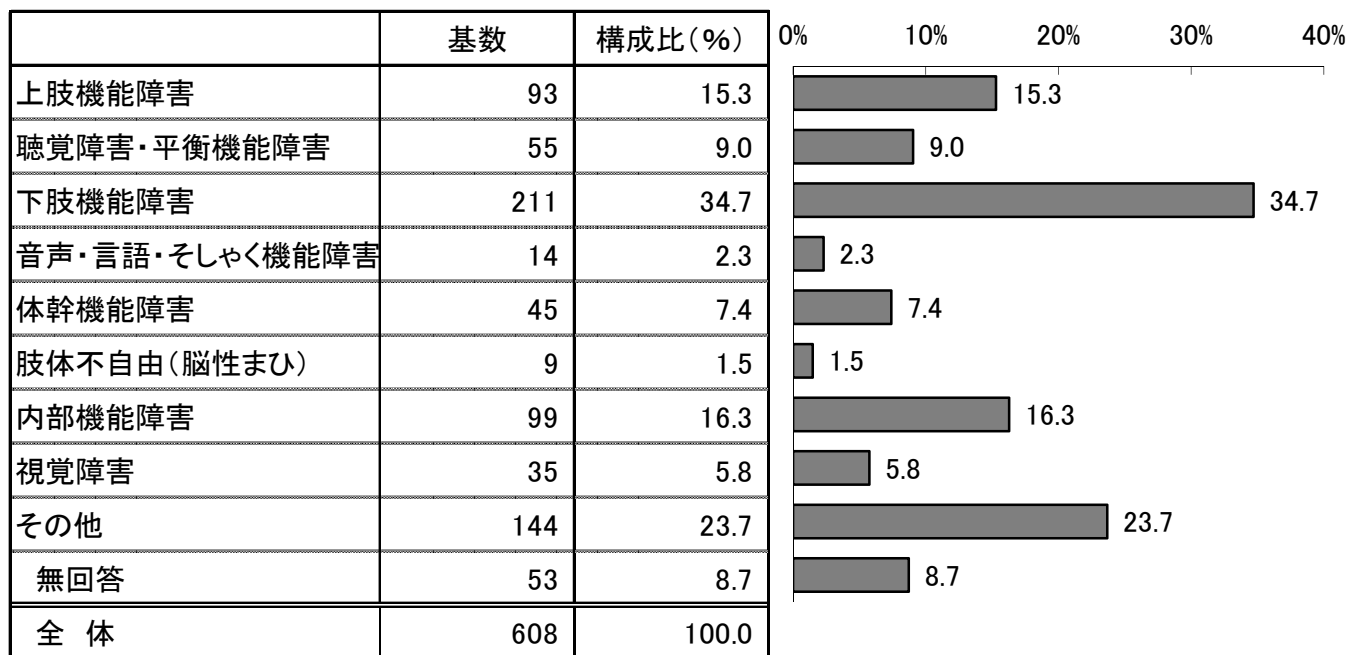


1. 6. 精神障害者保健福祉手帳の等級

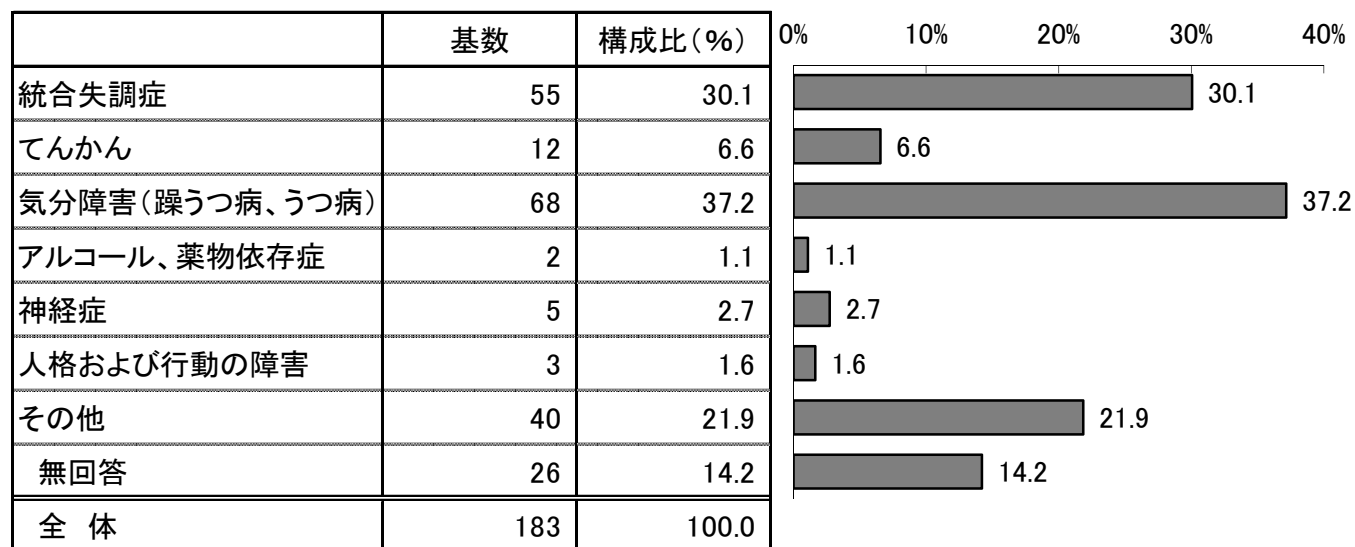
	基数	構成比(%)
1級	24	13.1
2級	69	37.7
3級	90	49.2
全 体	183	100.0



1.7. 身体障害者手帳に記載された障害名（複数回答）



1.8. 精神障害の診断名（複数回答）



1.9. 障害支援区分認定

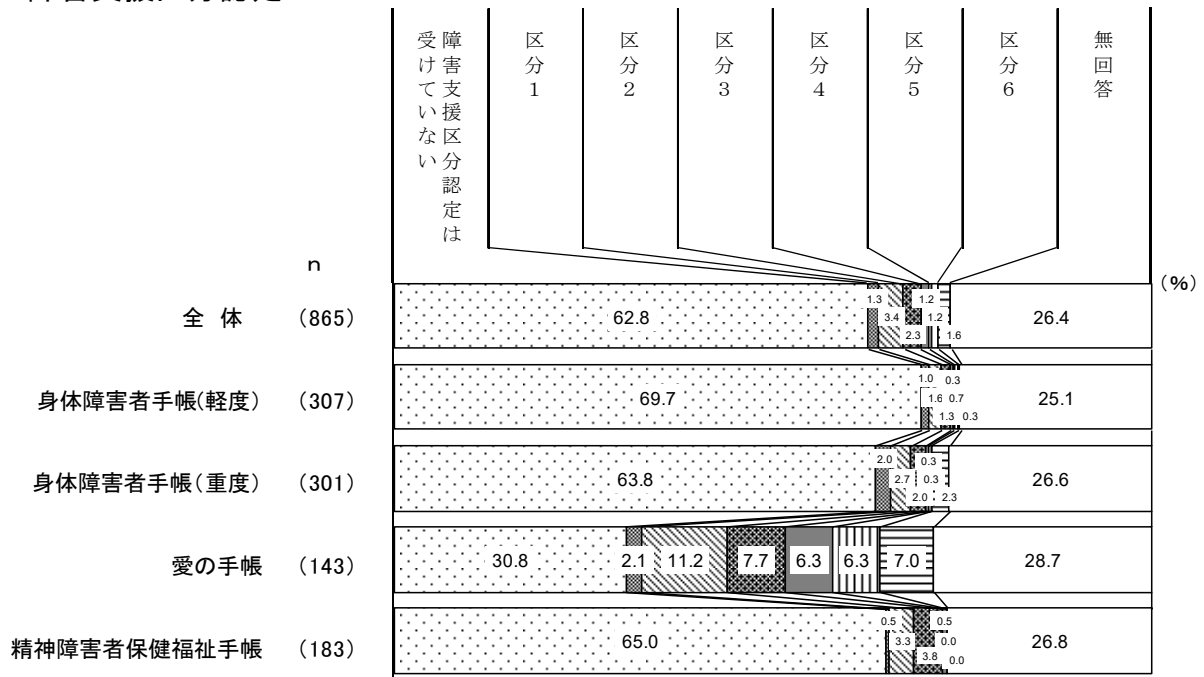
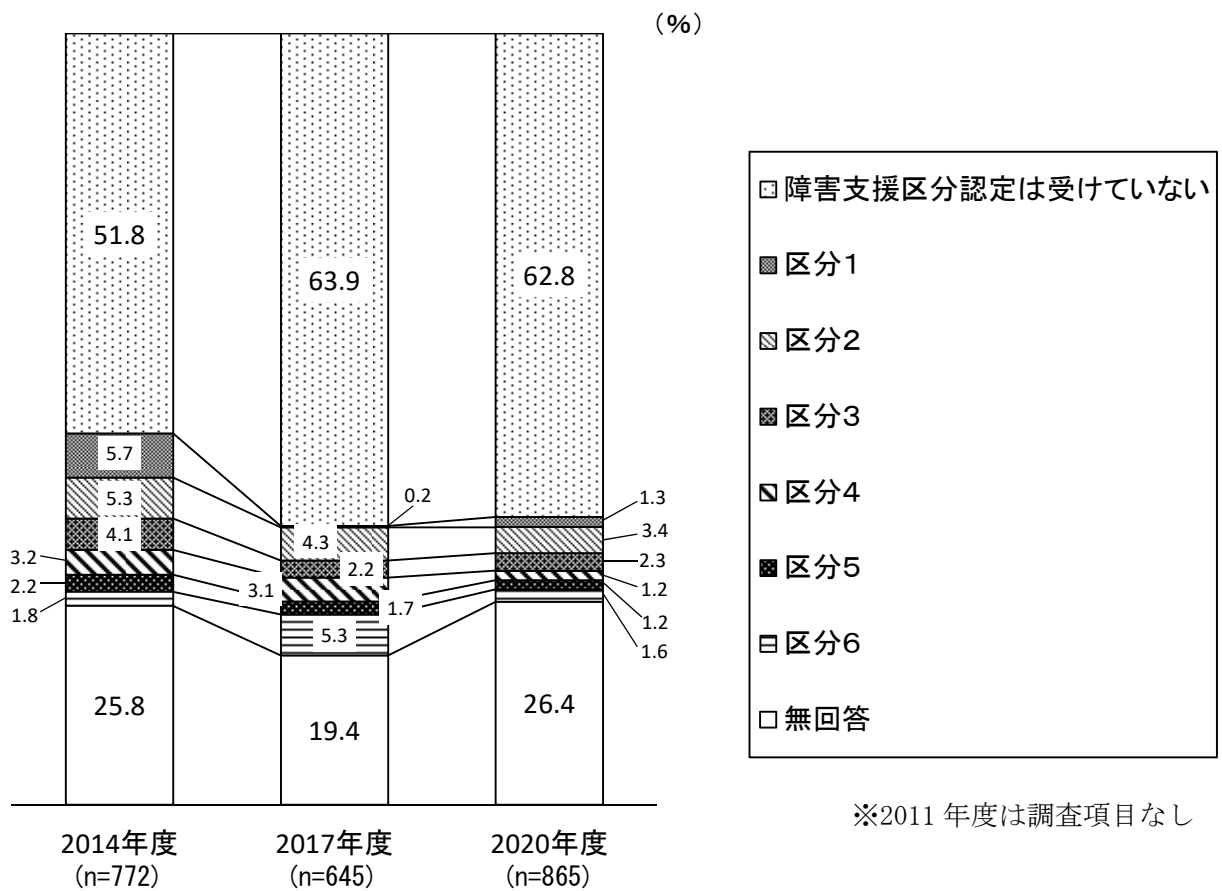
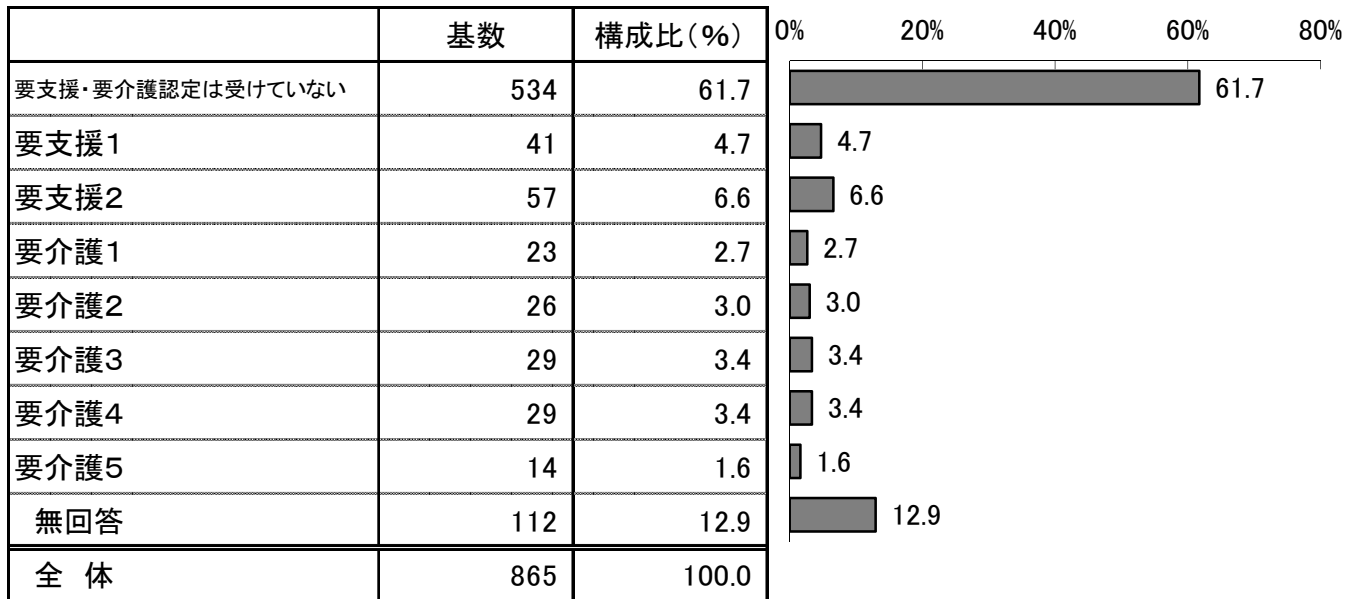


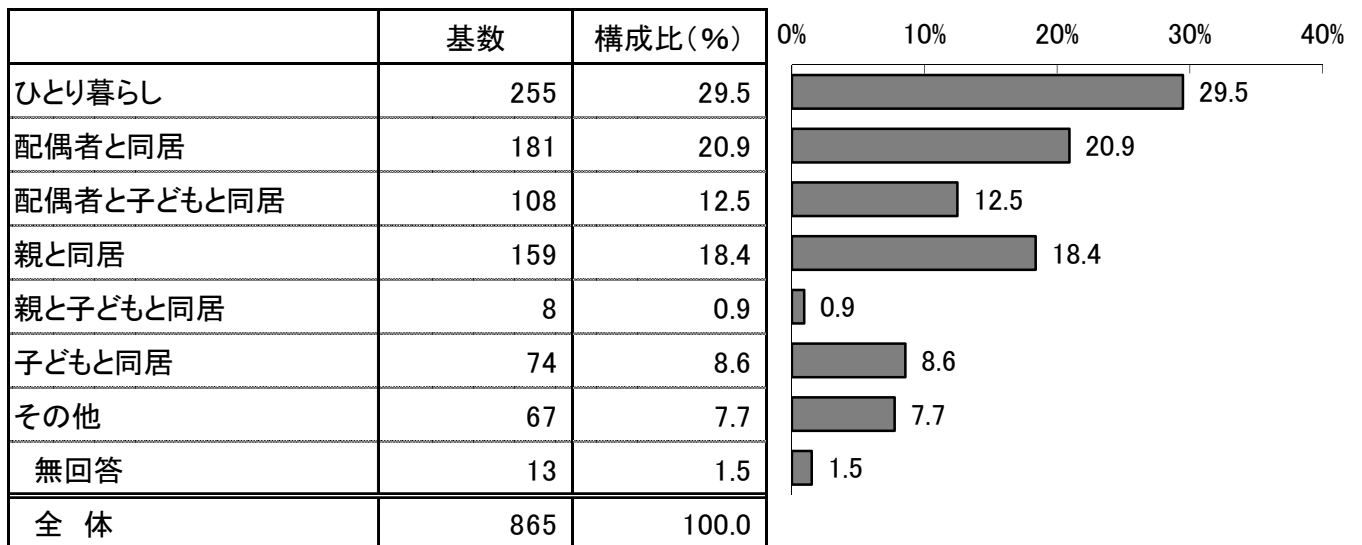
図1 【経年比較】障害支援区分認定



1. 10. 要支援・要介護認定



1. 11. 家族構成



1. 12. 所持手帳別アンケート回答者

①身体障害者手帳の等級別

	全体	1級	2級	3級	4級	5級	6級
全体	608	201	100	112	138	28	29
本人(代筆を含む)	490	158	72	90	119	26	25
家族	101	37	27	14	18	1	4
その他の人	2	2	0	0	0	0	0

※アンケート回答者は無回答があるため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

②愛の手帳の度数別

	全体	1度	2度	3度	4度
全体	143	12	39	29	63
本人(代筆を含む)	72	10	5	13	44
家族	66	2	33	15	16
その他の人	0	0	0	0	0

※アンケート回答者は無回答があるため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

③精神障害者保健福祉手帳の等級別

	全体	1級	2級	3級
全体	183	24	69	90
本人(代筆を含む)	158	16	60	82
家族	22	7	8	7
その他の人	1	1	0	0

※アンケート回答者は無回答があるため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

1.13. 所持手帳別年齢

上段：(人) 下段：(%)

	全 体	0 ～ 4 歳	5 ～ 9 歳	10 ～ 14 歳	15 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳
全体	865	3	6	2	7	14	23	29	25	36	49	76
	100.0	0.3	0.7	0.2	0.8	1.6	2.7	3.4	2.9	4.2	5.7	8.8
身体(軽度)	307	1	0	0	2	1	1	4	1	6	10	17
	100.0	0.3	0.0	0.0	0.7	0.3	0.3	1.3	0.3	2.0	3.3	5.5
身体(重度)	301	0	2	1	1	3	4	4	7	6	6	22
	100.0	0.0	0.7	0.3	0.3	1.0	1.3	1.3	2.3	2.0	2.0	7.3
愛の手帳	143	2	4	1	5	12	11	13	7	13	17	16
	100.0	1.4	2.8	0.7	3.5	8.4	7.7	9.1	4.9	9.1	11.9	11.2
精神障害者保健福祉手帳	183	1	0	0	0	4	8	11	12	15	26	34
	100.0	0.5	0.0	0.0	0.0	2.2	4.4	6.0	6.6	8.2	14.2	18.6

	全 体	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 歳 以上	無 回 答	(生 産 年 齢 上 人 口 65 歳 未 満)
全体	865	48	47	64	93	87	100	67	54	35	365
	100.0	5.5	5.4	7.4	10.8	10.1	11.6	7.7	6.2	4.0	42.2%
身体(軽度)	307	9	21	25	46	38	50	39	28	8	73
	100.0	2.9	6.8	8.1	15.0	12.4	16.3	12.7	9.1	2.6	23.8%
身体(重度)	301	17	12	31	41	42	44	25	21	12	85
	100.0	5.6	4.0	10.3	13.6	14.0	14.6	8.3	7.0	4.0	28.2%
愛の手帳	143	5	10	5	8	6	1	4	0	3	116
	100.0	3.5	7.0	3.5	5.6	4.2	0.7	2.8	0.0	2.1	81.1%
精神障害者保健福祉手帳	183	21	8	8	8	7	3	6	4	7	140
	100.0	11.5	4.4	4.4	4.4	3.8	1.6	3.3	2.2	3.8	76.5%

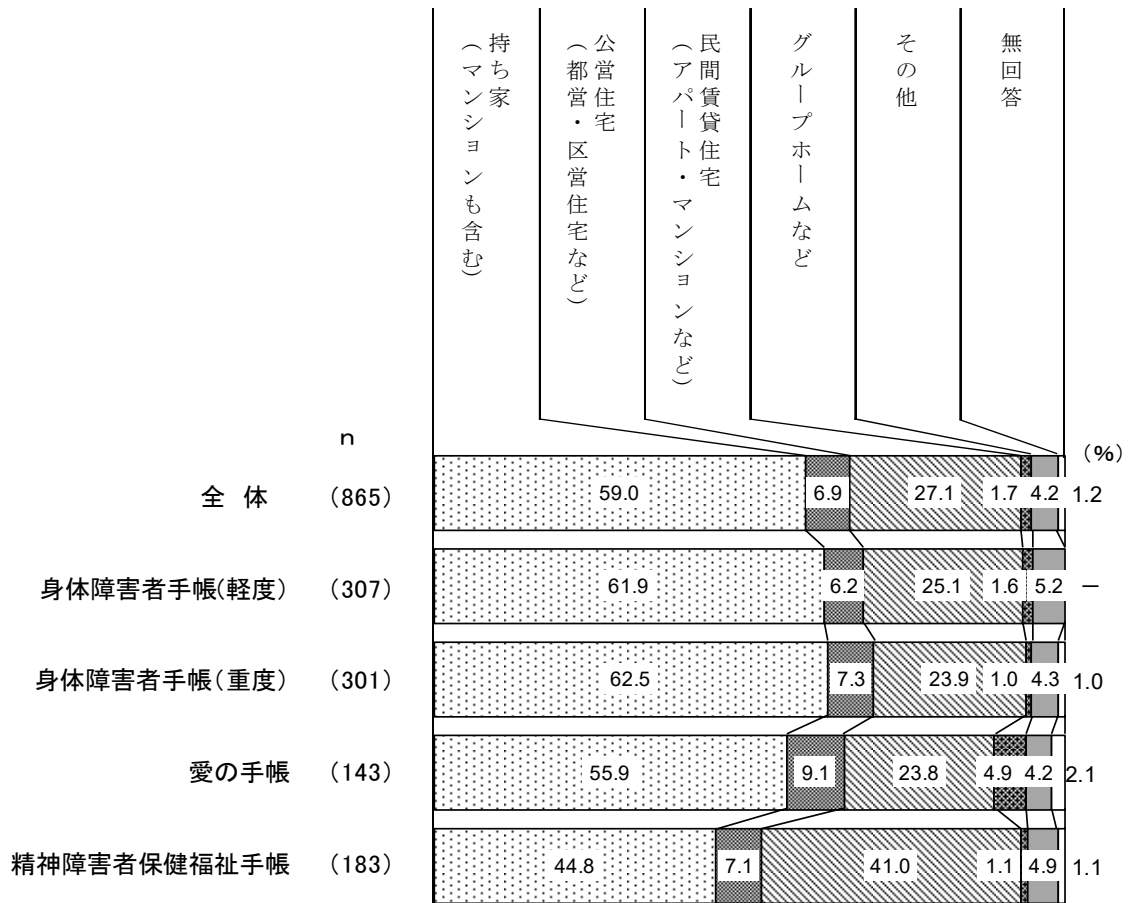
2. 住まいについて

2.1. 住居形態

◆住居形態は「持ち家」が約6割

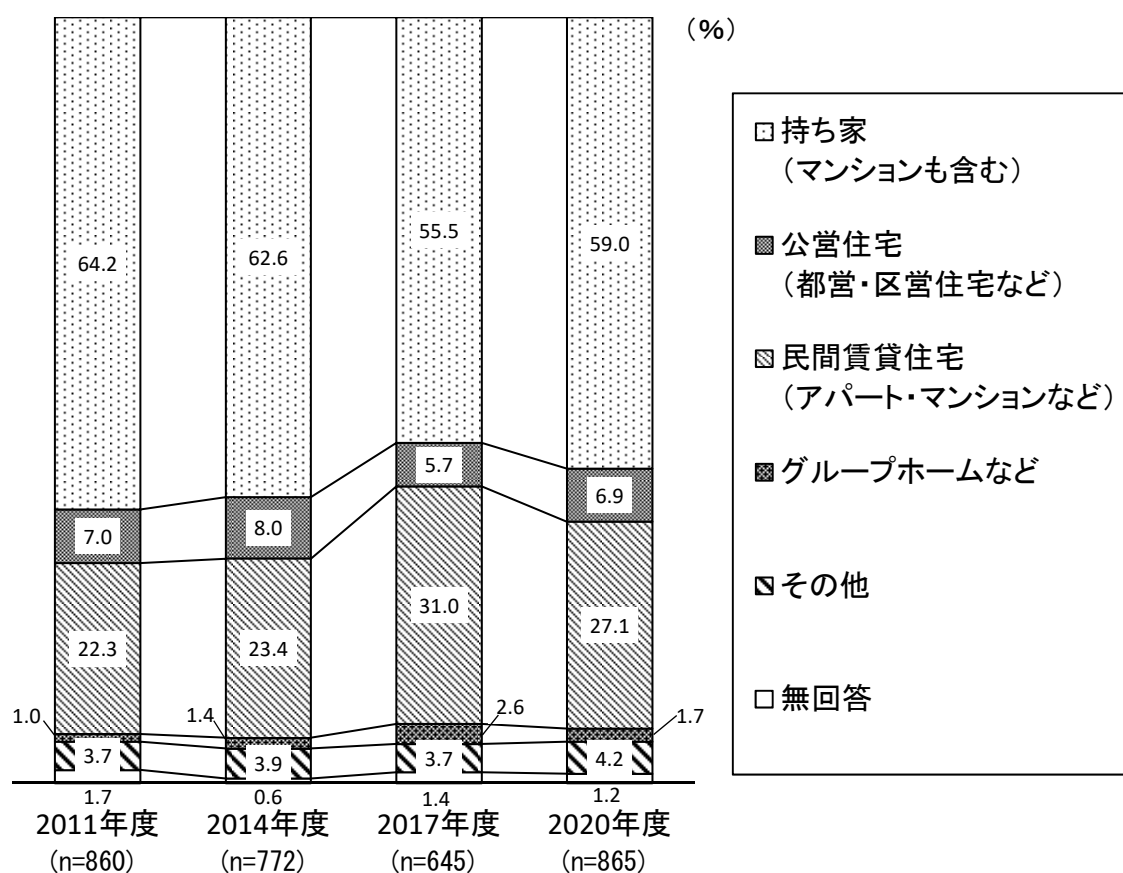
問7. あなた（あて名の方ご本人）のお住まいは次のどれにあたりますか。（○は1つ）

図 2-1 【所持手帳別】住居形態



住居形態は、全体では「持ち家（マンションも含む）」が約6割となっている。所持手帳別で見ると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」が高くなっている。また、「グループホームなど」を住居としている人は愛の手帳所持者が4.9%と、他の手帳所持者と比べ比較的多くなっている。

図 2-2 【経年比較】住居形態



住居形態を経年比較でみると、「持ち家」と「公営住宅」が増加し、「民間賃貸住宅」が減少している。

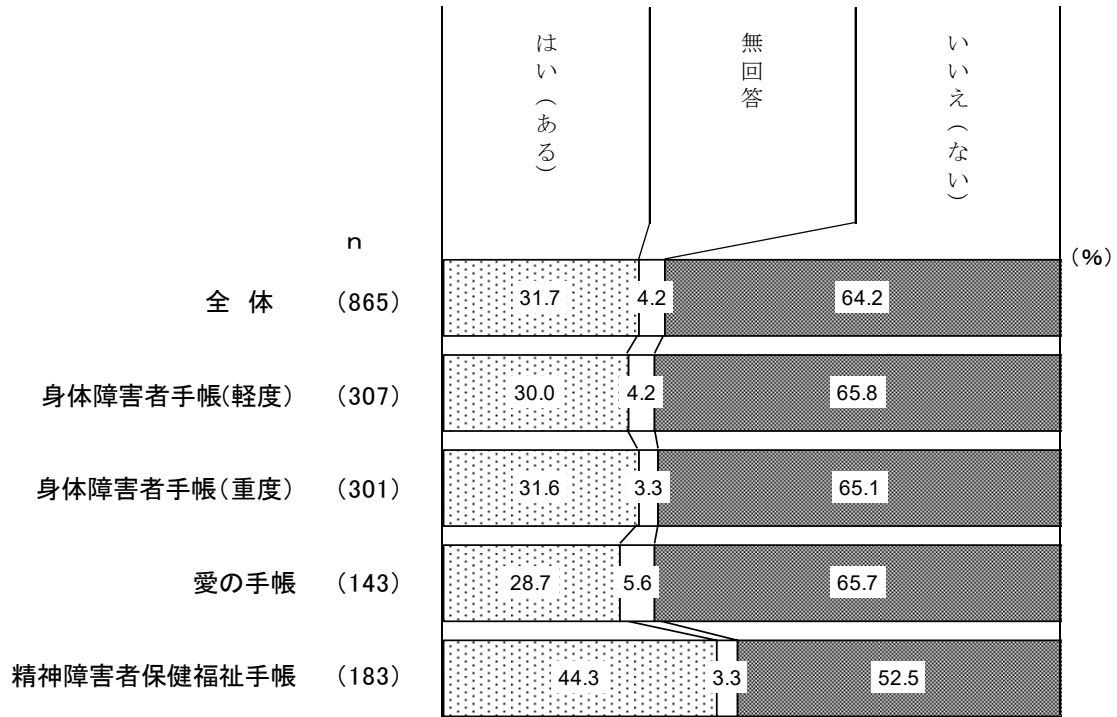
2.2. 住宅で困っていることの有無

◆住宅で困っていることが「ある」方は全体の約3割

(全員の方に)

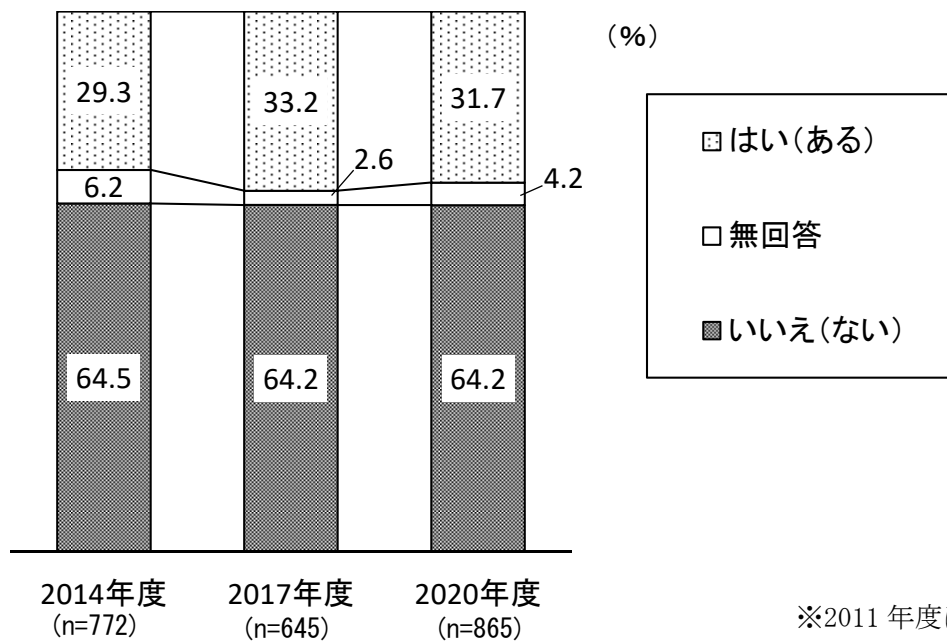
問8. あなた(あて名のご本人)の住宅で困っていることはありますか。(○は1つ)

図2-3 【所持手帳別】住宅で困っていることの有無



住宅について困っていることの有無で、「はい(ある)」が、全体で約3割となっている。

図2-4 【経年比較】住宅で困っていることの有無



住宅で困っていることの有無を経年比較でみると、大きな差異はみられない。

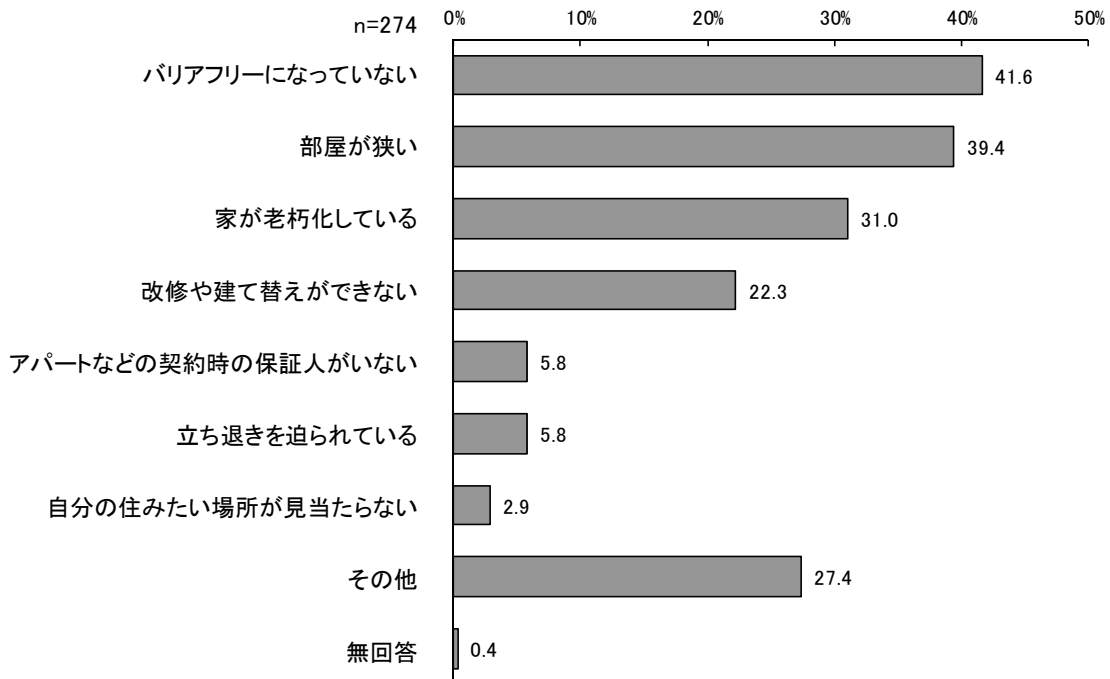
2.2.1. 住宅で困っていること

◆住宅で困っていることは「バリアフリーになっていない」が約4割

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

問 8-1. 住宅で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図 2-5 住宅で困っていること



住宅で困っていることがあると回答した方に、困っている内容をきいたところ、「バリアフリーになっていない」が高くなっており、次いで「部屋が狭い」「家が老朽化している」「改修や建て替えができない」となっている。

図 2-6 【所持手帳別】上位5項目 住宅で困っていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=92	家が老朽化している 39.1	部屋が狭い 34.8	バリアフリーになっていない 32.6	改修や建て替えができない 18.5	アパートなどの契約時の保証人がいない 6.5
身体障害者手帳(重度) n=95	バリアフリーになっていない 45.3	部屋が狭い 38.9	家が老朽化している 36.8	改修や建て替えができない 25.3	アパートなどの契約時の保証人がいない 4.2
愛の手帳 n=41	部屋が狭い 56.1	家が老朽化している 36.6	バリアフリーになっていない 22.0	改修や建て替えができない 14.6	自分の住みたい場所が見当たらない 9.8
精神障害者保健福祉手帳 n=81	部屋が狭い 46.9	家が老朽化している 44.4	改修や建て替えができない 18.5	バリアフリーになっていない 13.6	自分の住みたい場所が見当たらない 11.0

住宅で困っていることを所持手帳別でみると、愛の手帳所持者では「部屋が狭い」が半数を超えている。

図 2-7 【経年比較】上位 5 項目 住宅で困っていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=274	バリアフリーになっていない 41.6	部屋が狭い 39.4	家が老朽化している 31.0	改修や建て替えができない 22.3	アパートなどの契約時の保証人がいない 5.8
2017年度 n=214	部屋が狭い 41.1	家が老朽化している 34.6	バリアフリーになっていない 29.9	改修や建て替えができない 13.1	アパートなどの契約時の保証人がいない 11.7
2014年度 n=226	家が老朽化している 40.3	部屋が狭い 31.9	バリアフリーになっていない 31.0	改修や建て替えができない 15.5	アパートなどの契約時の保証人がいない 11.5
2011年度 n=860	老朽化しているが、改修や建て替えができない 14.9	バリアフリーになっていない 14.2	部屋が狭い 12.7	アパートなどの契約時の保証人がいない 2.6	立ち退きを迫られている 0.8

住宅で困っていることを経年比較でみると、2020 年度は「バリアフリーになっていない」が「部屋が狭い」「家が老朽化している」を上回り第 1 位となっている。

2.3. 将来、生活したいところ

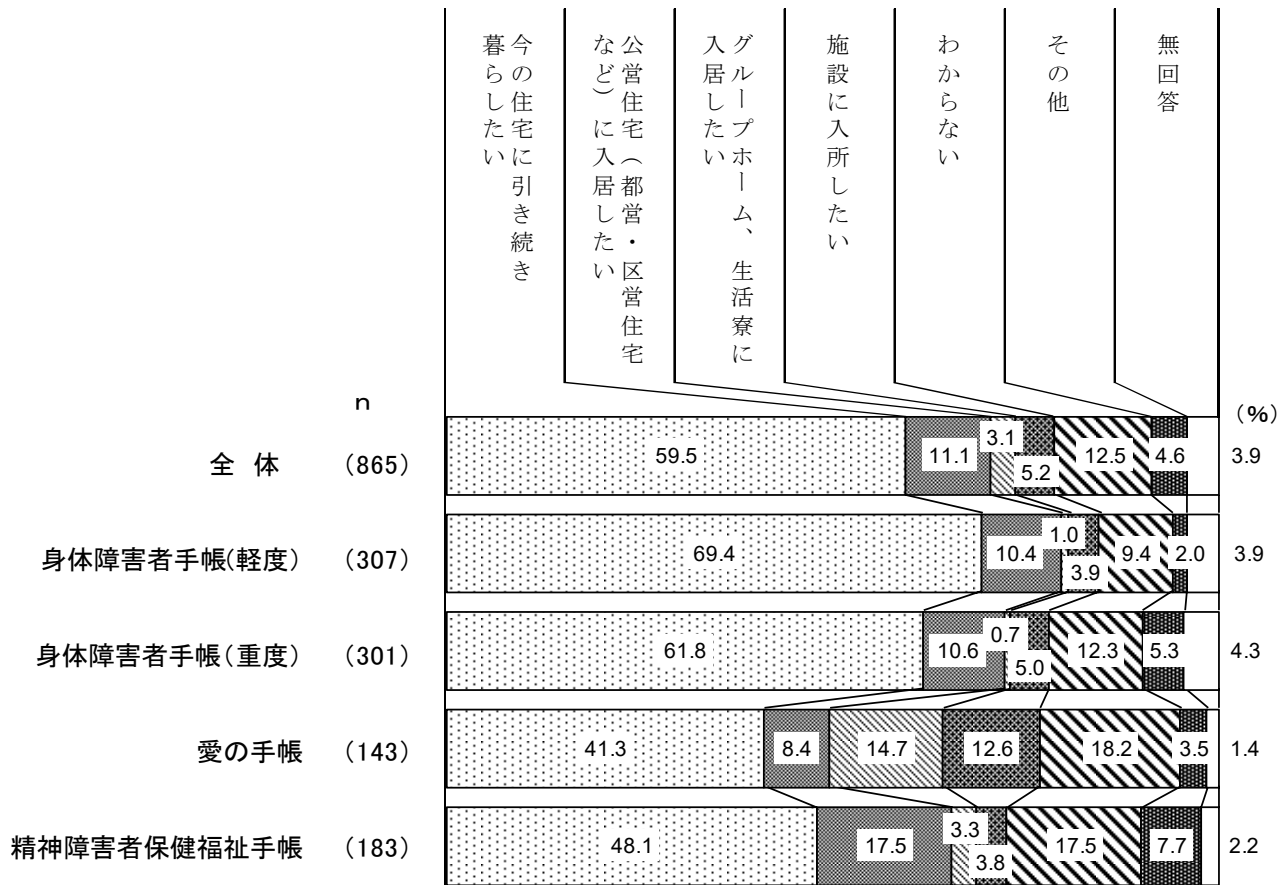
◆将来も「今の住宅に引き続き暮らしたい」はいずれの手帳所持者においても最も高い

（全員の方に）

問9. あなた（あて名のご本人）は、将来はどのようなところで生活したいと思いますか。

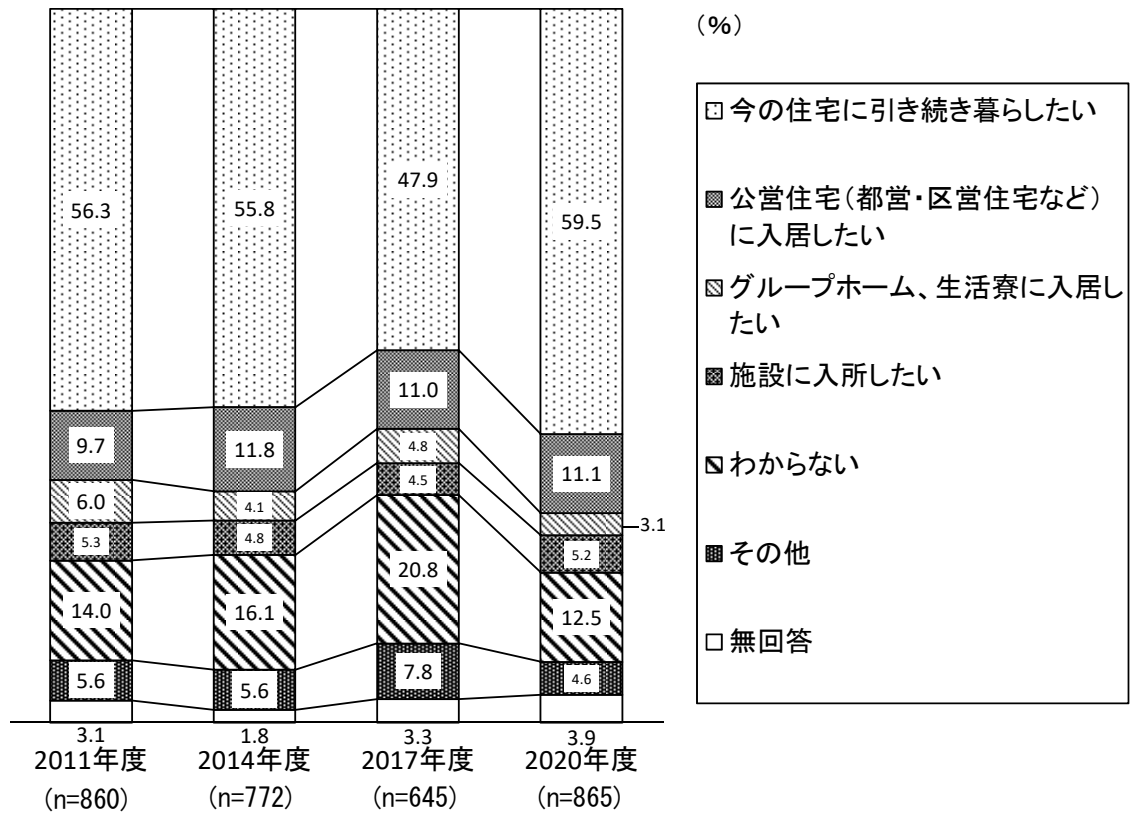
（〇は1つ）

図 2-8 【所持手帳別】将来、生活したいところ



将来、生活したいところは、いずれの手帳所持者においても「今の住宅に引き続き暮らしたい」が最も高いが、愛の手帳所持者では他に比べ「グループホーム、生活寮に入居したい」も高くなっている。

図 2-9 【経年比較】将来、生活したいところ



※2014年度、2017年度の「グループホーム、生活寮に入居したい」の選択肢は、2011年度では「グループホーム、ケアホーム、生活寮に入居したい」である。

将来、生活したいところを経年変化でみると、減少傾向であった「今の住宅に引き続き暮らしたい」が増加しており、2020年度は2017年度と比べ、11.6ポイント増加している。

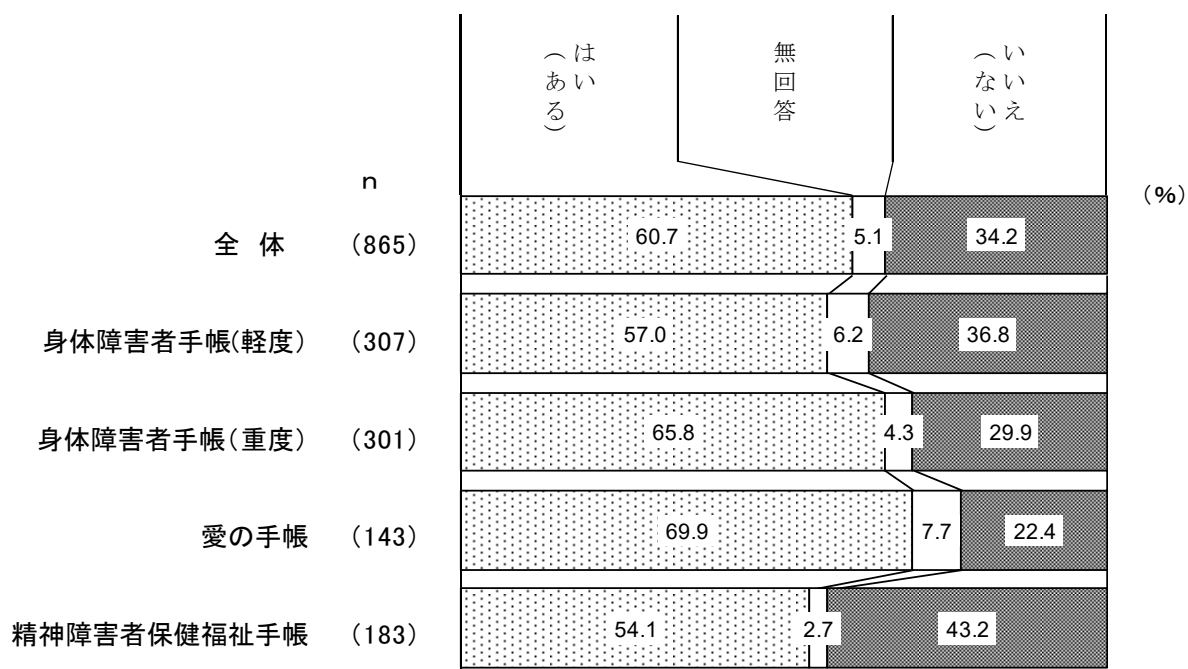
2.4. 災害への不安の有無

◆災害への不安が「ある」方は身体障害者手帳所持者（重度）と愛の手帳所持者において6割台半ばを超えている

（全員の方に）

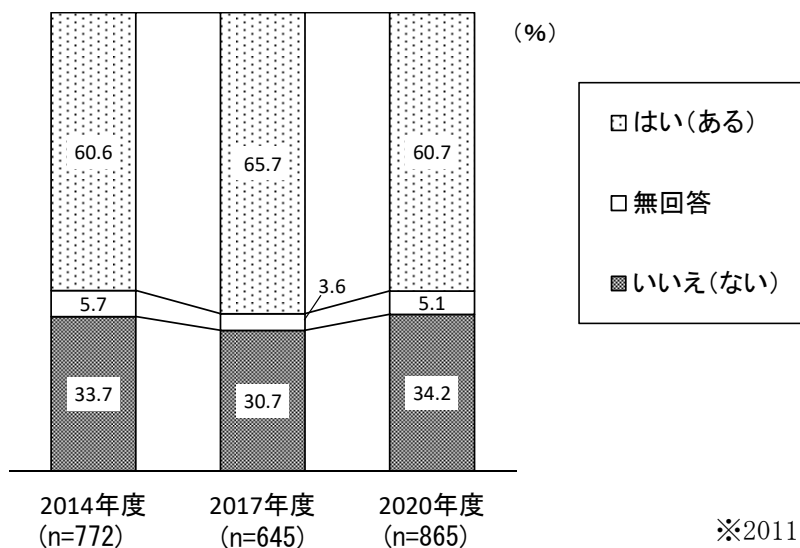
問 10. 火事や地震などの災害に関して、障害があるためにあなた（あて名のご本人）が不安を感じていることはありますか。

図 2-10 【所持手帳別】災害への不安の有無



火事や地震などの災害への不安の有無は、「はい（ある）」が身体障害者手帳所持者（重度）で6割台半ば、愛の手帳所持者で約7割と他に比べ高くなっている。

図 2-11 【経年比較】災害への不安の有無



※2011 年度は調査項目なし

災害への不安の有無を経年変化でみると、2017 年度と比べると「はい（ある）」は5ポイント減少しているが、依然6割超となっている。

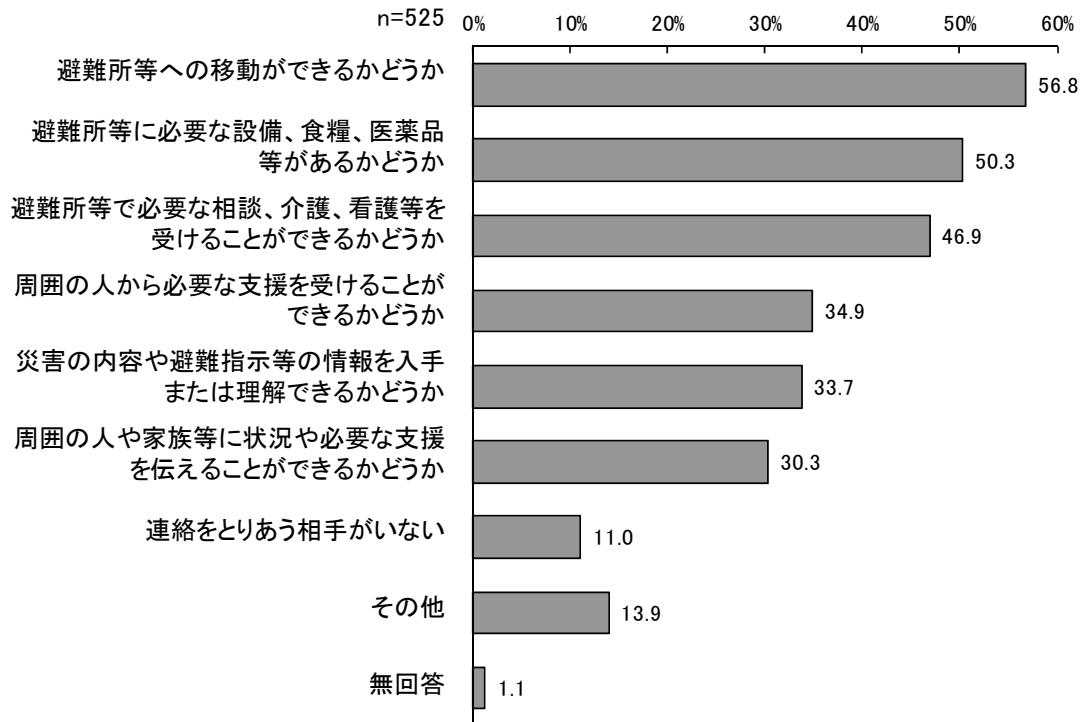
2.4.1. 災害に関して不安を感じていること

◆災害時の不安は「避難所等への移動ができるかどうか」が5割台半ば

(問10で「1. はい」とお答えの方に)

問10-1. 不安を感じていることはどのようなことですか。

図2-12 災害に関して不安を感じていること



災害への不安があると回答した方に、不安を感じている内容をきいたところ、「避難所等への移動ができるかどうか」が最も高くなっており、次いで「避難所等に必要な設備、食料、医薬品等があるかどうか」「避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか」となっている。

図 2-13 【所持手帳別】上位 5 項目 災害に関して不安を感じていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=175	避難所等への移動ができるかどうか 60.6	避難所等に必要な設備、食糧、医薬品等があるかどうか 41.1	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 39.4	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 25.7	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 24.0
身体障害者手帳(重度) n=198	避難所等への移動ができるかどうか 65.2	避難所等に必要な設備、食糧、医薬品等があるかどうか 58.1	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 53.5	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 37.9	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 28.8
愛の手帳 n=100	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 59.0	避難所等への移動ができるかどうか 54.0	周囲の人や家族等に状況や必要な支援を伝えることができるかどうか 52.0	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 50.0	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 45.0
精神障害者保健福祉手帳 n=99	避難所等に必要な設備、食糧、医薬品等があるかどうか 57.6	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 51.5	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 39.4	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 38.4	避難所等への移動ができるかどうか 37.4

災害に関して不安を感じていることを所持手帳別でみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「避難所等に必要な設備、食料、医薬品等があるかどうか」が高く、次いで「避難所等で必要な相談、介助、看護等を受けることができるかどうか」が高くなっている。愛の手帳所持者では、他の手帳所持者に比べ「周囲の人や家族等に状況や必要な支援を伝えることができるかどうか」の割合が高くなっている。

図 2-14 【経年比較】上位 5 項目 災害に関して不安を感じていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=525	避難所等への移動ができるかどうか 56.8	避難所等に必要な設備、食糧、医薬品等があるかどうか 50.3	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 46.9	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 34.9	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 33.7
2017年度 n=424	避難所等への移動ができるかどうか 56.6	避難所等に必要な設備、食料、医薬品等があるかどうか 55.4	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 46.9	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 45.3	震災の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 35.8
2014年度 n=468	避難所等への移動ができるかどうか 62.4	避難所等に必要な設備、食料、医薬品等があるかどうか 51.7	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 44.2	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 43.6	震災の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 39.3
2011年度 n=860	一時的であっても避難場所ですぐ過ごすことが難しい 30.6	病院等に行けないため、薬の手配が難しい 27.0	初期消火ができない 26.7	自力で避難できない 26.6	どこに避難してよいかわからない 26.2

災害に関して不安を感じていることを経年比較でみると、2020年度と2017年度の上位5項目は、同様の結果となっている。「避難所等への移動ができるかどうか」の割合が2014年度に比べると2017年度、2020年度ともに6%弱減少しているが、依然として第1位となっている。

3. 日常生活の介護や支援について

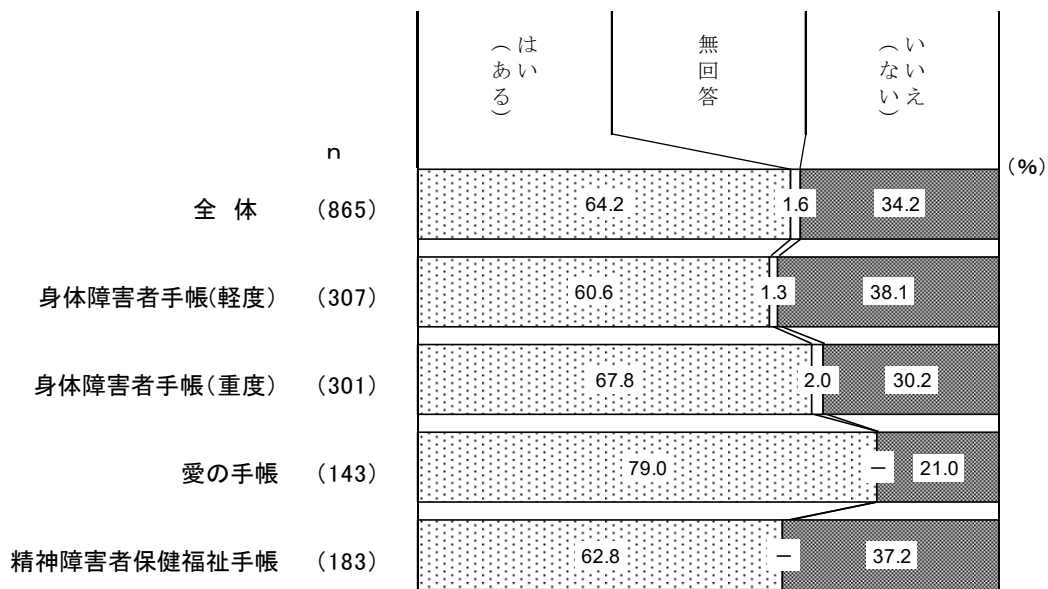
3.1. 日常生活での介助の必要性の有無

◆介助が必要な方は愛の手帳所持者で約8割

(全員の方に)

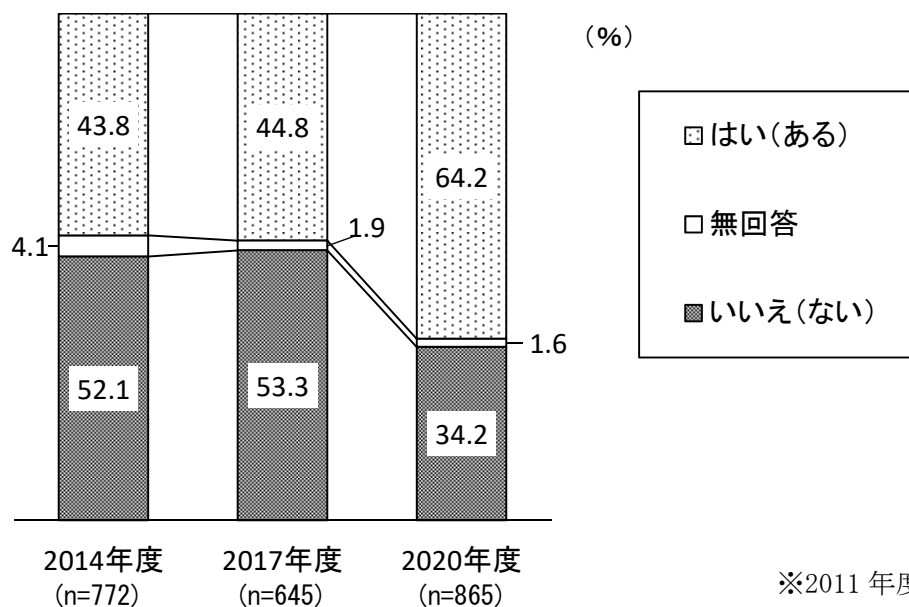
問 11. あなた(あて名の方ご本人)の日常生活で介助を必要とすることはありますか。(○は1つ)

図 3-1 【所持手帳別】日常生活での介助の必要性の有無



日常生活での介助の必要性の有無は、「はい(ある)」が愛の手帳所持者で約8割となっており最も高くなっている。

図 3-2 【経年比較】日常生活での介助の必要性の有無



※2011 年度は調査項目なし

日常生活での介助の必要性の有無を経年比較でみると、2020 年度は2017 年度と比べ、「はい(ある)」は19.4 ポイント増加している。

3.1.1. 日常生活で介助を必要とすること

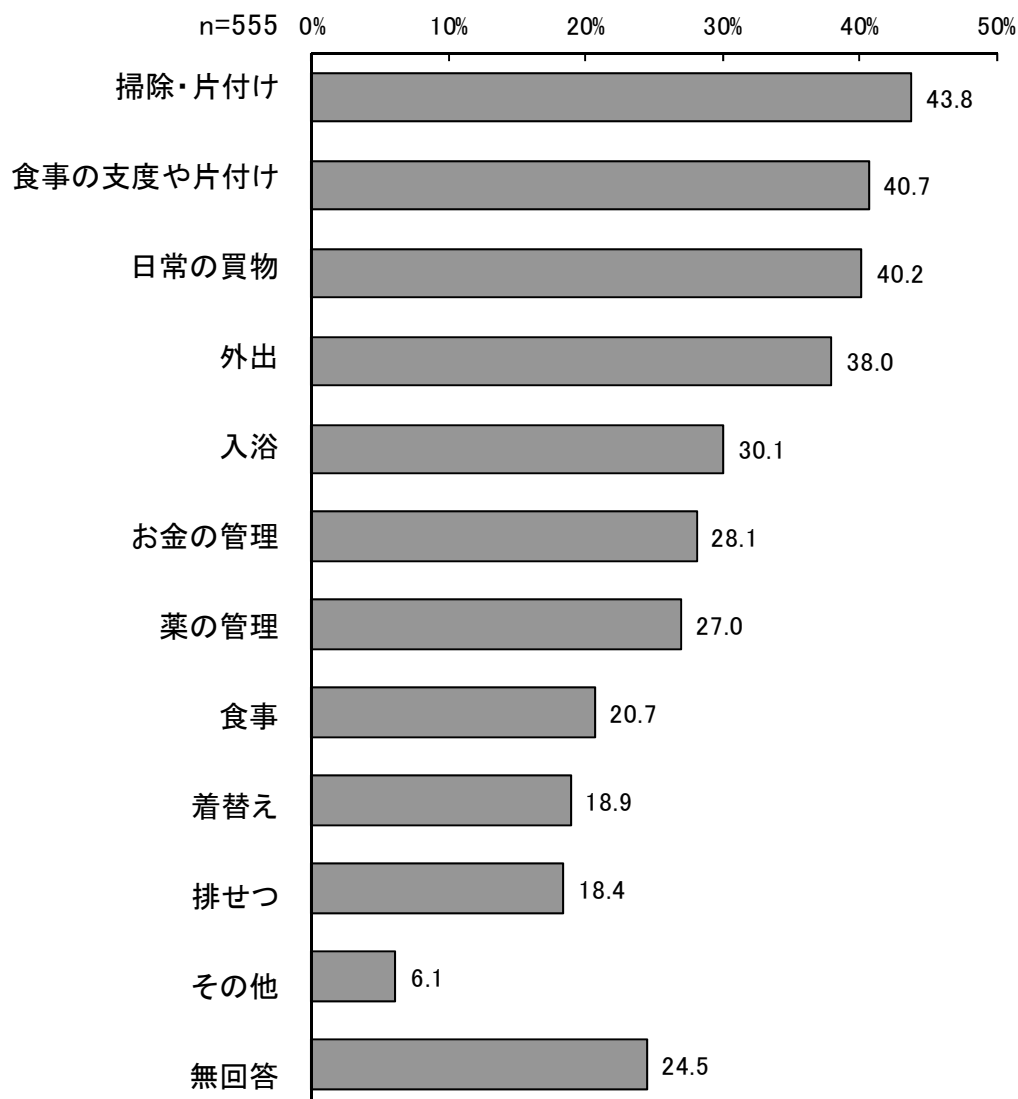
◆日常生活で介助が必要なことは「掃除・片付け」「食事の支度や片付け」「日常の買物」が4割を超えている

（問11で「1. はい」とお答えの方に）

問11-1. 日常生活で介助を必要とすることは具体的にどのようなことですか。

（あてはまるものすべてに○）

図3-3 日常生活で介助を必要とすること



日常生活において介助の必要性があると回答した方に、必要な介助の内容をきいたところ、「掃除・片付け」が最も高くなっており、次いで「食事の支度や片付け」「日常の買物」となっている。

図 3-4 【所持手帳別】上位 5 項目 日常生活で介助を必要とすること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=186	掃除・片付け 37.1	日常の買物 32.8	外出 30.1	食事の支度や 片付けなどの 家事 29.6	入浴 24.7
身体障害者手帳(重度) n=204	日常の買物 50.5	掃除・片付け 48.5	外出 48.0	食事の支度や 片付けなどの 家事 44.6	入浴 37.3
愛の手帳 n=113	お金の管理 55.8	食事の支度や 片付けなどの 家事 53.1	外出 51.3	日常の買物 47.8	掃除・片付け 45.1
精神障害者保健福祉手帳 n=115	掃除・片付け 44.3	食事の支度や 片付けなどの 家事 38.3	日常の買物 27.8	コミュニケー ション 27.0	お金の管理 25.2

日常生活で介助を必要とすることを所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者（軽度）、精神障害者保健福祉手帳では「掃除・片付け」が、身体障害者手帳（重度）では「日常の買物」が、愛の手帳所持者では「お金の管理」が最も高くなっている。

図 3-5 【経年比較】上位 5 項目 日常生活で介助を必要とすること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=555	掃除・片付け 43.8	食事の支度や 片付け 40.7	日常の買物 40.2	外出 38.0	入浴 30.1
2017年度 n=289	日常の買物 61.9	掃除・片付け/外出 60.9		食事の支度や片付け/お金の 管理 59.2	
2014年度 n=338	掃除・片付け 63.6	食事の支度や 片付け 56.5	日常の買物 54.7	外出 52.1	お金の管理 48.2
2011年度 n=860	日常の買物 30.0	掃除・片付け 29.9	食事の支度や 片付け 29.1	外出 24.4	洗濯 24.0

日常生活で介助を必要とすることを経年比較でみると、2020 年度は 2017 年度に比べ「掃除・片付け」の順位が高くなっている。

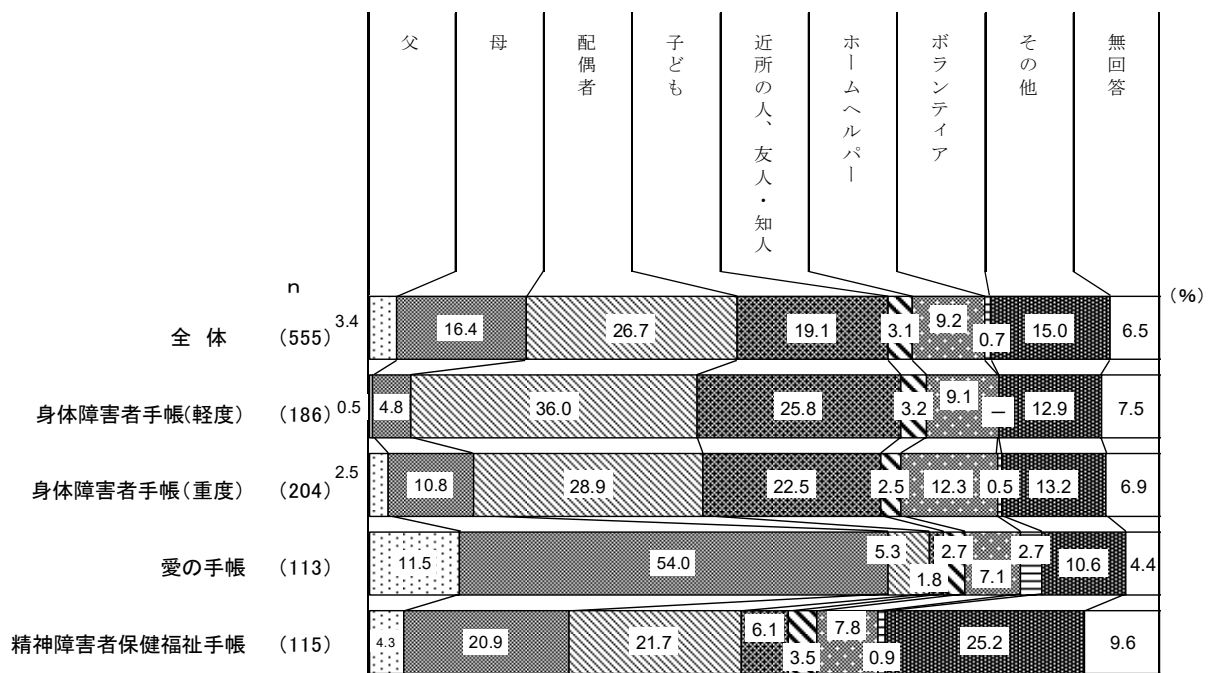
3.1.2. 主な介助者

◆主な介助者は家族（「母」「配偶者」「子ども」）が6割台半ば

（問11で「1. はい」とお答えの方に）

問11-2. あなた（あて名の方のご本人）の主な介助者はどなたですか。（○は1つ）

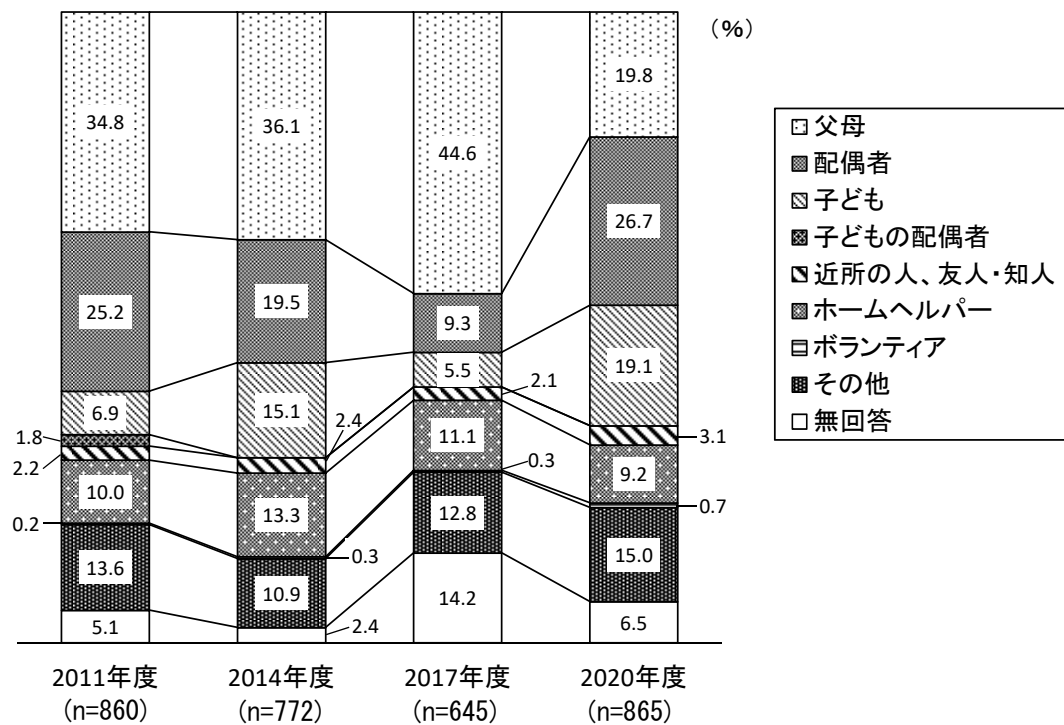
図 3-6 【所持手帳別】主な介助者



日常生活において介助の必要性があると回答した方に、主な介助者をきいたところ、全体で「母」「配偶者」「子ども」といった家族が6割台半ばとなっている。

所持手帳別では、身体障害者手帳所持者（軽度）、身体障害者手帳所持者（重度）、精神障害者保健福祉手帳所持者では「配偶者」が、愛の手帳所持者では「母」が最も高くなっている。また、身体障害者手帳所持者（重度）では他に比べ「ホームヘルパー」が高くなっている。

図 3-7 【経年比較】主な介助者



※2011年度・2014年度は「父母」としてまとめて調査。

また、2014年度・2017年度は「子どもの配偶者」の選択肢はなし。

主な介助者を経年比較でみると、2020年度は2017年度まで増加傾向であった「父母」が減少に転じ、「配偶者」が増加している。

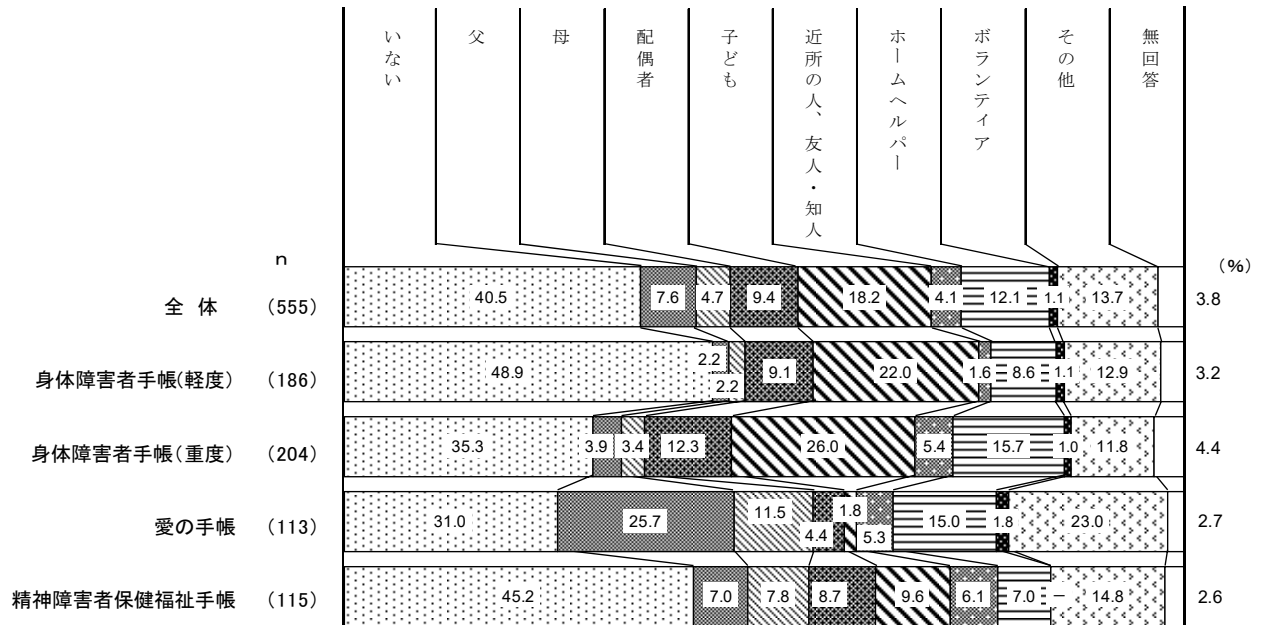
3.1.3. 主な介助者を除く日常的な介助者

◆主な介助者のほかに、日常的に介助できる方は「いない」が約4割

(問11で「1. はい」とお答えの方に)

問11-3. 主な介助者のほかに、あなた(あて名の方ご本人)を日常的に介助できる方はいますか。
(○は1つ)

図3-8 【所持手帳別】主な介助者のほかに日常的に介助できる方



主な介助者のほかに日常的に介助できる方は、それぞれの手帳所持者において「いない」が最も高い。

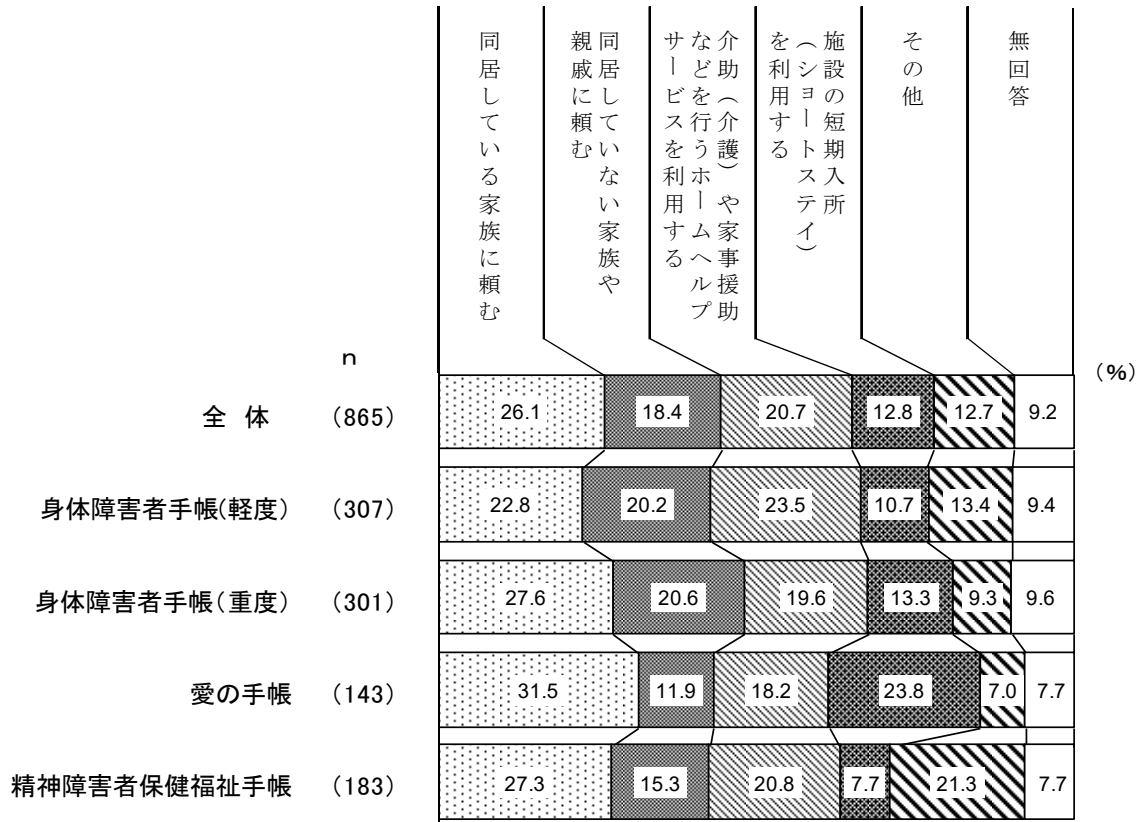
3.2. 主な介助者が介助困難になった場合の対処

◆主な介助者が介助困難になった場合の対処は家族が最も高い

(全員の方に)

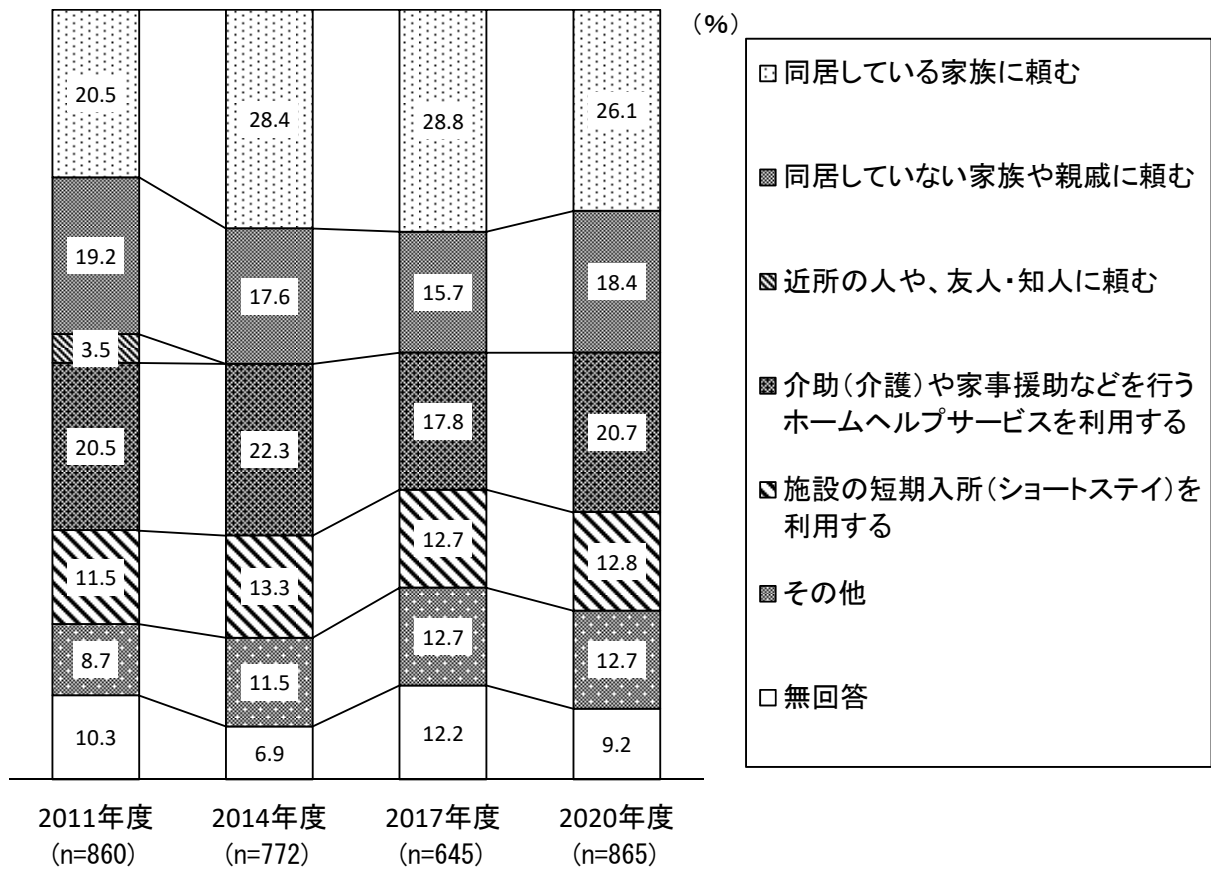
問 12. あなた(あて名の方ご本人)の主な介助者が急病・事故などで介助が困難になった場合、どのようにしたいですか。(○は1つ)

図 3-9 【所持手帳別】主な介助者が介助困難になった場合の対処



主な介助者が介助の継続が困難になった場合の対処としては、いずれの手帳所持者も「同居している家族に頼む」「同居していない家族や親戚に頼む」の家族や親戚が4割を超えている。

図 3-10 【経年比較】主な介助者が介助困難になった場合の対処



※「近所の人や、友人・知人に頼む」は2011年度のみ

主な介助者が介助困難になった場合の対処を経年比較でみると、増加傾向にあった「同居している家族に頼む」が減少に転じ、一方で「同居していない家族や親戚に頼む」が増加に転じた。

3.3. 平日の日中の過ごし方

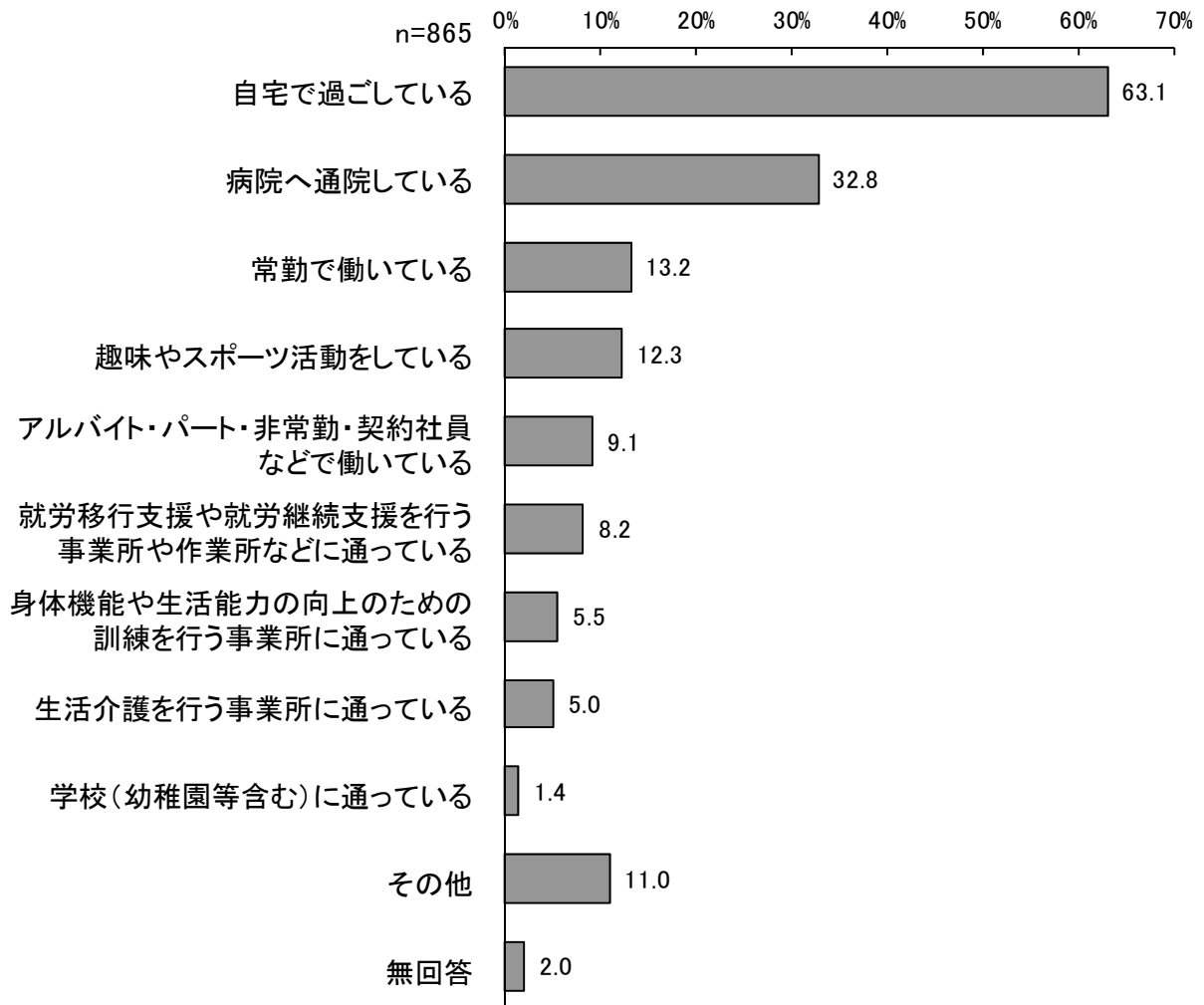
◆平日の日中の主な過ごし方は「自宅で過ごしている」が最も高い

(全員の方に)

問 13. あなた(あて名の方ご本人)は、平日の日中は主にどのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

図 3-11 平日の日中の過ごし方



平日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が6割台前半と最も高くなっており、次いで「病院へ通院している」「常勤で働いている」「趣味やスポーツ活動をしている」となっている。

図 3-12 【所持手帳別】上位5項目 平日の日中の過ごし方

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=307	自宅で過ごしている 70.4	病院へ通院している 30.6	趣味やスポーツ活動をしている 15.3	常勤で働いている 12.1	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 9.1
身体障害者手帳(重度) n=301	自宅で過ごしている 67.4	病院へ通院している 36.2	常勤で働いている 13.0	趣味やスポーツ活動をしている 9.0	身体機能や生活能力の向上のための訓練を行う事業所に通っている 8.0
愛の手帳 n=143	自宅で過ごしている 35.0	就労移行支援や就労継続支援を行う事業所や作業所などに通っている 25.9	病院へ通院している 17.5	常勤で働いている 16.8	生活介護を行う事業所に通っている 15.4
精神障害者保健福祉手帳 n=183	自宅で過ごしている 68.3	病院へ通院している 43.7	就労移行支援や就労継続支援を行う事業所や作業所などに通っている 17.5	趣味やスポーツ活動をしている 14.8	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 11.5

平日の日中の過ごし方を所持手帳別でみると、いずれの手帳所持者も「自宅で過ごしている」が最も高くなっている。

図 3-13 【経年比較】上位5項目 平日の日中の過ごし方

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=865	自宅で過ごしている 63.1	病院へ通院している 32.8	常勤で働いている 13.2	趣味やスポーツ活動をしている 12.3	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 9.1
2017年度 n=645	自宅で過ごしている 42.5	病院へ通院している 25.0	常勤で働いている 19.4	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 13.3	趣味やスポーツ活動をしている 11.6
2014年度 n=772	自宅で過ごしている 57.9	病院へ通院している 36.0	趣味やスポーツ活動をしている 15.2	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 11.9	常勤で働いている 9.8
2011年度 n=860	自宅で過ごしている 57.9	病院へ通院している 33.3	趣味やスポーツ活動をしている 14.1	常勤の会社員、公務員、団体職員として働いている 10.5	就労移行支援などを行う事業所や作業所などに通っている 9.9

平日の日中の過ごし方を経年比較でみると、いずれの年度においても「自宅で過ごしている」が高くなっている。

4. 外出状況について

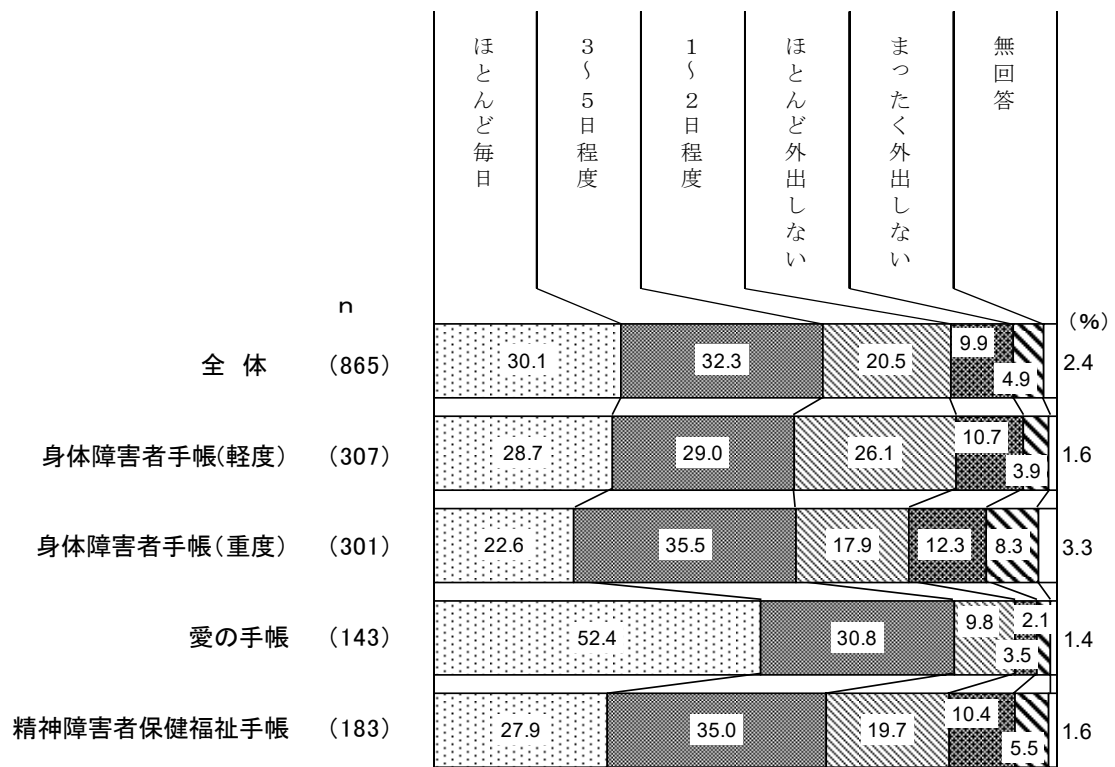
4.1. 外出の頻度

◆外出の頻度は「ほとんど毎日」が愛の手帳所持者で特に高い

(全員の方に)

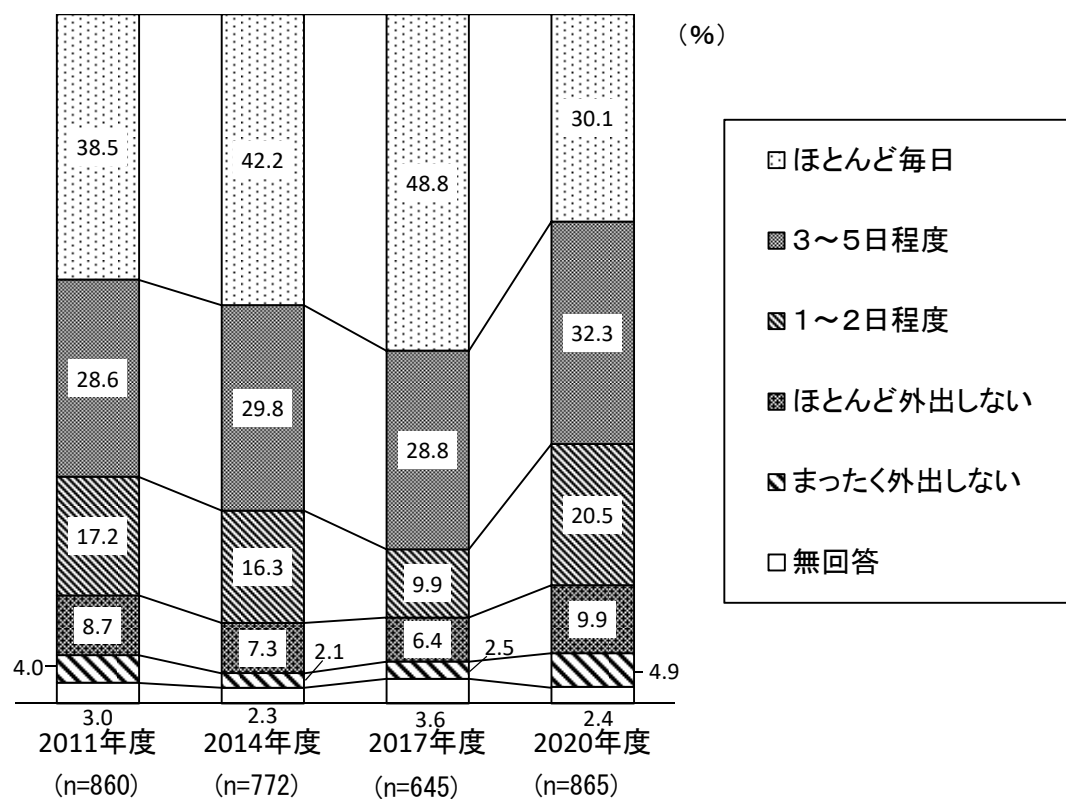
問 14. あなた(あて名の方ご本人)は、一週間に、どのくらい外出していますか。(○は1つ)

図 4-1 【所持手帳別】外出の頻度



一週間の外出の頻度は、「ほとんど毎日」が愛の手帳所持者では5割を超えており、他と比べて特に高くなっている。

図 4-2 【経年比較】外出の頻度



一週間の外出の頻度を経年比較でみると、これまで増加傾向であった「ほとんど毎日」が 2020 年度には減少に転じ、2017 年度と比べ 18.7 ポイント減少している。

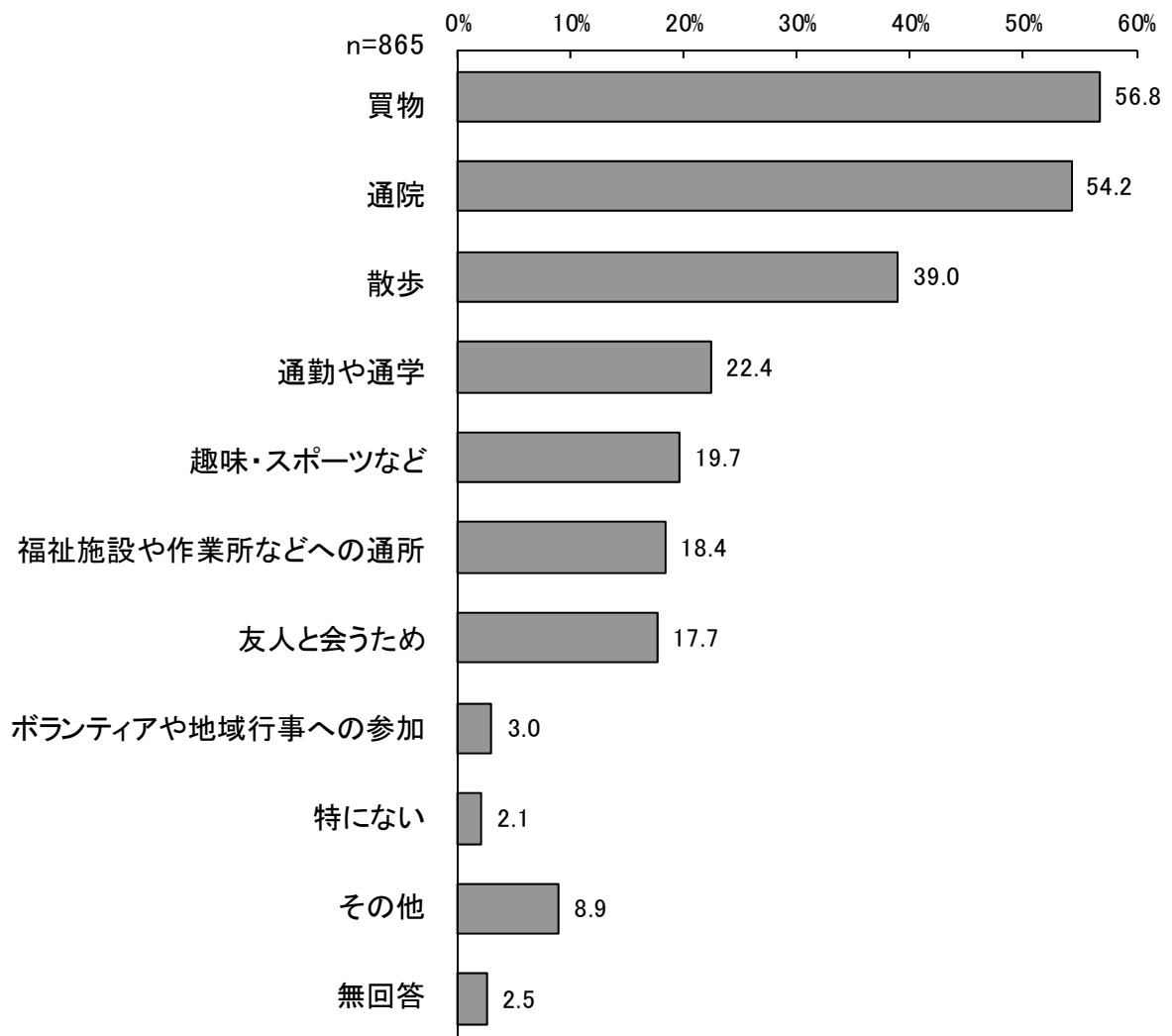
4.2. 外出の主な目的

◆外出の主な目的は「買物」「通院」が5割台半ば

(全員の方に)

問 15. あなた（あて名の方ご本人）の外出の主な目的は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図 4-3 外出の主な目的



外出の主な目的は、「買物」「通院」が5割台半ばと最も高く、次いで「散歩」「通勤や通学」となっている。

図 4-4 【所持手帳別】上位 5 項目 外出の主な目的

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=307	買物 58.0	通院 53.1	散歩 40.7	通勤や通学 19.9	趣味・スポーツ など 18.9
身体障害者手帳(重度) n=301	通院 55.8	買物 49.5	散歩 35.9	通勤や通学 17.3	趣味・スポーツ など 17.3
愛の手帳 n=143	買物 49.7	散歩 47.6	福祉施設や作 業所などへの 通所 42.0	通院 36.4	通勤や通学 35.7
精神障害者保健福祉手帳 n=183	買物 70.5	通院 66.1	散歩 39.3	趣味・スポーツ など 24.6	通勤や通学 22.4

外出の主な目的を所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者（重度）では「通院」が、その他では「買物」が最も高くなっている。

図 4-5 【経年比較】上位 5 項目 外出の主な目的

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=865	買物 56.8	通院 54.2	散歩 39.0	通勤や通学 22.4	趣味・スポーツ など 19.7
2017年度 n=645	買物 51.5	通院 46.2	通勤や通学 37.7	散歩 30.9	趣味・スポーツ など 27.1
2014年度 n=772	買物 58.2	通院 56.3	散歩 41.1	趣味・スポーツ など 24.1	通勤や通学 23.1
2011年度 n=860	通院 53.6	買物 52.0	散歩 36.4	通勤や通学 21.6	趣味・スポーツ など 21.5

外出の主な目的を経年比較でみると、2014 年度以降は「買物」が第 1 位となっている。

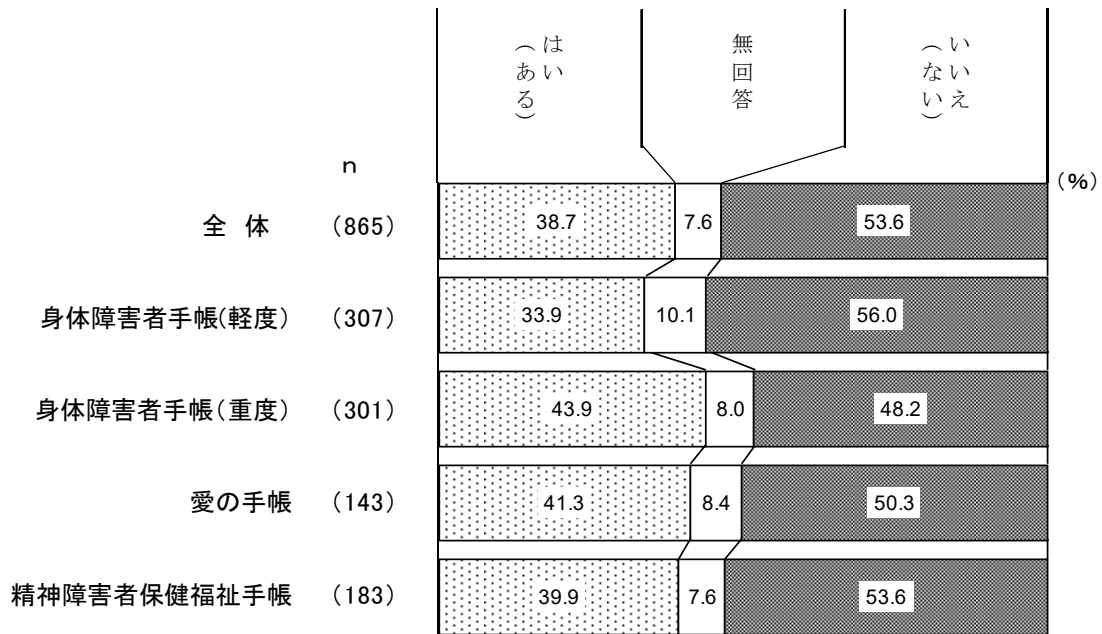
4.3. 外出する上での妨げの有無

◆外出する上での妨げは「ある」が3割台後半

(全員の方に)

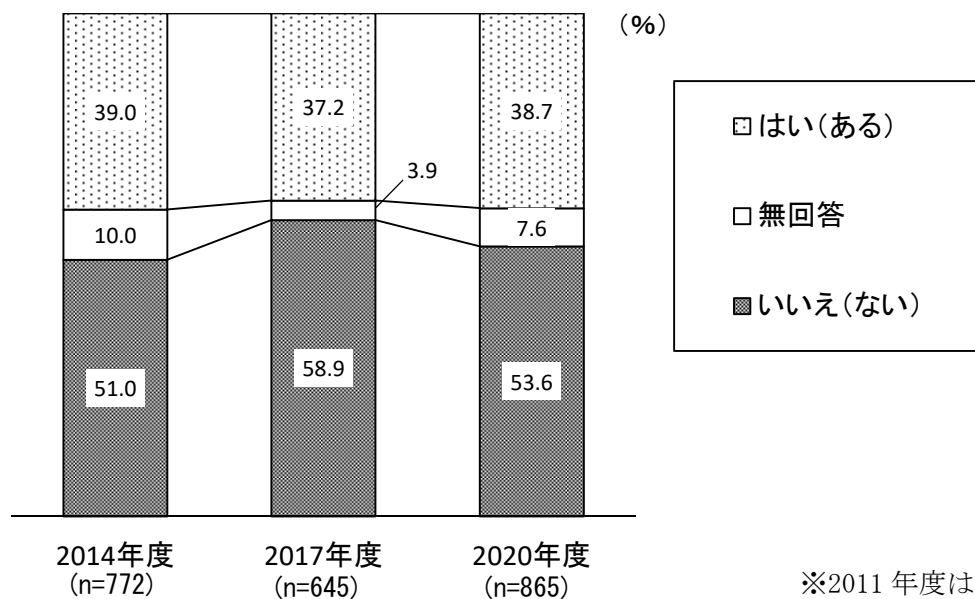
問 16. あなた(あて名の方ご本人)が外出する上で妨げになっていることはありますか。(○は1つ)

図 4-6 【所持手帳別】外出する上で妨げの有無



外出する上での妨げの有無は、全体では「いいえ(ない)」が「はい(ある)」を上回っている。所持手帳別でみると、身体障害者手帳(重度)所持者で「はい(ある)」が他に比べて高くなっている。

図 4-7 【経年比較】外出する上で妨げの有無



外出する上での妨げの有無を経年比較でみると、2017年度に上昇していた「いいえ(ない)」の割合が2020年度には5.3ポイントの減少に転じた。

4.3.1. 外出する上で妨げになっていること

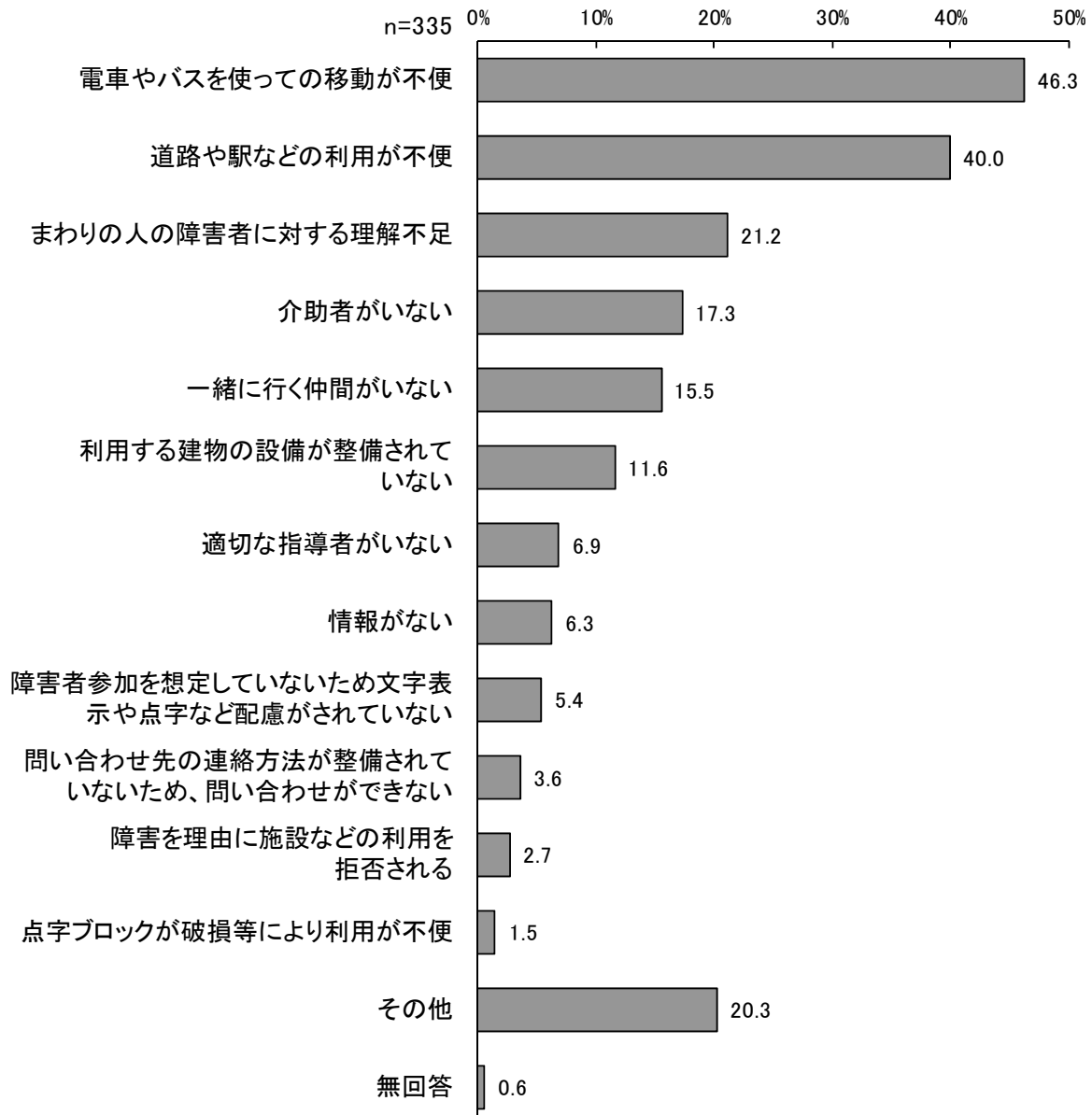
◆外出する上で妨げになっていることは「電車やバスを使つての移動が不便」「道路や駅などの利用が不便」で4割を超えている

(問16で「1. はい」とお答えの方に)

問16-1. 外出する上で妨げになっていることは具体的にどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

図4-8 外出する上で妨げになっていること



外出する上での妨げになっていることの内容をきいたところ、「電車やバスを使つての移動が不便」が高くなっており、次いで「道路や駅などの利用が不便」「まわりの人の障害者に対する理解不足」「介助者がいない」となっている。

図 4-9 【所持手帳別】上位 5 項目 外出する上で妨げになっていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=104	電車やバスを 使っての移動 が不便 55.8	道路や駅など の利用が不便 50.0	介助者がいな い 17.3	一緒に行く仲 間がいらない 12.5	まわりの人の 障害者に対す る理解不足 11.5
身体障害者手帳(重度) n=132	道路や駅など の利用が不便/ 電車やバスを 使っての移動が 不便 51.5	利用する建物 の設備が整備 されていない 22.0	まわりの人の 障害者に対す る理解不足 21.2	介助者がいな い 19.7	
愛の手帳 n=59	まわりの人の 障害者に対す る理解不足 33.9	道路や駅など の利用が不便 25.4	電車やバスを 使っての移動 が不便 23.7	一緒に行く仲 間がいらない 20.3	適切な指導者 がいらない 15.3
精神障害者保健福祉手帳 n=73	電車やバスを 使っての移動 が不便 39.7	まわりの人の 障害者に対す る理解不足 31.5	道路や駅など の利用が不便 24.7	一緒に行く仲 間がいらない 21.9	適切な指導者 がいらない 13.7

外出する上で妨げになっていることを所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者（軽度）、精神障害者保健福祉手帳所持者では「電車やバスを使っての移動が不便」が、身体障害者手帳（重度）では「道路や駅などの利用が不便」及び「電車やバスを使っての移動が不便」が、愛の手帳所持者では「まわりの人の障害者に対する理解不足」が高くなっている。

図 4-10 【経年比較】上位 5 項目 外出する上で妨げになっていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=335	電車やバスを 使っての移動 が不便 46.3	道路や駅など の利用が不便 40.0	まわりの人の 障害者に対す る理解不足 21.2	介助者がいな い 17.3	一緒に行く仲 間がいらない 15.5
2017年度 n=240	電車やバスを 使っての移動 が不便 46.3	道路や駅など の利用が不便 43.3	まわりの人の 障害者に対す る理解不足 27.5	利用する建物 の設備が整備 されていない 20.8	一緒に行く仲 間がいらない 15.4
2014年度 n=301	電車やバスを 使っての移動 が不便 35.9	道路や駅など の利用が不便 32.6	まわりの人の 障害者に対す る理解不足 28.2	一緒に行く仲 間がいらない 22.3	情報がない 17.9
2011年度 n=860	自動車や自転 車が多くて危 険を感じる 19.8	発作など突然 の体調の変化 が心配 17.0	電車やバスの 乗り降りがし にくい 15.1	困ったとき周 围の人に手助 けをお願いし にくい 14.7	道路や利用す る建物に段差 が多い 14.3

外出する上で妨げになっていることを経年比較でみると、2020 年度は 2014 年度、2017 年度に続き、「電車やバスを使っての移動が不便」が高くなっている。

4. 4. 外出の際の主な交通手段

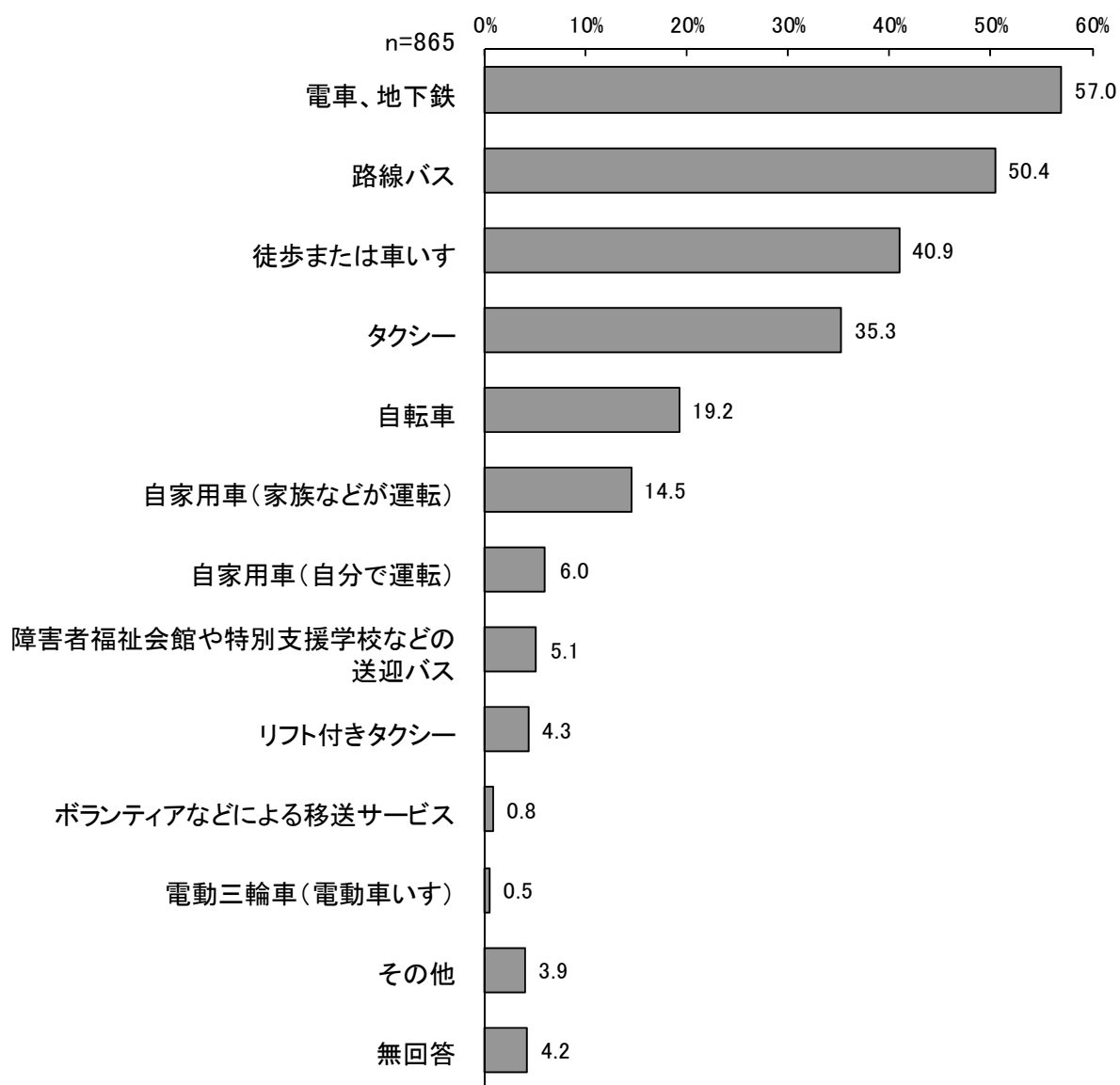
◆外出の際の主な交通手段は「電車・地下鉄」が最も高い

（全員の方に）

問 17. あなた（あて名の方ご本人）が、外出に利用する主な交通手段は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

図 4-11 外出の際の主な交通手段



外出する際の主な交通手段をきいたところ、「電車、地下鉄」が最も高く、次いで「路線バス」「徒歩または車いす」「タクシー」となっている。

図 4-12 【所持手帳別】上位 5 項目 外出の際の主な交通手段

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=307	電車、地下鉄 53.7	路線バス 53.1	徒歩または車 いす 35.5	タクシー 34.9	自転車 16.9
身体障害者手帳(重度) n=301	タクシー 52.2	電車、地下鉄 49.8	路線バス 43.5	徒歩または車 いす 39.5	自家用車(家 族などが運転) 17.9
愛の手帳 n=143	電車、地下鉄 67.8	路線バス 59.4	徒歩または車 いす 40.6	タクシー 21.7	自転車 19.6
精神障害者保健福祉手帳 n=183	電車、地下鉄 66.7	路線バス 53.0	徒歩または車 いす 47.0	自転車 36.1	タクシー 21.9

外出の際の主な交通手段を所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者(重度)では「タクシー」が、その他の手帳所持者では「電車、地下鉄」が最も高くなっている。

図 4-13 【経年比較】上位 5 項目 外出の際の主な交通手段

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=865	電車、地下鉄 57.0	路線バス 50.4	徒歩または車 いす 40.9	タクシー 35.3	自転車 19.2
2017年度 n=645	電車、地下鉄 73.0	路線バス 51.8	徒歩または車 いす 46.0	タクシー 28.2	自転車 22.0
2014年度 n=772	電車、地下鉄 68.1	路線バス 58.5	徒歩または車 いす 37.8	タクシー 37.2	自転車 20.5
2011年度 n=860	電車、地下鉄 64.0	路線バス 54.1	タクシー 37.7	徒歩または車 いす 33.5	自転車 18.7

外出の際の主な交通手段を経年比較でみると、いずれの年度も「電車、地下鉄」が高くなっているものの、2020年度は2017年度と比べて16.0ポイント減少している。

5. 働くことについて

5.1. 就労による定期的な収入の有無

◆就業による定期的な収入がある方は、生産年齢人口でみると約6割

（全員の方に）

問 18. あなた（あて名の方ご本人）は、給料など就労による定期的な収入はありますか。（○は1つ）

図 5-1 【所持手帳別】収入の有無

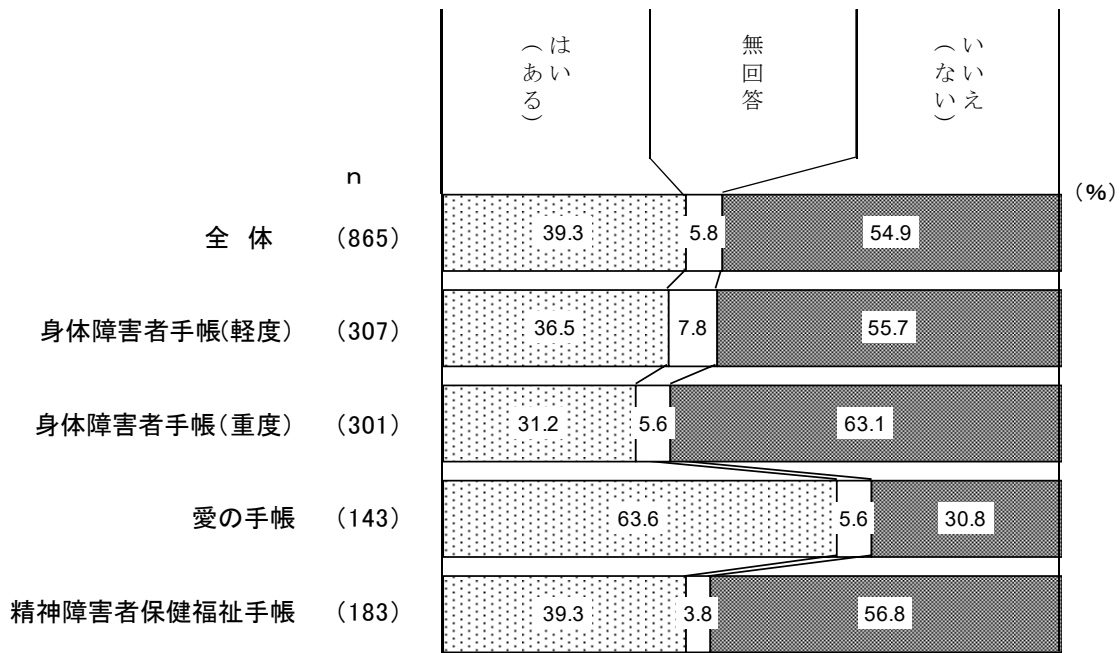
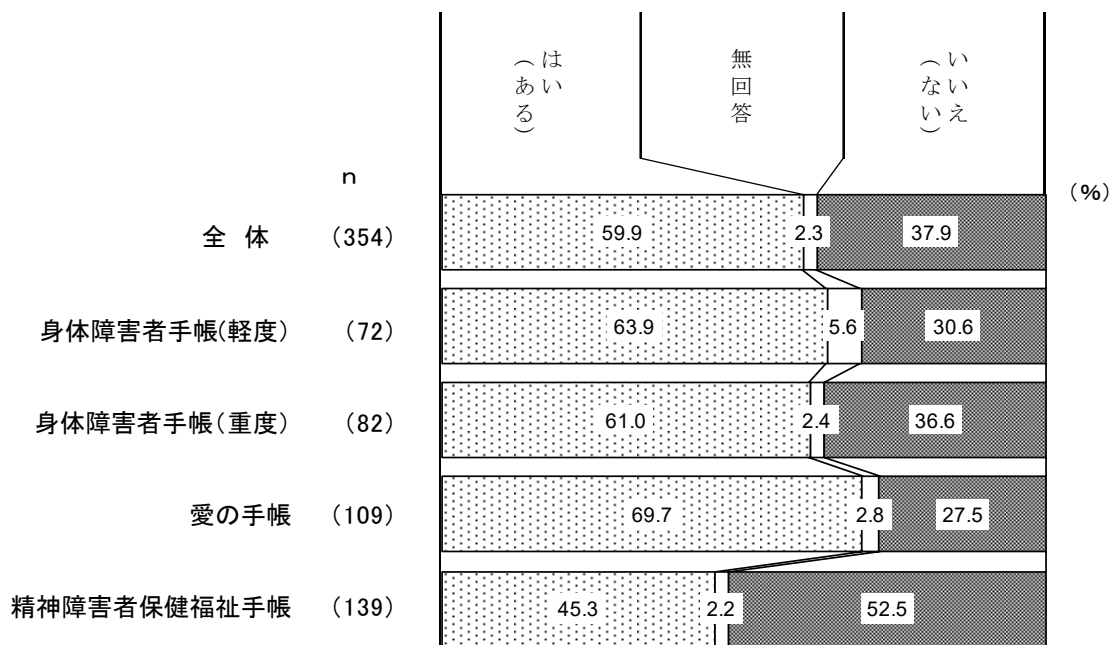
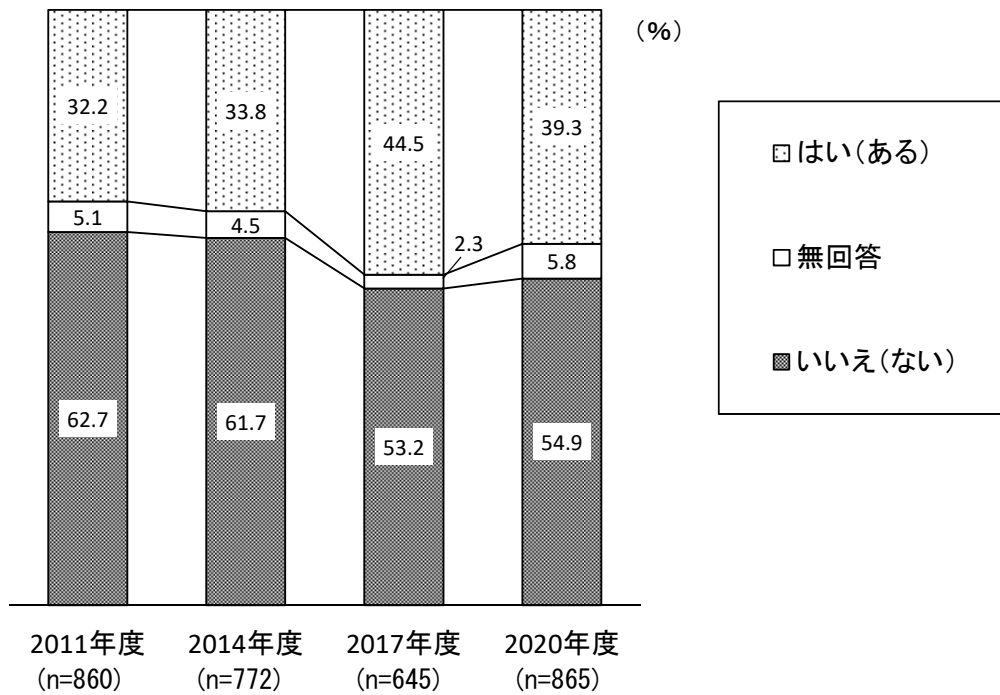


図 5-2 【所持手帳別】生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）における収入の有無



生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）における収入の有無は、愛の手帳所持者で「はい（ある）」で約 7 割となっている。精神障害者保健福祉手帳所持者は、「いいえ（ない）」が他に比べて多くなっている。

図 5-3 【経年変化】就労による定期的な収入の有無



就労による定期的な収入の有無を経年比較でみると、これまで増加傾向にあった「はい（ある）」が減少に転じ、2020年度は2017年度と比べ、5.2ポイント減少している。

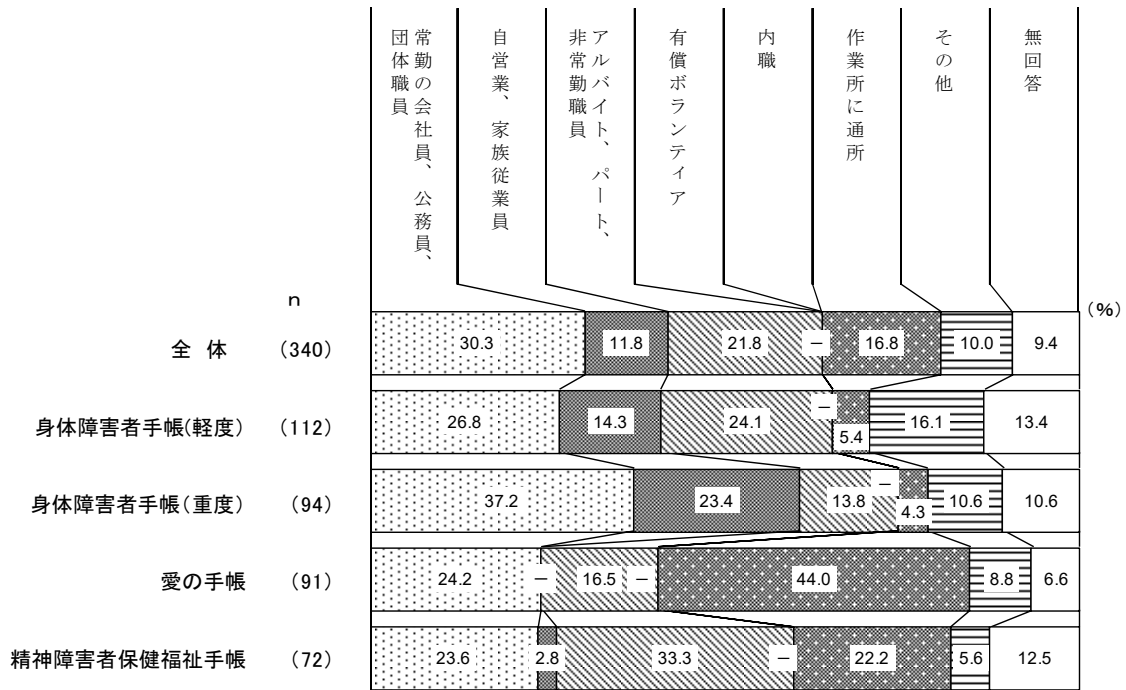
5.1.1. 現在の就労形態

◆就労形態は所持手帳により違いがみられる

(問18で「1. はい」とお答えの方に)

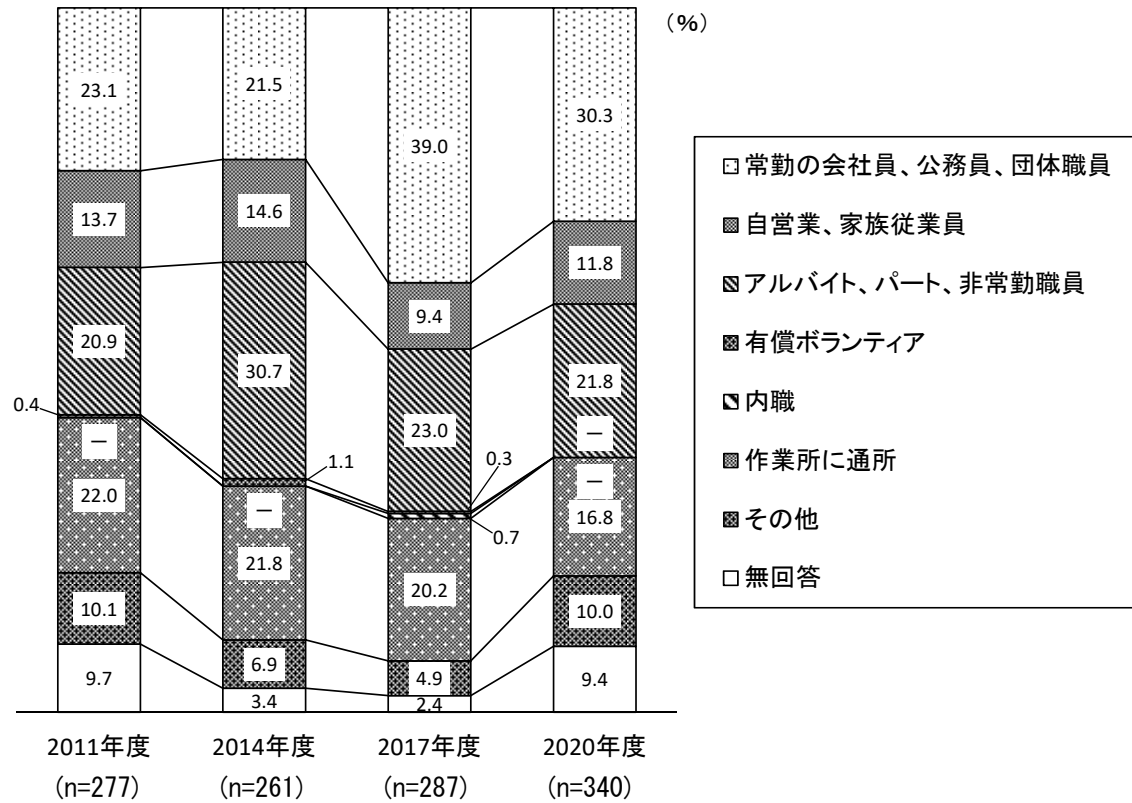
問18-1. あなた(あて名の方ご本人)の現在の就労形態をお答えください。(○は1つ)

図5-4 【所持手帳別】現在の就労形態



定期的な収入があると回答された方に、就労形態をきいたところ、身体障害者手帳所持者では「常勤の会社員、公務員、団体職員」が、愛の手帳所持者では「作業所に通所」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では「アルバイト、パート、非常勤職員」が高くなっている。

図 5-5 【経年比較】現在の就労形態



現在の就労形態を経年変化でみると、「常勤の会社員、公務員、団体職員」は2017年度には大きく伸びたが、2020年度に8.7ポイント減少した。

5.1.2. 仕事を見つけた方法

◆仕事を見つけた方法は愛の手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害者就労支援機関の利用」が高い

(問 18 で「1. はい」とお答えの方に)

問 18-2. あなた(あて名の方ご本人)は、現在の仕事をどのような方法で見つけましたか。

(〇は1つ)

図 5-6 【所持手帳別】仕事を見つけた方法

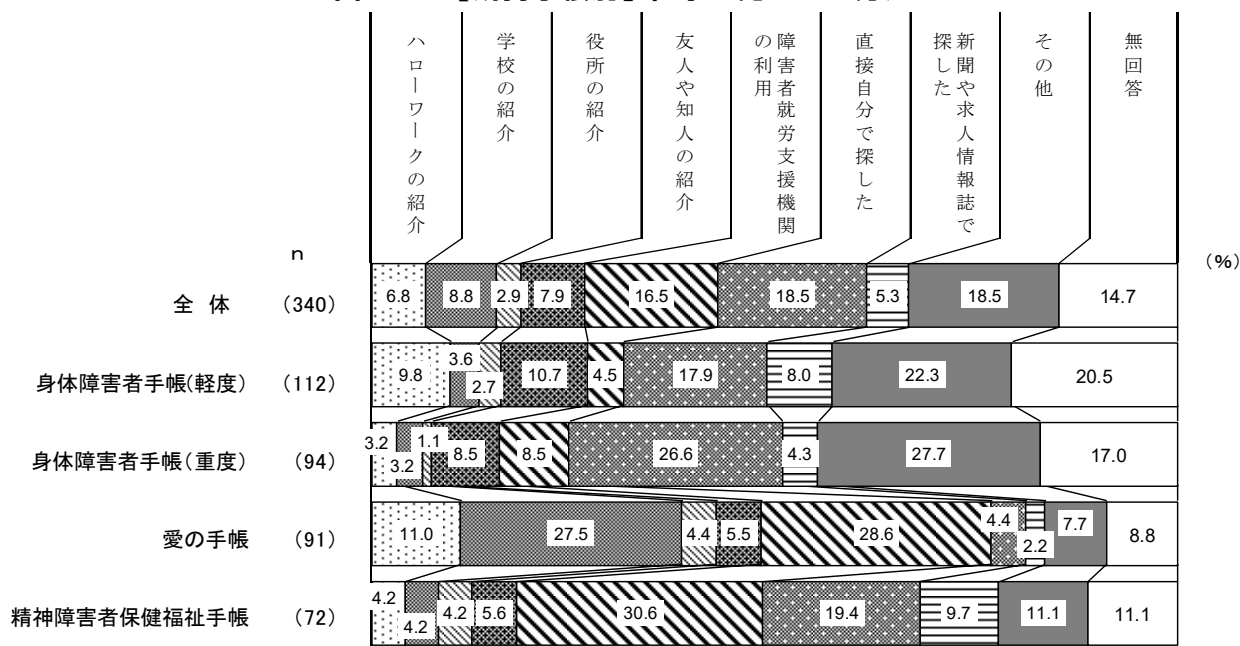


図 5-7 【所持手帳別】上位5項目 仕事を見つけた方法

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=112	直接自分で探した 17.9	友人や知人の紹介 10.7	ハローワークの紹介 9.8	新聞や求人情報誌で探した 8.0	障害者就労支援機関の利用 4.5
身体障害者手帳(重度) n=94	直接自分で探した 26.6	友人や知人の紹介 8.5	障害者就労支援機関の利用 8.5	新聞や求人情報誌で探した 4.3	ハローワークの紹介 3.2
愛の手帳 n=91	障害者就労支援機関の利用 28.6	学校の紹介 27.5	ハローワークの紹介 11.0	友人や知人の紹介 5.5	役所の紹介 4.4
精神障害者保健福祉手帳 n=40	障害者就労支援機関の利用 30.6	直接自分で探した 19.4	新聞や求人情報誌で探した 9.7	友人や知人の紹介 5.6	ハローワークの紹介 4.2

現在、就労されている方に仕事を見つけた方法をきいたところ、身体障害者手帳所持者では「直接自分で探した」、愛の手帳及び精神保健福祉手帳所持者では「障害者就労支援機関の利用」が高くなっている。

図 5-8 【経年比較】上位 5 項目 仕事を見つけた方法

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=340	直接自分で探した 18.5	障害者就労支援機関の利用 16.5	学校の紹介 8.8	友人や知人の紹介 7.9	ハローワークの紹介 6.8
2017年度 n=287	直接自分で探した 20.9	障害者就労支援機関の利用 15.7	学校の紹介 13.6	ハローワークの紹介 10.1	友人や知人の紹介 8.7
2014年度 n=261	直接自分で探した 14.2	学校の紹介 13.8	障害者就労支援機関の利用 13.4	ハローワークの紹介 11.5	友人や知人の紹介 7.3
2011年度 n=277	直接自分で探した/障害者就労支援機関 14.1		学校の紹介 11.6	友人や知人の紹介 6.9	ハローワークの紹介 5.4

仕事を見つけた方法を経年変化でみると、いずれの年度においても「直接自分で探した」が高くなっている。

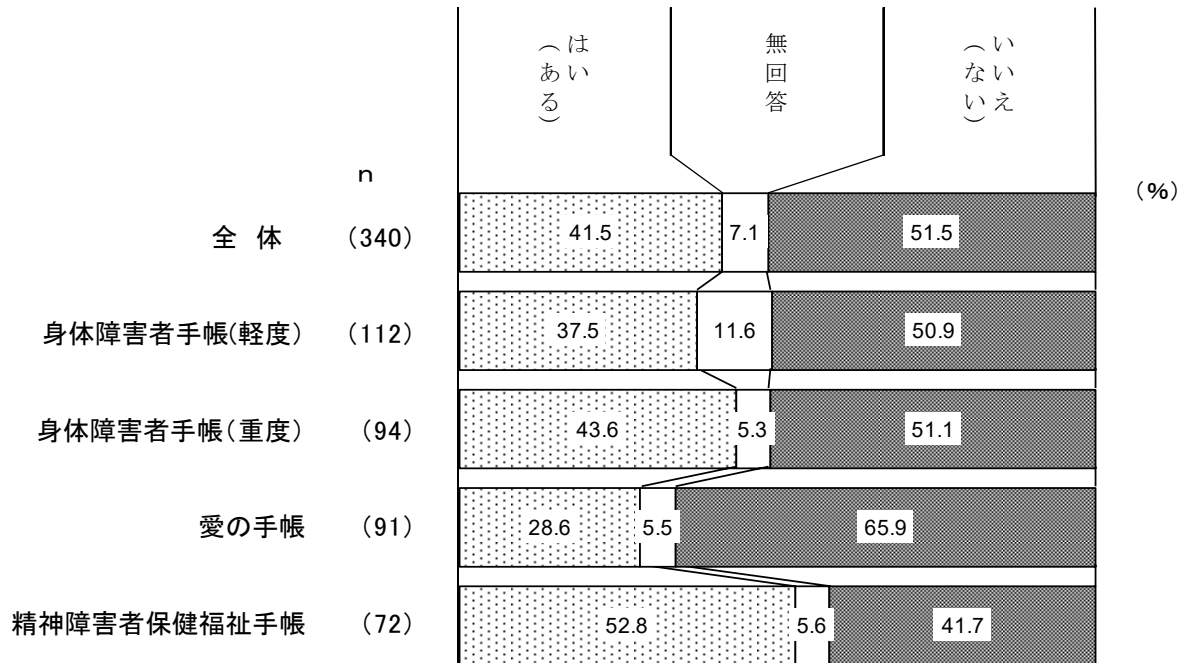
5.1.3. 仕事や職場への不安や不満の有無

◆仕事や職場への不安や不満は「いいえ（ない）」が半数を超えている

（問 18 で「1. はい」とお答えの方に）

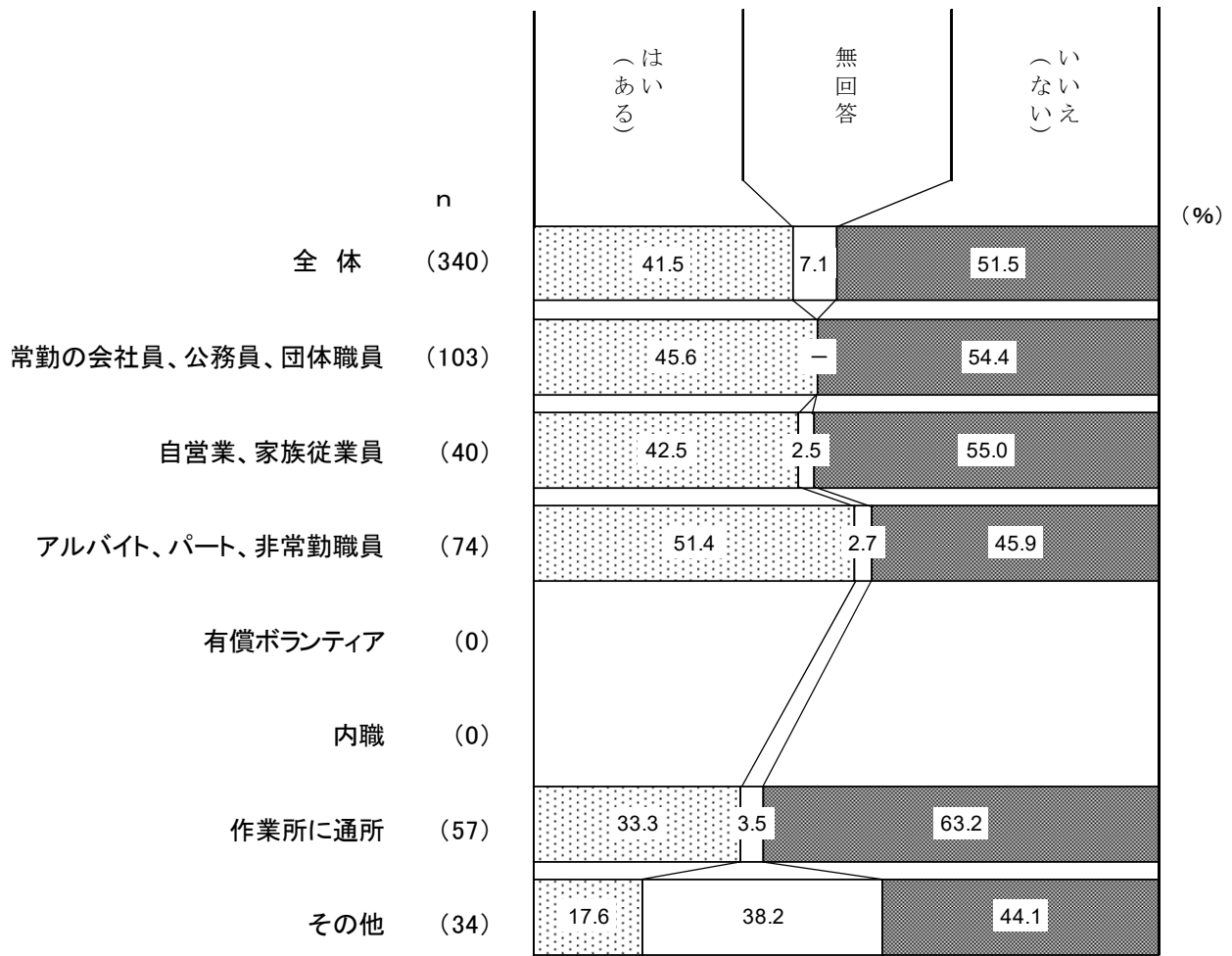
問 18-3. あなた（あて名の方ご本人）は、現在の仕事に関して不安や不満はありますか。（○は 1 つ）

図 5-9 【所持手帳別】仕事や職場への不安や不満の有無



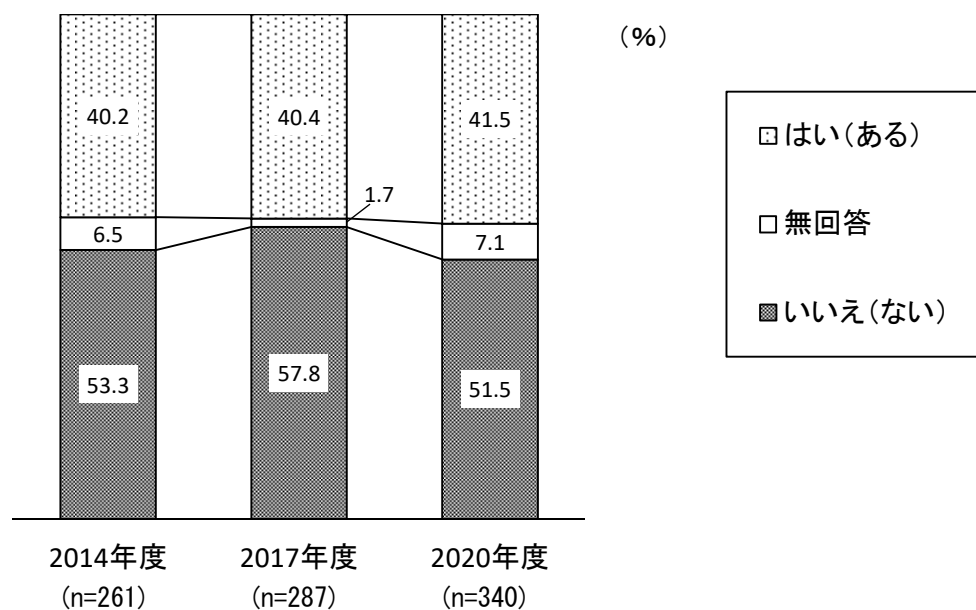
現在、就労されている方に仕事の不安や不満の有無をきいたところ、全体としては「いいえ（ない）」が半数を超えているが、所持手帳別では、身体障害者手帳所持者では約 51 ポイント、愛の手帳所持者では 65.9 ポイント、精神障害者保健福祉手帳所持者では 41.7 ポイントといった差がみられる。

図 5-10 【就労形態別】仕事や職場への不安や不満の有無



現在、就労されている方に仕事の不安や不満の有無をきいたところ、就労形態別でみると、「アルバイト、パート、非常勤職員」、「その他」を除き「いいえ（ない）」が半数を超えている。

図 5-11 【経年比較】仕事や職場への不安や不満の有無



仕事や職場への不安や不満の有無を経年変化でみると、2017 年度には増加していた「いいえ(ない)」が、2020 年度には 6.3 ポイント減少した。

5.1.3.1. 仕事や職場への不安や不満

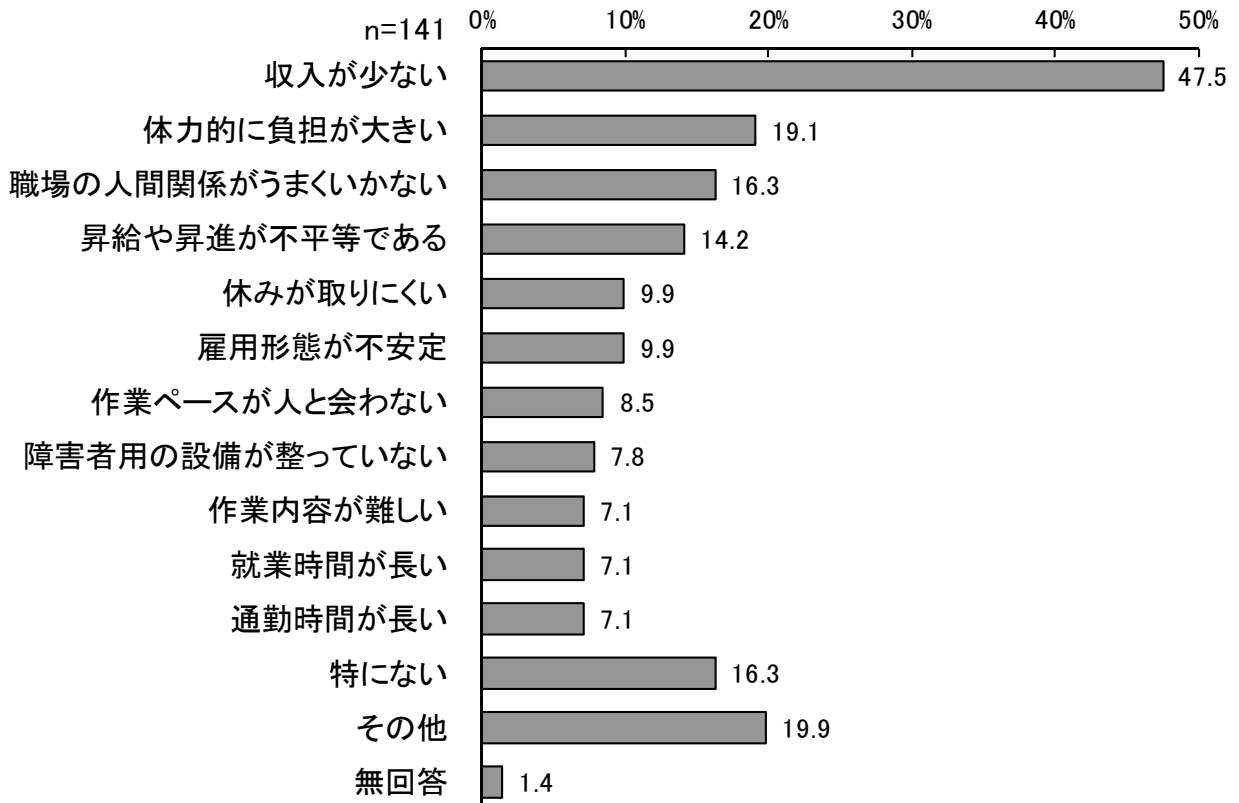
◆仕事や職場への不安や不満は「収入が少ない」が最も高い

(問 18-3 で「1. はい」とお答えの方に)

問 18-3-1. あなた（あて名の方ご本人）は、現在の仕事に関してどのような不安や不満がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

図 5-12 仕事や職場への不安や不満



仕事や職場への不安や不満があると回答した方に、その内容をきいたところ、「収入が少ない」が最も高くなっており、次いで「体力的に負担が大きい」「職場の人間関係がうまくいかない」「昇給や昇進が不平等である」となっている。

図 5-13 【所持手帳別】上位 5 項目 仕事や職場への不安や不満

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=42	収入が少ない 47.6	体力的に負担 が大きい 16.7	休みが取りにく い 14.3	昇給や昇進が 不平等である 11.9	雇用形態が不 安定 9.5
身体障害者手帳(重度) n=41	収入が少ない 43.9	体力的に負担 が大きい 26.8	職場の人間関 係がうまくいか ない 14.6	昇給や昇進が 不平等である 12.2	雇用形態が不 安定 9.8
愛の手帳 n=26	収入が少ない 46.2	体力的に負担 が大きい 11.5	作業内容が難しい/作業ペースが人と合わない /雇用形態が不安定/昇給や昇進が不平等で ある/通勤時間が長い 7.7		
精神障害者保健福祉手帳 n=38	収入が少ない 60.5	職場の人間関 係がうまくいか ない 31.6	体力的に負担 が大きい 21.1	雇用形態が不安定/昇給や昇 進が不平等である 18.4	

仕事や職場への不安や不満の内容を所持手帳別でみると、いずれの手帳所持者も「収入が少ない」の割合が最も高くなっている。

図 5-14 【経年比較】上位 5 項目 仕事や職場への不安や不満

<身体障害者手帳>

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度(軽度) n=42	収入が少ない 47.6	体力的に負担 が大きい 16.7	休みが取りに くい 14.3	昇給や昇進が 不平等である 11.9	雇用形態が不 安定 9.5
2020年度(重度) n=41	収入が少ない 43.9	体力的に負担 が大きい 26.8	職場の人間関 係がうまくい かない 14.6	昇給や昇進が 不平等である 12.2	雇用形態が不 安定 9.8
2017年度(軽度) n=48	収入が少ない 43.8	体力的に負担 が大きい 33.3	休みが取りに くい/昇給や昇 進が不平等である 22.9	就業時間が長 い 20.8	
2017年度(重度) n=37	収入が少ない 56.8	昇給や昇進が 不平等である 32.4	休みが取りに くい 29.7	雇用形態が不 安定 24.3	体力的に負担 が大きい 21.6
2014年度(軽度) n=29	収入が少ない 69.0	体力的に負担 が大きい 31.0	昇給や昇進が 不平等である 27.6	休みが取りに くい 24.1	就業時間が長 い/雇用形態 が不安定 20.7
2014年度(重度) n=21	収入が少ない 57.1	体力的に負担が大きい/雇用 形態が不安定 14.3		休みが取りに くい/就業時間 が長い/職場の 人間関係がう まくいかない/ 通勤時間が長 い 9.5	
2011年度 n=152	収入が少ない 27.6	休みが取りに くい 12.5	体力的に負担 が大きい 11.8	雇用形態が不 安定 5.9	就業時間が長 い/障害者用 の設備が整っ ていない/昇給 や昇進が不平 等である/通勤 時間が長い 3.9

※2011年度の調査では重度と軽度をわけていない。

＜愛の手帳＞

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=26	収入が少ない 46.2	体力的に負担 が大きい 11.5	作業内容が難しい/作業ペースが人と合わない /雇用形態が不安定/昇給や昇進が不平等で ある/通勤時間が長い 7.7		
2017年度 n=18	収入が少ない 55.6	体力的に負担 が大きい 22.2	休みが取りにくい/職場の人間 関係がうまくいかない 16.7	通勤時間が長 い 11.1	
2014年度 n=28	収入が少ない 46.4	職場の人間関 係がうまくいか ない 32.1	作業ペースが人と会わない/障害者用の設備 が整っていない/通勤時間が長い 17.9		
2011年度 n=79	収入が少ない 43.0	職場の人間関 係がうまくいか ない 7.6	休みが取りにくい/作業ペースが人と会わない/ 通勤時間が長い 6.3		

＜精神障害者保健福祉手帳＞

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=38	収入が少ない 60.5	職場の人間関 係がうまくい かない 31.6	体力的に負担 が大きい 21.1	雇用形態が不安定/昇給や昇 進が不平等である 18.4	
2017年度 n=21	収入が少ない 76.2	体力的に負担 が大きい 42.9	休みが取りにくい/職場の人間 関係がうまくいかない 38.1	雇用形態が不 安定 23.8	
2014年度 n=34	収入が少ない 76.5	雇用形態が不 安定 47.1	体力的に負担 が大きい 29.4	職場の人間関 係がうまくい かない 23.5	休みが取りに くい/就業時 間 が長い 20.6
2011年度 n=29	収入が少ない 51.7	職場の人間関 係がうまくい かない 24.1	体力的に負担 が大きい 17.2	作業ペースが 人と合わない 13.8	雇用形態が不 安定/障害者 用の設備が 整っていない/ 昇給や昇進が 不平等である 10.3

仕事や職場への不安や不満の内容を経年比較でみると、すべての手帳所持者においていずれの年度も「収入が少ない」が最も高くなっている。

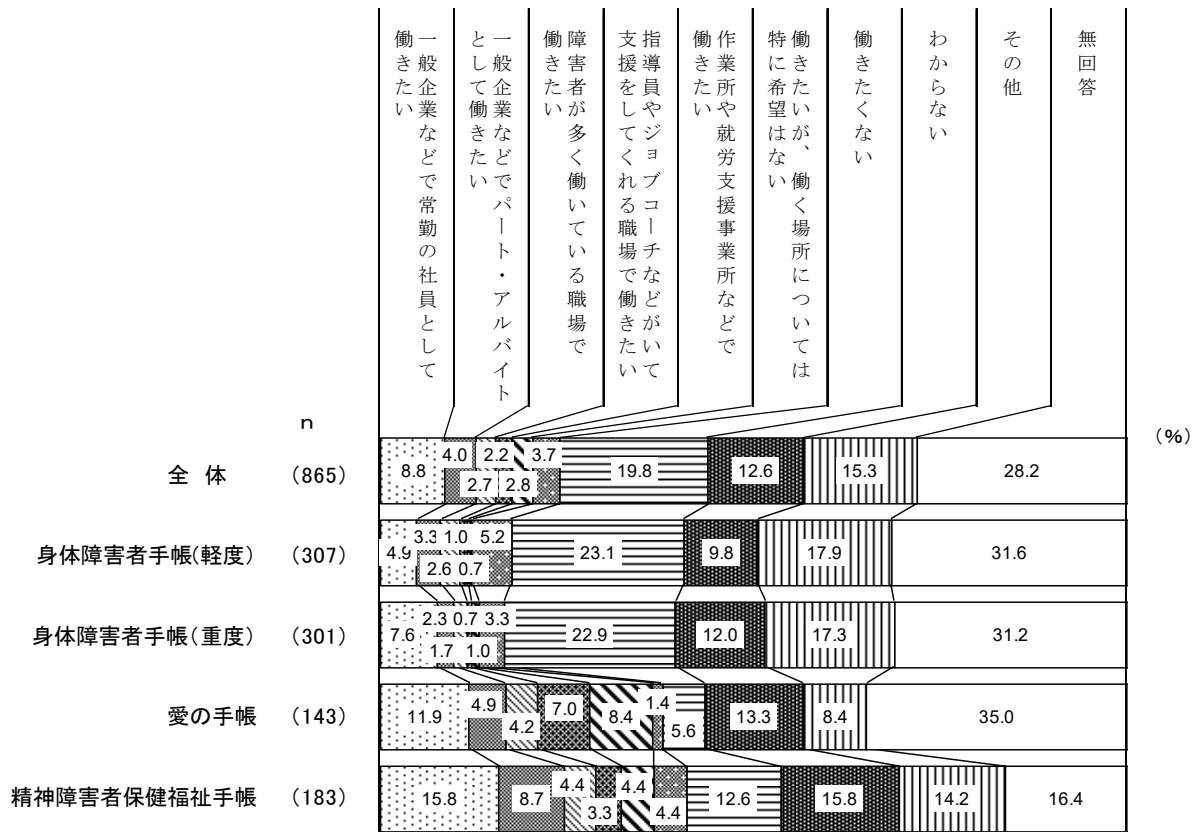
5.1.4. 希望する働き方

◆希望する働き方は、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」が約1割

(問18で「2. いいえ」とお答えの方に)

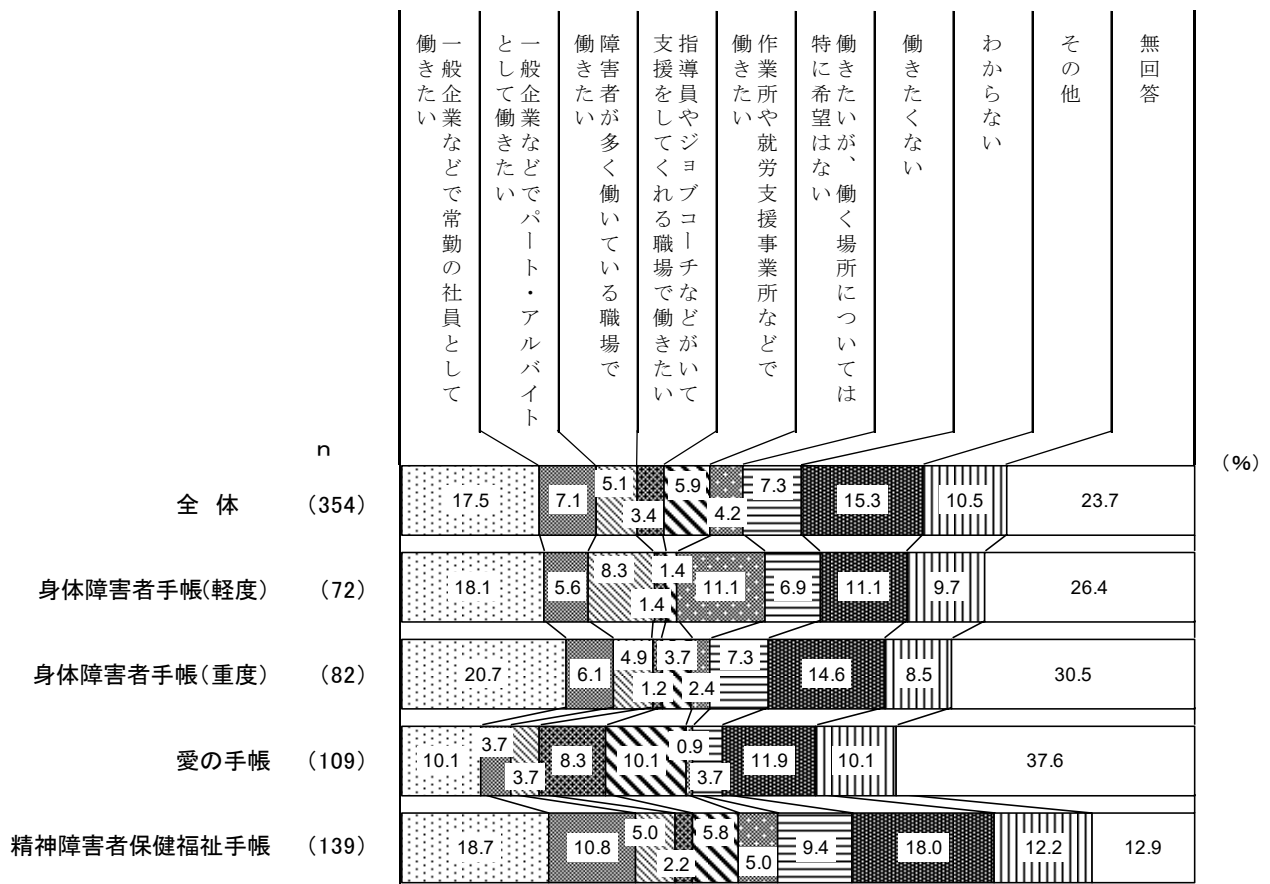
問18-4. あなた(あて名の方のご本人)は、今後、どのように働きたいと思いますか。(〇は1つ)

図 5-15 【所持手帳別】希望する働き方



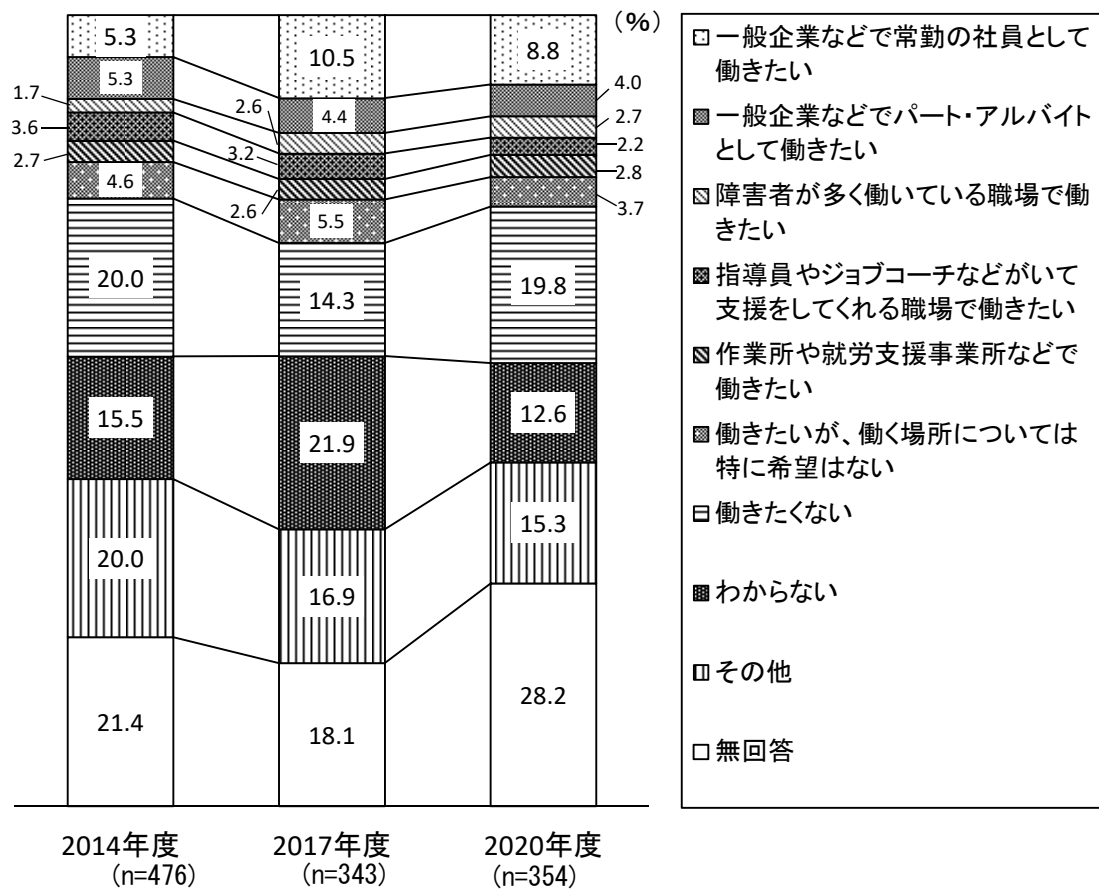
現在、就労されていない方に希望する働き方をきいたところ、全体では「一般企業などで常勤の社員として働きたい」が約1割となっている。

図 5-16 【所持手帳別】生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）の希望する働き方



生産年齢人口の希望する働き方をきいたところ、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者では「一般企業などで常勤の社員として働きたい」が高くなっている。

図 5-17 【経年比較】希望する働き方



※2011 年度は複数回答形式であったため、比較対象外とする。

希望する働き方を経年比較でみると、2017 年度に比べ「わからない」が減少し、「働きたくない」が増加している。

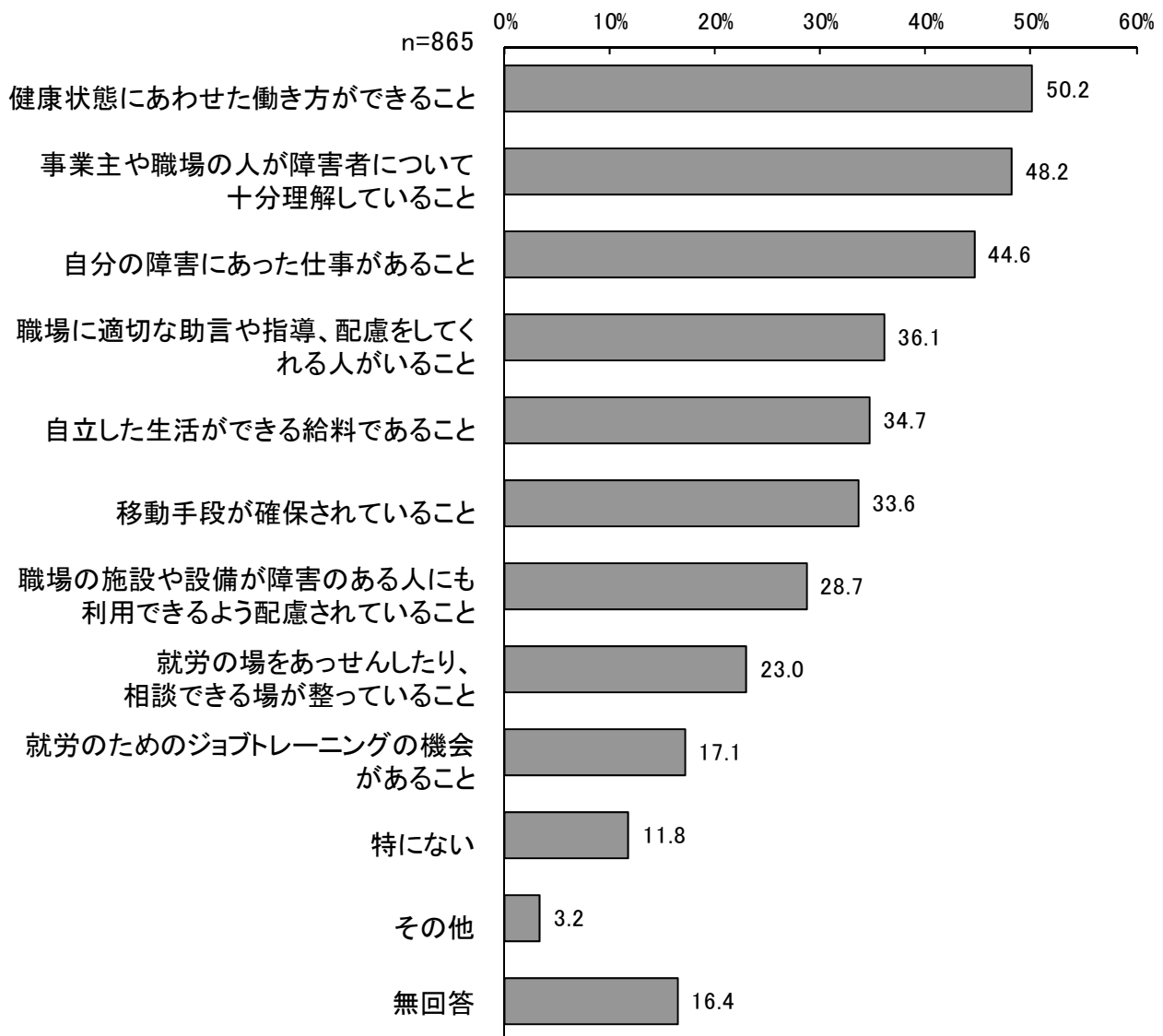
5.2. 障害者が働くための環境整備

◆働く環境として大切なことは「健康状態にあわせた働き方ができること」が約5割

(全員の方に)

問 19. あなた（あて名の方ご本人）は、障害者が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図 5-18 障害者が働くための環境整備



障害者が働くために大切な環境整備は、「健康状態にあわせた働き方ができること」が最も高くなっており、次いで「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」「自分の障害にあった仕事があること」「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」となっている。

図 5-19 【所持手帳別】上位 5 項目 障害者が働くための環境整備

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=307	健康状態にあ わせた働き方 ができること 44.3	自分の障害に あった仕事 があること 39.7	事業主や職場 の人が障害 者について十 分理解してい ること 38.4	移動手段が確 保されている こと 31.6	職場の施設や 設備が障害 のある人にも 利用できるよ う配慮されて いること 27.0
身体障害者手帳(重度) n=301	健康状態にあ わせた働き方 ができること 49.5	事業主や職場 の人が障害 者について十 分理解してい ること 45.5	自分の障害に あった仕事 があること 39.2	移動手段が確 保されている こと 37.5	職場の施設や 設備が障害 のある人にも 利用できるよ う配慮されて いること 31.6
愛の手帳 n=143	事業主や職場 の人が障害 者について十 分理解してい ること 54.5	自分の障害に あった仕事 があること 50.3	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてく れる人がいる こと 49.7	健康状態にあ わせた働き方 ができること 44.8	移動手段が確 保されている こと 35.7
精神障害者保健福祉手帳 n=183	健康状態にあ わせた働き方 ができること 63.9	事業主や職場 の人が障害 者について十 分理解してい ること 61.2	自立した生活 ができる給料 であること 55.7	自分の障害に あった仕事 があること 55.2	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてく れる人がいる こと 45.9

障害者が働くための環境整備を所持手帳別に見ると、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳では「健康状態にあわせた働き方ができること」が、愛の手帳では「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」が最も高くなっている。

図 5-20 【経年比較】上位 5 項目 障害者が働くための環境整備

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=865	健康状態にあ わせた働き方 ができること 50.2	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 48.2	自分の障害に あった仕事 があること 44.6	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてく れる人がいるこ と 36.1	自立した生活 ができる給料 であること 34.7
2017年度 n=645	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 58.0	健康状態にあ わせた働き方 ができること 55.3	自分の障害に あった仕事 があること 50.7	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてく れる人がいるこ と 43.4	自立した生活 ができる給料 であること 41.6
2014年度 n=772	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 51.0	健康状態にあ わせた働き方 ができること 48.3	自分の障害に あった仕事 があること 47.8	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてく れる人がいるこ と 40.2	自立した生活 ができる給料 であること 37.7
2011年度 n=860	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 50.0	健康状態にあ わせた働き方 ができること 44.8	自分の障害に あった仕事 があること 44.4	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてく れる人がいるこ と 37.9	自立した生活 ができる給料 であること 32.7

障害者が働くための環境整備を経年比較で見ると、いずれの年度においても、「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」「健康状態にあわせた働き方ができること」が上位を占めている。

6. 健康福祉サービスについて

6.1. 相談サービスの利用有無

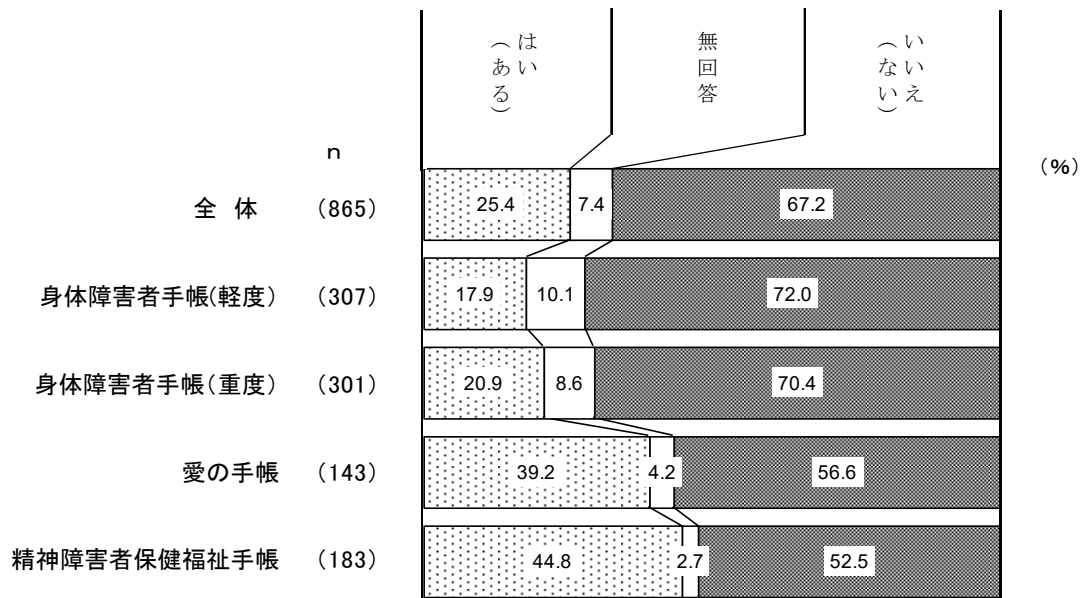
◆相談サービスの利用は精神障害者保健福祉手帳所持者では「ある」が4割半ば

(全員の方に)

問 20. あなた(あて名の方ご本人)は、過去1年の間に、相談サービスを利用したことがありますか。

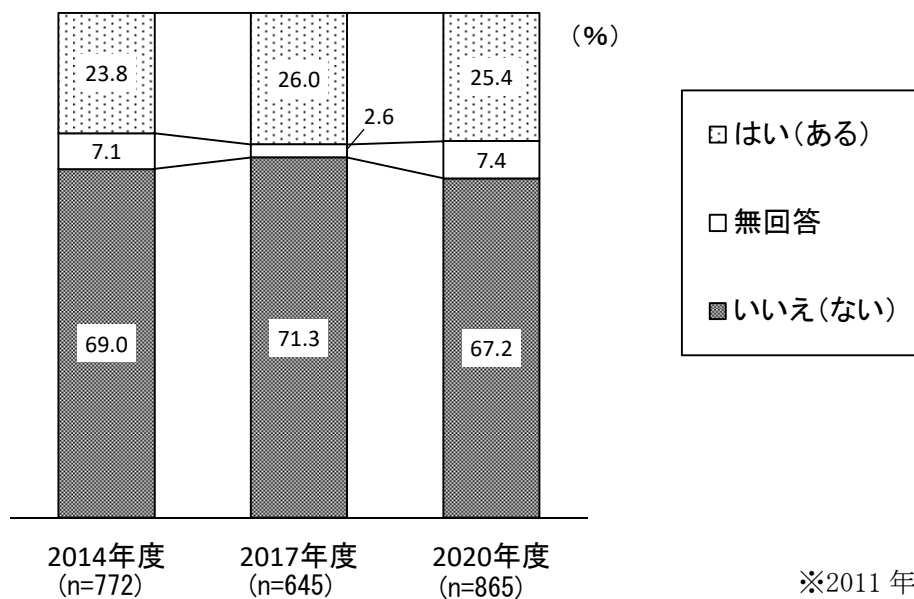
(○は1つ)

図 6-1 【所持手帳別】相談サービスの利用有無



過去1年間の相談サービスの利用の有無は、「はい(ある)」が精神障害者保健福祉手帳所持者で4割半ばと他に比べ高くなっている。

図 6-2 【経年比較】相談サービスの利用有無



※2011年度は調査項目なし

過去1年間の相談サービスの利用の有無を経年比較でみると、大きな変化は見られない。

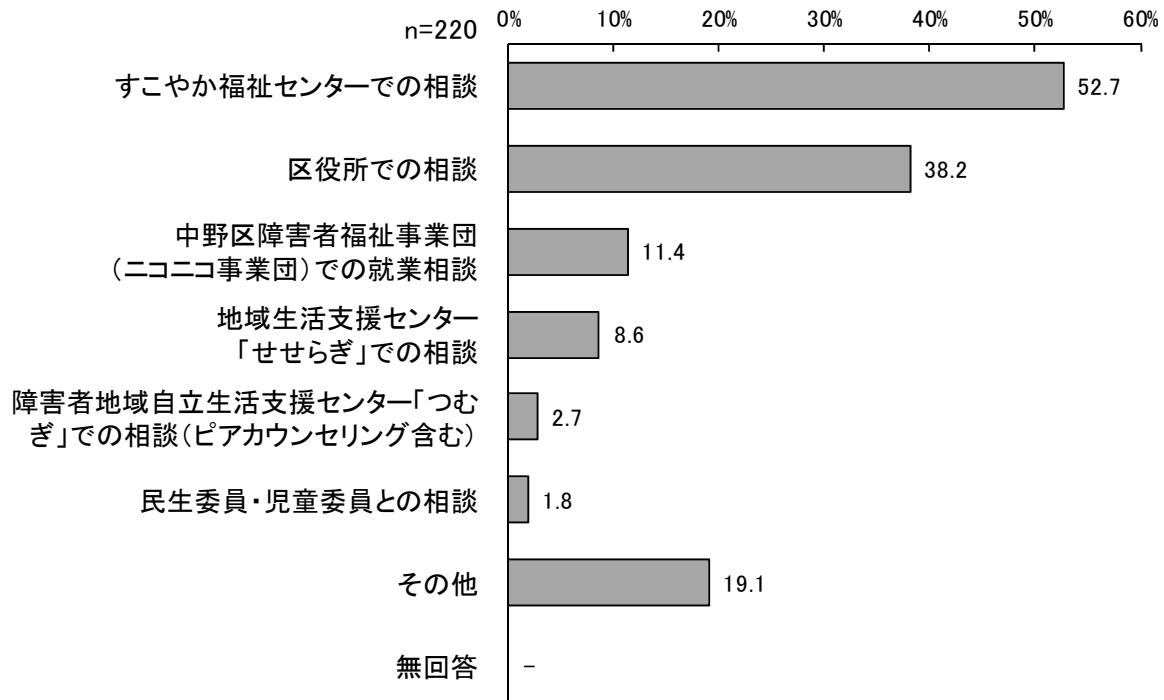
6.1.1. 利用した相談サービス

◆利用した相談サービスは「すこやか福祉センターでの相談」が5割台前半

(問 20 で「1. はい」とお答えの方に)

問 20-1. 利用した相談サービスをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

図 6-3 利用した相談サービス



相談サービスを利用したと回答した方に、利用したサービスをきいたところ、「すこやか福祉センターでの相談」が5割台前半と高くなっており、次いで「区役所での相談」「中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談」「地域生活支援センター『せせらぎ』での相談」となっている。

図 6-4 【所持手帳別】上位 5 項目 利用した相談サービス

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=55	区役所での相談 47.3	すこやか福祉センターでの相談 38.2	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 7.3	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 5.5	民生委員・児童委員との相談 3.6
身体障害者手帳(重度) n=63	すこやか福祉センターでの相談 47.6	区役所での相談 44.4	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 7.9	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 6.3	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 4.8
愛の手帳 n=56	すこやか福祉センターでの相談 64.3	区役所での相談 37.5	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 21.4	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 1.8	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 1.8
精神障害者保健福祉手帳 n=82	すこやか福祉センターでの相談 58.5	区役所での相談 35.4	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 14.6	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 12.2	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 2.4

利用した相談サービスを所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者(軽度)では「区役所での相談」が、その他手帳所持者では「すこやか福祉センターでの相談」が最も高くなっている。

図 6-5 【経年比較】上位 5 項目 利用した相談サービス

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=220	すこやか福祉センターでの相談 52.7	区役所での相談 38.2	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 11.4	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 8.6	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 2.7
2017年度 n=168	区役所での相談 51.8	すこやか福祉センターでの相談 48.8	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 13.7	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 7.7	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 4.8
2014年度 n=184	区役所での相談 49.5	すこやか福祉センターでの相談 39.7	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 17.9	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 11.4	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 3.8
2011年度 n=860	区役所での相談 21.2	保健福祉センターでの相談 13.1	中部すこやか福祉センターでの相談 4.7	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 3.8	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 3.4

利用した相談サービスを経年比較でみると、2020年度は「すこやか福祉センターでの相談」が第1位となっている。

6.2. 障害福祉サービス

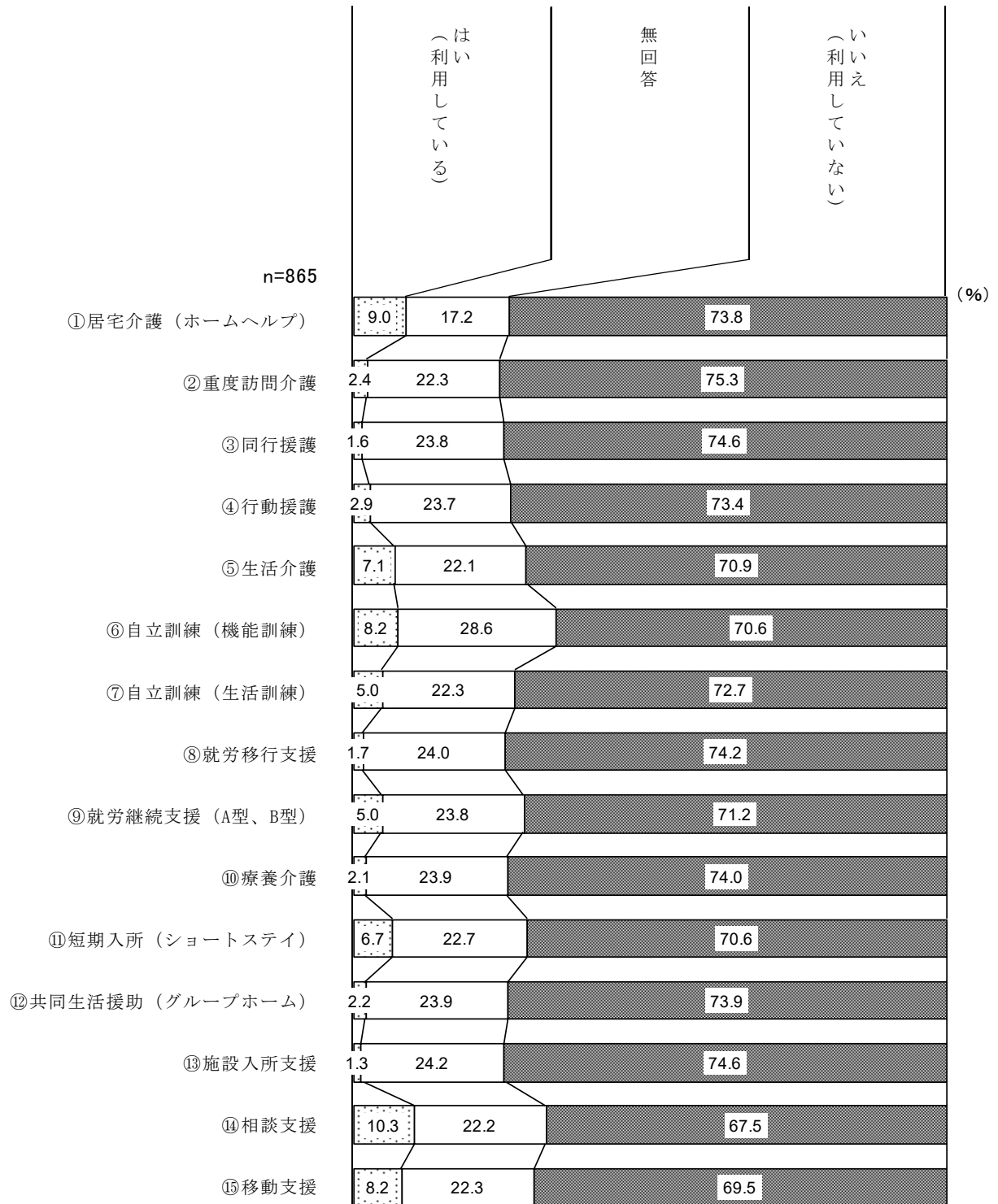
6.2.1. 障害福祉サービスの利用状況

◆障害福祉サービスの利用は「居宅介護（ホームヘルプ）」「相談支援」が約1割

（全員の方に）

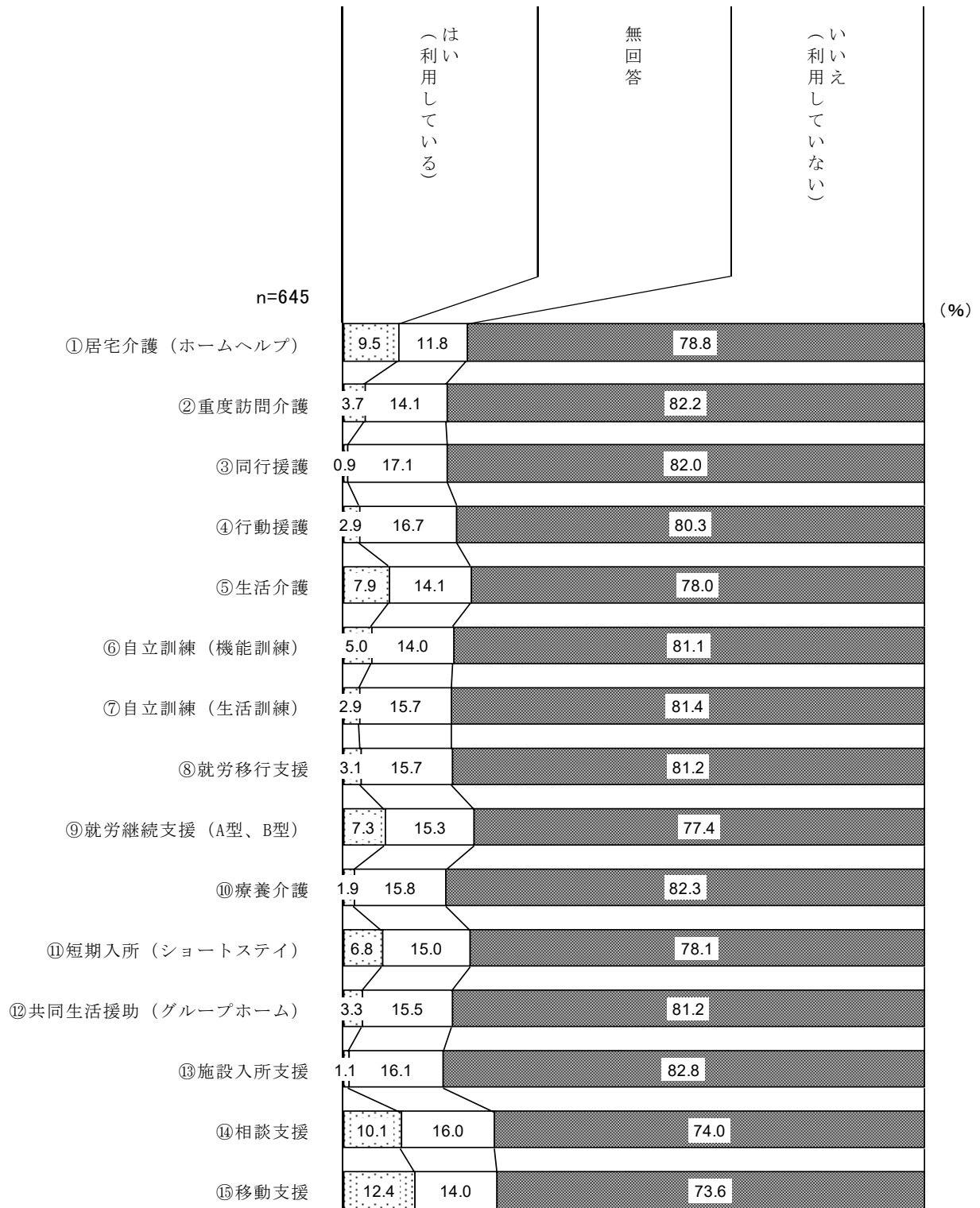
問 21. あなた（あて名の方ご本人）は、次のサービスを利用していますか。（それぞれ〇は1つ）

図 6-6 障害福祉サービスの利用状況（2020 年度）



障害福祉サービスの利用状況は、全体として利用は少ないが、「居宅介護（ホームヘルプ）」「相談支援」では約1割となっている。

図 6-7 障害福祉サービスの利用状況（2017 年度）



障害福祉サービスの利用状況は、2020 年は 2017 年に比べ、「移動支援」が 4.2 ポイントの減少となっている。

6.2.2. 障害福祉サービスの利用意向

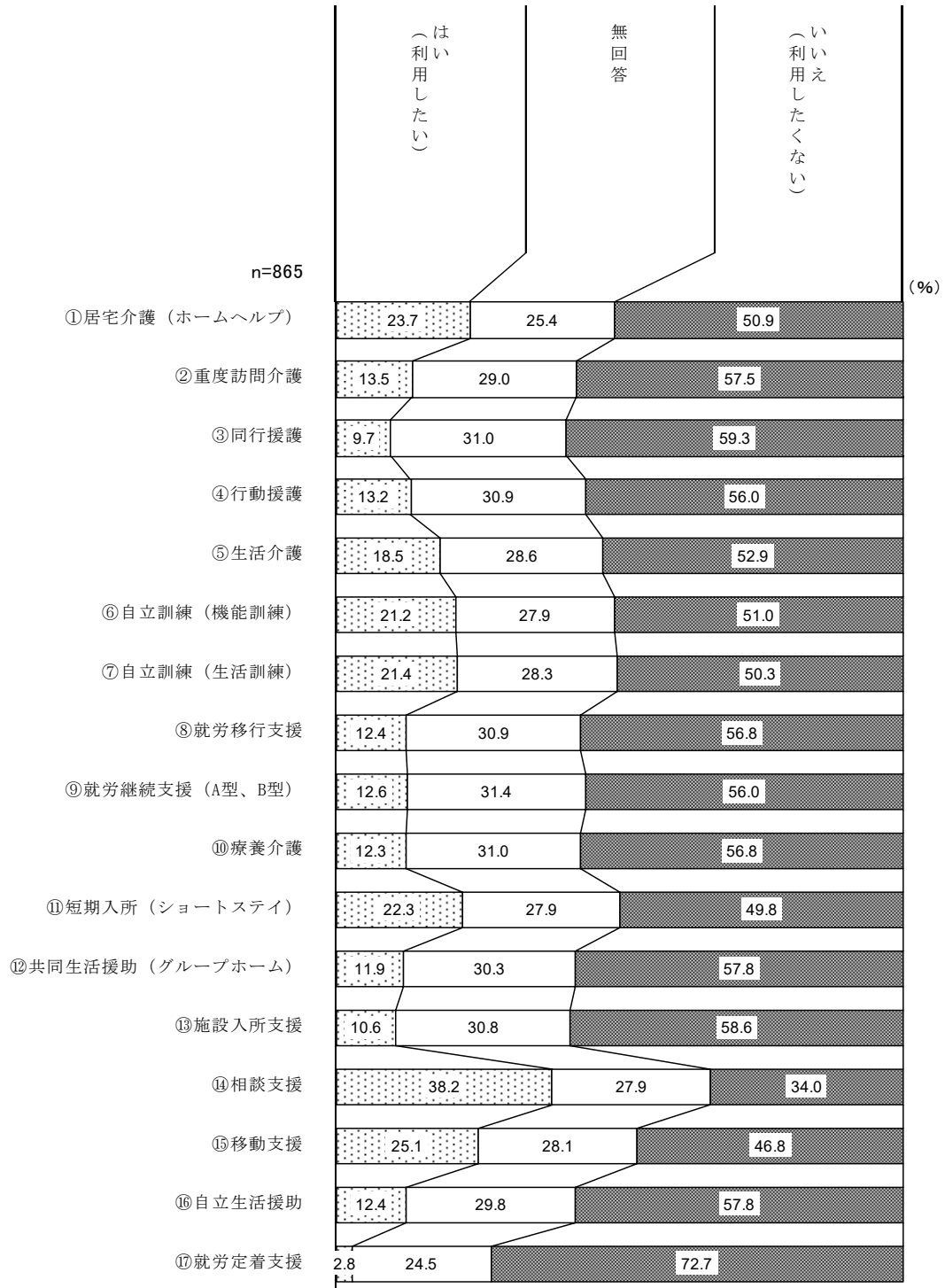
◆今後利用したい障害福祉サービスは「相談支援」が3割台後半

（全員の方に）

問 21. あなた（あて名の方ご本人）は、次のサービスを今後利用したいと考えますか。

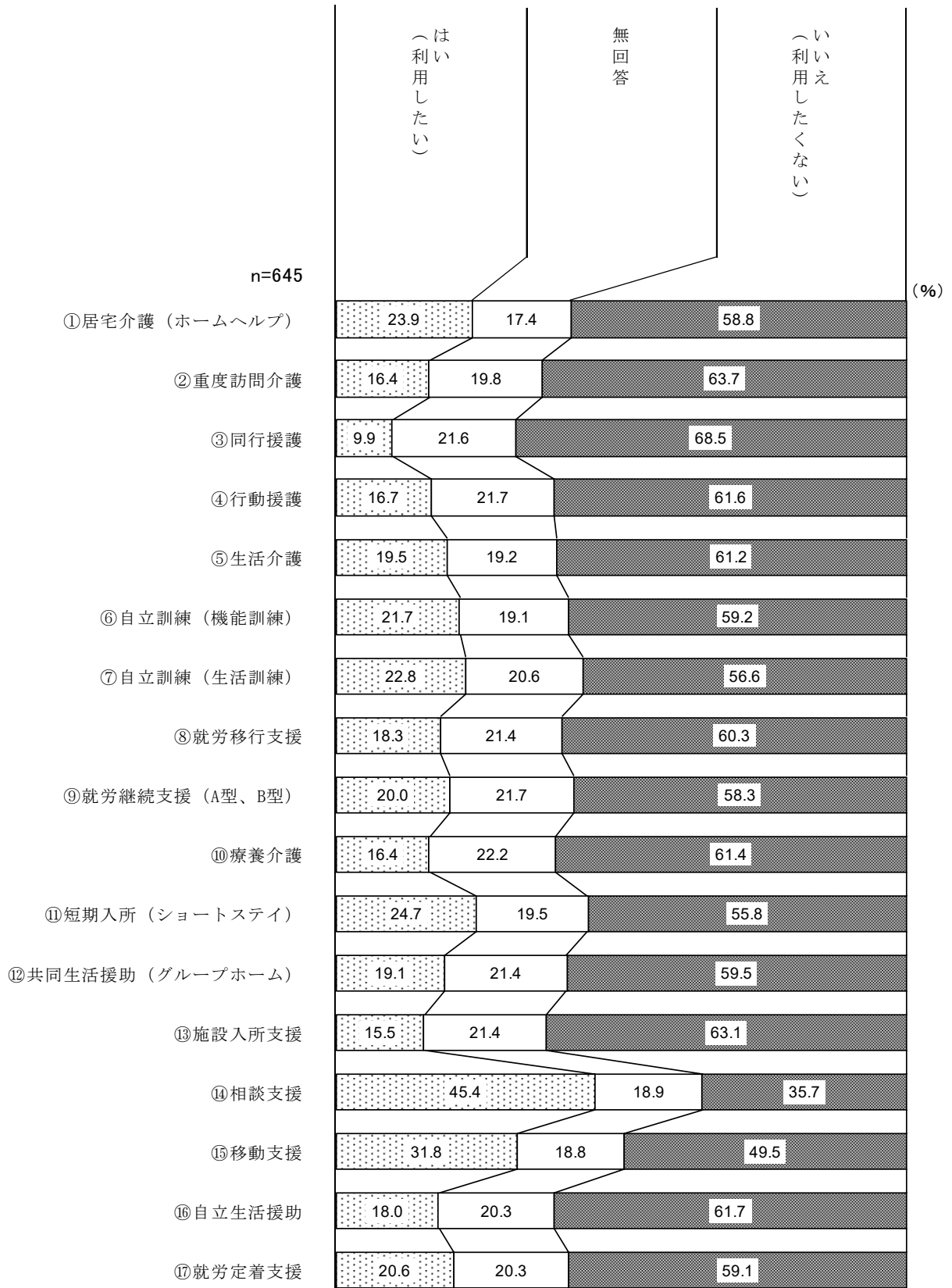
（それぞれ〇は1つ）

図 6-8 障害福祉サービスの利用意向（2020 年度）



今後利用したいサービスとしては、「相談支援」が3割台後半と最も高くなっている。

図 6-9 障害福祉サービスの利用意向（2017 年度）



今後利用したいサービスは、2020 年度は 2017 年度に比べ、すべての項目で「はい（利用したい）」が減少しており、特に就労継続支援（A 型、B 型）、共同生活援助（グループホーム）、移動支援等で減少幅が大きい。

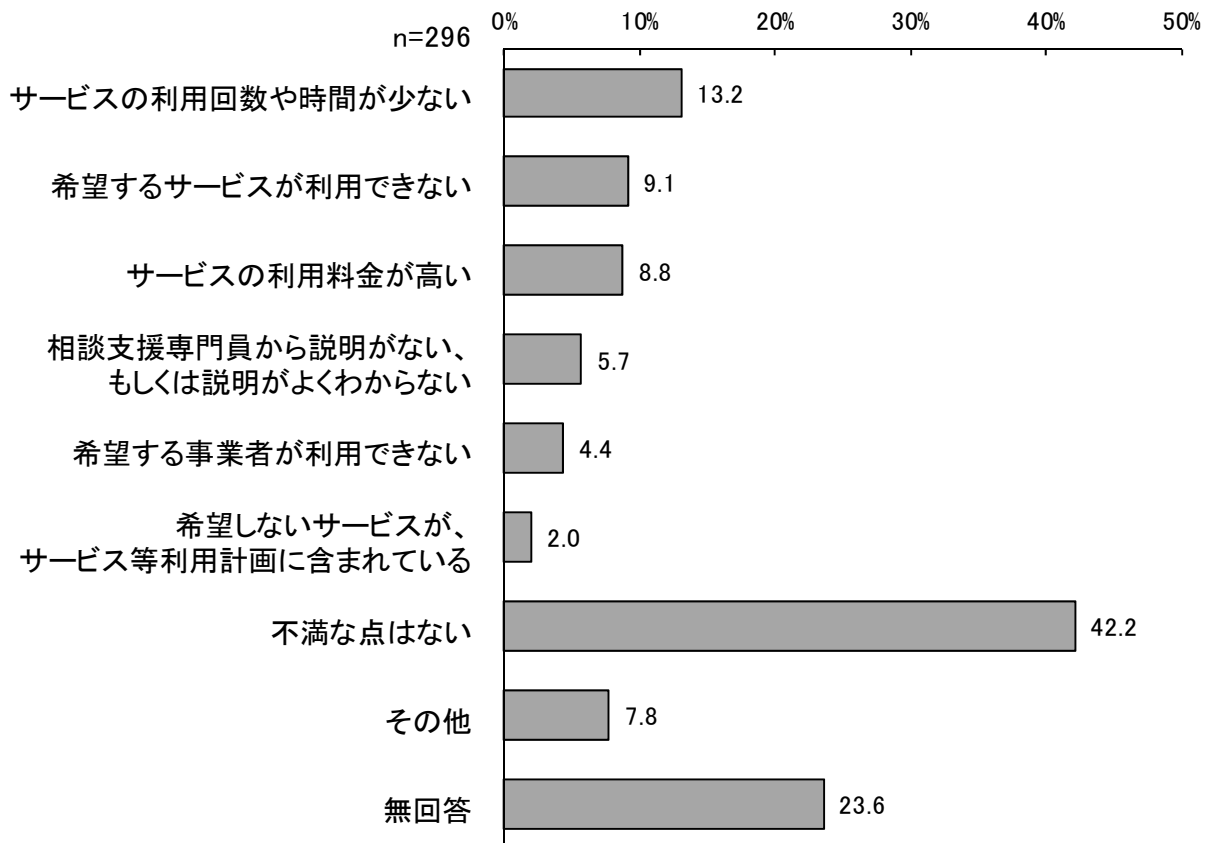
6.2.3. サービス等利用計画について不満に思うこと

◆サービス等利用計画について、不満に思うことは「サービスの利用回数や時間が少ない」が1割台前半

（問21の「現在利用していますか」の設問で、1つ以上「1. はい」とお答えの方に）

問21-1. あなた（あて名の方ご本人）がサービス等利用計画について、不満に思うことを次の中から選んでください。（あてはまるものすべてに○）

図6-10 サービス等利用計画について不満に思うこと



サービス等利用計画については「不満な点はない」が最も高いが、不満に思う点の中では、「サービスの利用回数や時間が少ない」が1割台前半となっており、次いで「希望するサービスが利用できない」「サービスの利用料金が低い」となっている。

図 6-11 【所持手帳別】上位5項目 サービス等利用計画について不満に思うこと

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=71	不満な点はない 43.7	希望するサービスが利用できない／サービスの利用回数や時間が少ない 7.0	相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない 5.6	サービスの利用料金が低い 4.2	
身体障害者手帳(重度) n=104	不満な点はない 46.2	サービスの利用回数や時間が少ない 16.3	サービスの利用料金が低い 12.5	希望するサービスが利用できない 7.7	相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない 5.8
愛の手帳 n=90	不満な点はない 40.0	サービスの利用回数や時間が少ない 14.4	希望するサービスが利用できない 10.0	希望する事業者が利用できない 6.7	サービスの利用料金が低い 3.3
精神障害者保健福祉手帳 n=71	不満な点はない 40.8	相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない 12.7	希望するサービスが利用できない 11.3	サービスの利用回数や時間が少ない 11.3	サービスの利用料金が低い 8.5

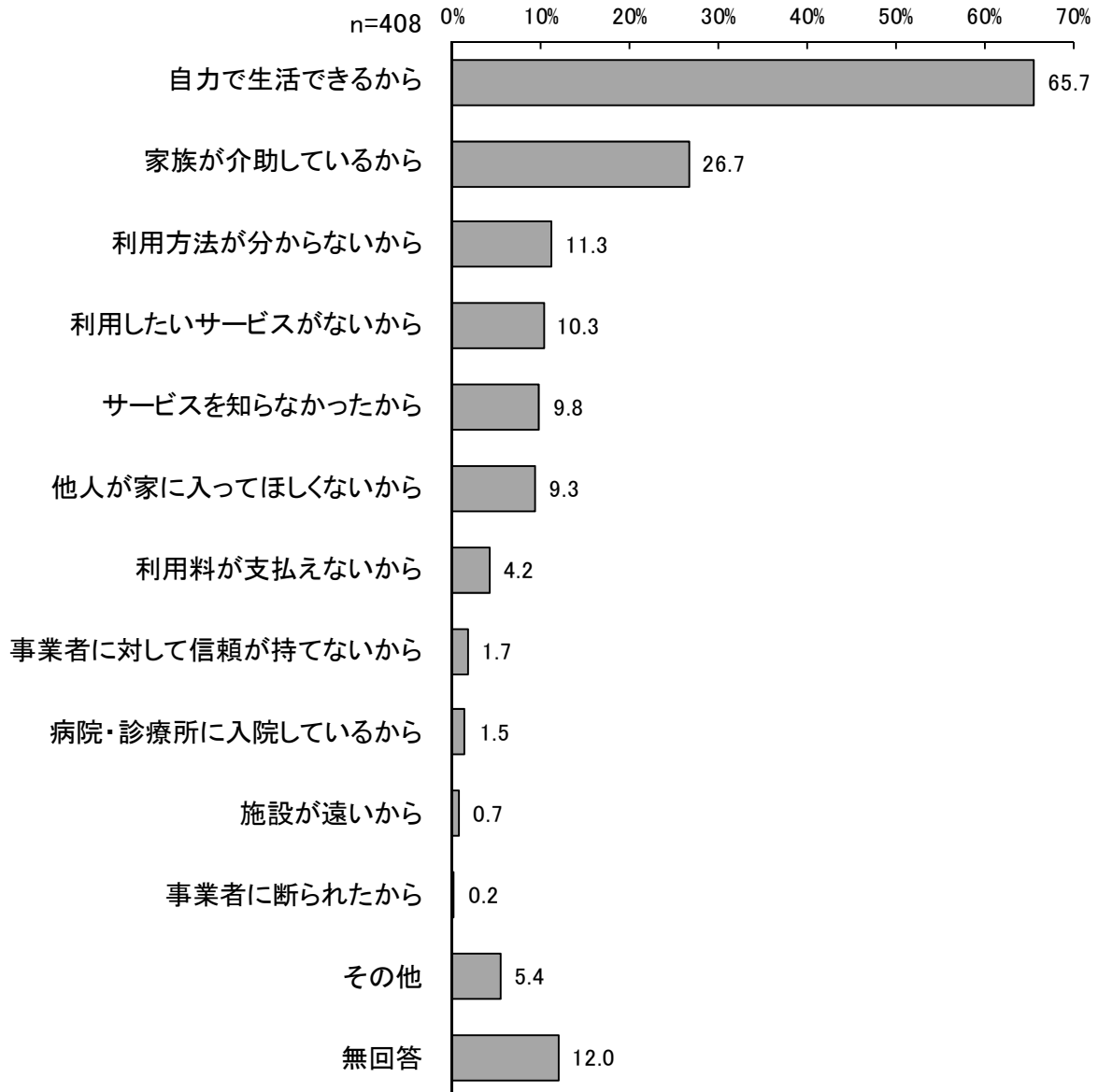
サービス等利用計画について不満に思うことを所持手帳別でみると、いずれの手帳所持者も「不満な点はない」が最も高くなっている。

6.2.4. 障害福祉サービスを利用していない理由

◆障害福祉サービスを利用していない理由は、「自力で生活できるから」が最も高い

（問 21 の「現在利用していますか」の設問で、全てに「2. いいえ」とお答えの方に）
 問 21-2. 障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図 6-12 障害福祉サービスを利用していない理由



障害福祉サービスを利用していない理由は、「自力で生活できるから」が6割台半ばと最も高くなっている。

図 6-13 【所持手帳別】上位 5 項目 障害福祉サービスを利用していない理由

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=171	自力で生活できるから 76.6	家族が介助しているから 27.5	サービスを知らなかったから 8.8	利用方法が分からないから 8.2	他人が家に入ってほしくないから 6.4
身体障害者手帳(重度) n=128	自力で生活できるから 69.5	家族が介助しているから 28.9	利用方法が分からないから 10.2	利用したいサービスがないから 9.4	他人が家に入ってほしくないから／サービスを知らなかったから 8.6
愛の手帳 n=39	自力で生活できるから 41.0	家族が介助しているから 33.3	他人が家に入ってほしくないから／サービスを知らなかったから 7.7	利用したいサービスがないから／利用料が支払えないから／利用方法が分からないから 2.6	
精神障害者保健福祉手帳 n=89	自力で生活できるから 49.4	利用方法が分からないから 21.3	家族が介助しているから／利用したいサービスがないから 19.1	他人が家に入ってほしくないから 16.9	

障害福祉サービスを利用していない理由を所持手帳別でみると、すべての手帳所持者で「自力で生活できるから」が最も高くなっている。

図 6-14 【経年比較】上位 5 項目 障害福祉サービスを利用していない理由

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=408	自力で生活できるから 65.7	家族が介助しているから 26.7	利用方法が分からないから 11.3	利用したいサービスがないから 10.3	サービスを知らなかったから 9.8
2017年度 n=354	自力で生活できるから 58.8	家族が介助しているから 25.7	サービスを知らなかったから 14.7	利用したいサービスがないから 11.9	利用方法が分からないから 11.3
2014年度 n=627	自力で生活できるから 37.5	家族が介助しているから 27.6	利用方法が分からないから 9.7	他人が家に入ってほしくないから 9.3	サービスを知らなかったから 8.8
2011年度 n=656	自力で生活できるから 54.4	家族が介助しているから 30.8	利用方法が分からないから／サービスを知らなかったから 11.6	他人に家へ入ってほしくないから 7.3	

障害福祉サービスを利用していない理由を経年比較でみると、いずれの年度においても「自力で生活できるから」が高くなっている。

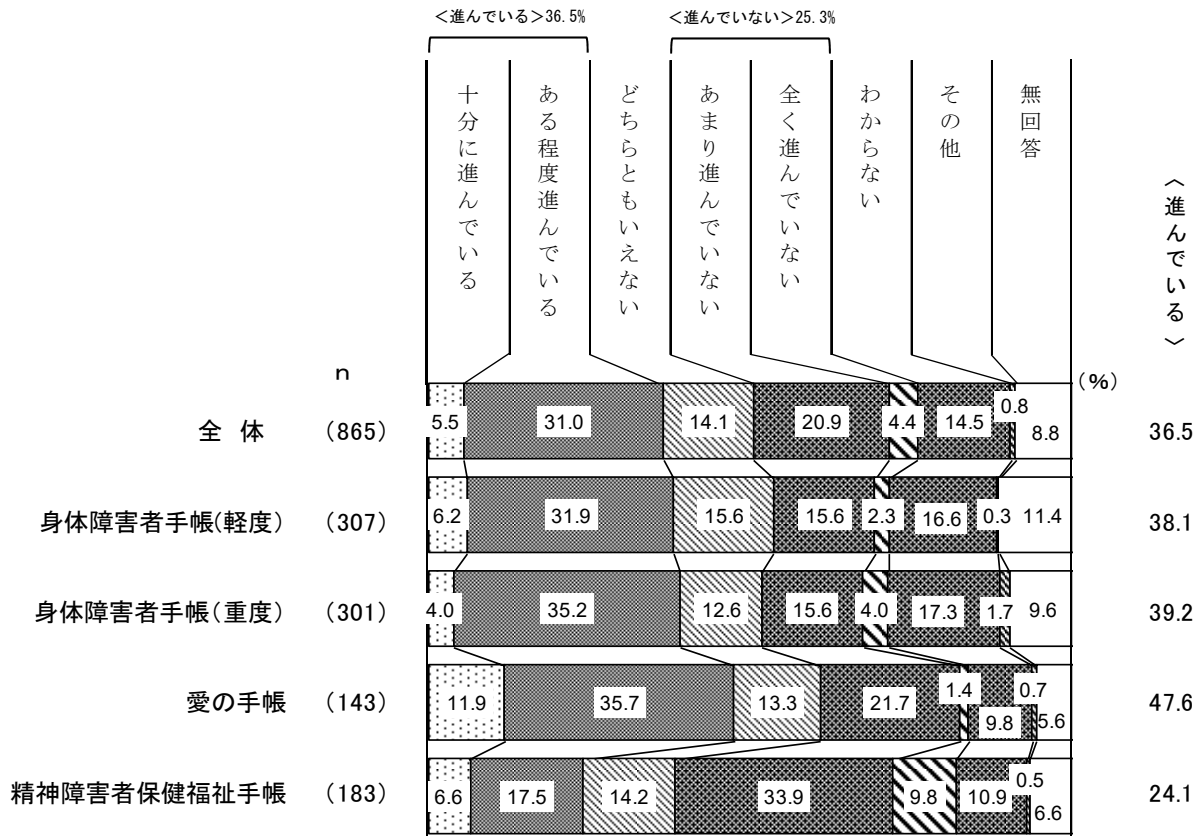
6.3. 障害者に対する理解

◆障害者に対する理解は＜進んでいる＞が3割台半ば

(全員の方に)

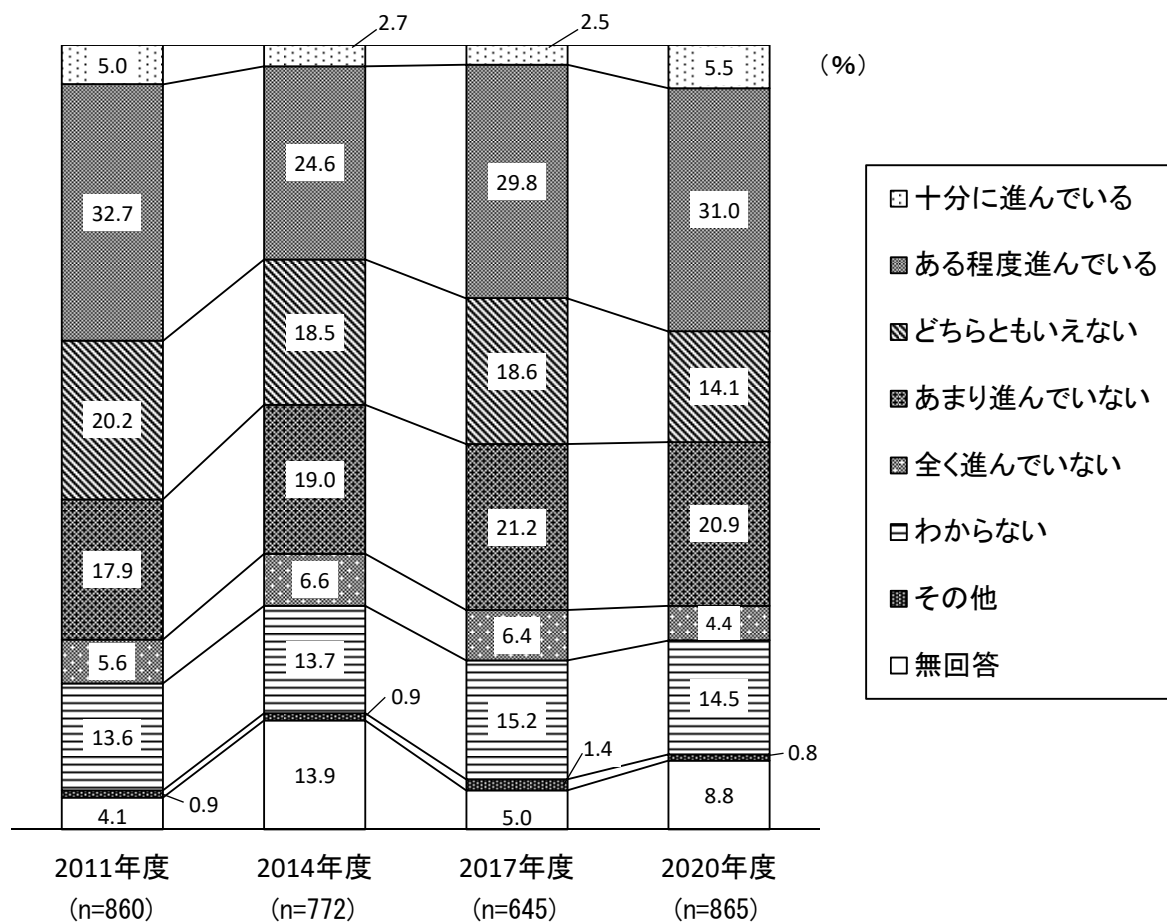
問 22. 障害に対する理解はどの程度進んでいると思いますか。(〇は1つ)

図 6-15 【所持手帳別】障害者に対する理解



障害者に対する理解は、「十分に進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた＜進んでいる＞が3割台半ばとなっている。

図 6-16 【経年比較】障害者に対する理解



障害者に対する理解を経年比較でみると、2020年度は2017年度に比べ＜進んでいる＞が4.2ポイント増加している。

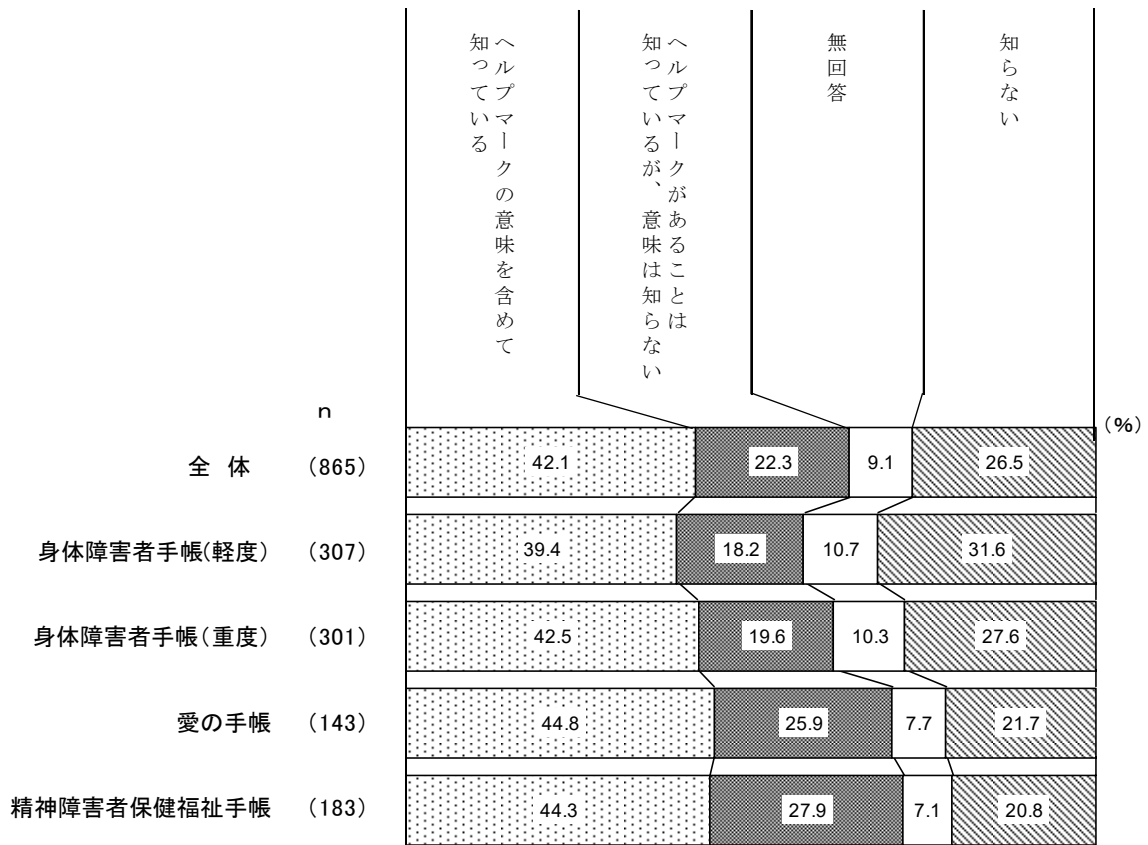
6. 4. ヘルプマークの認知度

◆ヘルプマークの意味を含めて知っているのは全体の4割台前半

(全員の方に)

問 23. あなた（あて名の方ご本人）はヘルプマークを知っていますか。（○は1つ）

図 6-17 ヘルプマークの認知度



ヘルプマークの認知度は、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が各手帳所持者で4割前後となっている。

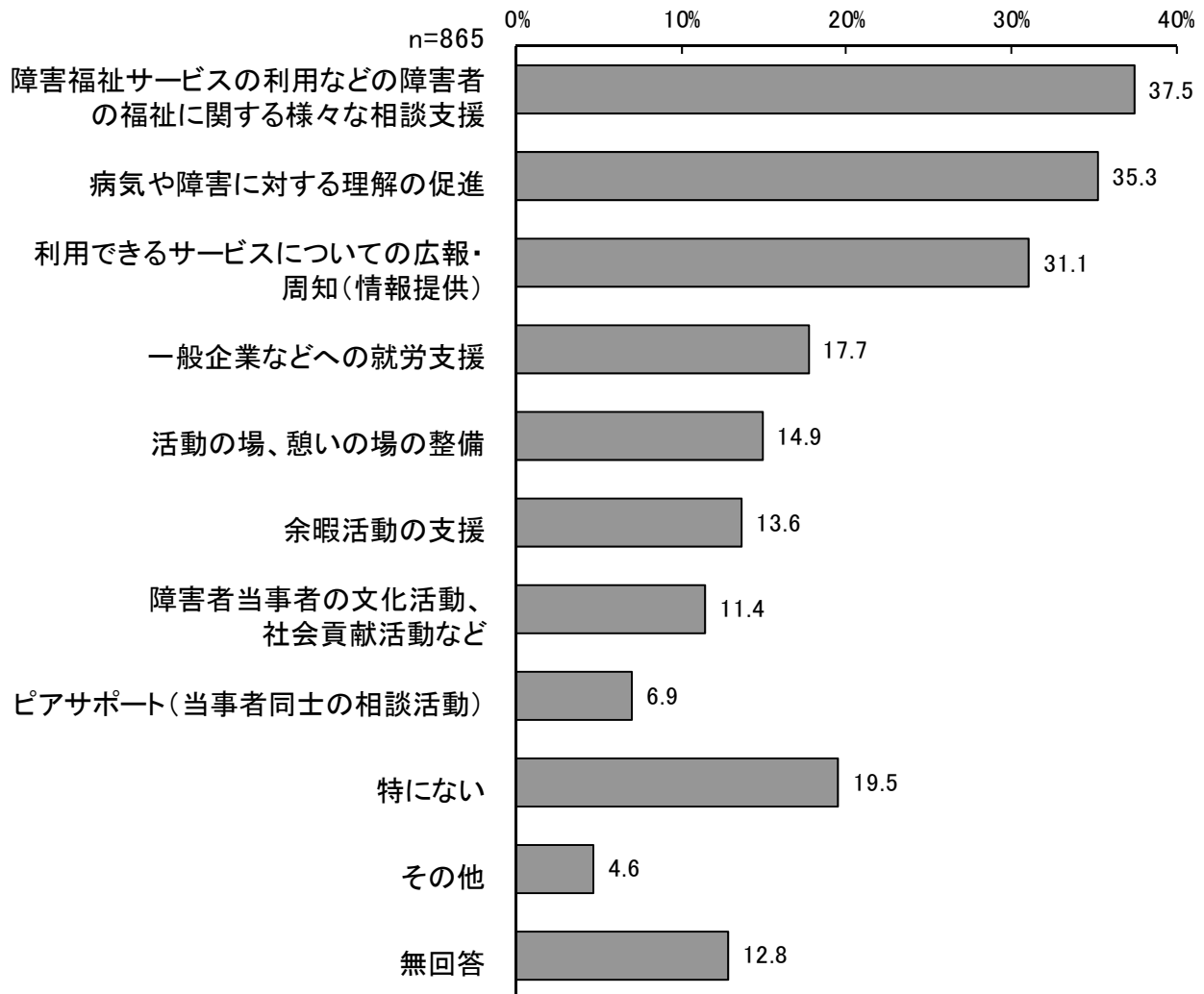
6.5. 充実して欲しい施策

◆充実してほしい施策は「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」が3割台後半

（全員の方に）

問 24. あなた（あて名の方ご本人）は次の施策のうち、特に充実してほしいと思うものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

図 6-18 充実してほしい施策



充実してほしい施策は、「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」が3割台後半と高く、次いで「病気や障害に対する理解の促進」、「利用できるサービスについての広報・周知（情報提供）」「一般企業などへの就労支援」となっている。

図 6-19 【所持手帳別】上位5項目 充実してほしい施策

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=307	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 31.6	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 28.3	病気や障害に対する理解の促進 27.4	障害当事者の文化活動、社会貢献活動など/一般企業などへの就労支援 10.4	
身体障害者手帳(重度) n=301	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 35.5	病気や障害に対する理解の促進 33.2	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 30.2	一般企業などへの就労支援 15.0	活動の場、憩いの場の整備 13.6
愛の手帳 n=143	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 41.3	病気や障害に対する理解の促進 38.5	余暇活動の支援 32.9	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 28.0	活動の場、憩いの場の整備 21.7
精神障害者保健福祉手帳 n=183	病気や障害に対する理解の促進 51.4	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 47.5	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 36.6	一般企業などへの就労支援 35.5	活動の場、憩いの場の整備 20.2

充実してほしい施策を所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者では、「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では「病気や障害に対する理解の促進」が最も高くなっている。

図 6-20 【経年比較】上位5項目 充実してほしい施策

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=865	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 37.5	病気や障害に対する理解の促進 35.3	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 31.1	一般企業などへの就労支援 17.7	活動の場、憩いの場の整備 14.9
2017年度 n=645	病気や障害に対する理解の促進 42.6	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 39.5	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 34.6	一般企業などへの就労支援 24.3	余暇活動の支援 20.6
2014年度 n=772	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 40.3	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 37.3	病気や障害に対する理解の促進 36.1	一般企業などへの就労支援 20.3	活動の場、憩いの場の整備 18.5
2011年度 n=860	病気や障害に対する理解の促進 36.7	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 32.9	ホームヘルプサービス(居宅介護、重度訪問介護、移動支援など) 24.5	就労移行支援や就労継続支援を行う事業所や作業所などの働く場の整備 18.7	一般企業などへの就労支援 18.4

充実して欲しい施策を経年比較でみると、2020年度は2017年度に比べ「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」の順位が高くなっている。

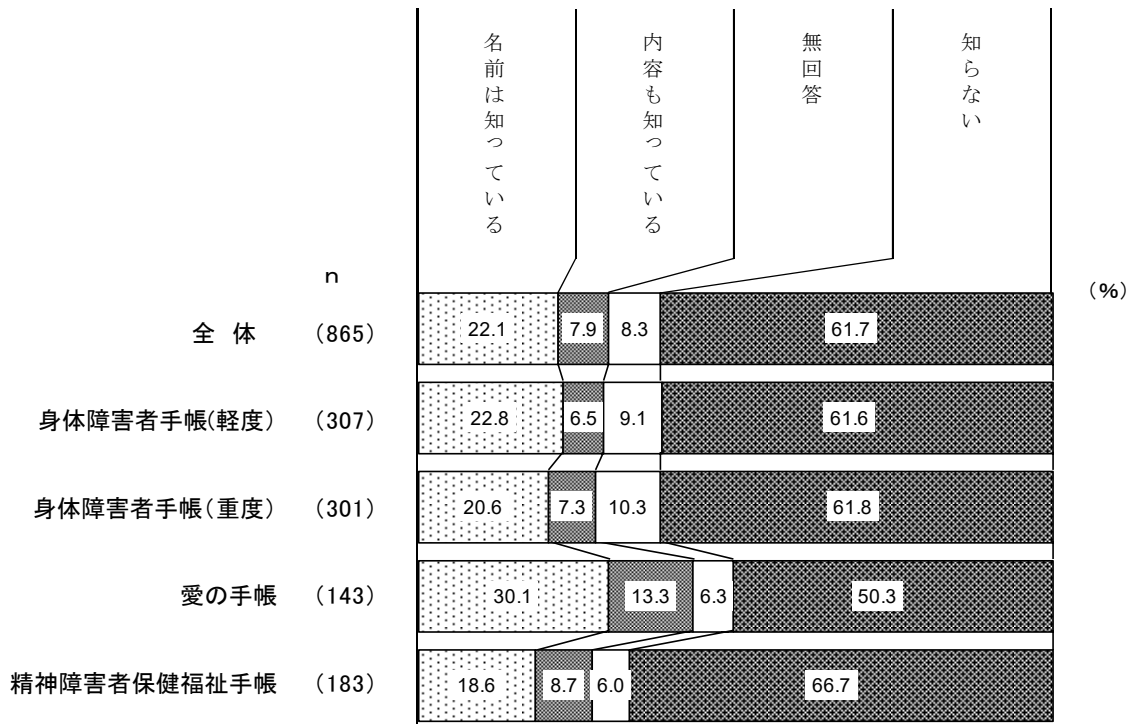
6. 6. 障害者差別解消法の認知度

◆障害者差別解消法の認知度は、「知らない」が約6割

(全員の方に)

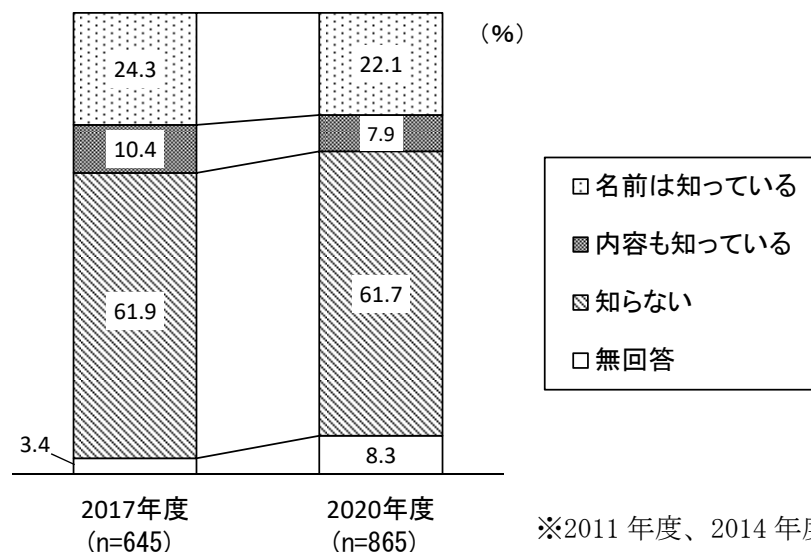
問 25. 障害のある人への差別をなくすことを目的として、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(〇は1つ)

図 6-21 障害者差別解消法の認知度



障害者差別解消法の認知度は、全体では「知らない」が約6割となっており、特に精神障害者保健福祉手帳所持者では6割台半ばとなっている。

図 6-22 【経年比較】障害者差別解消法の認知度



※2011 年度、2014 年度は調査項目なし

障害者に対する理解を経年比較でみると、2020 年度は 2017 年度に比べ「名前を知っている」が 2.2 ポイント、「内容も知っている」が 2.5 ポイント減少している。

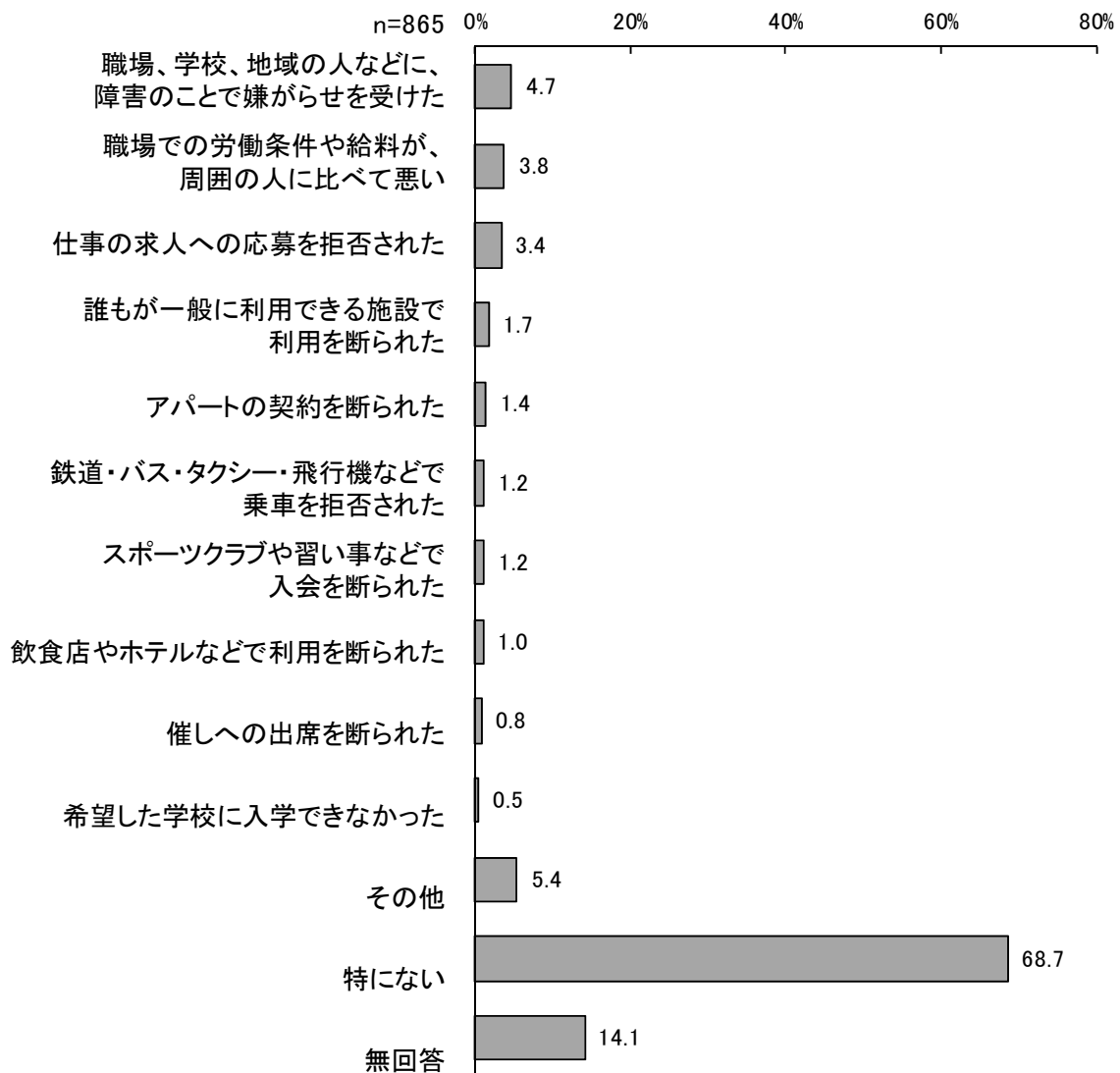
6.7. 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと

◆障害を理由に、差別的な対応を受けたことについて「職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた」が最も高い

(全員の方に)

問 26. あなた（あて名の方ご本人）は過去 3 年間の間に、日常生活の中で、障害を理由に、差別的な対応を受けたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

図 6-22 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと



障害を理由に、差別的な対応を受けたことは「特にない」が最も多いが、差別的な対応を受けた点の中では、「職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた」が最も高く、次いで「職場の労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い」「仕事の求人への応募を拒否された」「誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた」となっている。

図 6-23 【所持手帳別】上位 5 項目 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=307	鉄道・バス・タクシー・飛行機などで乗車を拒否された/仕事の求人への応募を拒否された/職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた		1.6	誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた/職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い	1.0
身体障害者手帳(重度) n=301	職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた	4.0	誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた	2.3	飲食店やホテルなどで利用を断られた/職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い
愛の手帳 n=143	職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた	5.6	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い	4.2	誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた
精神障害者保健福祉手帳 n=183	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い/職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた	10.9	仕事の求人への応募を拒否された	9.3	アパートの契約を断られた
				3.8	誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた
					2.7

障害を理由に、差別的な対応を受けたことを所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者（軽度）では「鉄道・バス・タクシー・飛行機などで乗車を拒否された/仕事の求人への応募を拒否された/職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた」が、身体障害者手帳所持者（重度）、愛の手帳所持者では「職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い/職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた」が最も高くなっている。

7. 自由回答

7.1. 日常生活で困っていること

（全員の方に）

問 27. 日常生活で困っていることがありました、ご自由にお書きください。

日常生活で困っていることを自由に記入していただいたところ、234 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

健康福祉の相談・サービスについて 21 件

- 私の精神、発達障害の特性の理解や特性に合わせた支援が受けられていない。精神、発達障害者も JR や都営以外の私鉄の運賃の割引が受けられるようにしてほしい。都営、区営住宅の単身者も入居の優先をしてほしい（家が狭いので）。就労を考えていますが、昨今の不景気で就労活動の機会が少なくなりそう。（男性/年齢 45～49 歳）
- 重度認定されていないとサービスを受けられないヘルパー事業所が多い。重度でないと断られている。言葉が出ないだけで仕事にも就きにくい、身体能力もあり一般就労出来ている人たちが重度認定されていたり生活介護になっている。一方的な言葉が出るだけで斜視や転びやすい内反足や形の認識力が弱い等があっても重度認定や介護認定がされていないので認定をしてもらいたい。都へ申請をお願いしたい、不公平です。（女性/年齢 70～74 歳）
- 居宅介護を受けているが本人介護をするため二人体制を希望するが現実にはヘルパー1 名と高齢の親が介助、ぜひ2 名のヘルパーを認めて下さい。（男性/年齢 45～49 歳）
- 手話通訳の派遣について、学びたい講習や通信教育があっても業務の範疇を超えていると思い相談しづらい。（女性/年齢 30～34 歳）
- 日頃多くの福祉サービスを受け大変助けられております。親の高齢化に伴いより多くの支援をお願いしたいと思っておりますが、ヘルパー人材の不足で中々希望通りに出来ないこともあります。入浴介助という重労働を依頼するのについで遠慮してしまうこともあります。地域で出来るだけ長く生活するために良質なヘルパー人材の育成をお願いしたいと思います。（男性/年齢 35～39 歳）

経済的問題について 25 件

- 薬を飲んでいると背中や肩や首などこっぴどいマッサージに行ったりして何とかやっていけますが、マッサージ代も結構お金がかかるので今働いていないので少し困っている。コロナが落ち着いて体調が整った時やりたい。自分にも出来そうな仕事が見つかったらやろうと考えているが、果たして雇っていただけるのかわからないので不安です。（女性/年齢 45～49 歳）
- 元々左耳が全く聞こえず右耳に補聴器をつけているが、それも段々聞こえづらくなっているみたいです。補聴器を作ろうとしたら3 年経たないと福祉では買えないと言われて医師の判断で作れたり電池代も補助があると助かります。（女性/年齢 90 歳以上）
- ストーマ等、人工膀胱に使用する器具等の価格を出来るだけ安価にしてほしい。（男性/年齢 80～84 歳）

施設整備・入所について 4 件

- 現在同居している母親以外家族や親戚がいないので母が事故の入院などで介助を頼めなくなった時が心配です。このような時ショートステイでも急に入れるようになったらよいのですが。（男性/年齢 50～54 歳）
- グループホームが見つからない。（女性/年齢 55～59 歳）

一人の時や緊急時の対応について 10 件

- 障害特性上、うつや不安、フラッシュバックがあり、精神の安定を保つために規則正しい生活が出来るよう、日々気を配りながら過ごしております。現在は両親と同居しており、食事や掃除、洗濯、日用品の買い物などのサポートもありますが、将来的に一人となった時、日常的な身の回りのことをしっかりこなせてゆけるか、不安があります。(男性/年齢 35～39 歳)
- 災害や地震の時どうしていいかわからない、エレベーターが止まった時不自由している。(女性/年齢 60～64 歳)
- 生活で介護が必要と思われる場面に遭遇した時に頼れる人が身の回りにいない。(男性/年齢 25～29 歳)

障害・病気・年齢・体調について 49 件

- パーキンソン病のため急に体が動かない時がある。日常生活の着替えや食事、トイレ、お風呂等全て 1.5 倍の時間がかかります。このため薬でなんとか対応していかなければならず、いずれ症状が今より悪化するため今は一人暮らしのため支えてくれる人も近くにいないので万が一倒れたり大病した時どうすればいいのか心配である。(男性/年齢 45～49 歳)
- 自分の障害はいつもは普通の人と変わらないものだが、前触れもなく意識がなくなり、5 分くらいで戻るのでその 5 分がわからなく、体が固まったようになる。それが仕事を辞める理由にもなった。(男性/年齢 60～64 歳)
- 聴覚障害にとってはちょっとした小さな音がわかりません。特に今はコロナが流行していてマスクを付けなければならなくなりました。補聴器をつけているとは言え唇の動きでも判断している時が多いのでとても不便です。聞き返して近づくと嫌な顔をされます。こちらの気持ちも理解してほしいです。万が一コロナにかかり入院しても医療従事者の言葉が聞こえるのか不安です。(女性/年齢 45～49 歳)
- テレワークでの体調の乱れ。(男性/年齢 30～34 歳)
- 他人と話をする際相手と異なる意味で解釈することからずれが生じる。自分が本当に伝えたいことを中々理解してもらえない。現在住んでいる地域に不安な要素が多く家にいてもあまり落ち着いて気を休めることが出来ない。(男性/年齢 25～29 歳)
- 不安が強い時が増えてきて、美容室や歯科等日常生活に必要なところに通えないことがある。また胃腸の病気もあり体力が落ちてきている。(女性/年齢 50～54 歳)

交流の機会・趣味について 4 件

- 体力はありよく歩いて街の景色を楽しむのが好きである。歩くことでイライラが解消出来る。ヘルパーさんとよく歩いたり出かけたりするが、時間数の上限があり、また事業所さんもヘルパーさんの確保が難しいようで意外とうまく使えず日中の夕方などの散歩は家族と出かけている。スポーツも楽しみたいので、障害者向けのスポーツの集まりに参加してみるが、内容が難しかったり集団となると今ひとつ慣れるのに時間がかかり溶け込めない。少し負担があってもいいので、個人的にストレッチややさしいスポーツを一緒にやってくれる人や機会があると嬉しい。(男性/年齢 25～29 歳)
- 通院する時以外外出をしない。自然な形で他の人とふれあう場があったらいいと思う。友達を作れたらいい。(男性/年齢 25～29 歳)

就労支援について 6 件

- ①就労支援が十分に受けられない。②中高年の精神障害者の居場所があまりない。③コロナ等の感染症、地震等の災害が起きるのではないかなどで不安な気持ちになり、対応してくれる障害者向けの電話相談がない。(男性/年齢 55～59 歳)

- 両親と同居していることもありサポートは受けられている方だと思います。すこやか福祉センターにてデイケアも利用させてもらっている。仕事をして働きたい気持ちはもちろんあるが、大学を卒業してからちゃんと働いたことがないので不安でしょうがない。(男性/年齢 30～34 歳)

他人の介護について 6 件

- 2 世帯同居でも親子関係が問題のある場合もある。必ずしも同居していても困ることがある。現在の行政は世帯で問題を生じていない前提で行われている。方針の変更が必要と思う。(男性/年齢 75～79 歳)
- 老々介護で睡眠不足で困っている。自分の時間が取れない。(女性/年齢 85～89 歳)

情報提供について 4 件

- 作業所や支援学校に通っていると色々情報が自然に入ったが、一般就労したら区内の新しく出来た障害者の利用出来る施設が出来ていたことを知りませんでした。障害者のための情報を知る方法がわかりません。一般就労したら孤立している気がします。(男性/年齢 30～34 歳)

生活面全般について 32 件

- パニックで近隣への迷惑を心配しています。防音等の補助をお願いしたいです。(男性/年齢 25～29 歳)
- 引っ越したいけど保証人をお願いする人がいない、障害者の相談にも乗ってほしいです。(男性/年齢 45～49 歳)
- コロナの影響で通所が閉鎖になったり、移動支援など介護支援も縮小すると介護者が一人の場合常時一人になる時間も病院も美容院に行くのも預かり先がなくなると困ることがありました。買い物も置いて行けず連れて行くのも持てない、入りづらい等支障があるので、良い方法を模索していただけだったらいなと思いました。(女性/年齢 30～34 歳)
- これから一人暮らしをする予定ですが、以前一人暮らしで失敗したことがありとても不安です。また入居先をどのように見つけたらいいのかわからない。(女性/年齢 30～34 歳)
- ごみ出し、家の中の片付けが出来ない。外出した時転倒しやすい、人との交流が減っている。糖尿病なので新型コロナがこわい。(男性/年齢 65～69 歳)

環境整備について 24 件

- 区役所かすこやか福祉センターに出向かなくても様々なサービスを利用出来るように環境を整えてほしい。オンライン（スカイプか ZOOM）で相談出来るとよい。簡単なやり取りは E メールで相談したい。郵送や FAX は時代遅れ。(男性/年齢 35～39 歳)
- 階段の上り下りが困難気味で、エレベーター、エスカレーターがないところは行きたくないです。特に自転車置き場が地下の所は行くことは出来ず、その施設を利用出来ないこともあります。歩くのが疲れやすいので、自転車が楽な移動手段です。こういう方は多いと思うのに、置き場については障害者向けではないことも多いようです。(女性/年齢 65～69 歳)
- 音声情報が聞きづらい障害があります。区の有線放送や広報車、駅のアナウンス等安全に関わる情報は視覚化をお願いします。電話が出来ないので、問い合わせ先は電話番号だけでなく FAX 番号やメールの併記をお願いします。(男性/年齢 55～59 歳)
- 車イスを使用していると道路の悪路や段差等など苦勞する。レストランなどで食事をしたいと思っても階段や段差等でほとんど利用出来ない。(男性/年齢 60～64 歳)

将来・親亡き後への不安

7 件

- 今は自分一人で家に住んでいるので話相手がいなくてさみしい時が多い。これから年をとっていくことを考えると不安になる。(男性/年齢 50～54 歳)
- 母がいる間はいいのですが、母亡き後がとても心配です。今のところ困っていませんが、老後がとても不安です。(男性/年齢 50～54 歳)
- 親の体調、持病があるので先のことを考えると心配。コロナの影響で前のように通所出来なくなったらどうしようと不安になる。(女性/年齢 25～29 歳)

その他

42 件

- グループホームの生活の中でのことは色々あるけど仲良くするけど私の心の中の事は言えないことがあります。それが今ずっと心の中にあります。話すことが出来ません。(女性/年齢 60～64 歳)
- 今日のように自宅待機が長引く場合、身長 182cm 体重 83kg の男性がずっと家で過ごすのは無理があると思います。現在母親と 2 人週 2 回程電車を利用して散歩に出かけています。ヘルパーさんもお休みで作業所もお休みはとても困ります。まず買い物に行けない。一人で留守番が出来ない。(男性/年齢 30～34 歳)
- 一生懸命仕事をしているがミスが出るとショックで悩んでしまう。(女性/年齢 35～39 歳)
- コロナで行くところがない。ストレスがたまる。(女性/年齢 45～49 歳)

7.2. 健康福祉行政全体への意見・要望

（全員の方に）

問 28. 健康福祉行政に関することや今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政に関することや今回の調査について、要望や意見を自由に記入していただいたところ、208 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

健康福祉の相談・サービスについて 30 件

- 補聴器の助成金をもっと増やしてほしい。聴覚障害者にとって補聴器は必要不可欠。しかも高額です。一度購入すれば一生ものではなく、5～6年に一度買い換えが必要です。この費用が生活にくい込みます。よろしく願いいたします。（女性/年齢 70～74 歳）
- 就職についてハローワーク等の支援を充実してほしい。（男性/年齢 45～49 歳）
- 福祉作業所の通所移動支援を認めてほしい。現在余暇活動の移動支援しか利用出来ないのですごく不便。（女性/年齢 15～19 歳）

区や制度への要望について 38 件

- 今回の調査も含めて現状を中野区が把握して下さり、将来設計として我々高齢者の将来への不安に対して、施設の充実を含めより具体的な対策を考えて頂くことを切に希望致します。（男性/年齢 70～74 歳）
- 障害者当事者の声をよく聞いて、施策を進めてほしい。区長はタウンミーティングをよく開催しているが、年に1、2回は障害当事者や家族、ボランティアの人々との対話の機会を設けてほしい。（男性/年齢 55～59 歳）
- 以前は毎月2回いずみ教室があつて余暇の過ごし方が充実していた。同じようなことをお願いしたい。（女性/年齢 70～74 歳）
- 障害者手帳のおかげで治療に必要なサポートをいただき精神的にも経済的にも大変救われております。公園や美術館等の入場料軽減により外出する機会も増え、心の豊かさもちょうだいしております。将来の障害者の方々のこと、特に若者のことを考えると、どの障害にあってもパソコンやモバイルの知識やツールを持つことは必要不可欠であります。障害と同時にトレーニングを行うために行政からの働きかけを促進していただきたいと思います。（女性/年齢 70～74 歳）
- 医療的ケア者とその家族が地域で安心して暮らせるよう、生涯を通じてトータルで支えるシステムがあると良いと思います。管理とフォローが大切かと。障害福祉課とすこやか福祉センターが相談窓口なのかと思いますが、どちらに相談したらいいのか迷うことがあります。相談内容によってどちらかわかるようなプリントや冊子を配っていただくと有難いです。（男性/年齢 35～39 歳）
- 今回意見を伝えるために良い機会を与えられたので良かったと思います。一方的な調査であれば意味がないと思います。行政、当事者、家族の良くしたい、良くなりたいたいという気持ちが繋がるために直接の意見交換が推進への近道になるのではないのでしょうか。お互いに年齢が若いので障害と介護に対する不安は多くあります。家族へのサポートがあると嬉しいです。家族同士の繋がりで見え交換出来る機会があるといいと思います。（女性/年齢 60～64 歳）

障害者への理解について 9 件

- 車イスの人はすぐに障害者だとわかりますが、耳が聞こえなくサイレンさえも聞こえないので外を歩くとき後ろを注意しながら歩いています。他人が私に気づかなければ躓くわけです。年寄りだからもたもたしていると思うのでしょうか。耳が聞こえないのでベル音が聞こえなくて困ることが

多々あります。(女性/年齢 80～84 歳)

- 行政の力がやっと福祉の方向に少しでも転換して良い結果になることを願います。まだ偏見や差別などがあると思います。(男性/年齢 65～69 歳)

情報提供・保障について 9 件

- 災害が発生して避難所に行った時文字による情報保障があるか不安。(女性/年齢 30～34 歳)

施設整備について 12 件

- 健康福祉施設（入浴、ショートステイ）のイス、ベッド類はどこに行っても障害者向けではない。長時間（30 分ぐらい）使用していると疲れる。古くても疲れないものがほしい。(女性/年齢 50～54 歳)
- デイサービスの施設にすべてカラオケを設置してほしい。設置してある所でも機器が古い場合が多いので検討していただきたい。(女性/年齢 75～79 歳)
- 私のような病気を抱えたものは一般のスポーツ、ちょっとハードな体操、地域体操に知識と経験を積んだインストラクターがいる体を動かす場がもっとほしいです。(女性/年齢 70～74 歳)

今後の不安について 6 件

- 年齢がいつおり今後も加齢していく。将来の事が気になる。これから相談していくことが必要になるが誰に相談すればいいのか教えてほしい。(男性/年齢 75～79 歳)
- 今のところは自立生活がなんとか出来ているが、高齢の為これからどのようになっていくのか心配です。少しでも他の人の手を借りずに生活が出来るよう日々気をつけながら一つ一つ行動しているのが現状です。今の段階ではこれから先の具体的なことがよくわかりません。(女性/年齢 85～89 歳)

本調査について 43 件

- かなり工夫して質問事項を考えた様子がうかがえますが、知的障害者にはどう答えていいか思案の質問もありました。常に介護を必要としている状態で答えるのは難しいゆえ問の理解力がわかったら許して下さい。何よりも望むことは、災害時の障害児、障害者の避難場所の事です。宜しくお願いします。本人が3歳から中野区にいますが、このようなアンケートををいただけて障害者施策を考えていただける時代とは言え有難いことです。障害者も高齢になり親はもっと高齢で特に重度障害、重複障害者の老後の問題等取り組んでいただきたいと思います。(男性/年齢 50～54 歳)
- コロナウイルスが出ている時期なので、普段の趣味、買い物での外出が少ないのでいつもと違った生活だと思います。(女性/年齢 80～84 歳)
- 調査の主旨は読みましたが、本調査がどのように区政に反映されるか具体的な過去の例や活用法について、もう少し掘り下げて書いてほしいと思いました。(女性/年齢 30～34 歳)
- ネットを使った調査にも対応してほしい。(女性/年齢 90 歳以上)
- 障害者を一括りにしないほしい。手帳の種類も違うしそれぞれの障害によって生きていくための困難さ、サービスのニーズも全く違います。もう少しきめ細かいアンケートにしないと障害者が何を求めているのかわかりづらいと思います。よろしくお願いします。(男性/年齢 70～74 歳)

その他 61 件

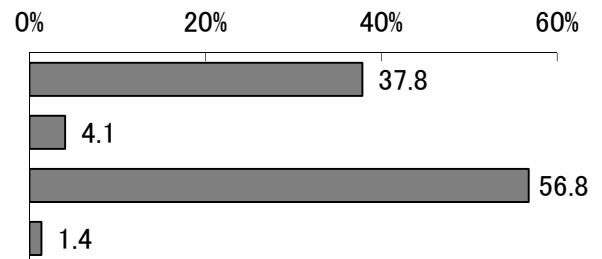
- より良い福祉サービスの向上に努めて頂けたら幸いです。(男性/年齢 45～49 歳)
- 健康福祉行政のさらなる改善と進化にご尽力下さいますようお願い申し上げます。(男性/年齢 5～9 歳)

施設入所者調査

1. 回答者の属性

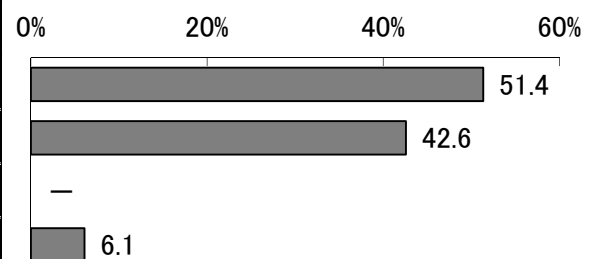
1.1. アンケートの回答者

	基数	構成比(%)
本人(代筆を含む)	56	37.8
家族	6	4.1
その他の人	84	56.8
無回答	2	1.4
全 体	148	100.0



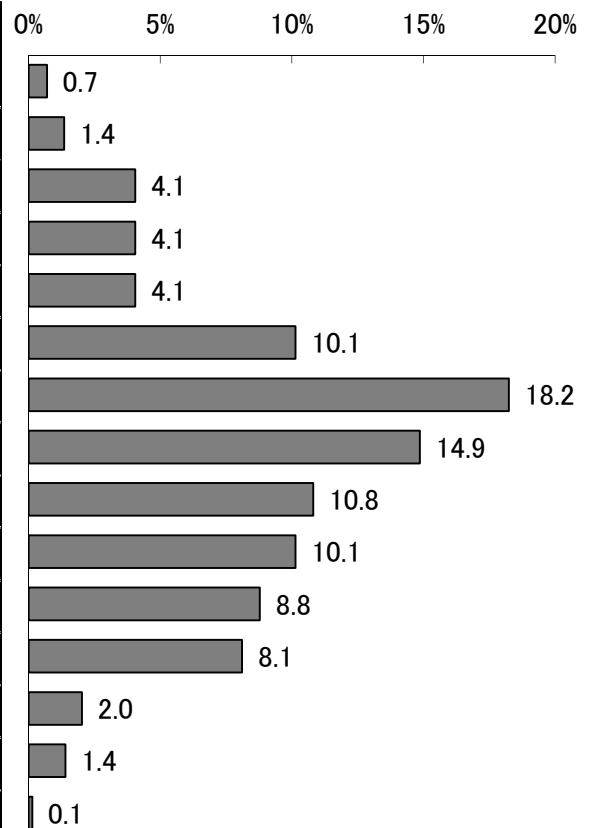
1.2. 性別

	基数	構成比(%)
男性	76	51.4
女性	63	42.6
その他	—	—
無回答	9	6.1
全 体	148	100.0



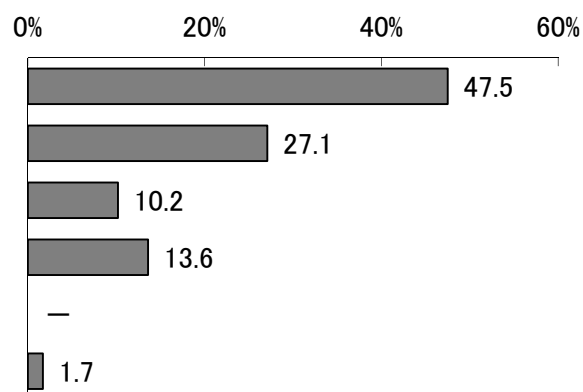
1.3. 年齢

	基数	構成比(%)
20歳未満	1	0.7
20～24歳	2	1.4
25～29歳	6	4.1
30～34歳	6	4.1
35～39歳	6	4.1
40～44歳	15	10.1
45～49歳	27	18.2
50～54歳	22	14.9
55～59歳	16	10.8
60～64歳	15	10.1
65～69歳	13	8.8
70～74歳	12	8.1
75～79歳	3	2.0
80歳以上	2	1.4
無回答	2	0.1
全 体	148	100.0



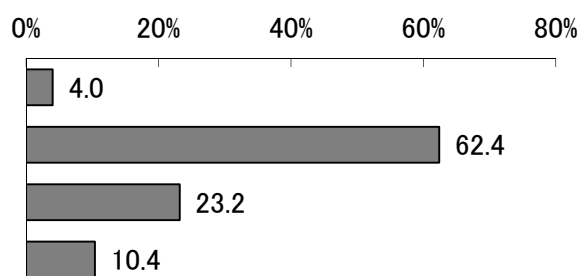
1. 4. 身体障害者手帳の等級

	基数	構成比(%)
1級	28	47.5
2級	16	27.1
3級	6	10.2
4級	8	13.6
5級	—	—
6級	1	1.7
全 体	59	100.0



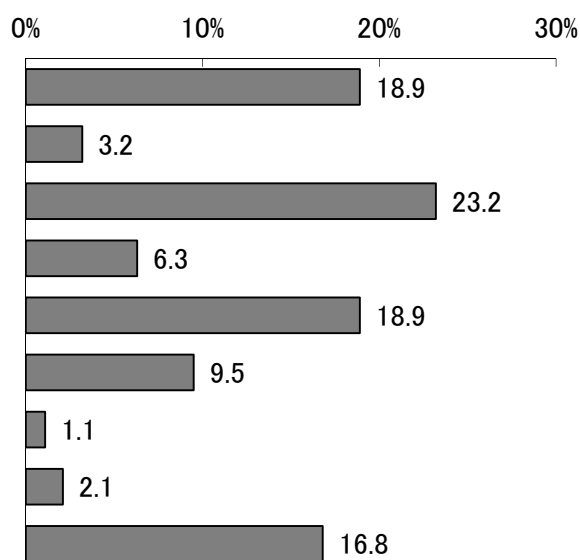
1. 5. 愛の手帳の度数

	基数	構成比(%)
1度	5	4.0
2度	78	62.4
3度	29	23.2
4度	13	10.4
全 体	125	100.0

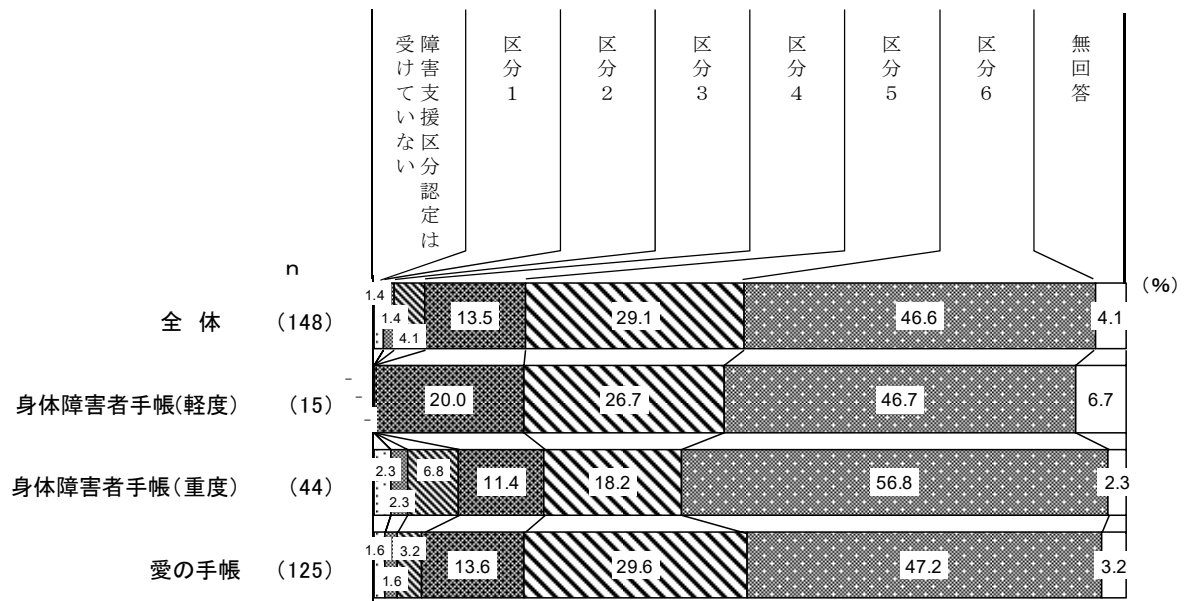


1. 6. 身体障害者手帳に記載された障害名（複数回答）

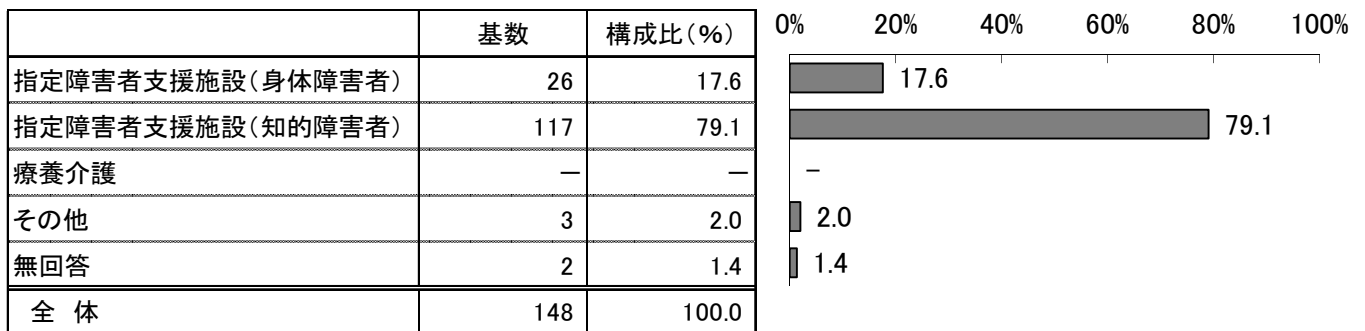
	基数	構成比(%)
上肢機能障害	18	18.9
聴覚障害・平衡機能障害	3	3.2
下肢機能障害	22	23.2
音声・言語・そしゃく機能障害	6	6.3
体幹機能障害	18	18.9
肢体不自由(脳性まひ)	9	9.5
内部機能障害	1	1.1
視覚障害	2	2.1
その他	16	16.8
全 体	95	100.0



1. 7. 障害支援区分



1. 8. 入所施設の種類の



2. 入所について

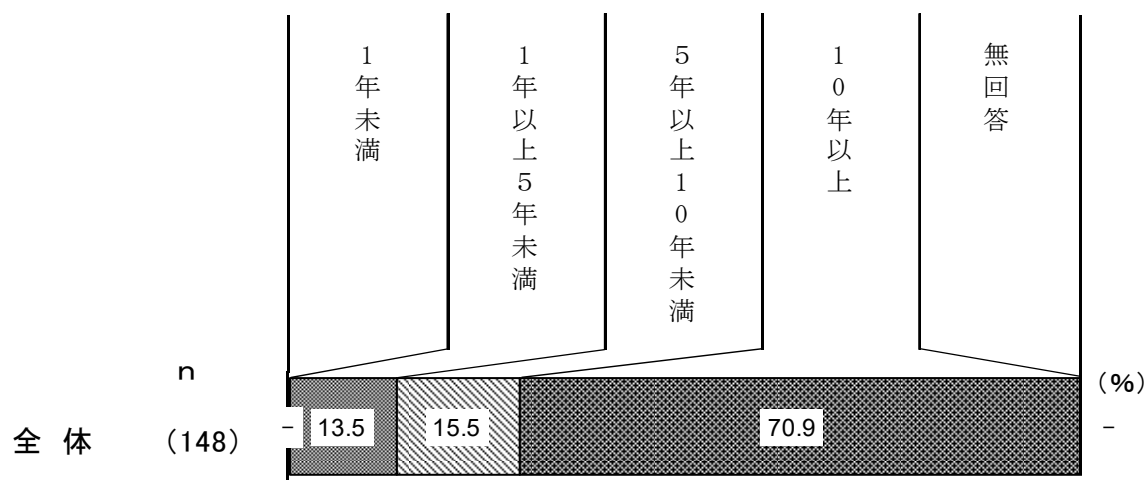
2.1. 入所年数

◆入所年数は「10 年以上」が約 7 割

(全員の方に)

問 6. 現在の施設に入所して何年になりますか。(○は 1 つ)

図 2-1 入所年数



入所年数は「10 年以上」が約 7 割と最も高くなっている。

2.2. 入所理由

◆施設への入所理由は「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」が最も高い

（全員の方に）

問7. 現在の施設に入所することになった理由はなんですか。

図 2-2 入所理由

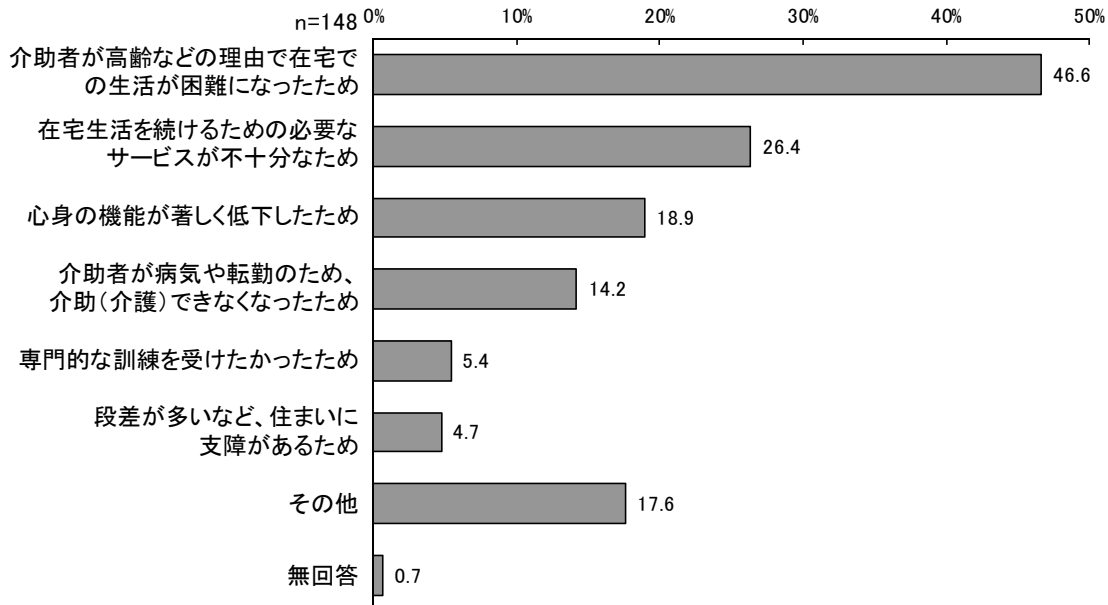
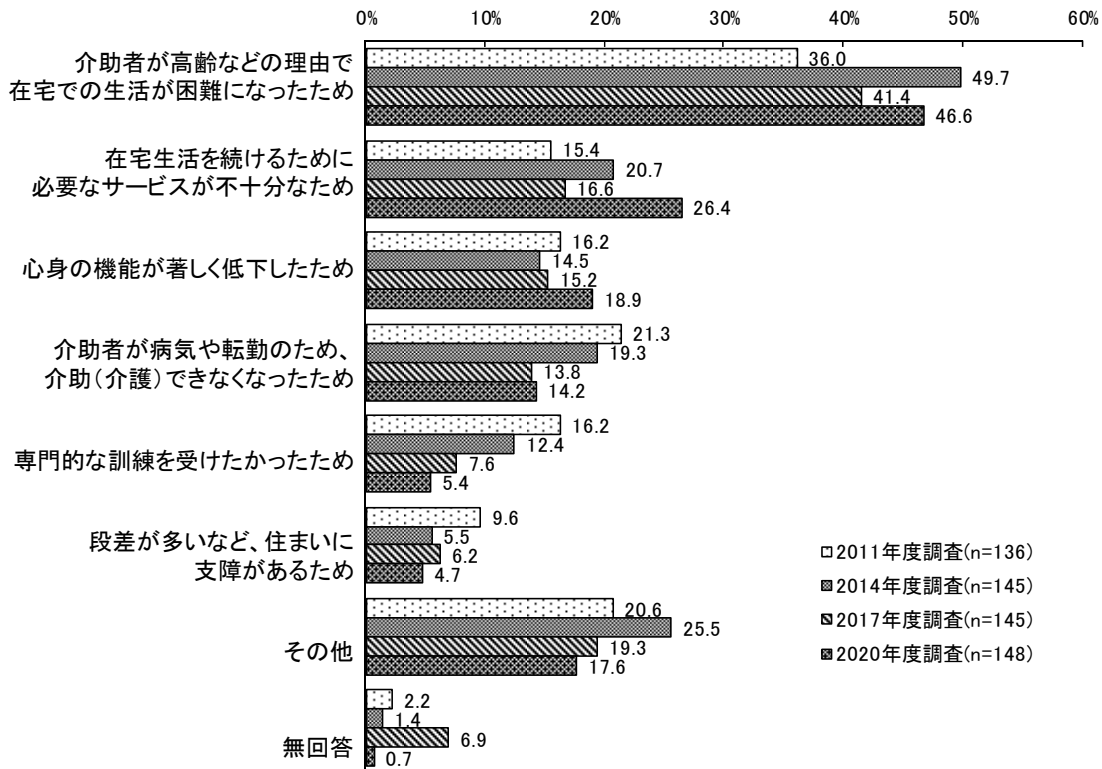


図 2-3 【経年比較】入所理由



現在の施設に入所することになった理由は「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」が最も高く、次いで「在宅生活を続けるために必要なサービスが不十分なため」「心身の機能が著しく低下したため」「介助者が病気や転勤のため、介助（介護）できなくなったため」となっている。

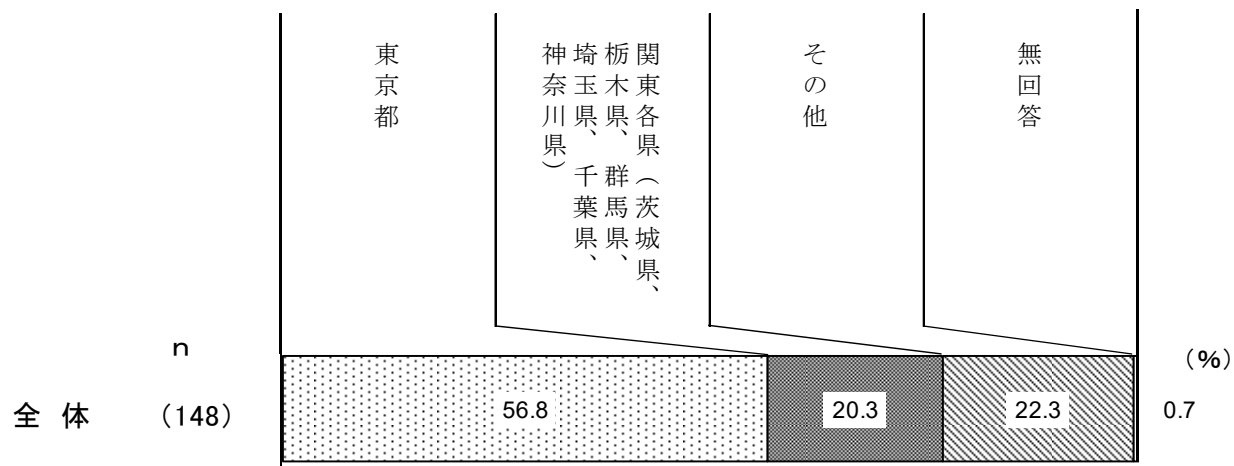
2.3. 施設の場所

◆施設の場所は、「東京都」が最も高い

（全員の方に）

問 8. 施設のある場所は次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

図 2-4 施設のある場所



現在の施設の場所は「東京都」が最も高くなっている。

3. 今後の生活について

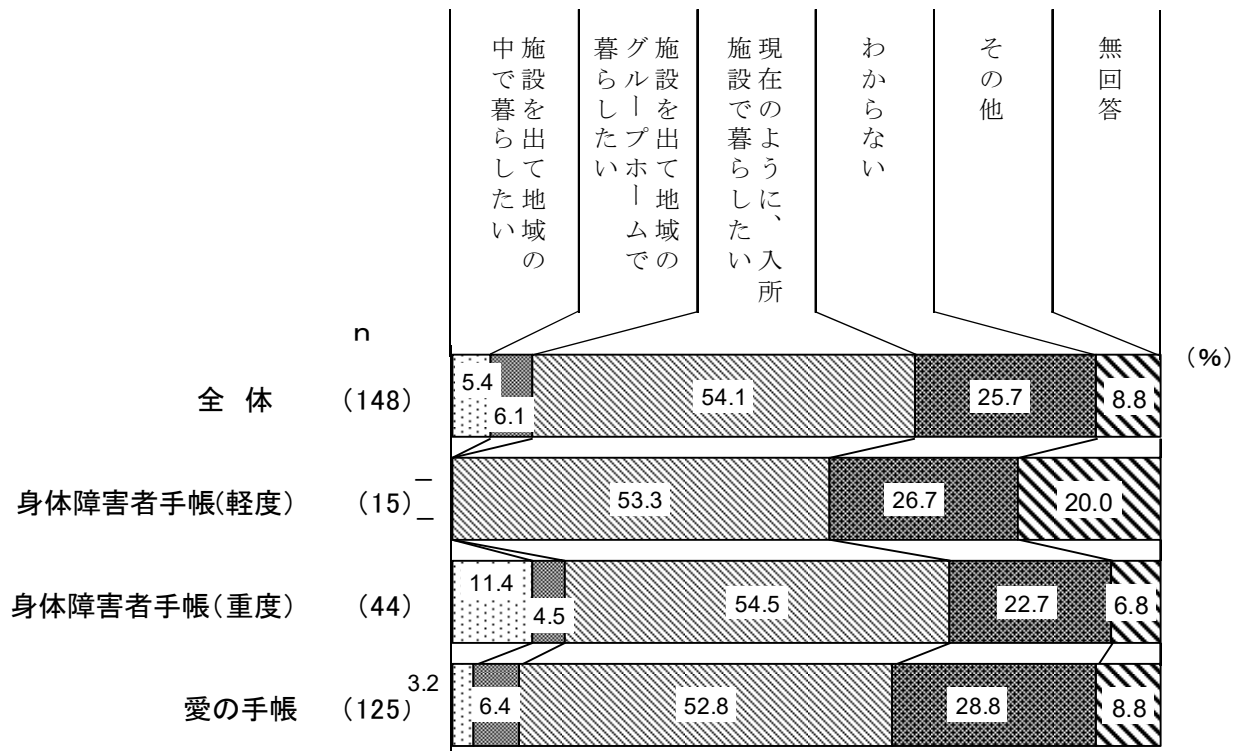
3.1. 生活したい場所

◆今後、生活したい場所は「現在のように、入所施設で暮らしたい」が5割台半ば

(全員の方に)

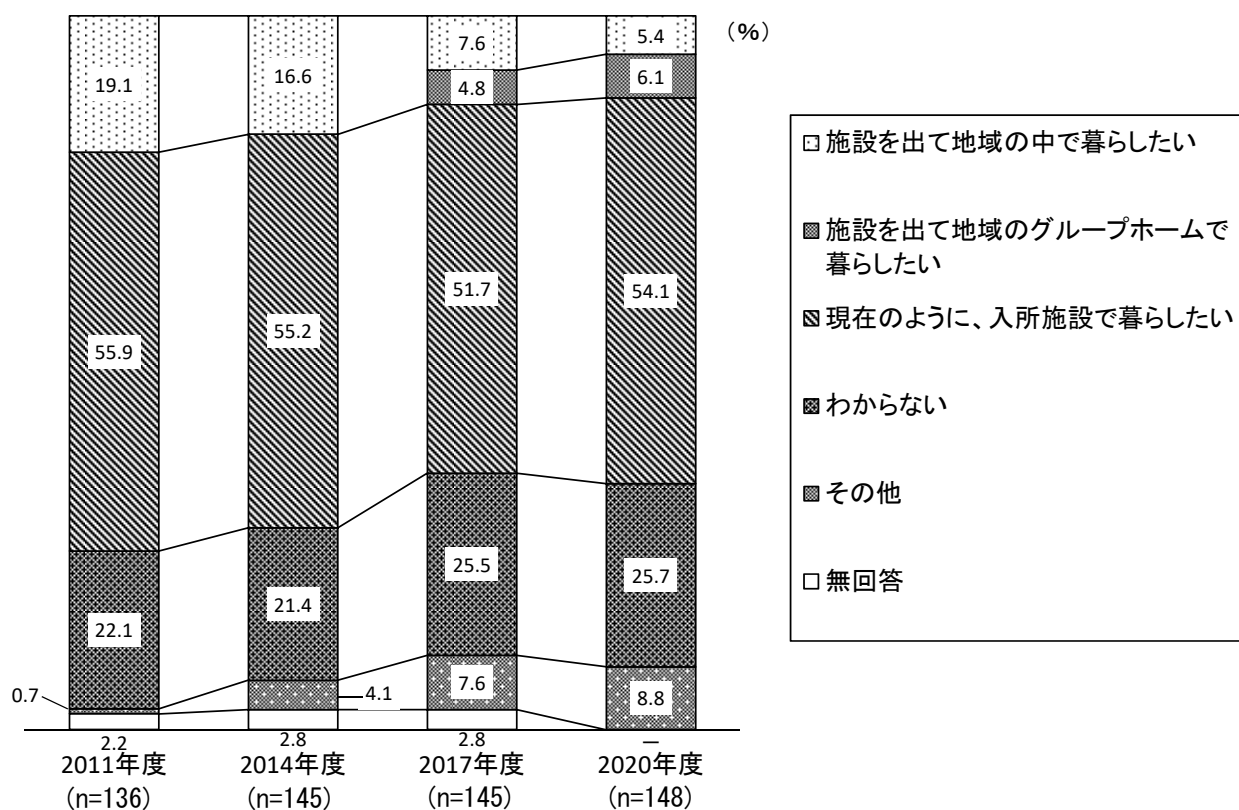
問9. 今後、どこで生活したいですか。(○は1つ)

図 3-1 【所持手帳別】生活したい場所



今後、生活したい場所は、「現在のように、入所施設で暮らしたい」が高くなっている。

図 3-2 【経年比較】生活したい場所



※2011 年度・2014 年度は「施設を出て地域のグループホームで暮らしたい」の選択肢はなし。

今後生活したい場所を経年比較でみると、「現在のように、入所施設で暮らしたい」が増加しており、2020 年度は 2017 年度と比べ 2.4 ポイント増加している。また、「施設を出て地域のグループホームで暮らしたい」は 1.3 ポイント増加している。

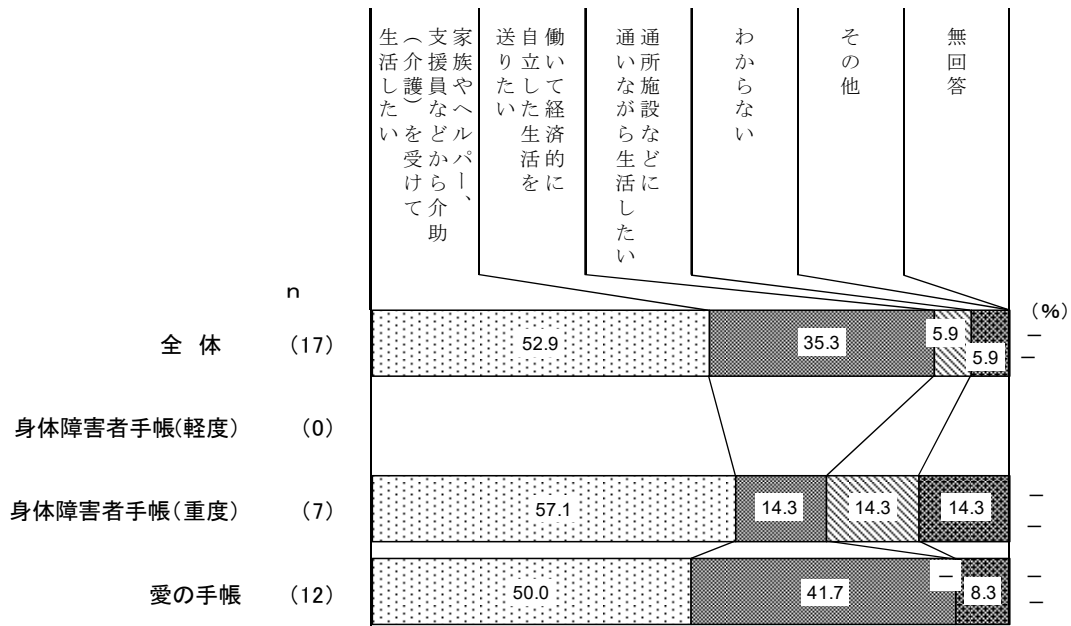
3. 2. 施設退所後の生活

◆施設退所後の生活は「家族やヘルパー、支援員などから介助（介護）を受けて生活したい」が5割台前半

（問9で「1」または「2」に○をつけた方に）

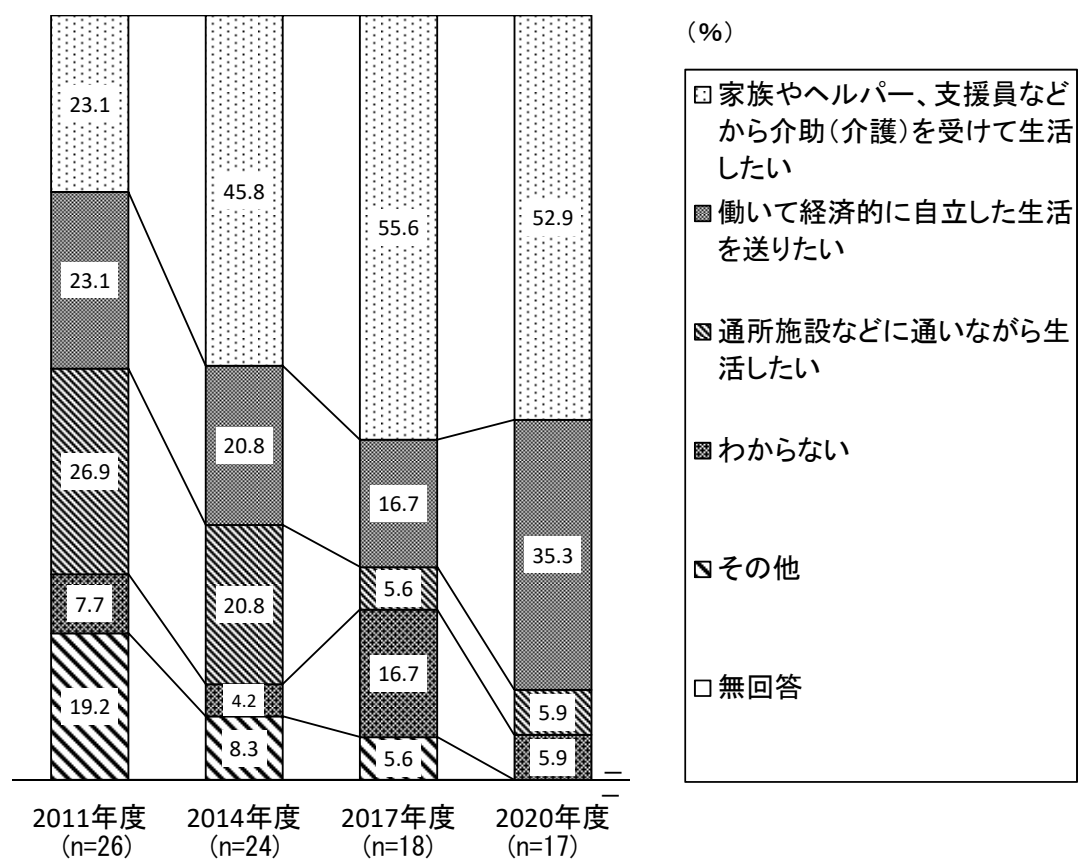
問9-1. 仮に施設を退所するとしたら、どのような生活を送りたいですか。（○は1つ）

図 3-3 【所持手帳別】施設退所後の生活



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

図 3-4 【経年比較】施設退所後の生活



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

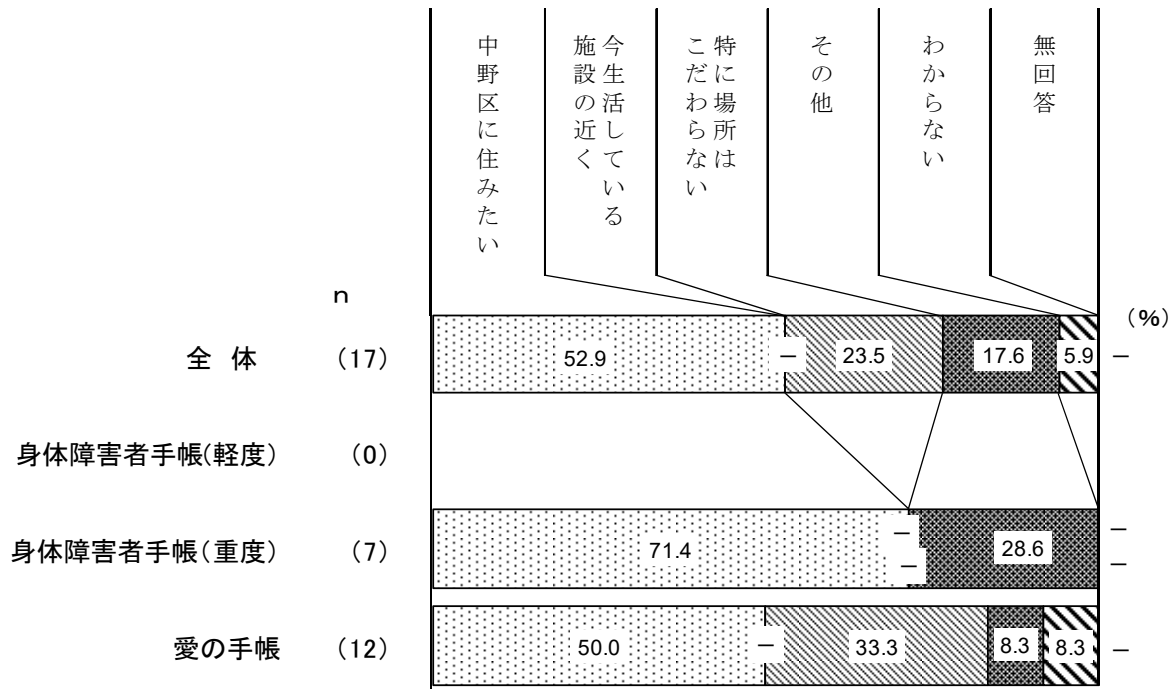
3.2.1. 施設退所後に住みたい場所

◆施設退所後は「中野区に住みたい」が5割台前半

(問9で「1」または「2」に○をつけた方に)

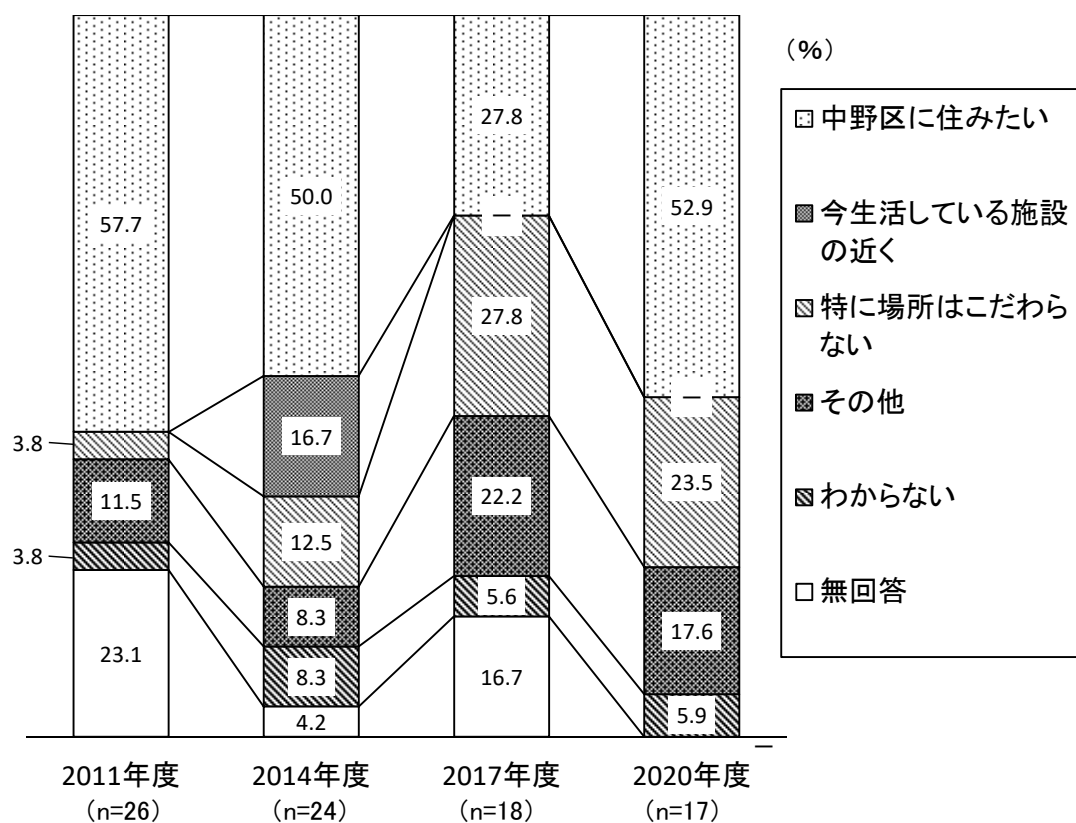
問9-2. 施設を退所したら、どこに住みたいです。(○は1つ)

図3-5 【所持手帳別】施設退所後にどこに住みたいか



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

図 3-6 【経年比較】施設退所後に住みたい場所



※2011年度は「今生活している施設の近く」の選択肢はなし

基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

4. 自由回答

4.1. 健康福祉行政全体への意見・要望

（全員の方に）

問 10. 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政全体や今回の調査について、要望や意見を自由に記入していただいたところ、21 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

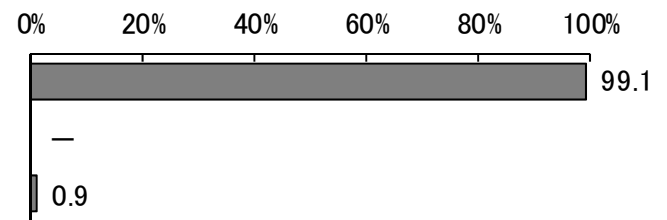
- 今回のご本人は 79 歳、知的障害サービスでここまでこれましたが、高齢対応がますます手厚くなって行きます。高齢サービスとの併用など、今後のテーマになっていきます。いつまでも別々で考えていっては無理が生じていきますし、実際にますます増えるケースです。ご検討下さい。よろしくお願い致します。それから今回のコロナ騒動のような際、施設は大いなるクラスターのリスクがあります。行政のほうからも保健所等へ PCR 検査、一般の方よりハードル低く施設の職員は受けられますよう、働きかけをお願いしたいです。（女性/年齢 75～79 歳）
- 年齢が 57 歳となり、将来の住みかについて、不安がある。このまま継続して、入所していただけるか、老人ホームへ移らないといけないのか、とても不安に思う。慣れた所でこのまま住んでいきたい。（男性/年齢 55～59 歳）
- 親元に近い、中野区近辺の施設で生活できるようになればよいと思います。（男性/年齢 30～34 歳）
- ながく暮らしているので、かわりたくありません。なれたところがいいです。（女性/年齢 65～69 歳）
- 自立のため作業所を増やしてほしい。（男性/年齢 45～49 歳）
- 入所者へもタクシー券を出してほしい。入所者もガイドヘルパーを使いたい。年に 1 度は担当の福祉課職員が来てほしい。（男性/年齢 30～34 歳）

発達支援等調査

1. 回答者の属性

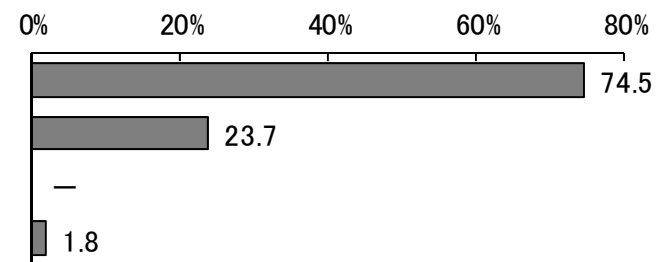
1.1. アンケートの回答者

	基数	構成比(%)
家族	334	99.1
その他の人	—	—
無回答	3	0.9
全 体	337	100.0



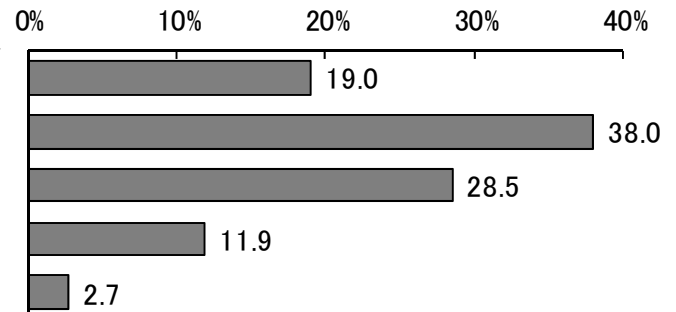
1.2. 性別

	基数	構成比(%)
男性	251	74.5
女性	80	23.7
その他	—	—
無回答	6	1.8
全 体	337	100.0



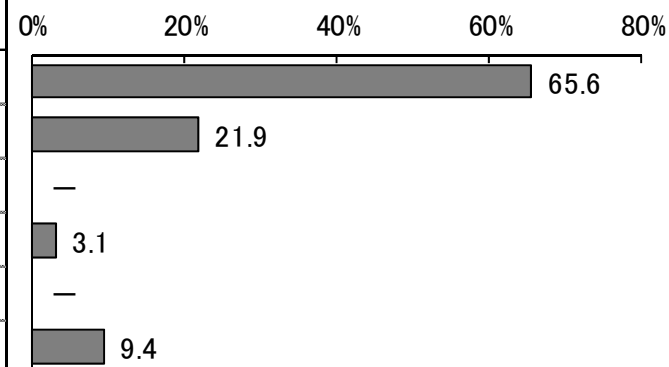
1.3. 年齢

	基数	構成比(%)
0～5歳	64	19.0
6～9歳	128	38.0
10～14歳	96	28.5
15～18歳	40	11.9
無回答	9	2.7
全 体	337	100.0



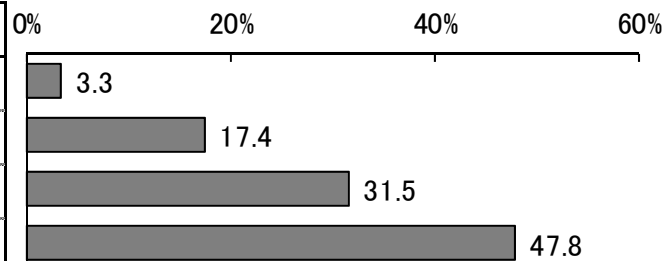
1. 4. 身体障害者手帳の等級

	基数	構成比(%)
1級	21	65.6
2級	7	21.9
3級	—	—
4級	1	3.1
5級	—	—
6級	3	9.4
全 体	32	100.0



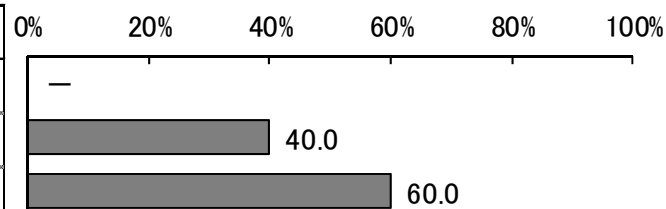
1. 5. 愛の手帳の度数

	基数	構成比(%)
1度	3	3.3
2度	16	17.4
3度	29	31.5
4度	44	47.8
全 体	92	100.0

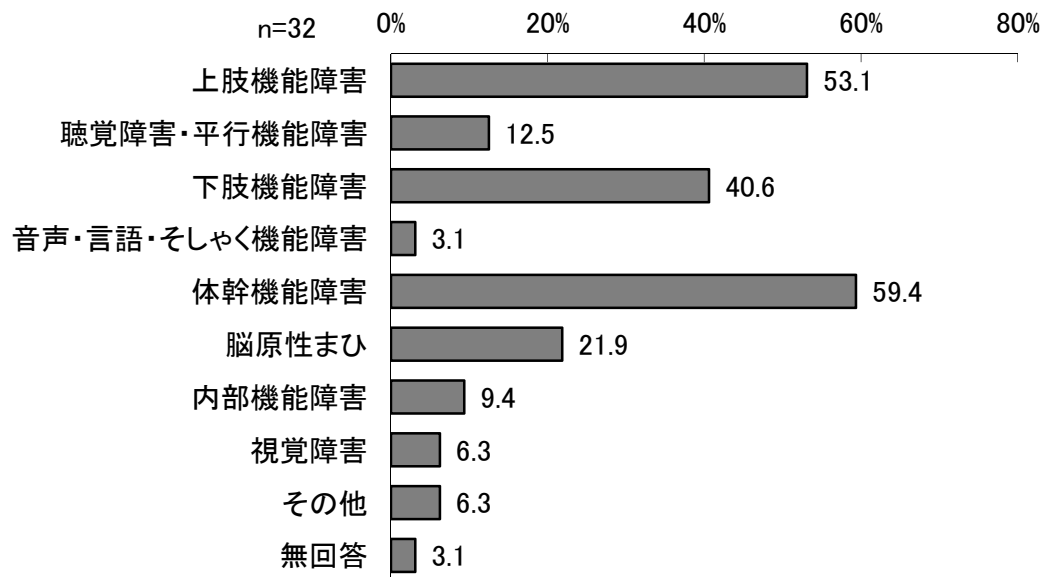


1. 6. 精神保健福祉手帳の等級

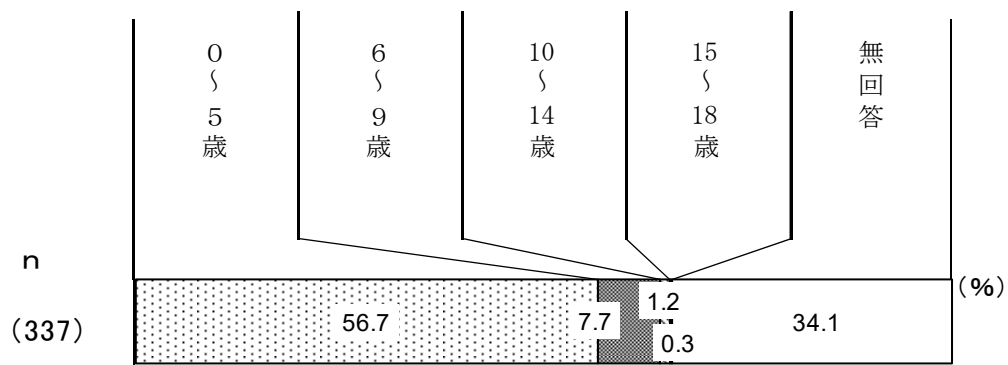
	基数	構成比(%)
1級	—	—
2級	2	40.0
3級	3	60.0
全 体	5	100.0



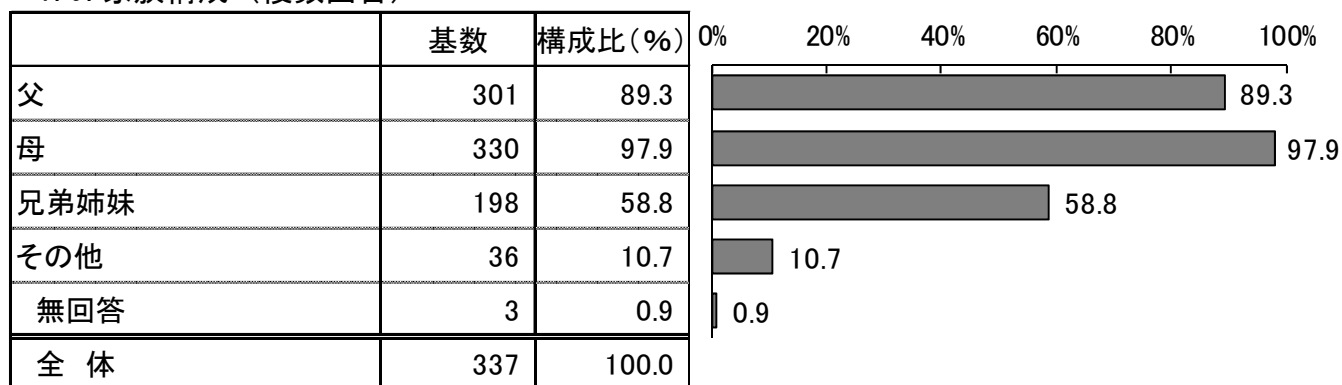
1.7. 身体障害者手帳に記載された障害名（複数回答）



1.8. 診断に関することで気がついた年齢（把握時点が複数ある場合は直近のもの）



1. 9. 家族構成（複数回答）



1. 10. 所持手帳別年齢

上段：(人) 下段：(%)

	全 体	0 ～ 5 歳	6 ～ 9 歳	10 ～ 14 歳	15 ～ 18 歳	無 回 答
全体	337 100.0	64 19.0	128 38.0	96 28.5	40 11.9	9 2.7
身体障害者手帳(軽度)	4 100.0	—	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
身体障害者手帳(重度)	28 100.0	6 21.4	7 25.0	9 32.1	5 17.9	1 3.6
愛の手帳	92 100.0	9 9.8	30 32.6	27 29.3	24 26.1	2 2.2
精神障害者保健福祉手帳	5 100.0	—	—	2 40.0	3 60.0	—

2. 医療的ケア等について

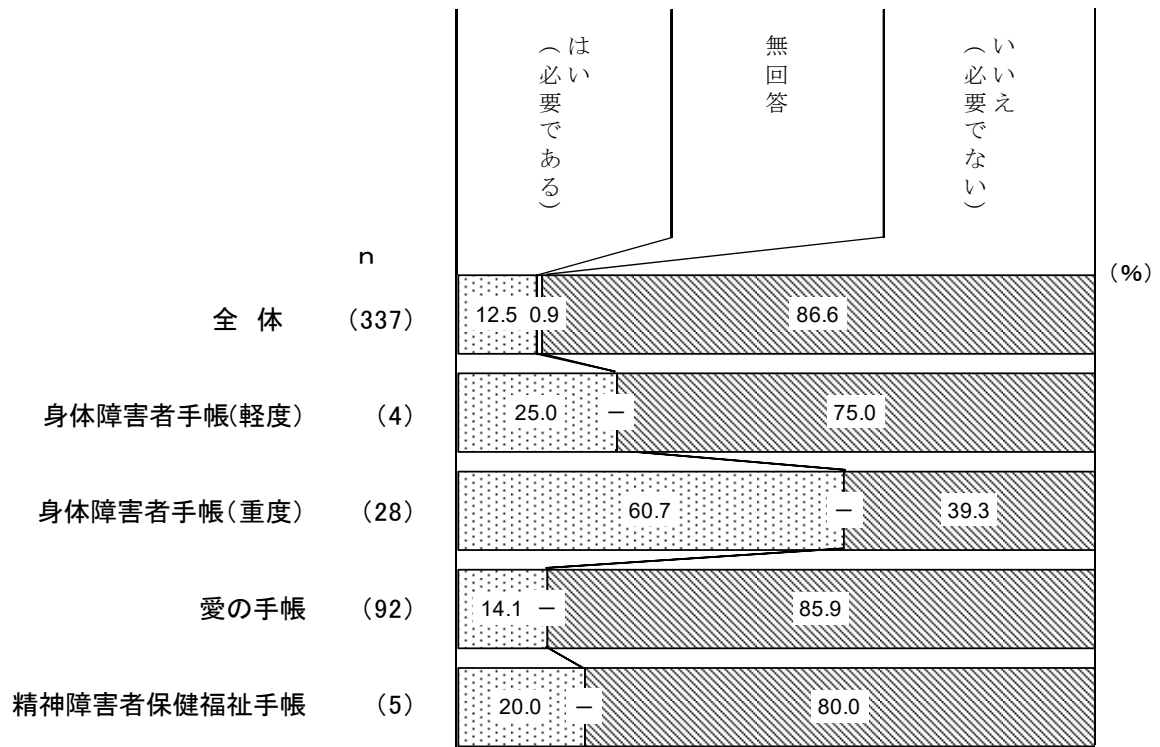
2.1. 医療的ケアの必要性

◆医療的ケアが「必要である」方は身体障害者手帳（重度）所持者で高い

（全員の方に）

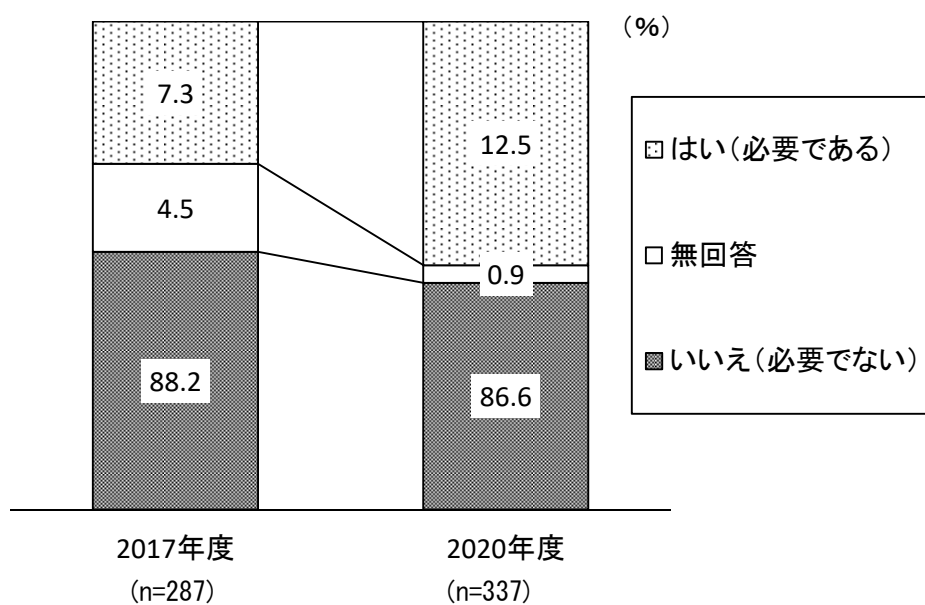
問 5. お子さん（あて名の方ご本人）は日常的に医療的ケアが必要ですか。（○は1つ）

図 2-1 【所持手帳別】医療的ケアの必要性



医療的ケアの必要性は身体障害者手帳所持者で「はい（必要である）」が高くなっている。

図 2-2 【経年比較】医療的ケアの必要性



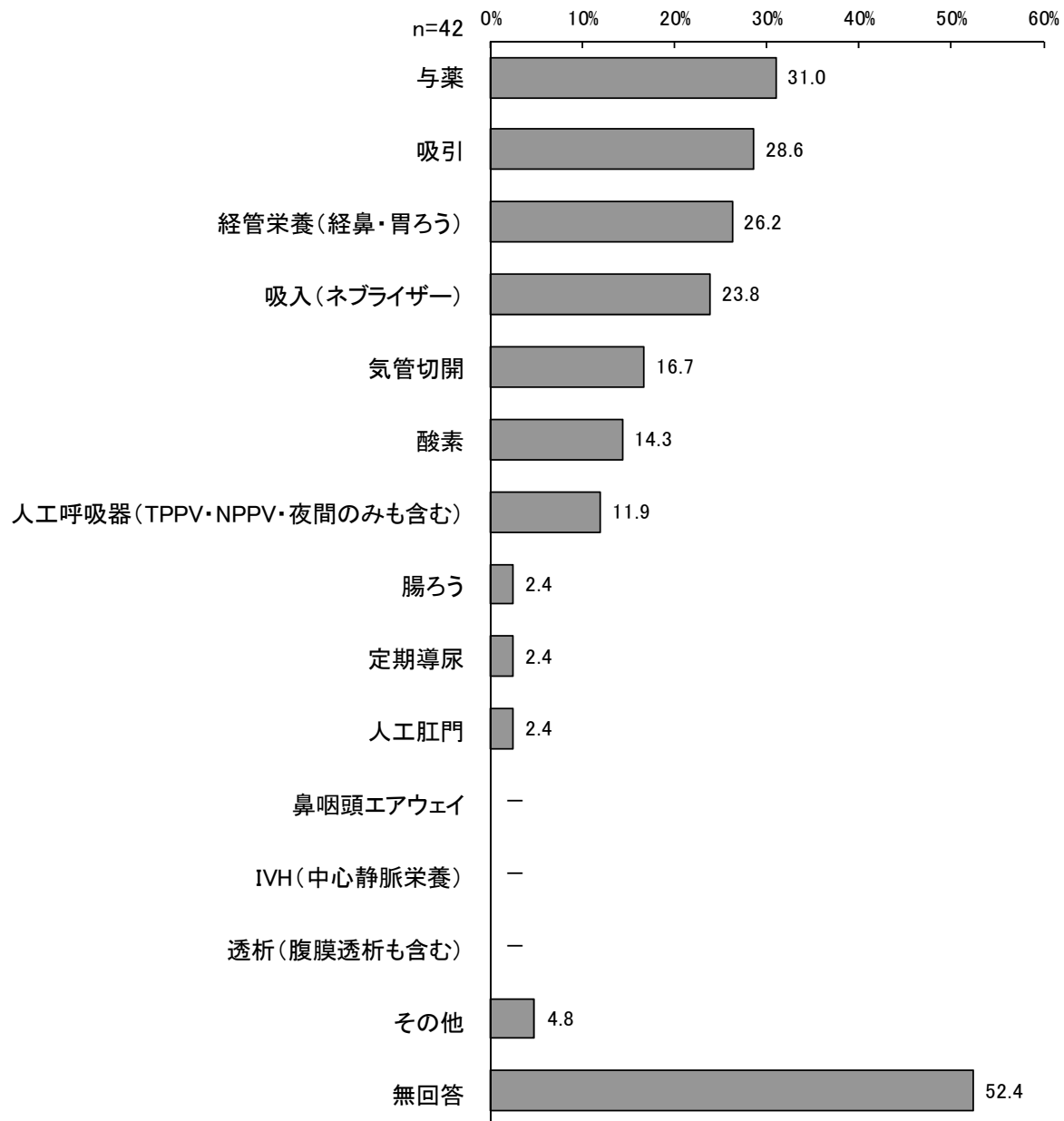
2.1.1. 医療的ケアの内容

◆日常的に必要な医療的ケアは「与薬」が最も高い

(問5で「1. はい」とお答えの方に)

問5-1. 日常的にどのような医療的ケアが必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

図 2-3 医療的ケアの内容



日常的に必要な医療的ケアは「与薬」が最も高く、次いで「吸引」「経管栄養(経鼻・胃ろう)」「吸入(ネブライザー)」となっている。

図 2-4【経年比較】上位 5 位 医療的ケアの内容

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=42	与薬 31.0	吸引 28.6	経管栄養(経 鼻・胃ろう) 26.2	吸入(ネブライ ザー) 23.8	気管切開 16.7
2017年度 n=21	与薬 57.1	吸入(ネブライ ザー) 23.8	酸素 19.0	人工呼吸(TPPV・NPPV・夜間の みも含む)/吸引/経管栄養(経 鼻・胃ろう) 14.3	

基数が少ないため、経年比較は参考までの掲載とする。

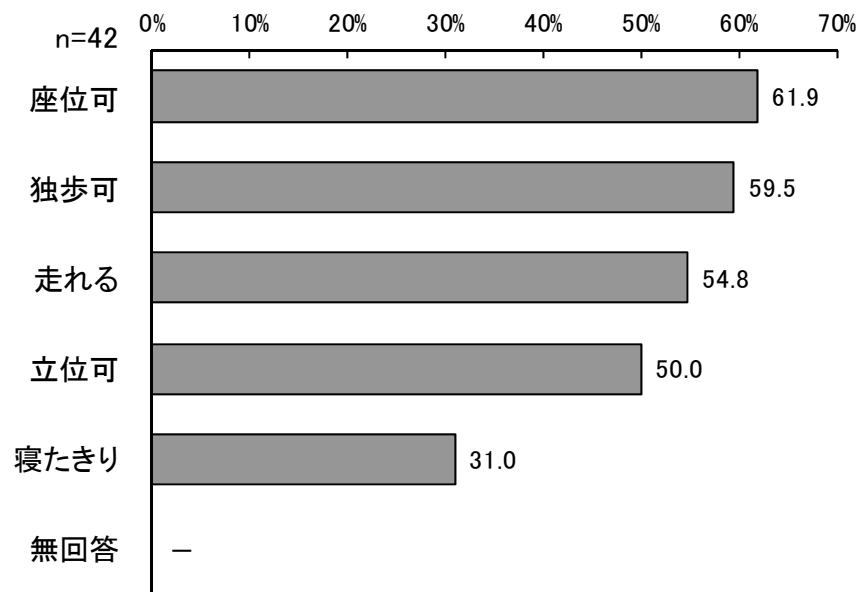
2.1.2. 身体能力について

◆身体能力について「座位可」が最も高い

(問5で「1. はい」とお答えの方に)

問5-2. 身体能力についてお答えください。(あてはるものすべてに○)

図 2-5 身体能力について



身体能力は「座位可」が最も高く、次いで「独歩可」「走れる」「立位可」となっている。

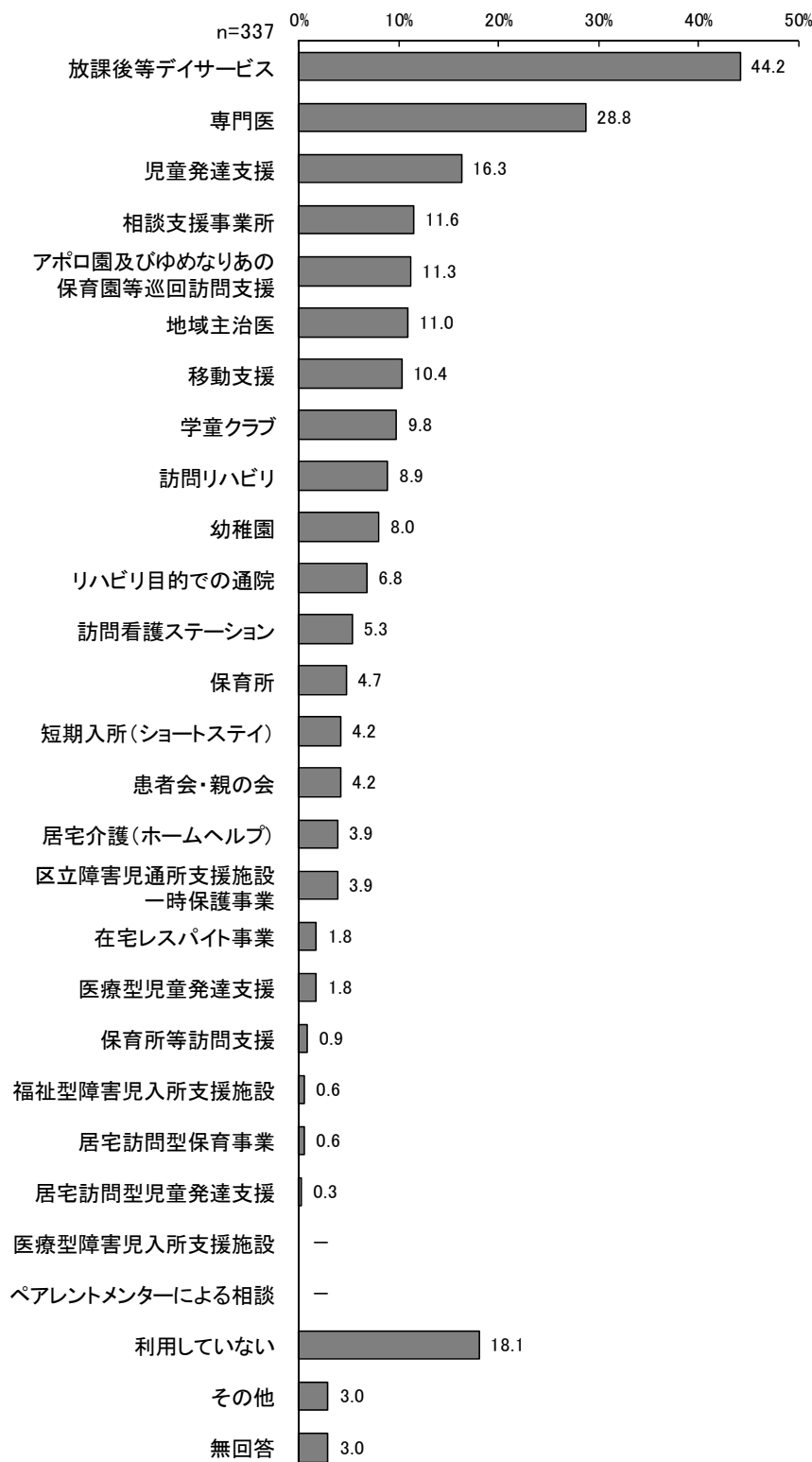
2.2. サービス等の利用状況

◆サービス等の利用状況は「放課後等デイサービス」が4割台半ば

（全員の方に）

問 4. 次のサービス等を現在、利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

図 2-6 サービス等の利用状況



サービス等の利用状況は、「放課後等デイサービス」が高く、次いで「専門医」「児童発達支援」「相談支援事業所」となっている。

図 2-7 【経年比較】上位 5 位 サービス等の利用状況

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=337	放課後等デイサービス 44.2	専門医 28.8	児童発達支援 16.3	相談支援事業所 11.6	アポロ園及びゆめなりあの保育園等巡回訪問支援 11.3
2017年度 n=287	児童発達支援 34.1	専門医 31.4	放課後等デイサービス 30.3	幼稚園 12.9	移動支援 11.1

サービス等の利用状況を経年比較でみると、2020 年度は 2017 年度に比べ「放課後等デイサービス」の割合が高くなっている。

図 2-8 【年齢別】サービス等の利用状況

単位：％

区分	有効回答数（件）	放課後等 デイサービス	専門医	児童発達支援	相談支援事業所	巡回訪問支援 アポロ園及び ゆめなりの保育園等	地域主治医	移動支援	学童クラブ	訪問リハビリ	幼稚園
全体	337	44.2	28.8	16.3	11.6	11.3	11.0	10.4	9.8	8.9	8.0
0～5歳	64	0.0	21.9	57.8	20.3	56.3	14.1	0.0	0.0	12.5	42.2
6～9歳	128	60.9	26.6	9.4	6.3	0.8	10.9	10.9	23.4	9.4	0.0
10～14歳	96	49.0	35.4	4.2	8.3	1.0	7.3	11.5	2.1	8.3	0.0
15～18歳	40	47.5	32.5	2.5	22.5	0.0	17.5	25.0	0.0	5.0	0.0

区分	リハビリ 目的での 通院	訪問看護 ステーション	保育所	短期入所 （ショートステイ）	患者会・親の会	居宅介護 （ホームヘルプ）	区立障害児 通所支援施設 一時保護事業	在宅レスパイト事業	医療型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型障害児 通所支援施設
全体	6.8	5.3	4.7	4.2	4.2	3.9	3.9	1.8	1.8	0.9	0.6
0～5歳	9.4	7.8	20.3	3.1	6.3	3.1	12.5	1.6	3.1	3.1	3.1
6～9歳	3.1	3.9	2.3	2.3	1.6	1.6	2.3	0.8	3.1	0.8	0.0
10～14歳	6.3	6.3	0.0	4.2	3.1	5.2	1.0	2.1	0.0	0.0	0.0
15～18歳	12.5	5.0	0.0	12.5	12.5	10.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0

区分	居宅訪問型 保育事業	居宅訪問型 児童発達支援	医療型障害児 通所支援施設	ペアレント メンターに よる相談	利用していない	その他	無回答
全体	0.6	0.3	0.0	0.0	18.1	3.0	3.0
0～5歳	3.1	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0
6～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	3.1	3.9
10～14歳	0.0	0.0	0.0	0.0	27.1	4.2	2.1
15～18歳	0.0	0.0	0.0	0.0	32.5	2.5	0.0

図 2-9 【所持手帳別】サービス等の利用状況

単位：％

区分	有効回答数（件）	放課後等 デイサービス	専門医	児童発達支援	相談支援事業所	巡回訪問支援 （アポロ園及び ゆめなりの保育園等）	地域主治医	移動支援	学童クラブ	訪問リハビリ	幼稚園
全体	337	44.2	28.8	16.3	11.6	11.3	11.0	10.4	9.8	8.9	8.0
身体障害者手帳（軽度）	4	75.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
身体障害者手帳（重度）	28	60.7	60.7	21.4	46.4	0.0	32.1	32.1	10.7	57.1	0.0
愛の手帳	92	70.7	39.1	12.0	17.4	1.1	15.2	23.9	6.5	17.4	2.2
精神障害者保健福祉手帳	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

区分	リハビリ目的での通院	訪問看護 ステーション	保育所	短期入所 （ショートステイ）	患者会・親の会	居宅介護 （ホームヘルプ）	区立障害児通所 一時保護事業	在宅レスパイト事業	医療型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型障害児 入所支援施設
全体	6.8	5.3	4.7	4.2	4.2	3.9	3.9	1.8	1.8	0.9	0.6
身体障害者手帳（軽度）	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
身体障害者手帳（重度）	57.1	57.1	3.6	35.7	7.1	35.7	10.7	21.4	14.3	0.0	0.0
愛の手帳	10.9	6.5	1.1	8.7	8.7	4.3	5.4	2.2	3.3	1.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	居宅訪問型 保育事業	児童発達支援 居宅訪問型	医療型障害児 入所支援施設	ペアレント メンターに よる相談	利用していない	その他	無回答
全体	0.6	0.3	0.0	0.0	18.1	3.0	3.0
身体障害者手帳（軽度）	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
身体障害者手帳（重度）	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0
愛の手帳	1.1	0.0	0.0	0.0	10.9	1.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0

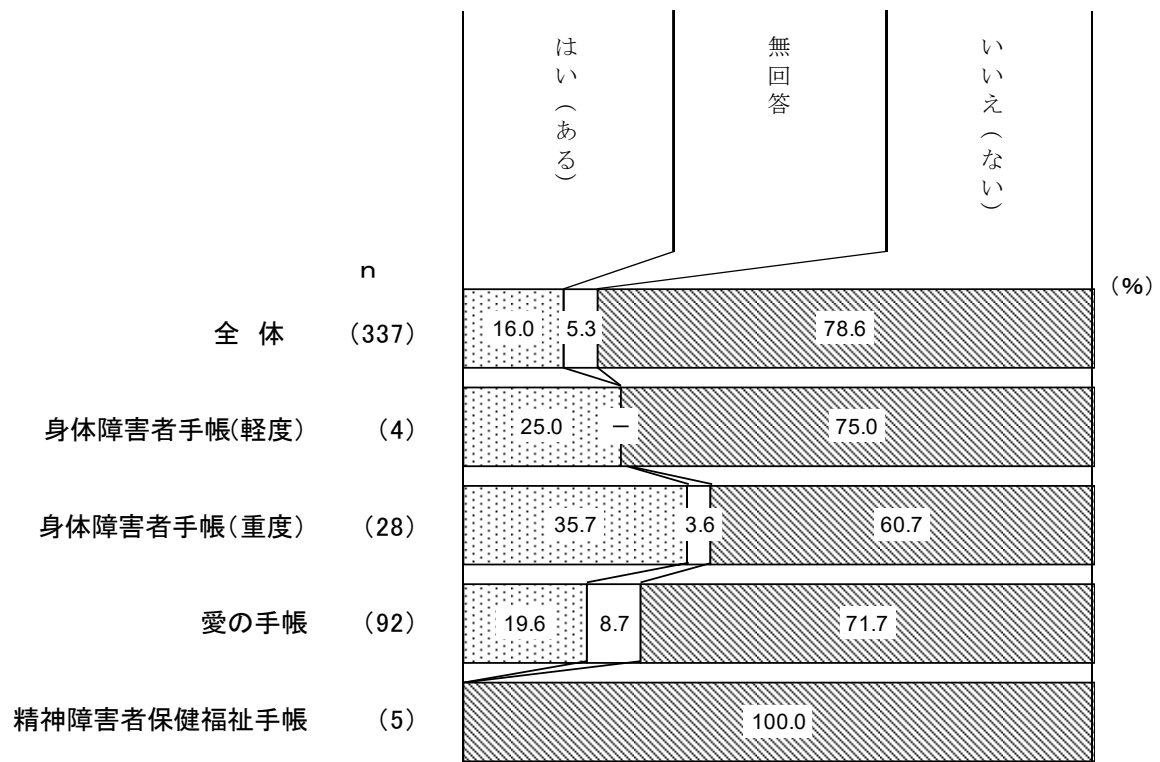
2.2.1. これまで利用できなかったサービス等の有無

◆これまで利用できなかったサービス等は「ない」が7割台後半

(全員の方に)

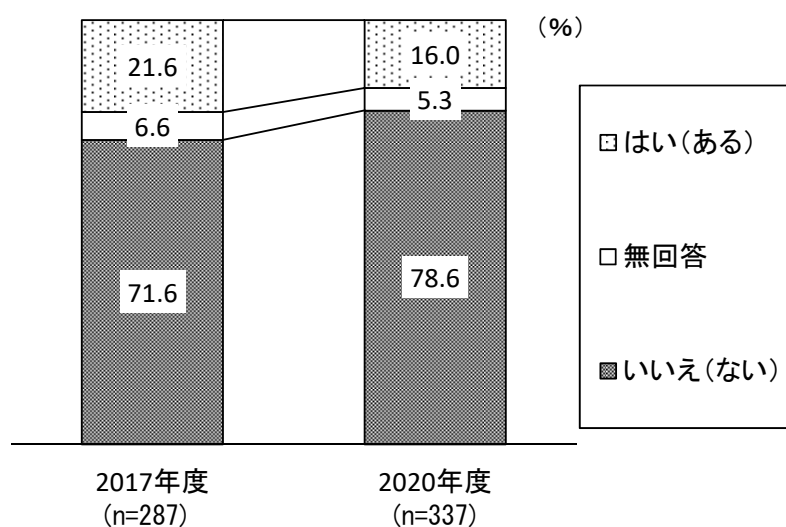
問 4-1. これまで利用できなかったサービス等がありますか

図 2-10 【所持手帳別】これまで利用できなかったサービス等の有無



これまで利用できなかったサービス等の有無は、身体障害者手帳所持者（重度）で「はい（ある）」の割合が高くなっている。

図 2-11 【経年比較】これまで利用できなかったサービス等の有無



これまで利用できなかったサービス等の有無について、2020 年度は 2017 年度と比べ「はい（ある）」が減少し、「いいえ（ない）」が増加している。

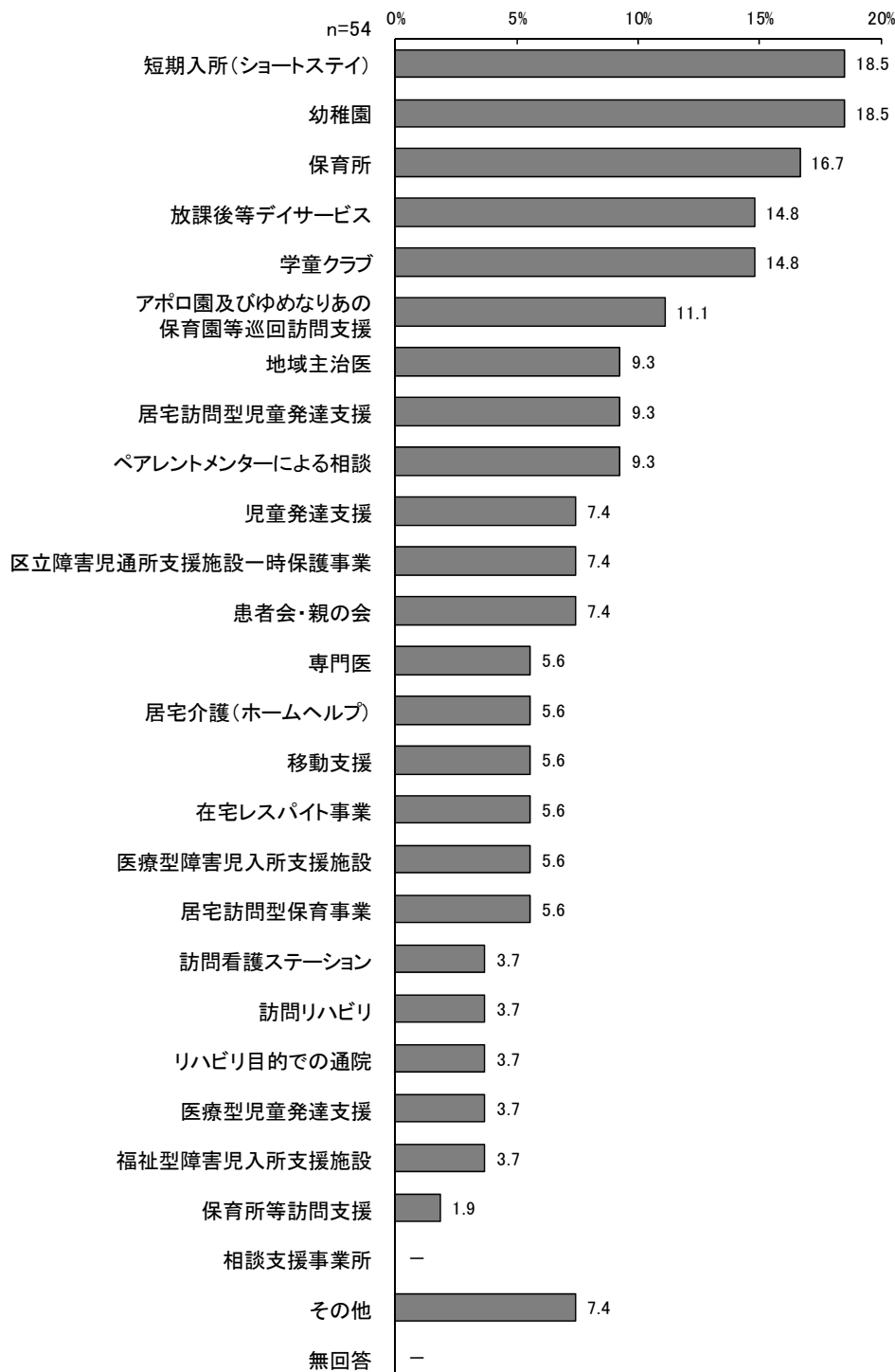
2.2.2. 利用できなかったサービス等

◆利用できなかったサービス等は「短期入所（ショートステイ）」「幼稚園」が1割台後半

（問4-1で「1. はい」とお答えの方に）

問4-2. 利用できなかったサービス等は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図2-12 利用できなかったサービス等



利用できなかったサービス等は「短期入所（ショートステイ）」「幼稚園」が高く、次いで「保育所」「放課後等デイサービス」「学童クラブ」となっている。

図 2-13 【経年比較】上位 5 位 利用できなかったサービス等

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=54	短期入所(ショートステイ)/ 幼稚園 18.5	保育所 16.7	放課後等デイサービス/ 学童クラブ 14.8		
2017年度 n=62	幼稚園 25.8	保育所 24.2	児童発達支援 19.4	短期入所 11.3	移動支援 9.7

利用できなかったサービス等を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ「短期入所（ショートステイ）」が増加している。

3. 児童福祉法のサービスについて

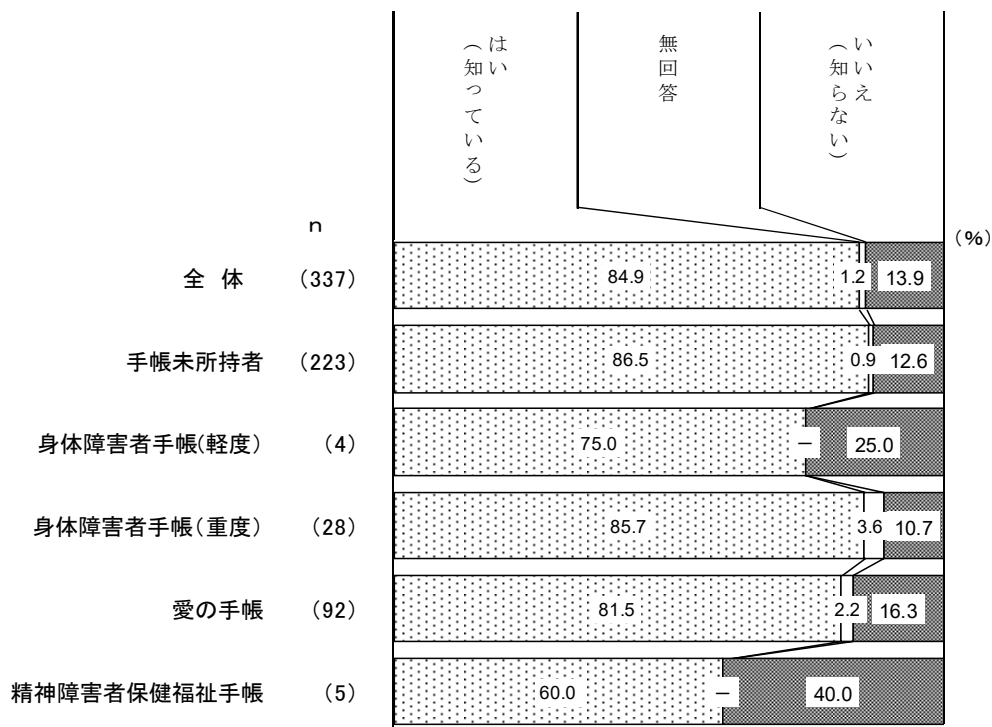
3.1. 児童発達支援の認知度

◆児童発達支援を「知っている」方は8割台半ば

(全員の方に)

問7. 児童発達支援を知っていますか。(○は1つ)

図 3-1 【所持手帳別】児童発達支援の認知度



児童発達支援の認知度は、「はい」の割合が8割台半ばとなっている。

図 3-2 【年齢別】児童発達支援の認知度

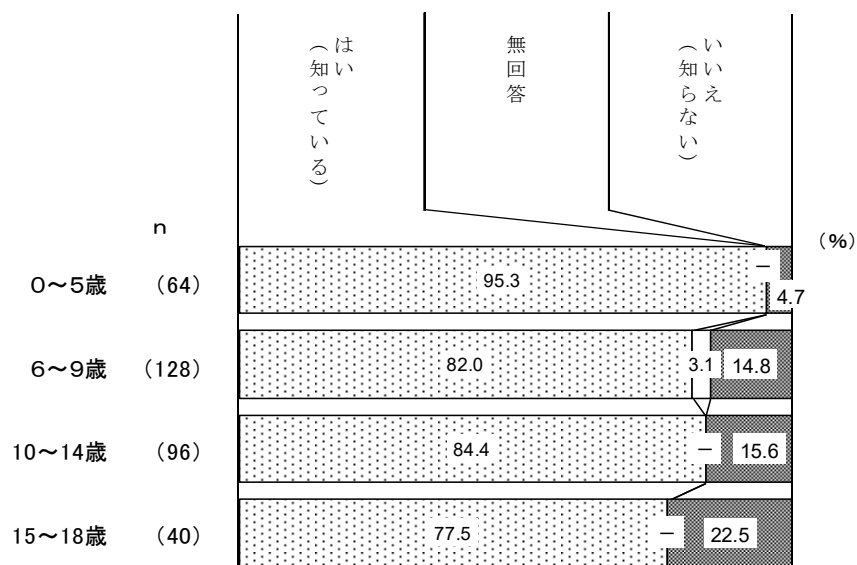
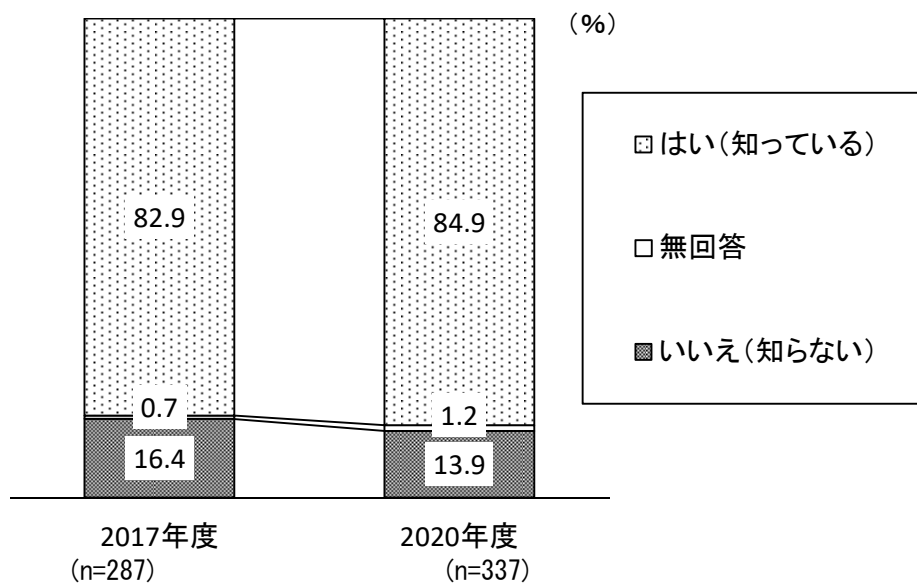


図 3-3 【経年比較】児童発達支援の認知度



児童発達支援の認知度を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ「はい（知っている）」が2ポイント増加し、「いいえ（知らない）」が2.5ポイント減少している。

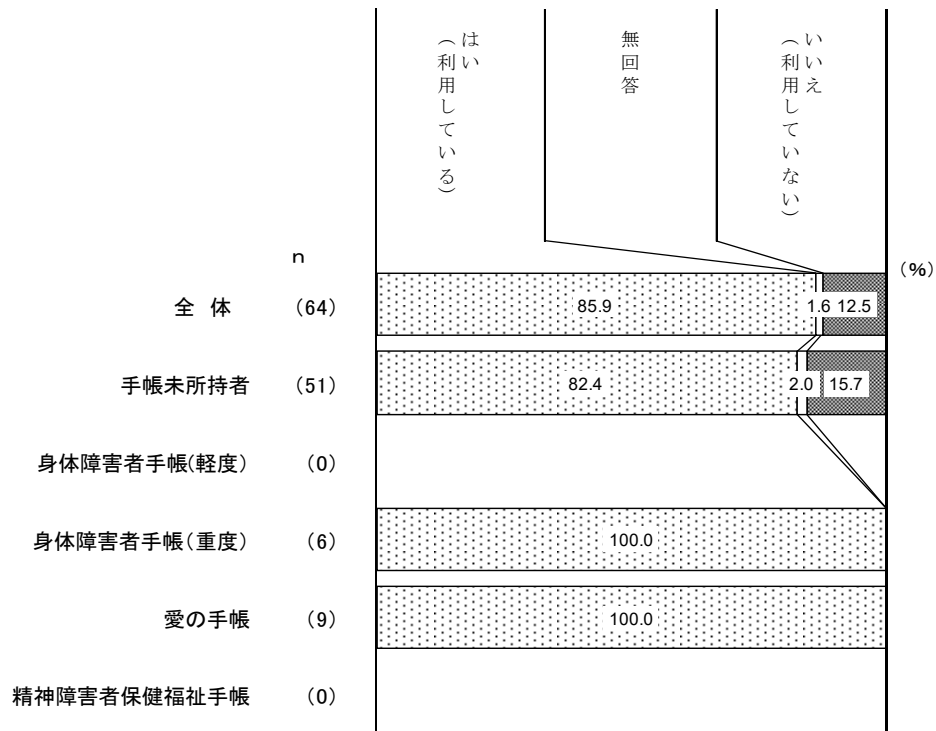
3.2. 児童発達支援の利用の有無

◆児童発達支援を「利用している」方は8割台半ば

（全員の方に）

問 8. 児童発達支援を現在、利用していますか。（○は1つ）

図 3-4 【所持手帳別】児童発達支援の利用の有無（5歳以下）



児童発達支援の利用の有無は、5歳以下で「はい（利用している）」の割合が8割台半ばとなっている。

図 3-5 【年齢別】児童発達支援の利用の有無（5歳以下）

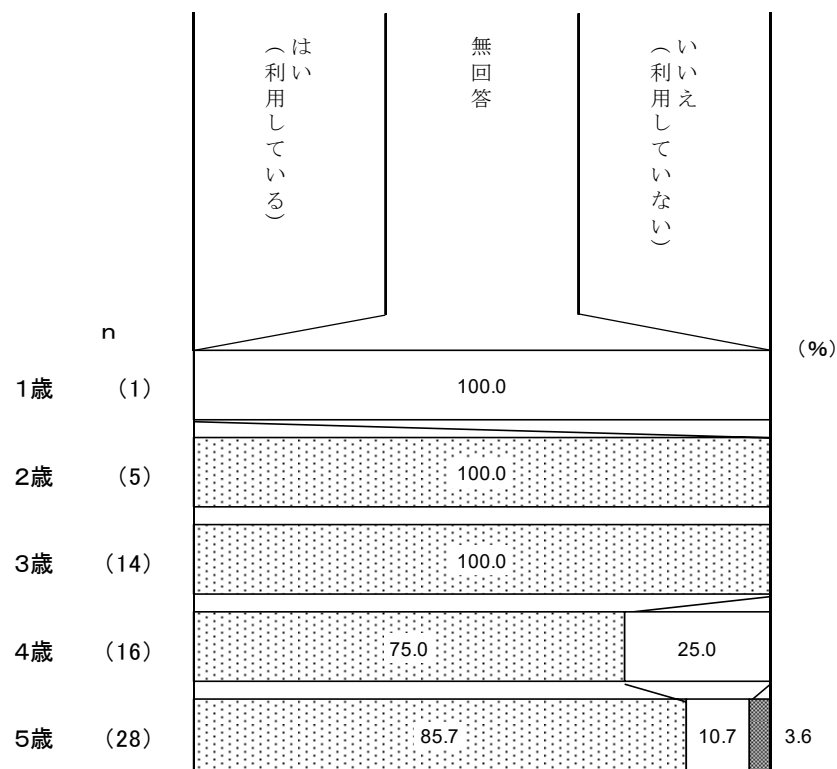
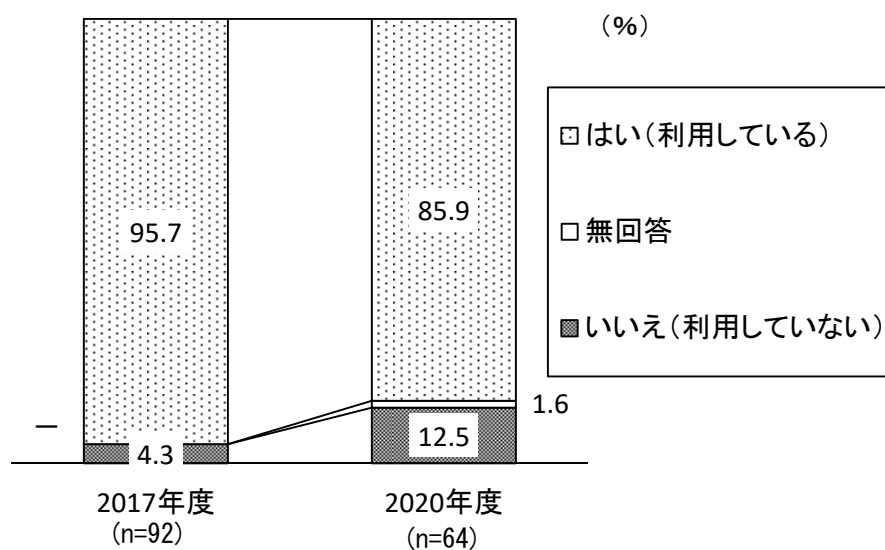


図 3-6 【経年変化】児童発達支援の利用の有無（5歳以下）



児童発達支援の利用の有無を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ「はい(利用している)」が9.8ポイント減少し、「いいえ(利用していない)」が8.2ポイント増加している。

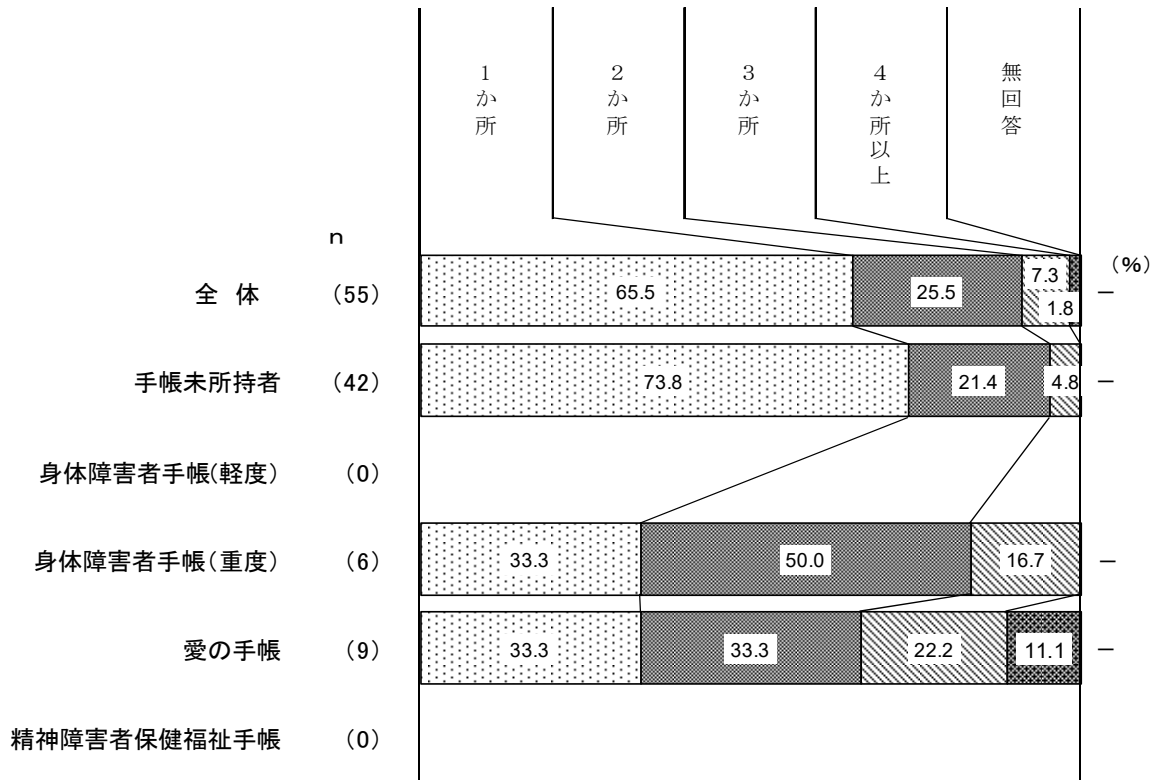
3.2.1. 利用している児童発達支援事業所数

◆利用している児童発達支援事業所は「1か所」「2か所」の利用が全体の9割以上

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

問8-1. 現在、利用している児童発達支援事業所は何か所ですか。(〇は1つ)

図3-7 【所持手帳別】利用している児童発達支援事業所(5歳以下)



現在、利用している児童発達支援事業所は、5歳以下の全体で「1か所」が高くなっており、「2か所」と合わせると全体の9割以上となっている。

図3-8 【年齢別】利用している児童発達支援事業所数

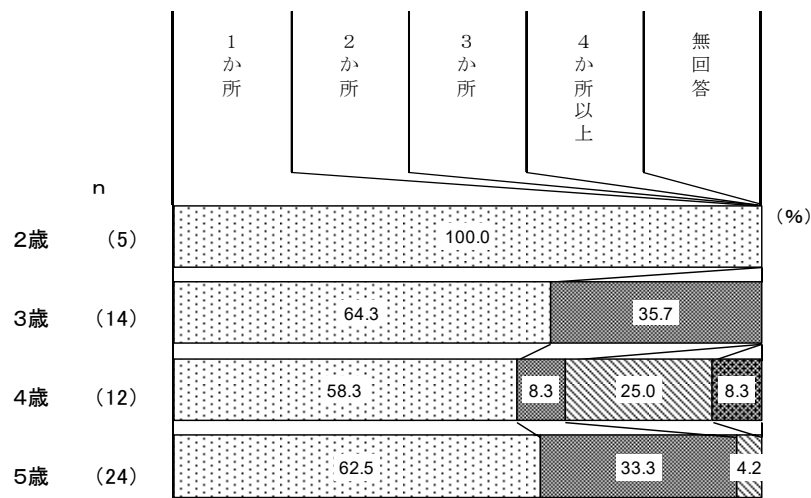
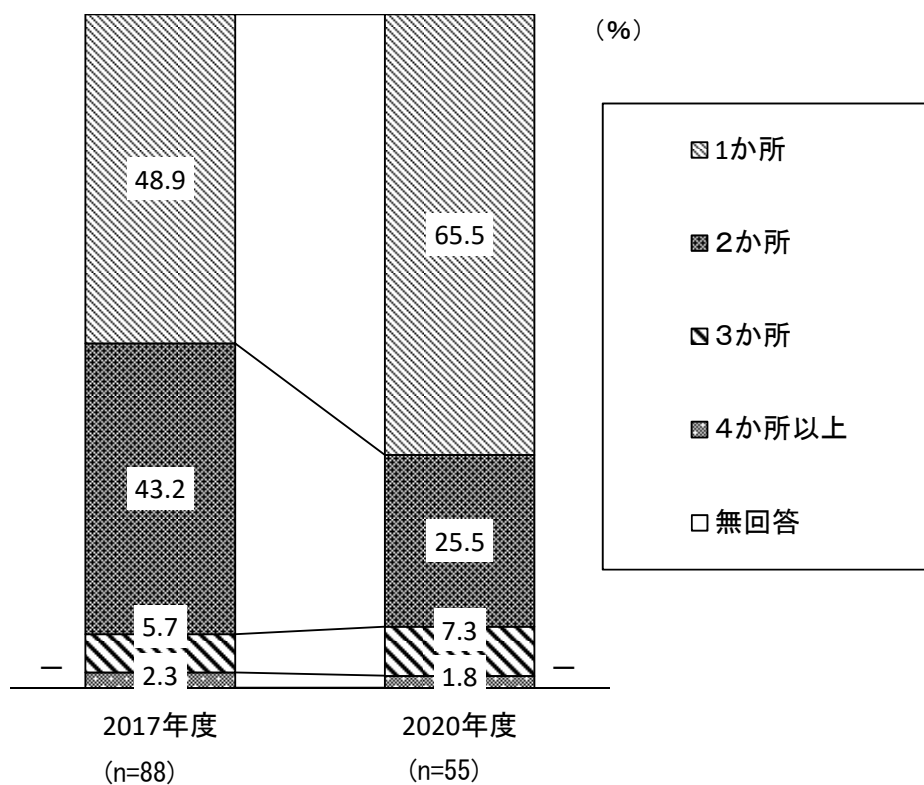


図 3-9 【経年比較】利用している児童発達支援事業所数



利用している児童発達支援事業所を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ「1か所」が16.6ポイント増加し、「2か所」が17.7ポイント減少している。

3.2.2. 児童発達支援事業所に通う日数

◆児童発達支援事業所に通う日数は「月に2、3日」が約4割

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

問8-2. 現在、利用している児童発達支援事業所には、週にどの程度通われていますか。複数個所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。(〇は1つ)

図3-10 【所持手帳別】児童発達支援事業所に通う日数(5歳以下)

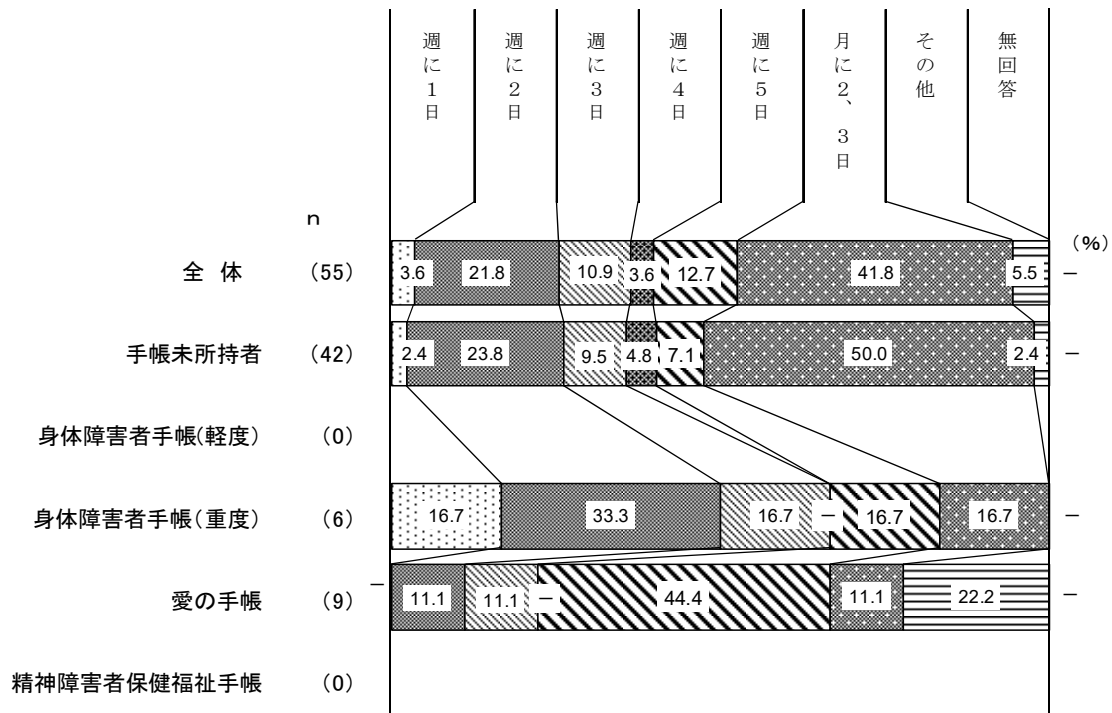
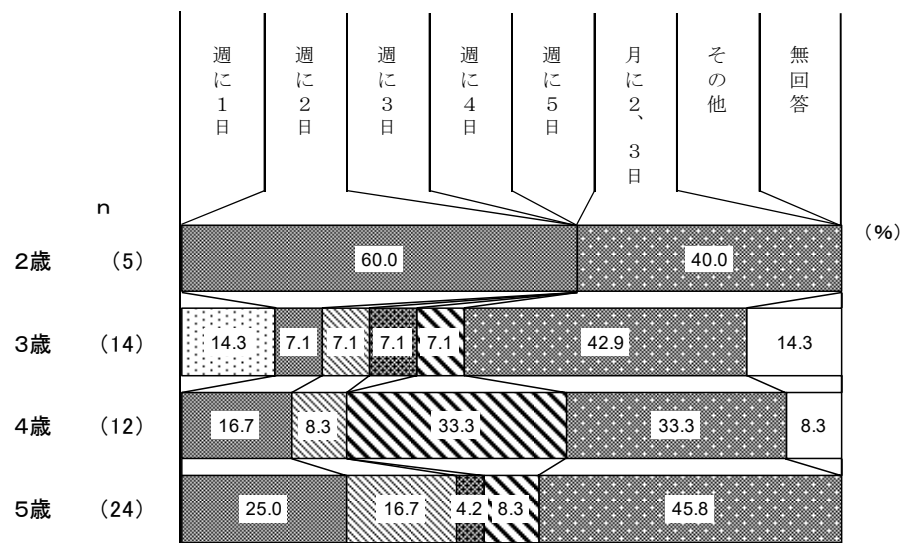


図3-11 【年齢別】児童発達支援事業所に通う日数(5歳以下)



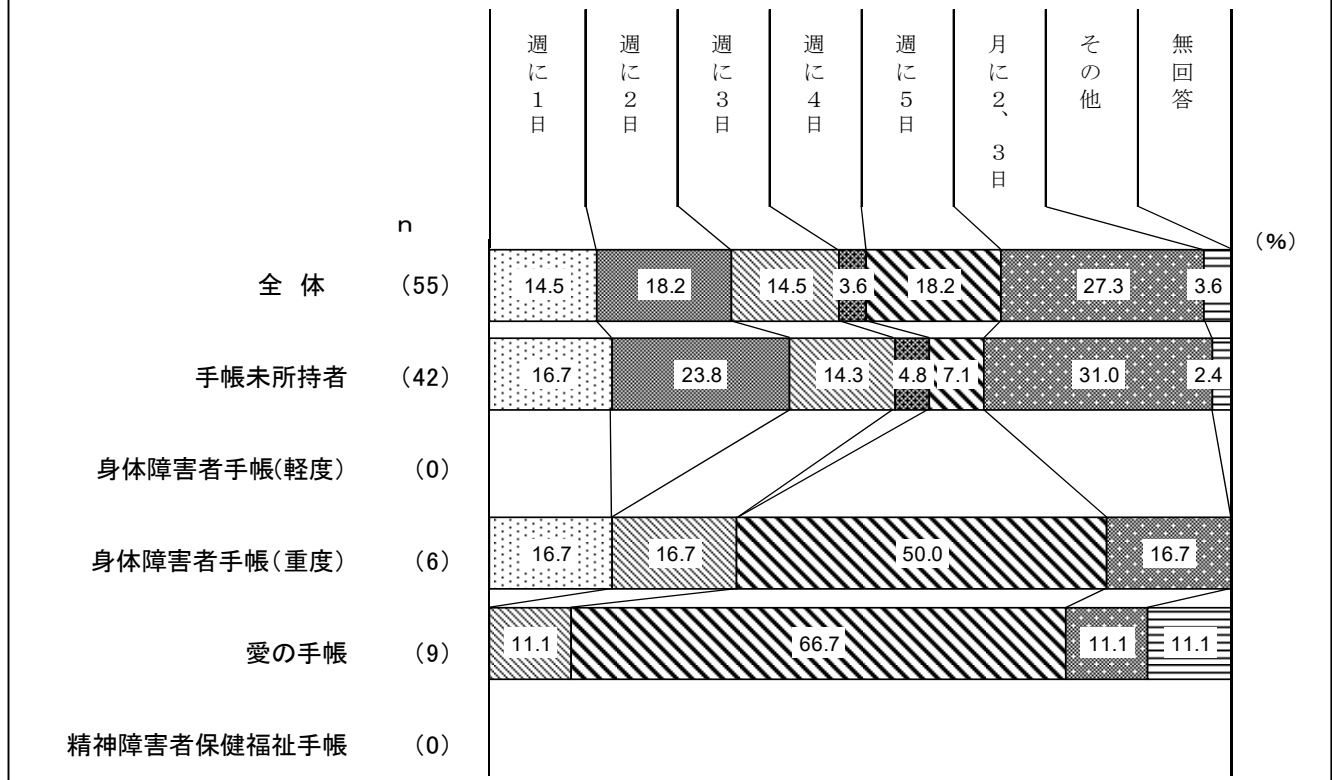
3.2.3. 児童発達支援を希望する利用日数

◆児童発達支援を希望する利用日数は「月に2、3日」が2割台後半

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

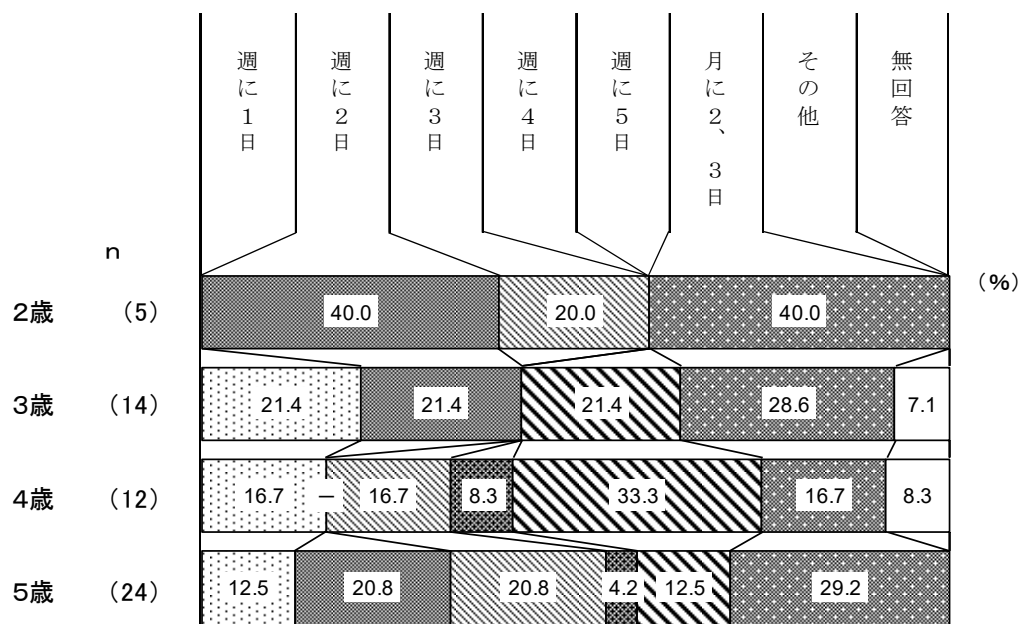
問8-3. 児童発達支援について、希望する利用日数はどの程度ですか。(〇は1つ)

図3-12 【所持手帳別】児童発達支援を希望する利用日数(5歳以下)



児童発達支援を希望する利用日数は、5歳以下で「月に2、3日」が2割台後半と高くなっている。

図3-13 【年齢別】児童発達支援を希望する利用日数(5歳以下)



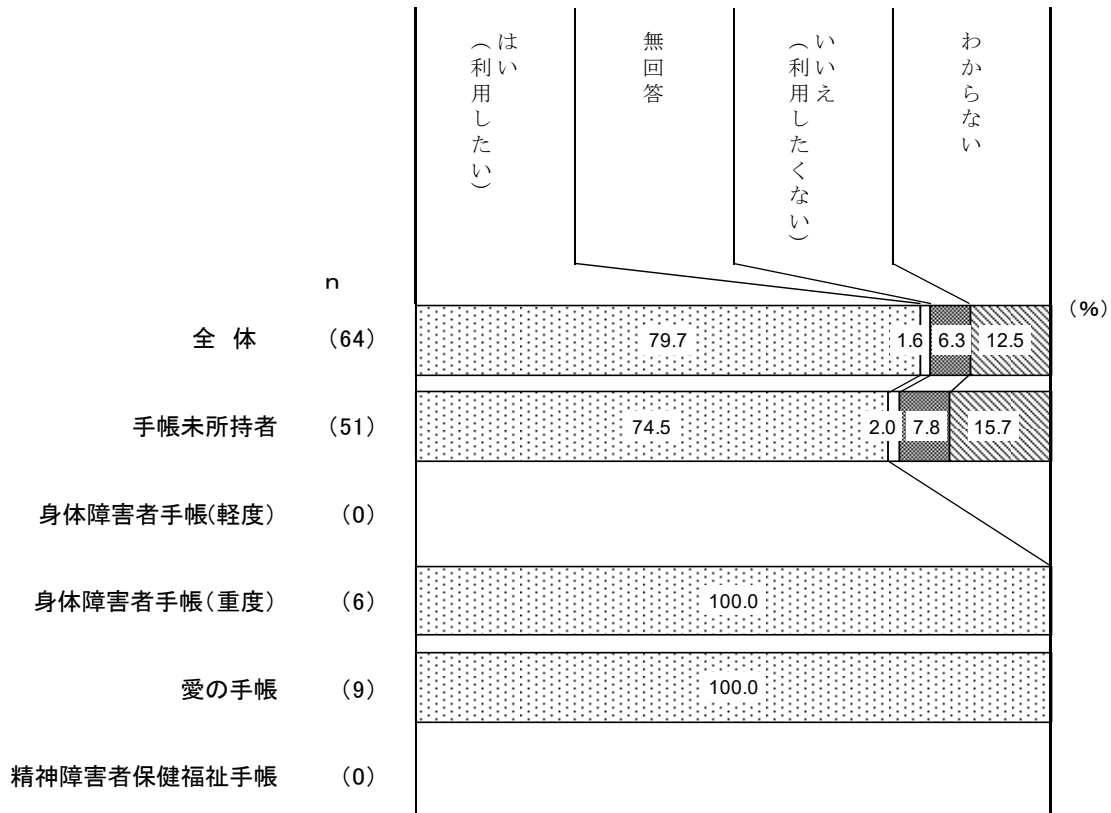
3.3. 児童発達支援の利用意向

◆児童発達支援を今後「利用したい」方は約8割

（全員の方に）

問 9. 児童発達支援を今後、利用したいですか。（○は1つ）

図 3-14 【所持手帳別】児童発達支援の利用意向（5歳以下）



児童発達支援の利用意向は、5歳以下で「はい（利用したい）」が約8割となっている。

図 3-15 【年齢別】児童発達支援の利用意向（5歳以下）

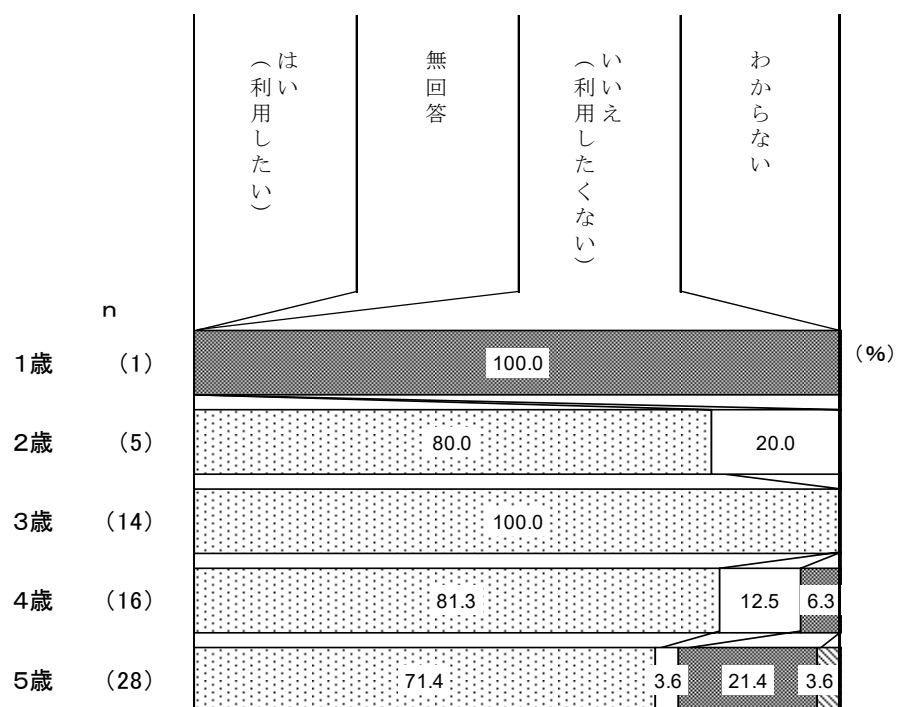
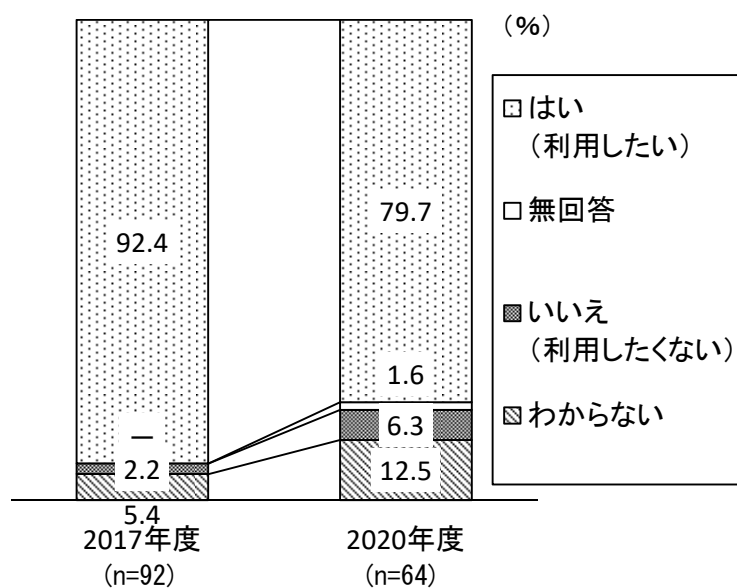


図 3-16 【経年比較】児童発達支援の利用意向（5歳以下）



児童発達支援の利用意向を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ、「はい (利用したい)」が12.7ポイント減少している。

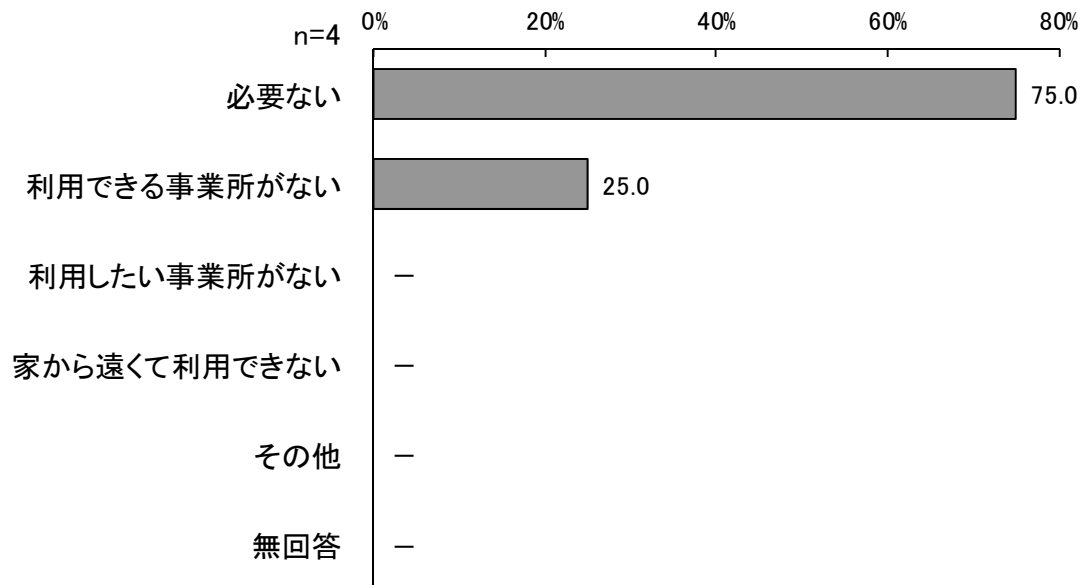
3.3.1. 児童発達支援を利用したくない理由

◆児童発達支援を利用したくない理由は「必要ない」が最も高い

(問9で「2. いいえ」とお答えの方に)

問9-1. 児童発達支援を利用したくない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図3-17 児童発達支援を利用したくない理由(5歳以下)



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

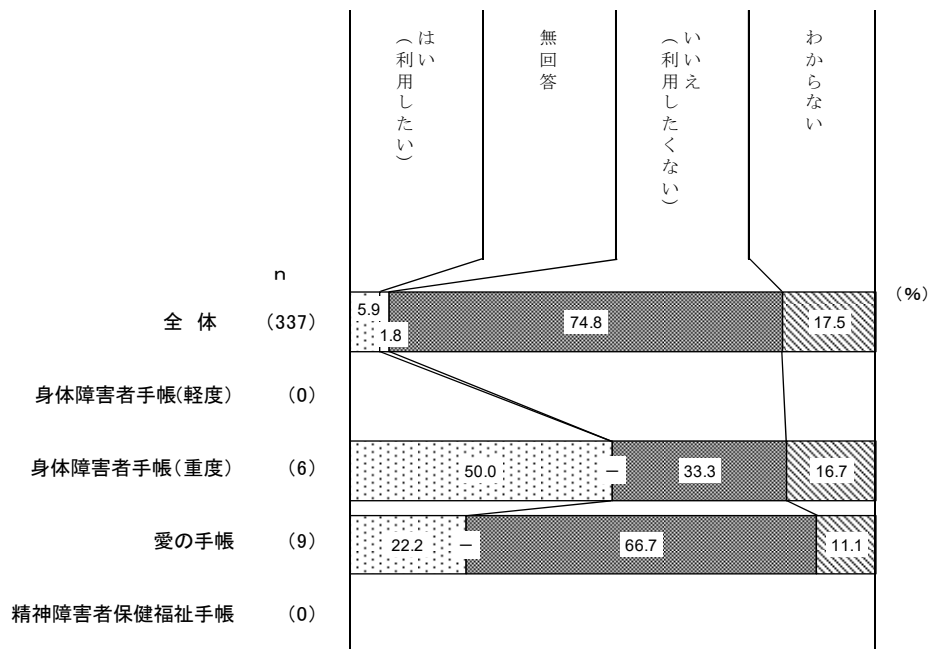
3. 4. 居宅訪問型児童発達支援の利用意向

◆居宅訪問型児童発達支援の利用意向は身体障害者手帳（重度）所持者で高い

（全員の方に）

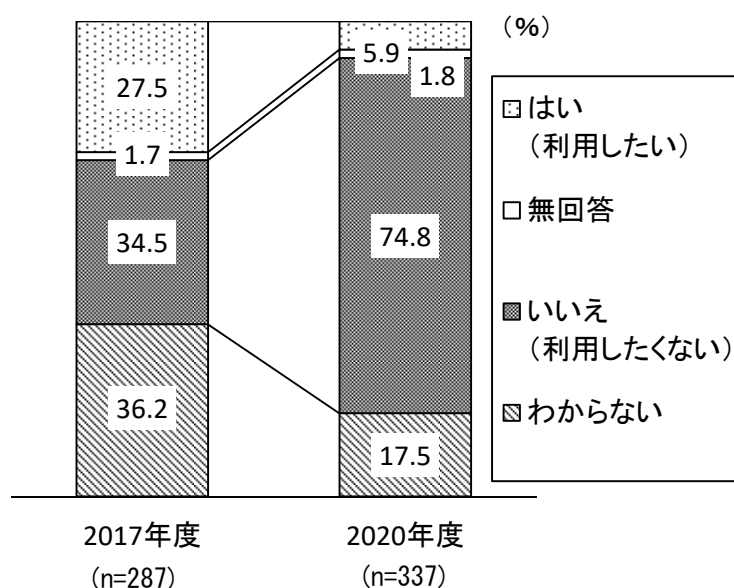
問 10. 居宅訪問型児童発達支援を、今後利用したいですか。（○は1つ）

図 3-18 【所持手帳別】居宅訪問型児童発達支援の利用意向



居宅訪問型児童発達支援の利用意向は、全体では「いいえ」が7割台半ばであったが、身体障害者手帳（重度）の対象者では5割と高くなっている。

図 3-19 【経年比較】居宅訪問型児童発達支援の利用意向



居宅訪問型児童発達支援の利用意向を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ、「はい（利用したい）」が21.6ポイント低下し、「いいえ（利用したくない）」が40.3ポイント増加している。

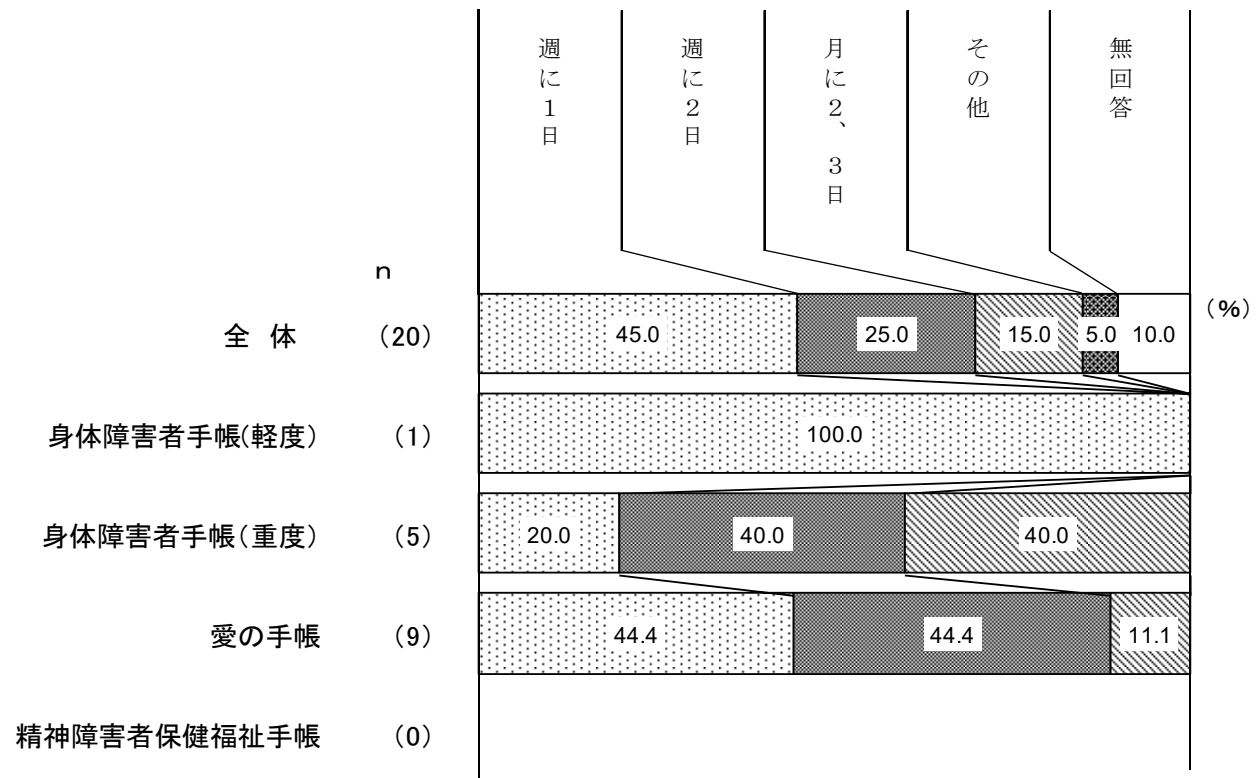
3.4.1. 利用したい日数

◆利用したい日数は「週に1日」が4割台半ば

(問10で「1. はい」とお答えの方に)

問10-1. どの程度の日数を利用したいですか。(○は1つ)

図 3-20 【所持手帳別】利用したい日数



3.5. 放課後等デイサービスの認知度

◆放課後等デイサービスを「知っている」方は8割台半ば

（全員の方に）

問 11. 放課後等デイサービスを知っていますか。（○は1つ）

図 3-21 【所持手帳別】放課後等デイサービスの認知度

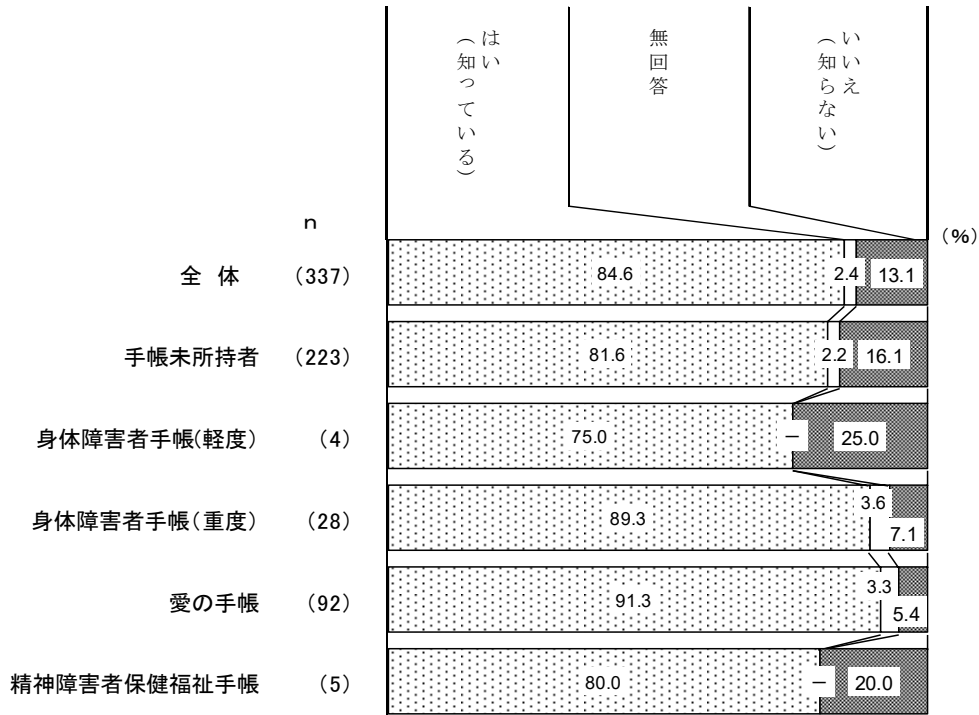
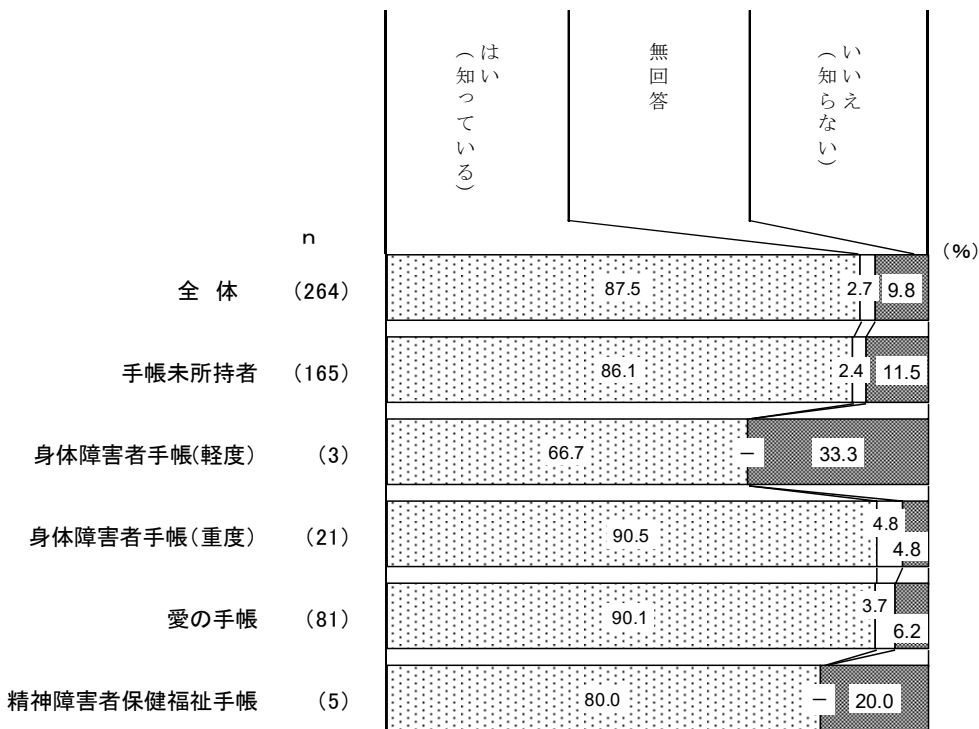


図 3-22 【所持手帳別】放課後等デイサービスの認知度（6歳以上）



放課後等デイサービスの認知度は、「はい（知っている）」が8割台半ばとなっている。

図 3-23 【年齢別】放課後等デイサービスの認知度

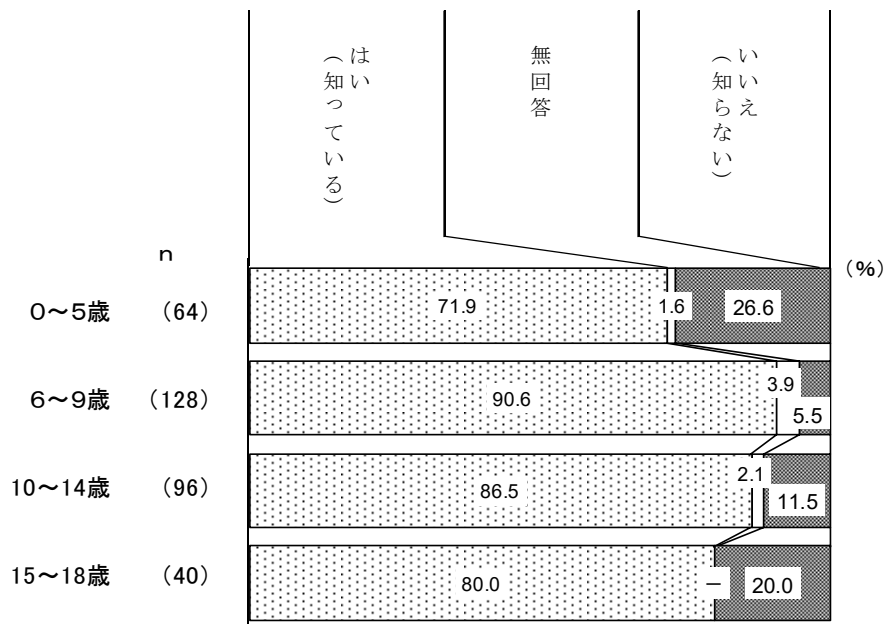
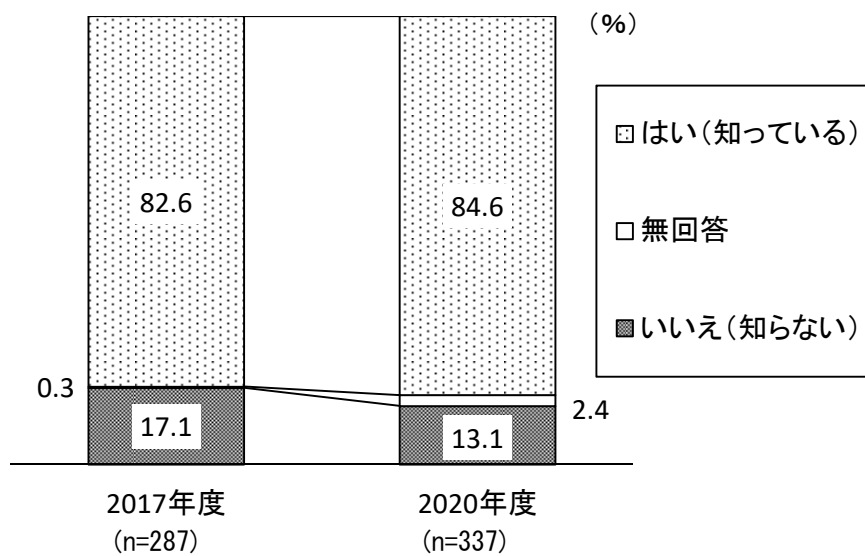


図 3-24 【経年比較】放課後等デイサービスの認知度



放課後等デイサービスの認知度を経年比較でみると、2020年度は2017年度に比べ「はい（知っている）」が2ポイント増加し、「いいえ（知らない）」が4ポイント減少している。

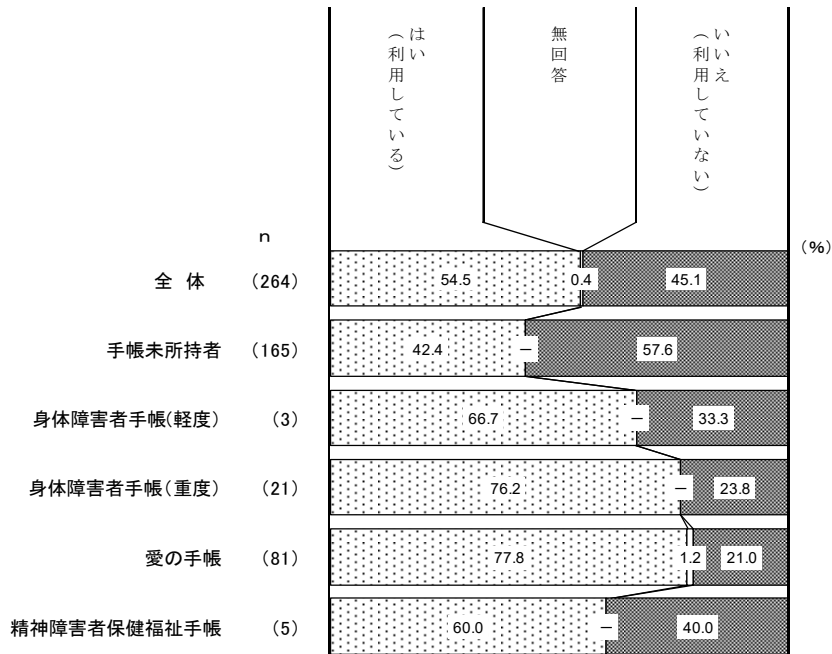
3. 6. 放課後等デイサービスの利用状況

◆放課後等デイサービスを「利用している」方は5割台半ば

（全員の方に）

問 12. 放課後等デイサービスを現在、利用していますか。（○は1つ）

図 3-25 【所持手帳別】放課後等デイサービスの利用状況（6歳以上）



放課後等デイサービスの利用状況は、6歳以上では「はい（利用している）」が5割台半ばとなっている。

図 3-26 【年齢別】放課後等デイサービスの利用状況（6歳以上）

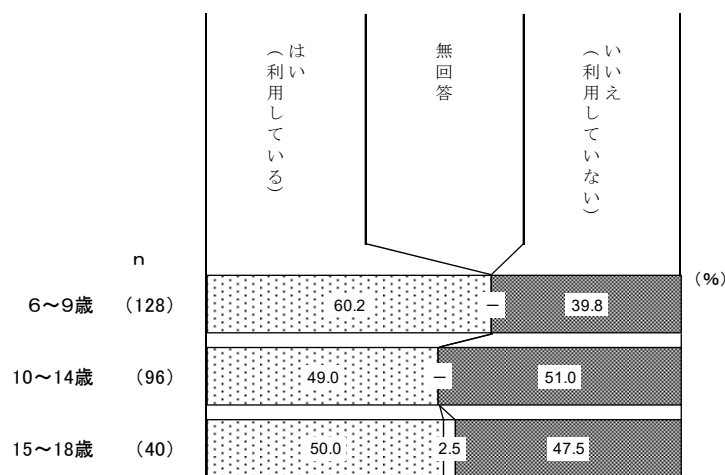
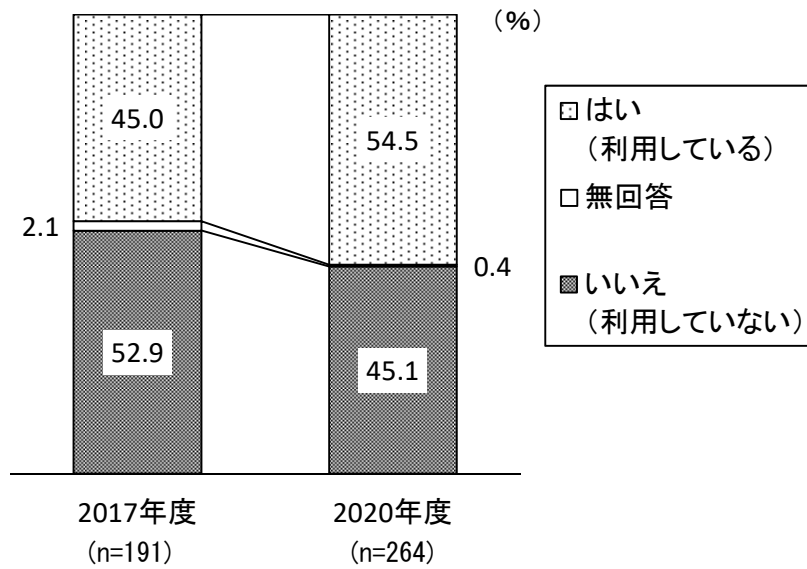


図 3-27 【経年比較】放課後等デイサービスの利用状況（6歳以上）



放課後等デイサービスの利用状況を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ、「はい（利用している）」が9.5ポイント増加し、「いいえ（利用していない）」が7.8ポイント減少している。

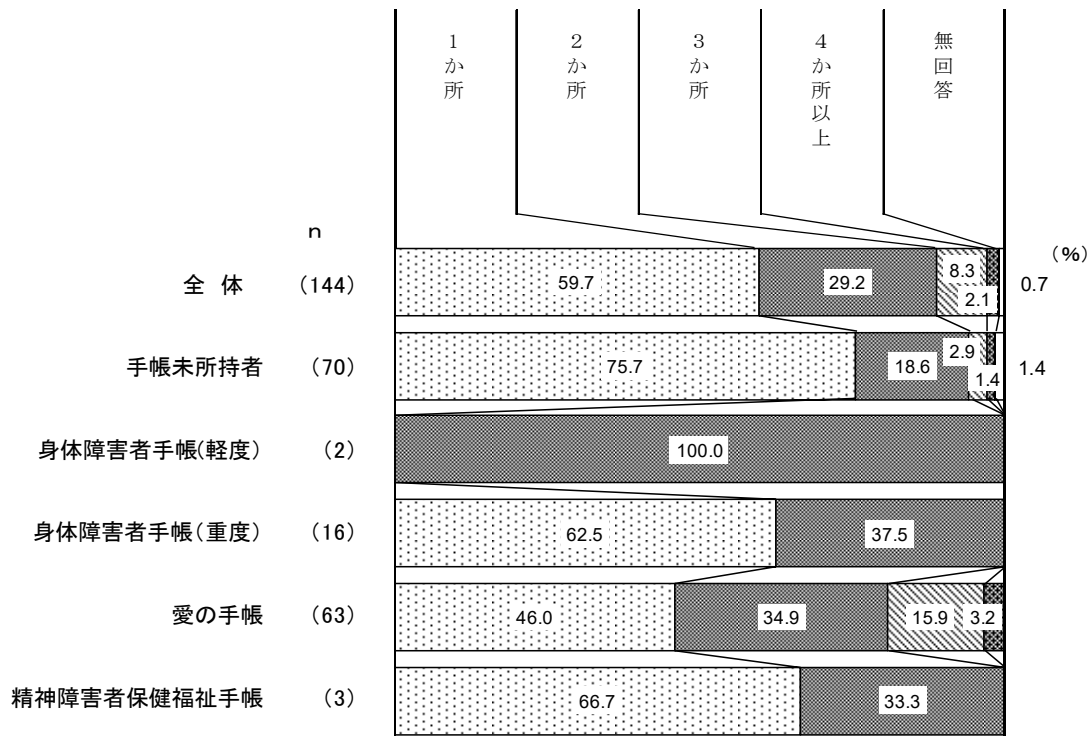
3.6.1. 利用している放課後等デイサービス事業所数

◆現在、利用している放課後等デイサービス事業所は「1か所」が約6割

(問12で「1. はい」とお答えの方に)

問12-1. 現在、利用している放課後等デイサービス事業所は何か所ですか。(〇は1つ)

図3-28 【所持手帳別】利用している放課後等デイサービス事業所(6歳以上)



現在、利用している放課後等デイサービス事業所は、6歳以上では「1か所」が約6割となっている。

図3-29 【年齢別】利用している放課後等デイサービス事業所数(6歳以上)

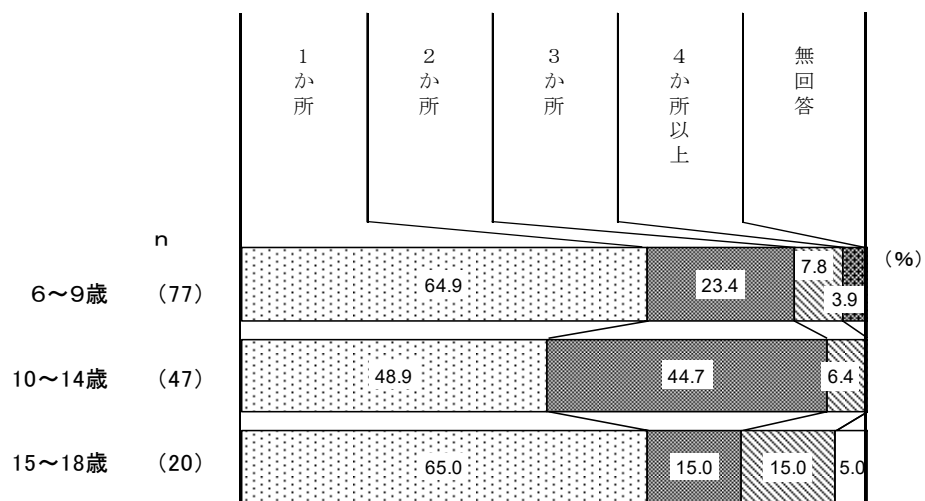
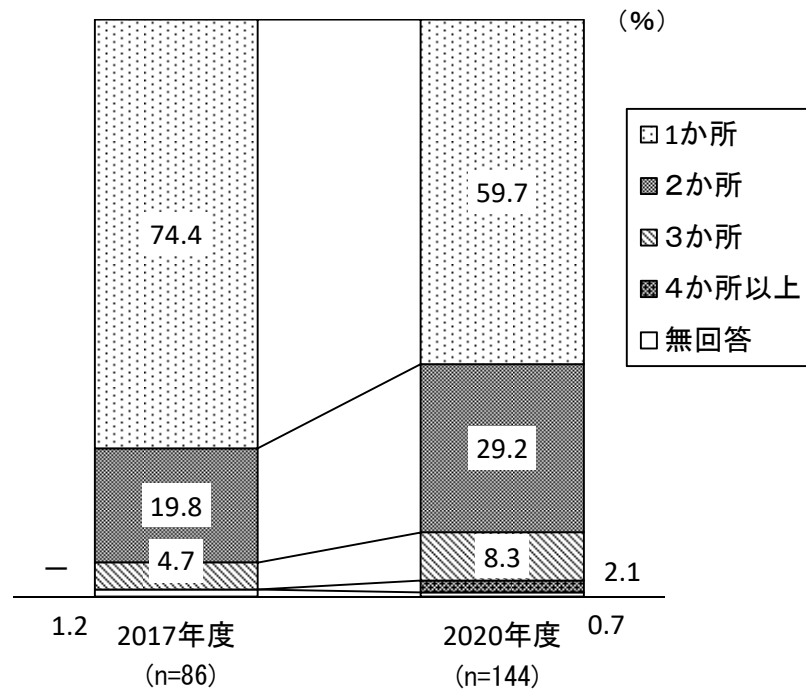


図 3-30 【経年比較】利用している放課後等デイサービス事業所数（6歳以上）



利用している放課後等デイサービス事業所を経年比較でみると、2020年度は2017年度に比べ、「1か所」が14.7ポイント減少し、「2か所」が9.4ポイント増加している。

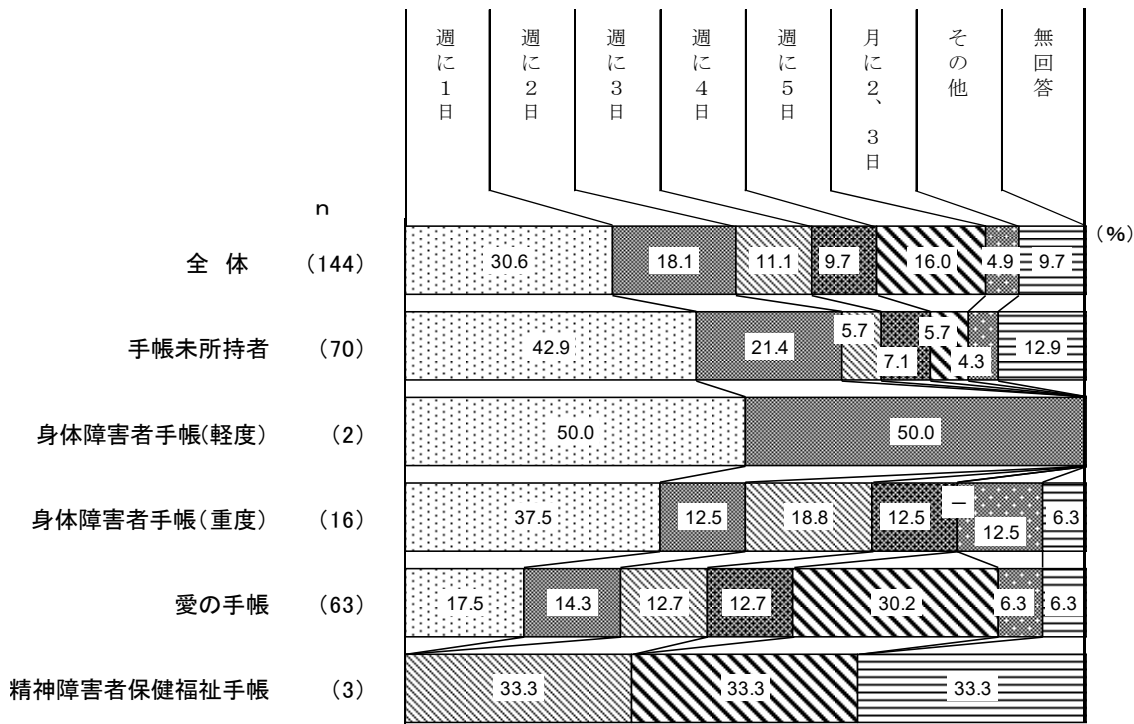
3.6.2. 放課後等デイサービス事業所に通う日数

◆放課後等デイサービス事業所に通う日数は「週1日」「週2日」を合わせて4割台後半

(問12で「1. はい」とお答えの方に)

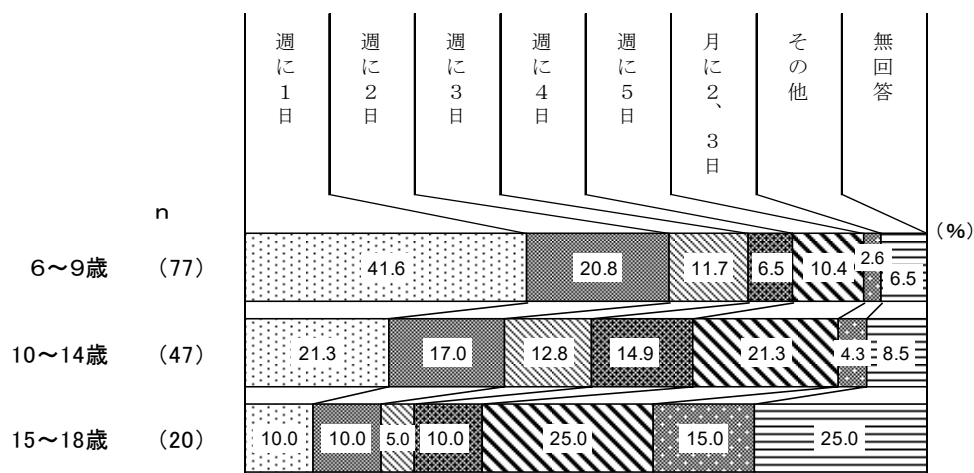
問12-2. 現在、利用している放課後等デイサービス事業所には、週にどの程度通われていますか。
複数個所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。(〇は1つ)

図3-31 【所持手帳別】放課後等デイサービスを希望する利用日数(6歳以上)



放課後等デイサービス事業所に通う利用日数は、6歳以上では「週1日」「週2日」を合わせて4割台後半となっている。

図3-32 【年齢別】放課後等デイサービス事業所に通う日数(6歳以上)



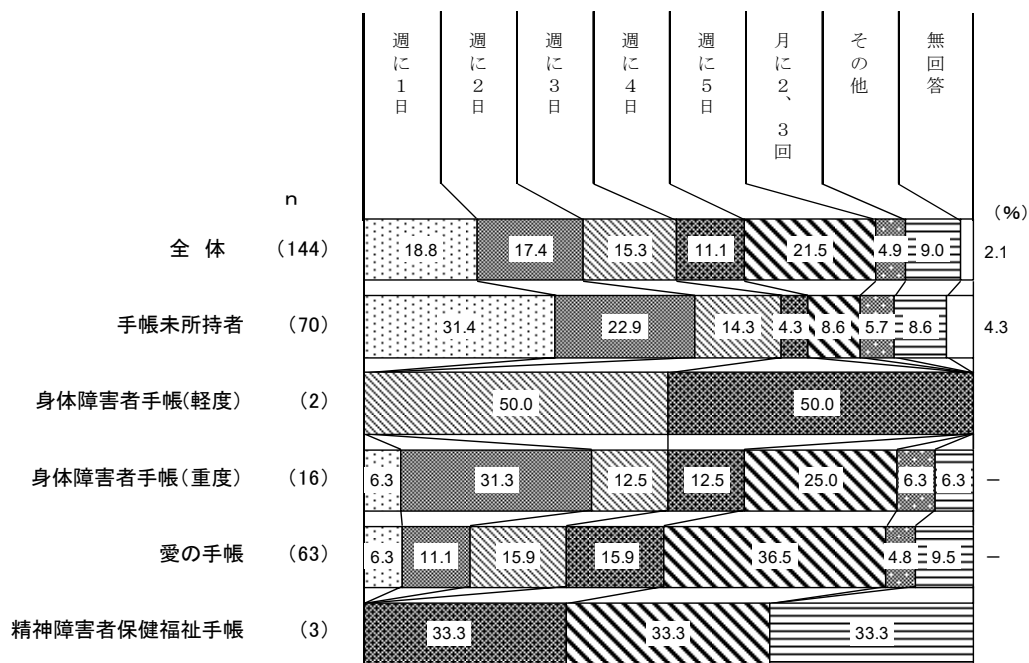
3.6.3. 放課後等デイサービス事業所を希望する利用日数

◆放課後等デイサービスを希望する利用日数は「週に5日」が約2割

(問12で「1. はい」とお答えの方に)

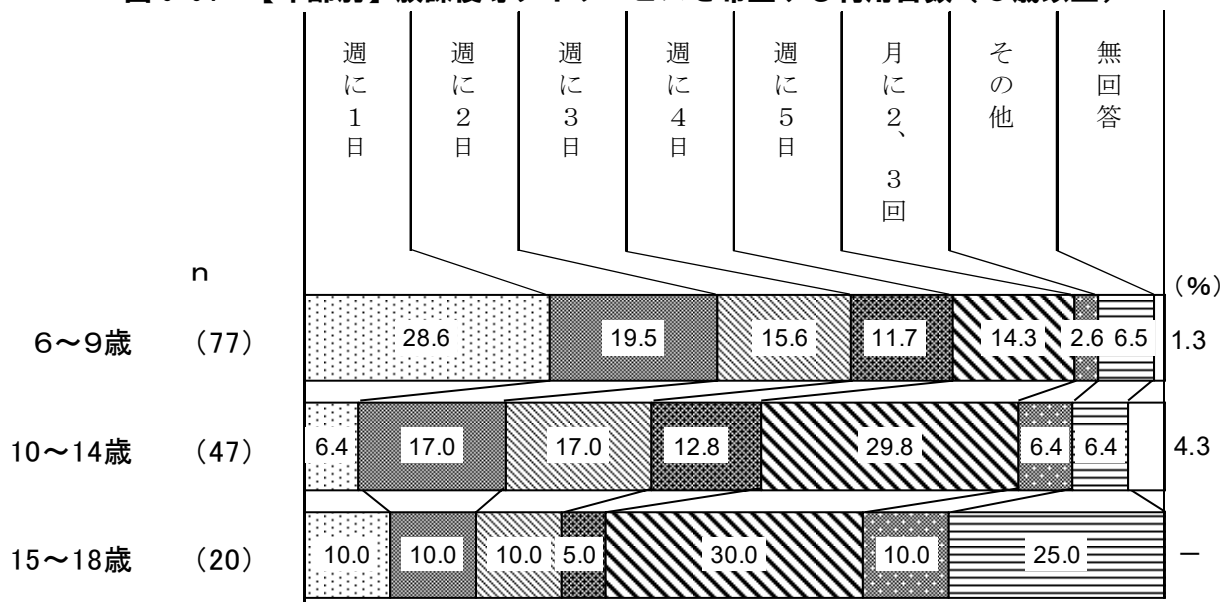
問12-3. 放課後等デイサービスについて、希望する利用日数はどの程度ですか。(〇は1つ)

図3-33 【所持手帳別】放課後等デイサービスを希望する利用日数(6歳以上)



放課後等デイサービスを希望する利用日数は、「週に5日」が2割を超え、最も高くなっている。

図3-34 【年齢別】放課後等デイサービスを希望する利用日数(6歳以上)



年齢が上がるにつれ、週5日を希望する割合が増加している。

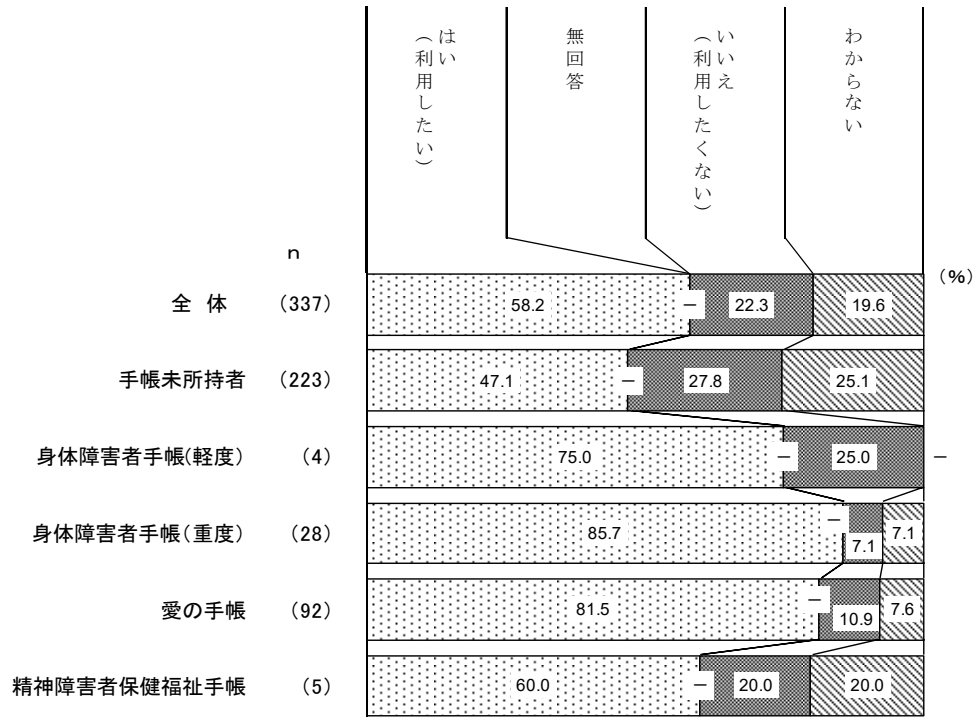
3.7. 放課後等デイサービスの利用意向

◆放課後等デイサービスを今後利用「利用したい」方は5割台後半

（全員の方に）

問 13. 放課後等デイサービスを今後、利用したいですか。（○は1つ）

図 3-35 【所持手帳別】放課後等デイサービスの利用意向



放課後等デイサービスの利用意向は、「はい（利用したい）」が約6割となっている。

図 3-36 【年齢別】放課後等デイサービスの利用意向（6歳以上）

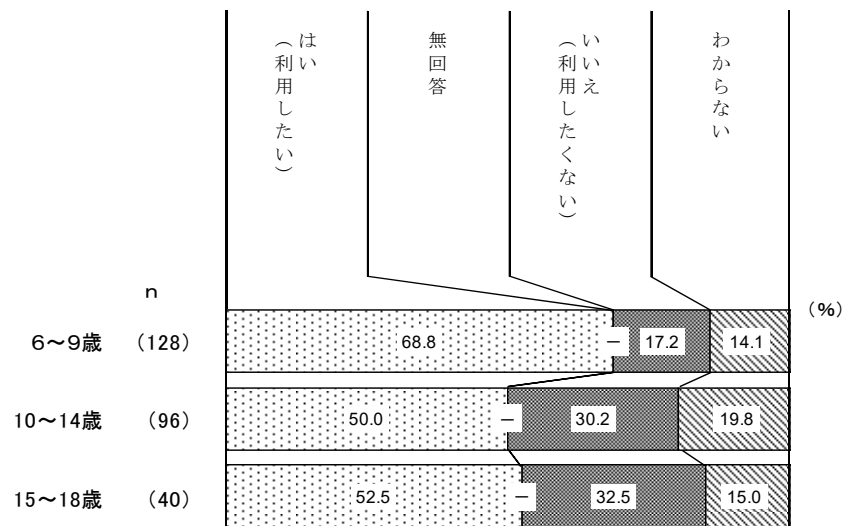
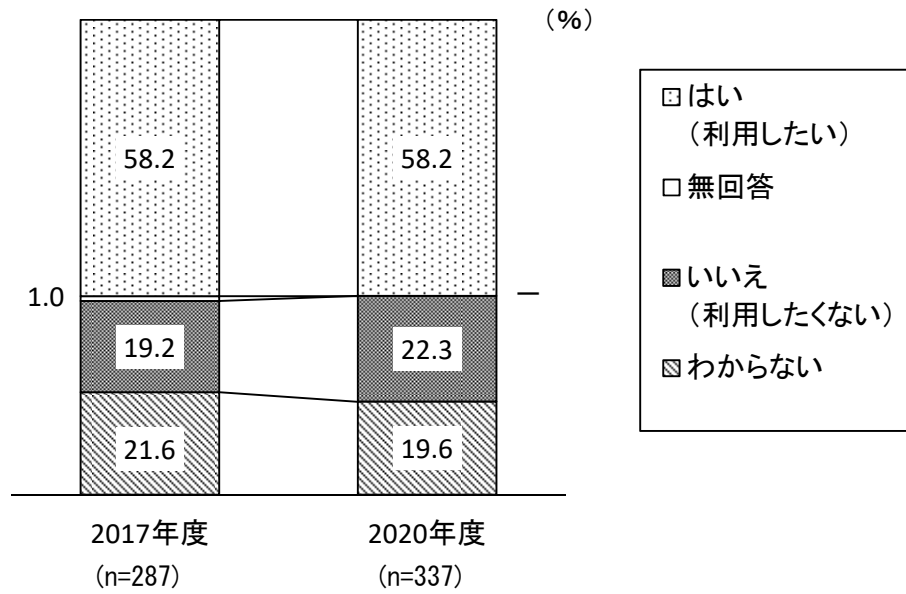


図 3-37 【経年比較】放課後等デイサービスの利用意向



放課後等デイサービスの利用意向を経年比較でみると、大きな差異はみられない。

3.7.1. 放課後等デイサービスを利用したくない理由

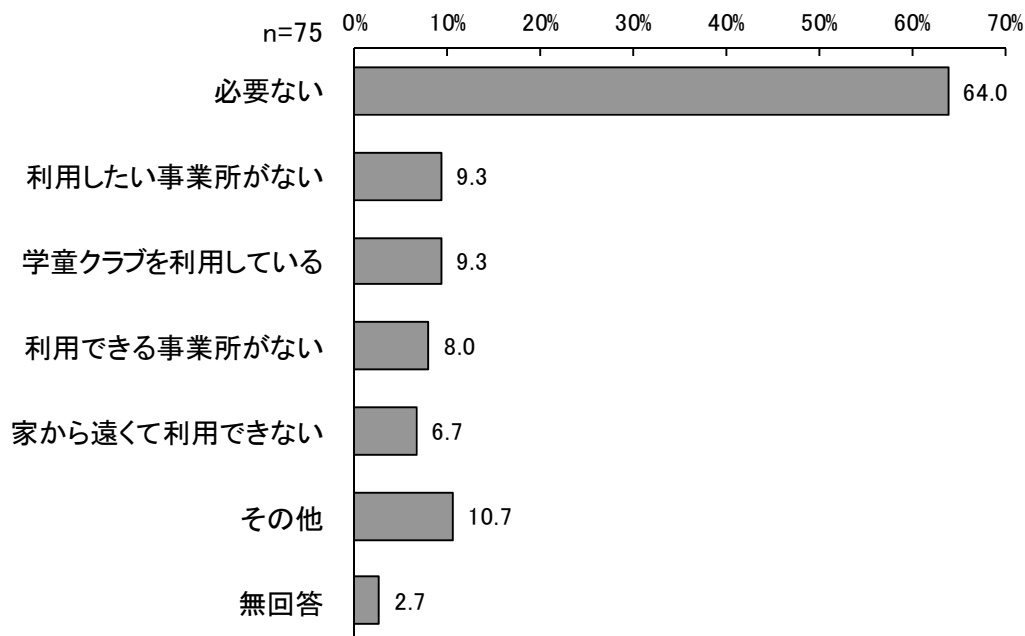
◆放課後等デイサービスを利用したくない理由は「必要ない」が6割台半ば

（問13で「2. いいえ」とお答えの方に）

問13-1. 放課後等デイサービスを利用したくない理由はどのようなことですか。

（あてはまるものすべてに○）

図3-38 放課後等デイサービスを利用したくない理由



放課後等デイサービスを利用したくない理由は、「必要ない」が最も高く、次いで「利用したい事業所がない」「学童クラブを利用している」「利用できる事業所がない」となっている。

3.7.2 区外の事業所を利用している理由

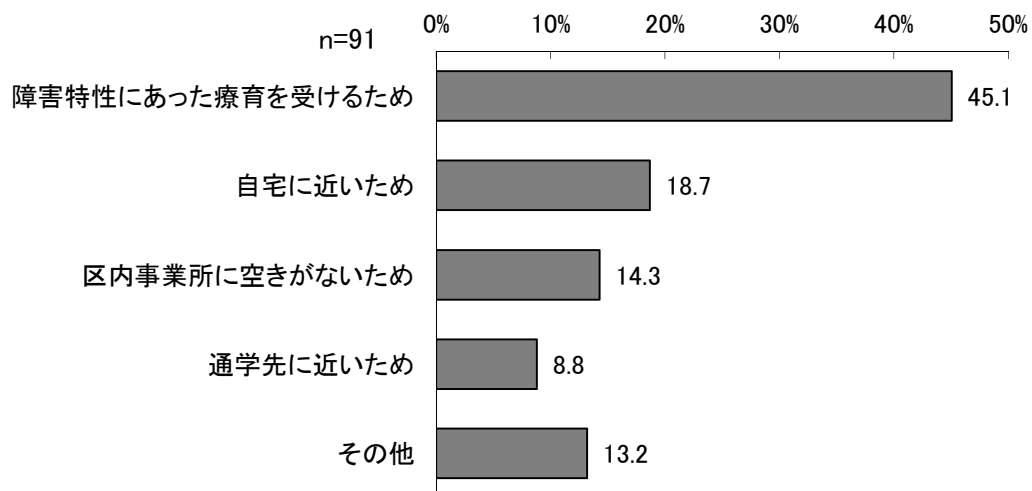
◆区外の事業所を利用している理由は「障害特性にあった療育を受けるため」が4割台半ば

（区外の児童発達支援や放課後等デイサービス事業所を利用している方に）

問 14 区外の児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所を利用している方にお尋ねします。
区外の事業所を利用している理由はどのようなことですか。

（あてはまるものすべてに○）

図 3-39 区外の事業所を利用している理由



※無回答者を除く集計

区外の事業所を利用している理由は、「障害特性にあった療育を受けるため」が最も高く、次いで「自宅に近いため」「区内事業所に空きがないため」となっている。

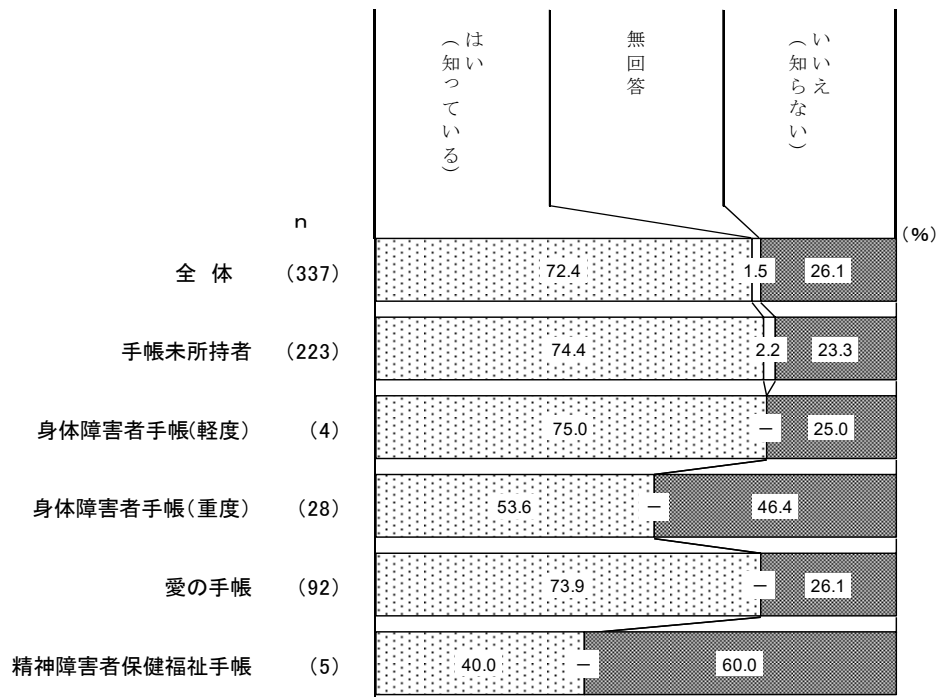
3. 8. 保育所等訪問支援の認知度

◆保育所等訪問支援を「知っている」方は7割台前半

（全員の方に）

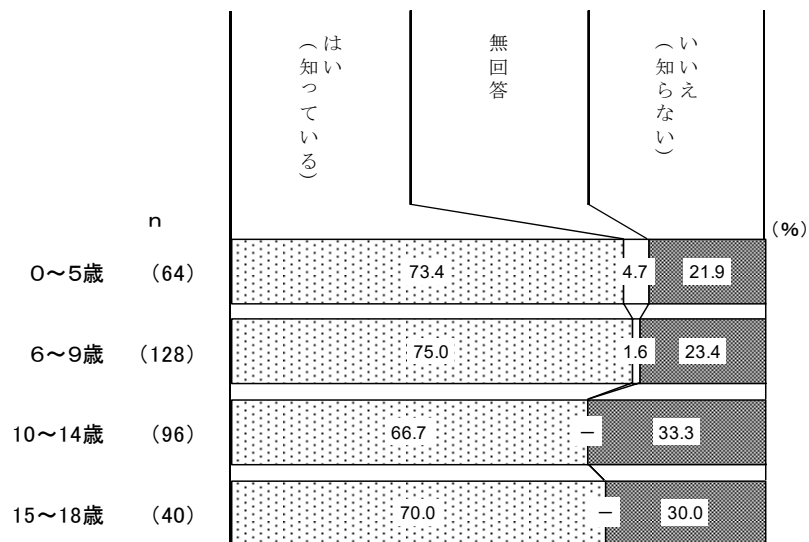
問 15. 保育所等訪問支援を知っていますか。（○は1つ）

図 3-40 【所持手帳別】保育所等訪問支援の認知度

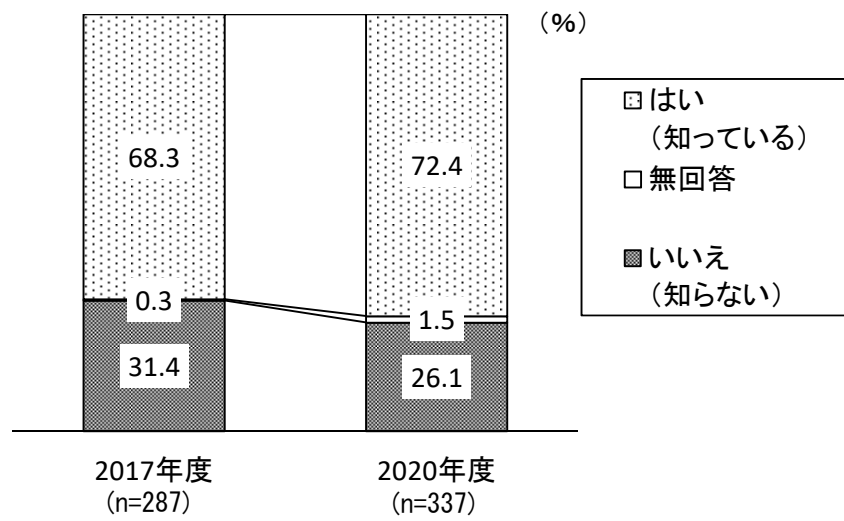


保育所等訪問支援の認知度は、「はい（知っている）」が7割台前半と高くなっている。

問 3-41 【年齢別】保育所等訪問支援の認知度



問 3-42 【経年比較】保育所等訪問支援の認知度



保育所等訪問支援の認知度を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ、「はい (知っている)」が4.1ポイント増加し、「いいえ (知らない)」が5.3ポイント減少している。

3.9. 保育所等訪問支援の利用意向

◆保育所等訪問支援を今後「利用したい」方は5歳以下において約6割

（全員の方に）

問 16. 保育所等訪問支援を今後、利用したいですか。（○は1つ）

図 3-43 【所持手帳別】保育所等訪問支援の利用意向

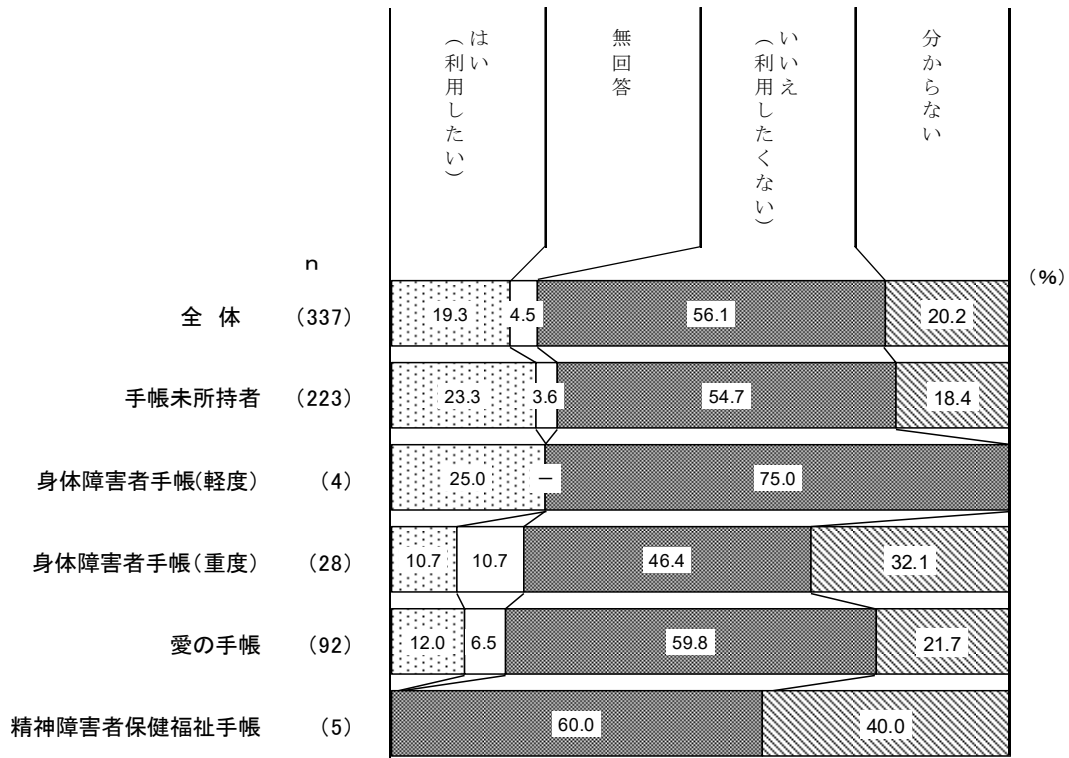
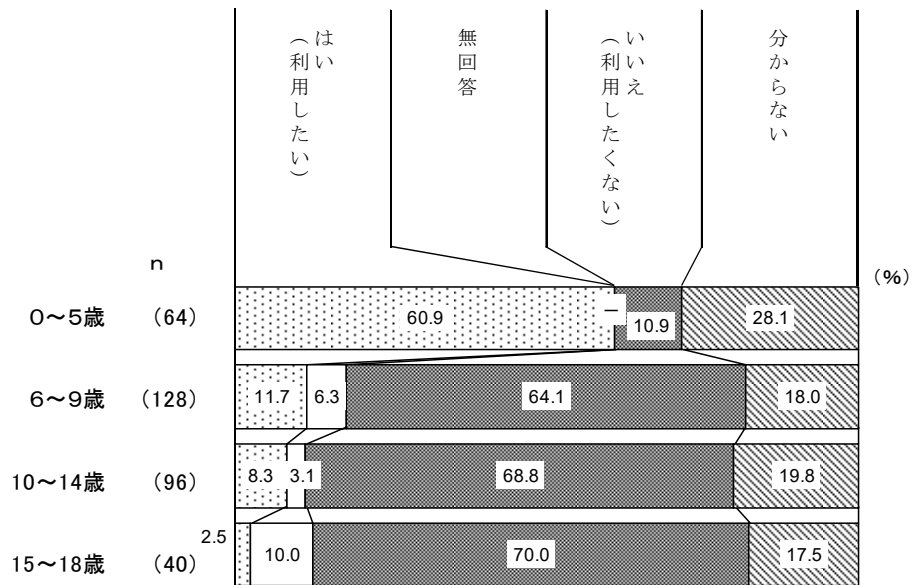
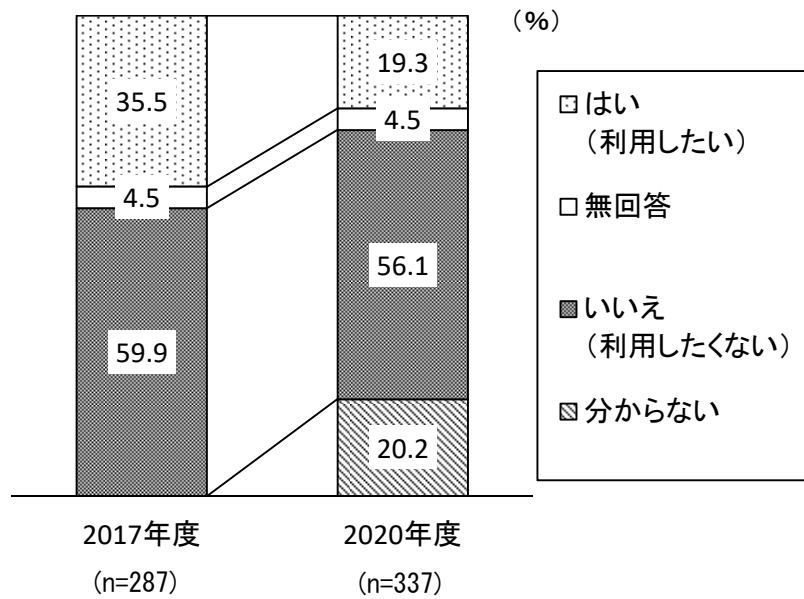


図 3-44 【年齢別】保育所等訪問支援の利用意向



保育所等訪問支援の利用意向は、5歳以下では「はい（利用したい）」が約6割と高くなっている。

図 3-45 【経年比較】保育所等訪問支援の利用意向



保育所等訪問支援の利用意向を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ、「はい(利用したい)」が16.2ポイント減少し、「いいえ (利用したくない)」が3.8ポイント減少している。

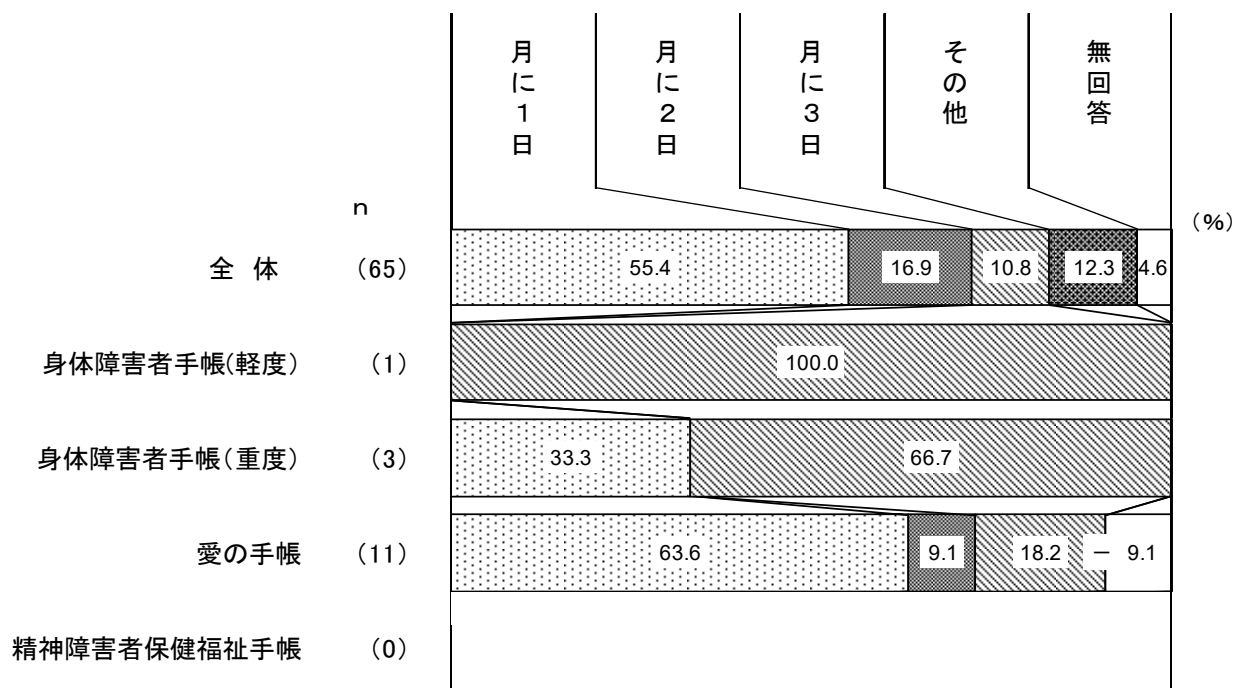
3.9.1. 保育所等訪問支援の希望利用日数

◆保育所等訪問支援の希望利用日数は「月に1日」が5割台半ば

(問16で「1. はい」とお答えの方に)

問16-1. 保育所等訪問支援を、どの程度利用したいですか。(〇は1つ)

図3-46 【所持手帳別】保育所等訪問支援の希望利用日数



保育所等訪問支援の希望利用日数は、「月に1日」が5割台半ばと最も高くなっている。

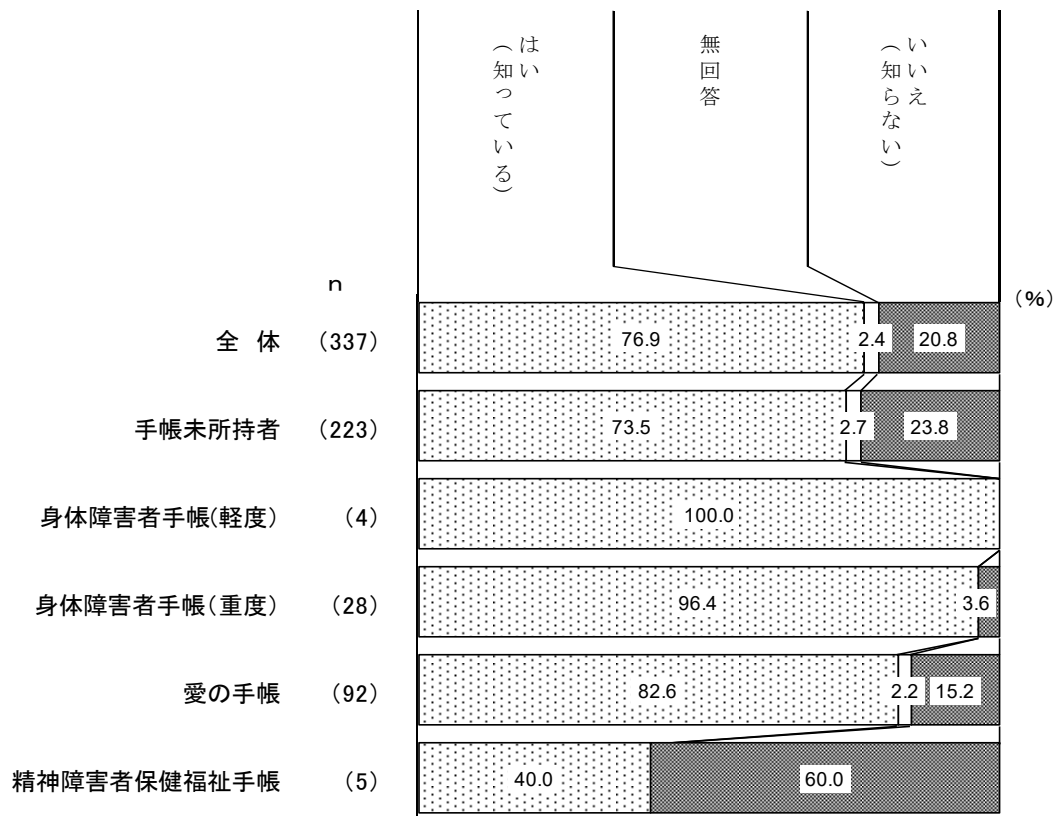
3. 10. 障害児相談支援の認知度

◆障害児相談支援を「知っている」方は7割台半ば

（全員の方に）

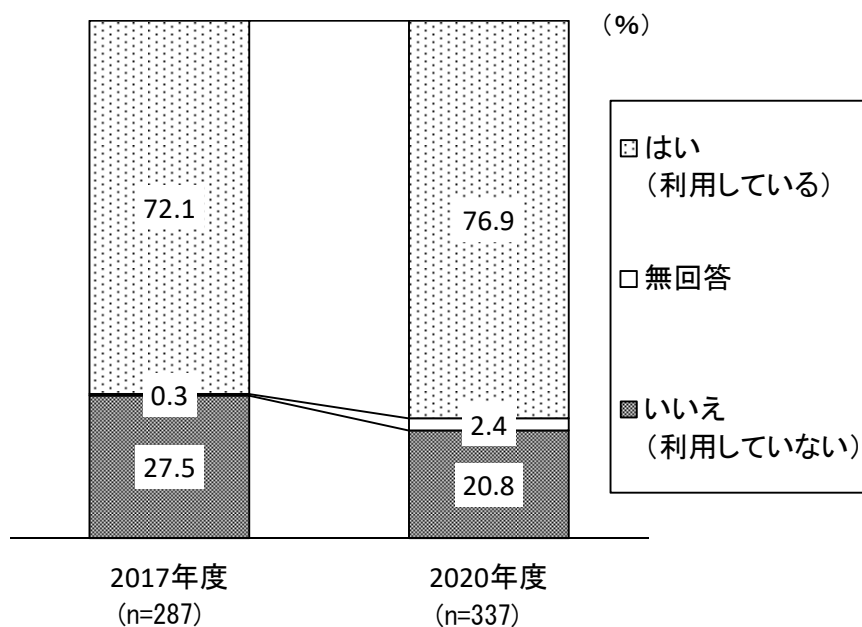
問 17. 障害児相談支援を知っていますか。（○は1つ）

図 3-47 【所持手帳別】障害児相談支援の認知度



障害児相談支援の認知度は、「はい（知っている）」が7割台半ばとなっている。

図 3-48 【経年比較】障害児相談支援の認知度



障害児相談支援の認知度を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ、「はい (利用している)」が4.8ポイント増加し、「いいえ (利用していない)」が6.7ポイント減少している。

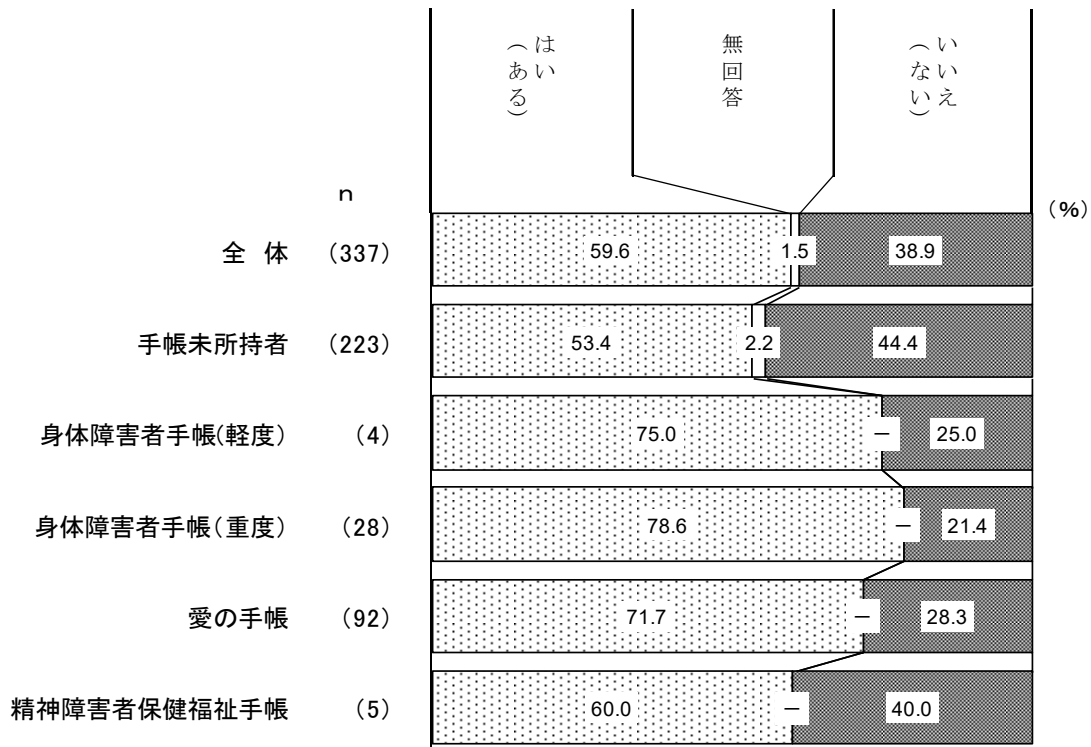
3.11. 障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用の有無

◆障害児相談支援（障害児相談支援事業所）を利用したことが「ある」方は約6割

（全員の方に）

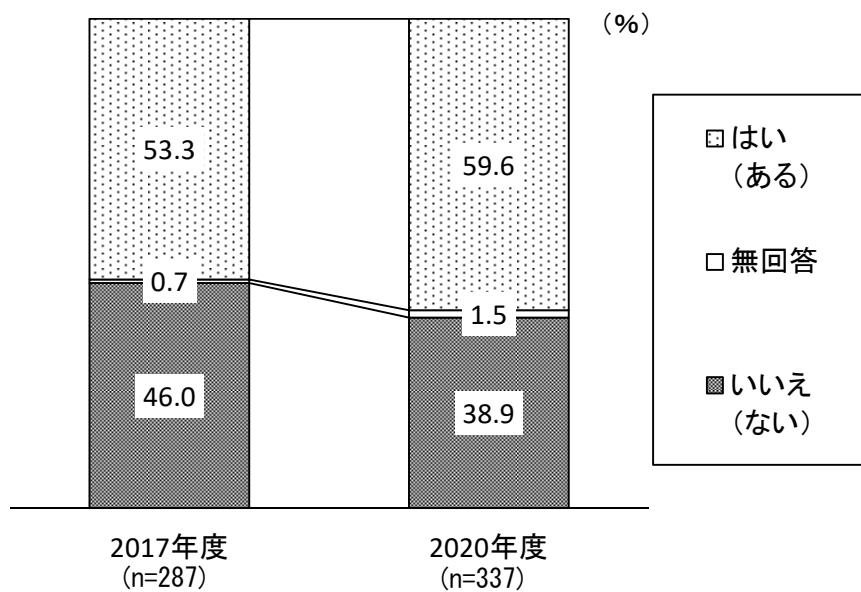
問 18. 障害児相談支援（障害児相談支援事業所）を利用したことがありますか。（○は1つ）

図 3-49 【所持手帳別】障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用の有無



障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用の有無は、「はい（ある）」が約6割となっている。

図 3-50 【経年比較】障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用の有無



障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用の有無を経年比較でみると、2020 年度は 2017 年度と比べ「はい（ある）」が 6.3 ポイント増加し、「いいえ（ない）」が 7.1 ポイント減少している。

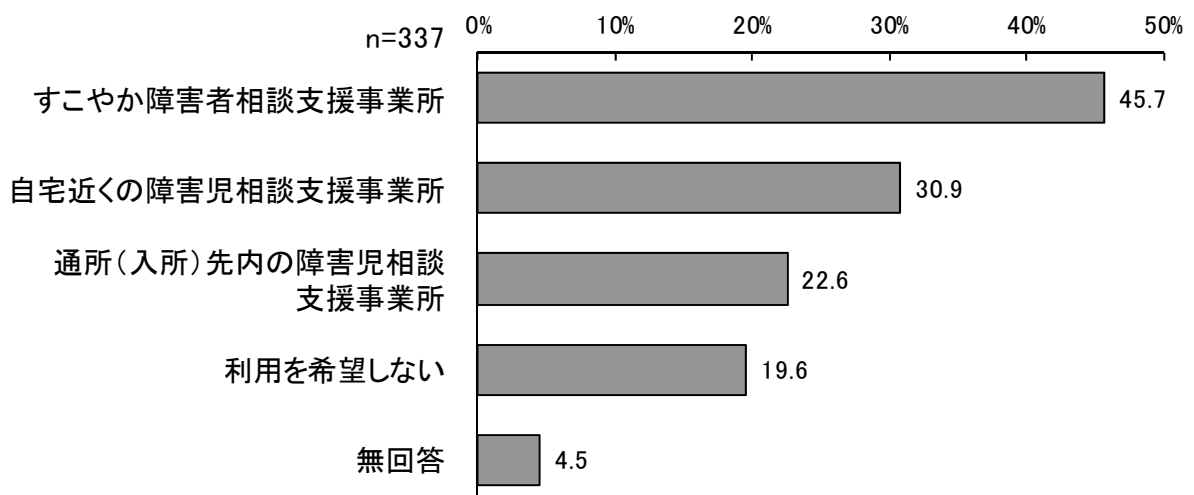
3. 12. 障害児相談支援事業所の利用希望

◆利用を希望する障害児相談支援事業所は「すこやか障害者相談支援事業所」が4割台半ば

(全員の方に)

問 19. 障害児支援利用計画を作成する際には、どこの障害児相談支援事業所の利用を希望しますか。
(あてはまるものすべてに○)

図 3-51 【所持手帳別】障害児相談支援事業所の利用希望



障害児支援利用計画を作成する際、利用を希望する障害児相談支援事業所は、「すこやか障害者相談支援事業所」が高くなっており、次いで「自宅近くの障害児相談支援事業所」「通所(入所)先内の障害児相談支援事業所」となっている。

図 3-52 【所持手帳別】上位 5 項目 障害児相談支援事業所の利用希望

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=4	すこやか障害者相談支援事業所/通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 50.0	自宅近くの障害児相談支援事業所/利用を希望しない 25.0	—	—	—
身体障害者手帳(重度) n=28	すこやか障害者相談支援事業所 67.9	自宅近くの障害児相談支援事業所 39.3	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 32.1	利用を希望しない 10.7	—
愛の手帳 n=92	すこやか障害者相談支援事業所 50.0	自宅近くの障害児相談支援事業所 41.3	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 22.8	利用を希望しない 6.5	—
精神障害者保健福祉手帳 n=5	すこやか障害者相談支援事業所 80.0	自宅近くの障害児相談支援事業所 20.0	—	—	—

図 3-53 【経年比較】上位 5 項目 障害児相談支援事業所の利用希望

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=337	すこやか障害 者相談支援事 業所 45.7	自宅近くの障 害児相談支援 事業所 30.9	通所(入所)先 内の障害児相 談支援事業所 22.6	利用を希望し ない 19.6	—
2017年度 n=287	すこやか障害 者相談支援事 業所 38.7	自宅近くの障 害児相談支援 事業所 35.5	通所(入所)先 内の障害児相 談支援事業所 24.4	利用を希望し ない 18.1	—

障害児相談支援事業所の利用希望を経年比較でみると、2020 年度と 2017 年度では項目の順位は変化していない。

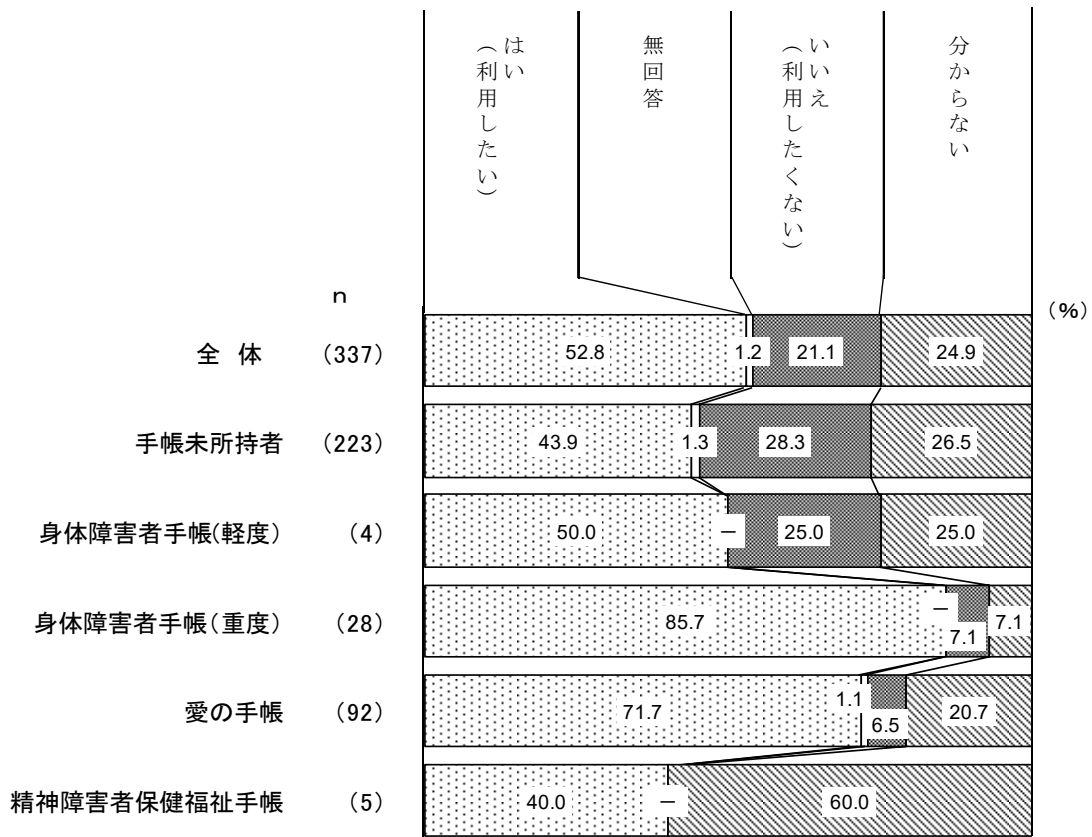
3. 13. 障害児相談支援の利用意向

◆障害児相談支援を今後「利用したい」方は5割台前半

(全員の方に)

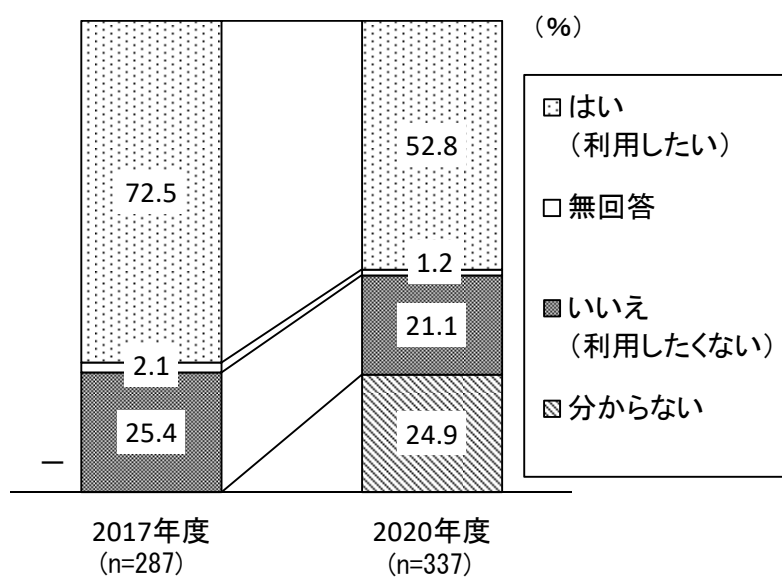
問 20. 障害児相談支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

図 3-54 【所持手帳別】障害児相談支援の利用意向



障害児相談支援の利用意向は、「はい (利用したい)」が5割台前半となっている。

図 3-55 【経年比較】障害児相談支援の利用意向



※2017年度は「分からない」の選択肢はなし

障害児相談支援の利用意向を経年比較でみると、2020年度は2017年度と比べ「はい（利用したい）」が19.7ポイント、「いいえ（利用したくない）」が4.3ポイント減少している。

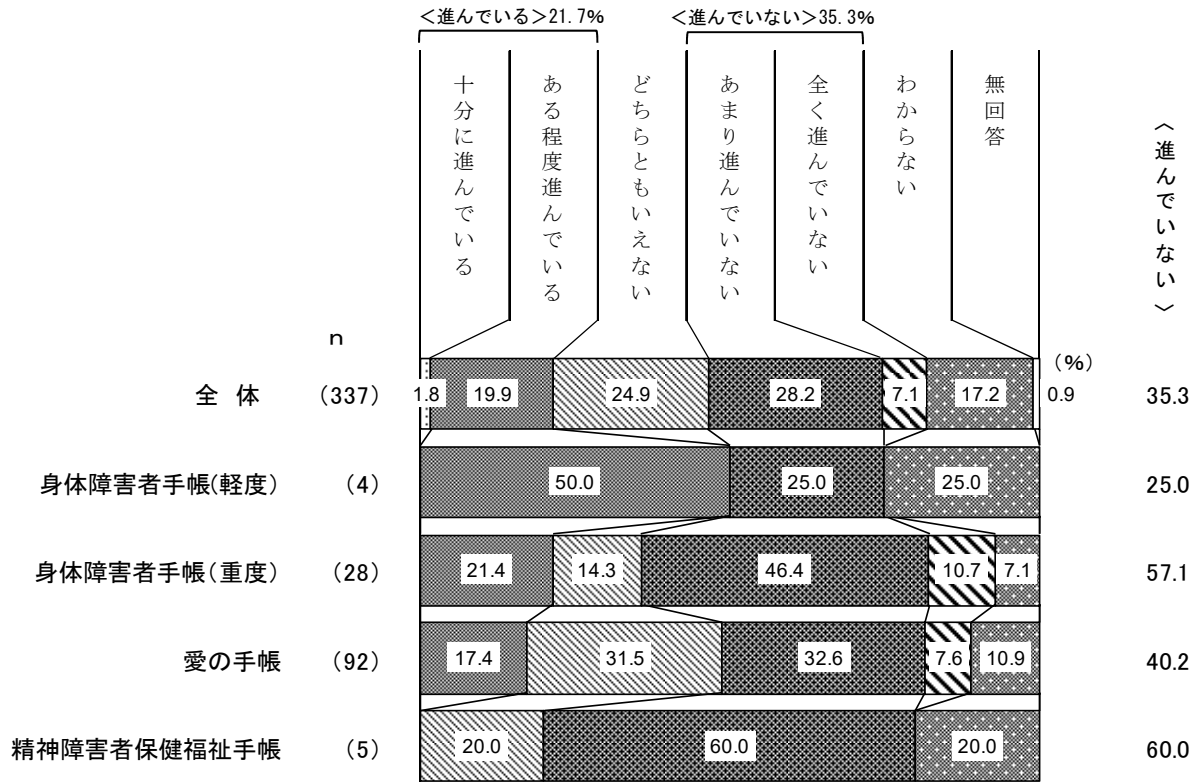
3.14. 障害児に対する地域の理解

◆障害児に対する地域の理解は、＜進んでいない＞が３割台半ば

（全員の方に）

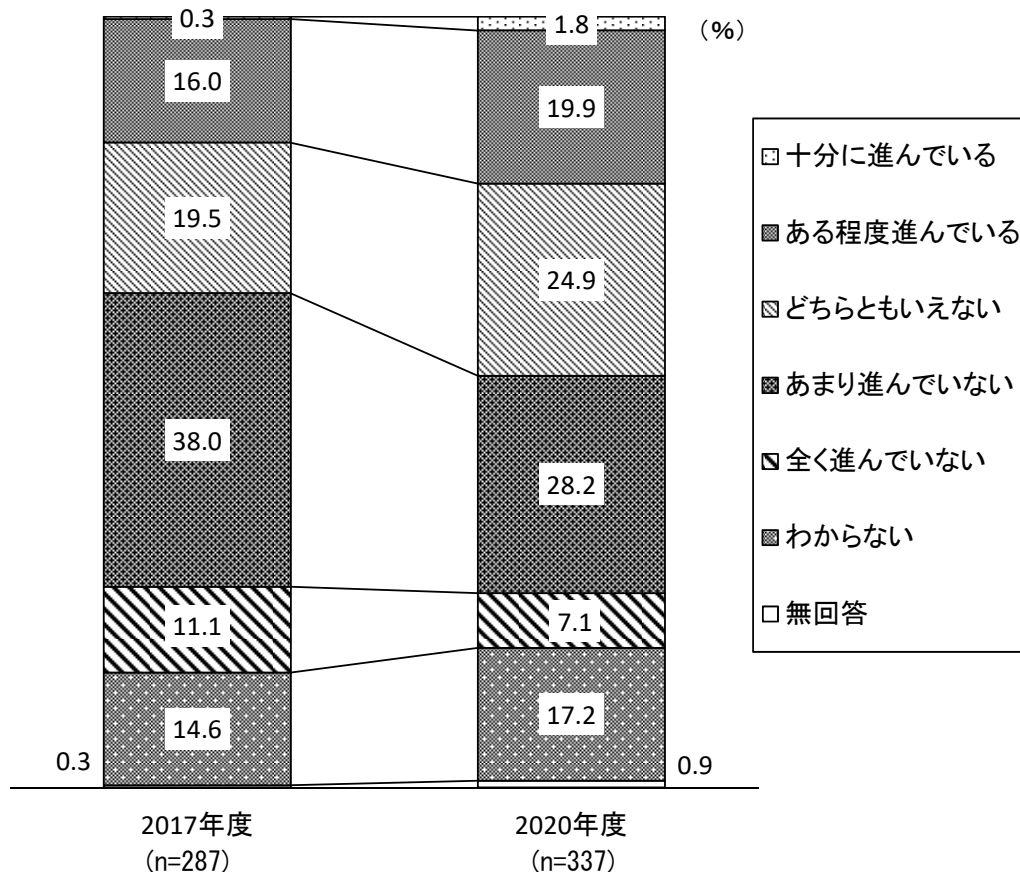
問 21. 障害児に対する地域の理解はどの程度進んでいると思いますか。

図 3-56 【所持手帳別】障害児に対する地域の理解



障害児に対する地域の理解は、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」を合わせた＜進んでいない＞が３割台半ばとなっている。

図 3-57 【経年比較】障害児に対する地域の理解



障害児に対する地域の理解を経年比較でみると、2020 年度は 2017 年度と比べ、「十分に進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合合わせた＜進んでいる＞の割合は 5.4 ポイント増加し、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」を合わせた＜進んでいない＞の割合は 13.8 ポイント減少している。

3. 15. 充実してほしい施策・サービス

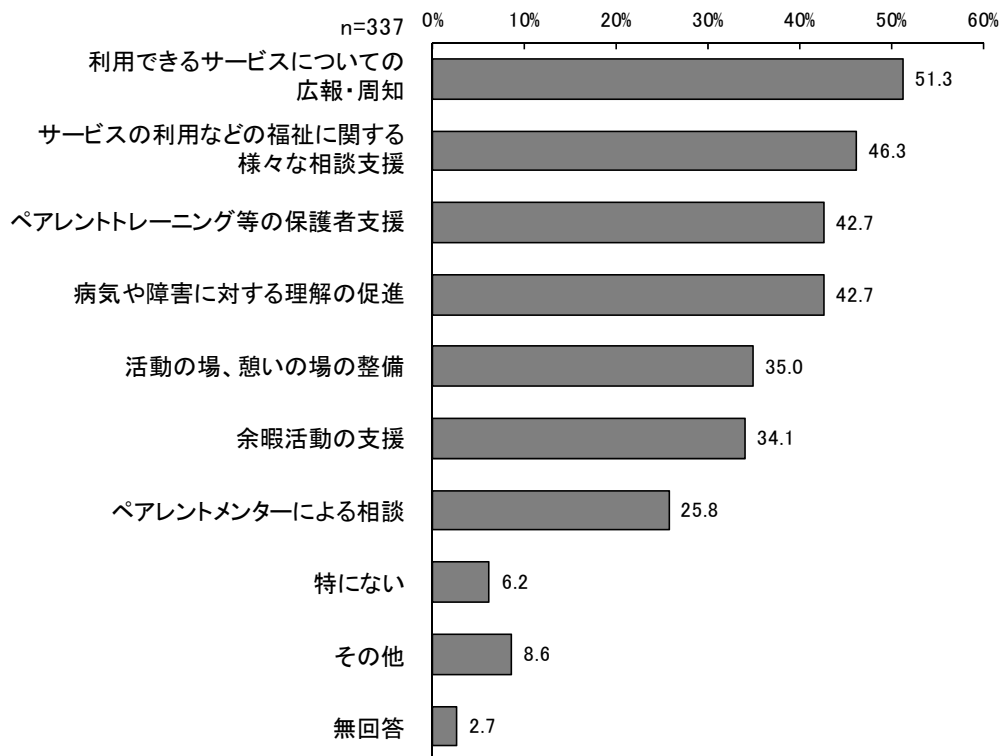
◆充実してほしい施策は「利用できるサービスについての広報・周知」が約5割

（全員の方に）

問 22. 次の施策・サービスなど、特に充実してほしいと思うものはどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

図 3-58 充実してほしい施策・サービス



充実してほしい施策は、「利用できるサービスについての広報・周知」が高くなっており、次いで「サービスの利用などの福祉に関する様々な相談支援」「ペアレントトレーニング等の保護者支援」「病気や障害に対する理解の促進」となっている。

図 3-59 【経年比較】上位5項目 充実してほしい施策・サービス

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2020年度 n=337	利用できるサービスについての 広報・周知 51.3	サービスの利用などの福祉に 関する様々な 相談支援 46.3	ペアレントトレーニング等の保護 者支援/病気や障害に対する理 解の促進 42.7	活動の場、憩い の場の整備 35.0	
2017年度 n=287	利用できるサービスについての 広報・周知 55.7	ペアレントトレーニング等の保護 者支援 54.0	サービスの利用などの福祉に 関する様々な 相談支援 52.6	病気や障害に 対する理解の 促進 50.9	活動の場、憩い の場の整備 38.3

充実して欲しい施策・サービスを経年比較でみると、2020年度と2017年度ともに「利用できるサービスについての広報・周知」が最も高くなっている。

4. 自由回答

4.1. 日常生活で困っていること

（全員の方に）

問 23. 日常生活や就園・就学・進路・就職等で困っていることがありましたら、ご自由にお書きください。

日常生活や就園・就学・進路・就職等で困っていることについて、要望や意見を自由に記入していただいたところ、152 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

子どもの障害の状態について 12 件

- 正直、親の目から見れば、「もうふつう（問題行動等はない）かな」と思いますが、教師や他人の目から見たらどうだろうか、という不安は常にあります。私はそれほど「皆と同じ」に重きを置いていませんが、娘も私と同じ位強い心で「同じじゃなくて平気」と言えるか、今後が心配です。あとは人との距離間の近い子なので、そこからトラブルにならないかが不安です。（女性/年齢 5～9 歳）
- 子の年齢が上がるにつれ、子どもとの接し方や関わり方に不安があったり、イライラがあったりします。周りの子と比べていけないことはわかっているつもりでも、比べてしまったり…。親としての在り方だったり、同じような経験をされた方との話ができる場がもっとあると嬉しいです。（男性/年齢 5～9 歳）

子どもの進路・学校生活について 38 件

- 中学 2～3 年生時に通級指導教室に行っていました。4 月から高校生になりましたが、高校にそういった相談ができるか、もしくは区へ相談できるかわからないので、そこが不安に思う所があります。まだ学校生活も始まらないし、学校生活についても不安があります。（-/年齢 15～19 歳）
- 中学進学について支援級を検討しているが、地域の中学の情報が少ない。人数、男女比、授業内容などもっと公開してほしい。（女性/年齢 10～14 歳）
- 就学時の相談が気軽に出来るよう、例えば先輩ママとの懇談会等出来れば良いと思います。（女性/年齢 10～14 歳）
- 現在、中野区子ども発達センターたんぽぽに通っているが、通園人数が飽和状態のため頻度が少ない。仕方なく他区の児童発達と併用しているが、本来なら 1 ヶ所ですむようにしてほしい。年齢的に、幼稚園や保育園に通うことも視野にのりたいが、障害があるため、現実的には不可能な状態を解消してほしい。（男性/年齢 0～4 歳）
- 進路について、早い段階で情報を得られると嬉しい。直接、施設に見学を申し込む…等の前に、中野区ではどういう選択肢があるのか、HP 等で見ることでできると早めに心の準備ができるので助かる。（現在年少児だが、小学校の進学について、早めに情報収集したいがどうしてもいいのかわからないため）（男性/年齢 0～4 歳）
- この 4 月から小学校へ入学しました。特別支援学級か普通級で迷い、たくさんの方々と相談の結果（本人の希望も受け入れ）普通級にしましたが、今後ももし支障をきたすようなことがあればご相談させて頂きたいです。（男性/年齢 5～9 歳）
- 未来が見えないので、何をどこに相談してよいかわからない。未来のパターンがわかれば今やるべきことがわかりそうだけど、未来のパターンがわからないので、どうしたものか…。何に悩んでもわからないまま、出遅れている気がする。（男性/年齢 5～9 歳）
- 自分に（親）何かあった時にその先の過ごし方。どんな所に就職できるのか、また自分のお金の管理など、これから先、大人になった時のことがとても心配です。（男性/年齢 5～9 歳）

サービスの利用について

15 件

- 放課後デイサービスを今後は週の回数を増やしていきたいが、希望する施設では希望回数が取れなさそうだったり、待機が発生する等入所しにくい現状があり、控えめな希望しか依頼できない状況がある。また渡される通所一覧が見にくいので WEB 上でまとめて地図配置、内容を絞り込めたら助かります。(女性/年齢 5～9 歳)
- 児童発達支援を利用しているが、子どもの日常生活で困っていることの改善を目指した支援が受けられない。就園や就学に向けてどのようなサービスが受けられるのかわかりにくい。(男性/年齢 0～4 歳)
- 児童発達支援の通所と訪問の両方の利用を希望。通所型の児童発達支援を利用しています。しかし体調に波があり休みがちで十分に利用出来ていません。訪問型の児童発達支援もあると知り問い合わせましたが、中野区は通所と訪問の両方の利用は不可とのこと。訪問になるとかわいがって下さるたくさんの職員さんやお友達との交流がゼロになってしまいますので訪問の利用は諦めました。気管切開や呼吸器等の重度の医療ケアがなくても中々通所出来ない子どもはたくさんいます。通所をすることで体力を使い疲れて体調を崩しやすいので例えば、発熱や風邪の症状がはっきりと出ていなくても通所はやめておきたいが自宅なら何かしらの療育を受けられるという子どももいます。どちらかではなく、どちらも利用出来るようなことを強く望みます。通所の枠を増やしてほしいです。健康な子どもと同様に週 5 で通えるような施設が増えることを希望します。南部に出来ると有難いです。(男性/年齢 0～4 歳)
- いつもお世話になっております。今困っていることは、今年度 6 年生になり（現在学童を利用していますが）、来年中学生になったらどこに預かっていただけるのか、情報がありません。会社員で、どうしてもお迎えに行けるのが 19:30 頃になっております。また、家でひとりにはさせられませんが、学童を卒業したらみな様はどうされているのでしょうか？ご相談させていただきたい場合どちらにご連絡をしたらよろしいですか。どうぞよろしくお願いいたします。(男性/年齢 10～14 歳)
- 日常生活で毎日困っているが、親が働かざるをえない環境で放課後デイサービスに通わせるのが難しい。他区のように放課後等デイサービスに移動支援を使えるようにしてほしいです。(男性/年齢 5～9 歳)

就労支援について

9 件

- 地域の企業就労を希望していますが、特例子会社など受入先や求人がほとんど無く、進路の選択ができません。福祉作業所の工賃はあまりに低すぎます。親亡き後、我が子はどう生活していくのか心配でなりません。(女性/年齢 15～19 歳)
- 特別支援学校の卒業後の進路先があるか不安。(生活介護事業所の利用枠が少ない) 充実した社会人生活をおくれるか。18 才以降、放課後等デイサービスのようなものがなくなる。保護者の高齢化、祖父母の介護とのダブル介護が必要となった場合、障害者の生活が成り立つのか。男性ヘルパーが少ない中、居宅介護移動支援などのサービスが受けられるのか。いざという時に短期入所（ショートステイ）が利用出来ると思えない（たとえ医療的ケアがなくても安心して利用出来る施設がない。利用可能な施設が少なすぎる）(男性/年齢 10～14 歳)
- 高校生なので就労のことが気になります。企業就労の場合、新宿周辺ならいいのですが、東京駅や品川駅あたりでは通勤が心配です。家から通いやすい中野区内に就労場所があると良いのですが…企業はもちろん、商店街や公共施設等に。(男性/年齢 15～19 歳)
- IQ が (WISKⅢ) 100 程度あるが、本人の言語、発達は遅れているので、今後どのように自立に向けて動いて良いかわからない。(特に、高校卒業後) (男性/年齢 5～9 歳)

障害児の居場所・活動の場について

6 件

- 外見からは判断できない障害なので、理解のない人からの視線が辛いです。公園、児童館等も、幼

少期より、多くの疎外感をうけてきました。なので、障害者通所施設内に、公園とまでは行かずとも、遊具等があると助かります。また、アポロのおもちゃ貸し出しを利用してみたいですが、自宅からは遠く利用できませんでした。区役所内、すこやかなど、様々な場所での貸し出しがあるといいのになと思います。(ネットで予約して、区役所等で受け渡しなど) (女性/年齢 5～9歳)

- 就職(卒後)したあとの余暇活動などが充実するとうれしいです。夕方支援や休日に利用できる場が欲しいです。(男性/年齢 15～19歳)
- 体を動かす機会が少ないので、障害児が体を動かす支援があるといいです。スイミングスクールや体操教室など健常のお子さん向けの習い事はいくつもありますが、障害児向けの教室はありません。児童発達支援の施設に通っていた頃は運動の量や質の向上を何度も要望しましたが、期待通りではありませんでした。体力が有り余っている様子なので公園で遊ばせても、危険な行為をしたり他のお子さんの迷惑になったりと難しかったです。体操教室にも入会しましたが、親が付きっきりでないと指示に従えず、親子共に負担になりやめました。障害のある子供に運動させるのはとても難しいですが、少しでも楽しいと思えるような事から始めて、将来の余暇に繋がるような運動支援を是非考えていただけたらと思います。(男性/年齢 5～9歳)

障害への理解について

9件

- 以前認可保育園に通っていたが、発達の遅れがある娘に対して集団生活を乱しているという理由で短時間の保育にするよう園長、担任、看護師の面談があった。親として我が子の発達の遅れについてショックや今後への不安が募る中、保育園から寄り添う姿勢ではなく冷たい対応でした。どこの保育園でも障害、遅れがある子に対しての適切な対応、保護者の気持ちを理解出来るよう園に対しての研修をしていただきたい。役所の担当の方にはお伝えし、親身に聞いていただきました。(女性/年齢 0～4歳)
- 子供がこだわりが強く日常生活でも困っているがどうしたら良いのかもわかりません。外でも困る事が多く見た目が健常児と、区別がつかなく、困っている事をしても親の教育が悪いと言われてしまいます。(男性/年齢 5～9歳)
- 障害児との交流ふれあいが区内で差があると感じます。支援校や支援級と交流がある子供達は、目にふれ一緒に過ごす、障害児に対する見かたや態度が変化しますが、その機会が無く過ごし大人になると、どうして良いかわからずさける怖いと思うようになります。道徳や公開授業等で親子含め障害に対する教育の場を持ち、偏見の無い関わりかたを学ぶ場を持って欲しいです。(男性/年齢 5～9歳)

相談体制・情報提供について

15件

- 書字等で配慮が必要で学校では対応していただいておりますが、毎年担任の先生が変更になる度、自費で診断書を取っています。発達障害の診断等ができる病院が近くに無く、そういった病院の紹介をしていただけると助かります。学校にカウンセラーの先生がおられるのは存じておりますが、利用しづらいです。本人にも発達障害のことをはっきりとは告知しておらず、あまり周囲に知られたくない、という事があります。(男/年齢 10～14歳)
- ゆめなりあに通所していたがだいぶ成長したので卒所したところ、日常の生活で少し気になった子どもの行動やふるまい、言葉について悩んだときに、気軽に相談し助言をもらえる場がなくなってしまった。通所するほどでもないけれどコミュニケーションに難しさがある軽度の子どもがアドバイスをもらえる場が学校などにほしい。(男性/年齢 -)
- 必要な情報を一元的に手に入れられる窓口が無い、あっちこっちを探しまわらなければならないので、総合窓口を作してほしい。(男性/年齢 10～14歳)
- 今後高校や大学へ進学したり、就職するにあたり、私たちのような医療機関未受診、手帳等も持っていない、比較的軽度の発達障害や発達の遅れがある者については、支援や相談機関がなくなってしまうことを不安に感じています。放課後等デイサービスも利用出来ることを知らなかったのも、

制度の利用や周知を積極的にもっとわかりやすくしていただけると有難いです。(男性/年齢 10～14 歳)

- 就学に対して相談したいが、ホームページの告知等探しづらい（口コミや知り合いの情報がないと出遅れる）。運動療育の施設が少ないし、枠がいっぱいで入れない。放課後デイや学童の説明を詳しく聞きたいが分からない。(男性/年齢 5～9 歳)
- 今までもずっと訴えてきましたが、いまいち「すこやかセンター」の立場がよく分からないです。本庁の障害福祉課からもすこやかからも通所先の相談支援事業所からも同じような聞きとり調査があったりして、2度3度と同じような内容を話さなければいけないことがある。(受給者証の更新時等) 窓口の役割の明確化、一本化、機能の重複化がないか、今一度に直しをして欲しい。(男性/年齢 5～9 歳)
- どんなサービス・相談が可能なのか、分からず、どこでその情報を得ればいいのかも分からない。(男性/年齢 5～9 歳)

保護者の負担軽減・支援 6 件

- ゆめなりあやたんぼ等に親が働いていても通園できる様にして頂きたいです。(男性/年齢 0～4 歳)
- 特に未就学児ですが、障害児を育てながら就労することが難しいという声をよく聞きます。療育センターは受け入れ時間が短く、一時保護を利用したとしても就労は利用の理由として認めていただけない上に、回数制限があります。高い能力があるにもかかわらず就労できずにいる方を多数知っています。就学後も、長期休暇の期間はデイサービスの受け入れ時間が短くなってしまうため、正社員として働き続けることが困難です。私自身もこれらを理由に正社員から外れ、パート勤務となりました。障害児を育てながらも働き続ける権利はあると思います。障害児をかかえて働けなくなった方が復職できるような体制づくりを早急に整備していただきたいと思います。(男性/年齢 5～9 歳)
- 急に暴れ出すなどの行動で、親も手に負えないことがあります。緊急的に保護してくれる施設があれば親のメンタル面での安心材料になります。コロナによる休校、特に通級の休止で非常に不安定になり、母子共に疲れ果てています。オンラインによる面談指導が受けられればたいへん助かります。(男性/年齢 5～9 歳)

療育・教育環境について 27 件

- 今のところは特にありません。学校内でいじめにあうことがあったので、障害児とはいかないまでも、少し人と違うことに対しての理解教育をもう少し具体的に小学校からやるべきだと思う。(例) 区の職員がゲストティーチャーでやるなど、今の小学校の先生は若い人が多く、そこまで手が回っていないように思うため。(女性/年齢 20 歳以上)
- 就学（小学校入学時）に保育園、アポロと小学校との連携をしてくださった時に保護者も一緒に参加すべきだと思う。ましてやアポロ、ゆめなりやからの引きつぎ（連携）は紙面でしていると聞きびっくりした。本当に子供の事を考えて下さっているのか不安を覚えた。入学して 2～3 日もたたないうちから担任の先生から色々と精神的に傷付く事を言われ今もトラウマになっている。いったい連携で何を聞いているのか、子供の何を知っているのか…事細かに知っているアポロ園の療育の先生からもっと子供について聞いて欲しかったです。中野区の教育委員会に話を通して欲しく連絡してもとりあってもらえず残念でならない。なので子供教育とか発達支援とかうわべだけのすこやかとか取り組みうんざりです。期待もしてません。(担当のコロコロ変わりよけいに不安…)(女性/年齢 5～9 歳)
- 学校の教職員が特性を把握していない(すこやかからの申し送りを知らなかった等)(女性/年齢 5～9 歳)
- アポロ園に月 2 回通っており、保育園への巡回指導もお願いしているが、園側が積極的ではない。

巡回後のフィードバックもされない事もあった。「子供本人が今そんなに困っていないから」というスタンスでは巡回をお願いしている意味がない。園側への指導も区として行ってもらいたい。1番重要なのは子供の先を見据えた指導だと思います。(男性/年齢 0～4歳)

その他 15件

- 幼稚園を卒業した昨年度まで、ゆめなりあの発達支援プログラムでお世話になりました。コロナ禍で小学校通学はまだできていない状態ですが今後また必要がありましたらお世話になりたいと思います。(女性/年齢 5～9歳)
- 障害のある子が通える塾が少ない、あっても高額で利用が難しい。利用を考えるとときに塾に行けない事で可能性をあきらめる場合がある。(男性/年齢 10～14歳)
- 学校の先生、通級の先生に大変お世話になっております。とても親身になっていただいております。すこやかセンターの方ともお話しさせていただいて今は安心して過ごさせていただいております。(男性/年齢 10～14歳)
- 外出先でオムツ交換したくても、ベビーベッド簡易的な物しかなく 14～16kg 制限ですし、大きさも小さく、現在 140cm17kg の子供が車イスから降ろしてオムツ交換ができるベッドが民間にも行政機関にもあまりにも無く、いつも困ってしまいます。スマイルなかのや区役所の多目的トイレにあるようなユニバーサルベッドが必要です。パラリンピック効果で増えるかと期待してましたが、変化なく残念です。(男性/年齢 15～19歳)

4. 2. 健康福祉行政全体への意見・要望

(全員の方に)

問 24. 健康福祉行政に関することや今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政に関することや今回の調査について、要望や意見を自由に記入していただいたところ、101 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

区の制度への要望について

27 件

- 障害児の親向けの講座の回数を増やしてほしい。親が自分で情報収集するのは重要だと思うが、区からもプッシュ型で情報提供してくれると嬉しい。気にしてくれていると安心することができる。(男性/年齢 0～4 歳)
- 相談してからアポロ園に通所するまで 4 か月かかりましたが長すぎると思います。相談するにも親としては様々な葛藤の末のことなので、もう少し手続きに時間がかからないようにしていただきたいです。(男性/年齢 0～4 歳)
- この行政に申すべきことが分かりませんが、公共交通機関の利用をもっと利用しやすくして下さい。鷺宮～都立家政在住の者にとって、とても不便で生活しづらい環境です。鷺宮中杉通りの歩道のせまさと、バス停を利用するも車イスの利用は困難、都立家政付近から車イスで中野まで行くには手段がとぼしく (JR に遠い) 移動の不便を生じています。他区のように小型バスを住宅街に通すなど、もっと住人にも障がい者にも生活しやすい地域づくりをとり入れて下さい。中野駅ばかりに力を入れず、中野区全体に目を向けて下さい。タクシー券の利用額を上げて欲しいです。これだけ不便な地域に暮らすとタクシーは必要不可欠なのをご理解ください。(男性/年齢 15～19 歳)
- 現在、移動支援事業の利用を検討しているが、学校、自宅～学童は可能だが、学校、自宅～放課後デイサービスの利用は不可のため、Q23 に書いた通り、送迎の枠も取れる日でないと、仮に放課後デイサービスに空きがあっても、親が就労している場合は利用する上で不都合がある。現在の制度は就労している親にとって利用しにくい。又、障がいがある子ども向けのスポーツ支援といったものも今後やっていただけるとありがたいです。(男性/年齢 5～9 歳)
- 親の就労を前提としたサービスがないのが困りました。0～1 歳当時、医療的ケアがあり、保育所の利用を断られてしまい、非常に生活にも困りました。また、健常の子と分け隔てられている感じにもイワカンを感じます。障害児用のサービスの拡充もよいですが、大前提として、ふつうの子ども利用できるサービスを利用できるようにしてほしいです。(男性/年齢 5～9 歳)
- 子供の福祉を積極的に教えてくださる方がいて欲しいです。(男性/年齢 5～9 歳)
- 発達支援のサービスを利用することをためらう保護者、利用希望者が多く待機状態が長くなってしまいう家庭、待っているうちに面倒になる保護者等、適切な支援を受けられない子どもがそれなりにいると思います。小学校から中学校と進むにつれてますます本人にとって辛い状況になると思われるので、子ども達の将来のために支援の必要な子が必要なサービスを受けられるよう本気で考えていくべきだと思います。(男性/年齢 5～9 歳)

支援体制の整備・充実

6 件

- 区役所もすこやかも子どもの障害福祉に関する興味、知識が低い。子どもにももっと目を向けてほしい。区内に通所リハビリを受けられる、療育相談ができる、装具を作ることができる病院が欲しい。在宅があたりまえとなり、医ケア児、障害児は増えているので、区として対応してほしい。区役所も子どものスペシャルチームを老人とは別に作るべきと思う。同じ障害でも老人と子どもは全く異なります。(女性/年齢 10～14 歳)
- 相談する際、子の前で発達障害の話をするのをすごくためらいます。もし別室等で聞いてもらえた

ら、変な形と言いますか、思ってもないことで子を傷付けずに色んなことを相談できるのになあ、と思ったことがあります。（うちの子が〇〇なんです、～もできないんです、と話すことが多いと思いますが、それを子に聞かせるのはなんだか気がすみません）（男性/年齢 0～4 歳）

- 小学校で通級指導を利用していました。3 年生の時の担任の先生のおかげでこちらにつなげて頂き、改善することができ、大変感謝しております。ただ、一番症状が出ていた 1～2 年生の担任の先生からは助言等一切なく、先生個々の知識の差だと分かりました。病気の理解度の向上は、地域の前に、先生等の専門の方への徹底をお願いしたいと思います。（男性/年齢 10～14 歳）

施設整備について

14 件

- 高等学校を卒業して作業所に通うようになった子どもの仕事終了後の余暇活動の場所が欲しい。一緒に夕飯作りをしたり、好きにリラックスできる施設があると良いと思っています。（女性/年齢 10～14 歳）
- 医療的ケア児者のショートステイ施設を作ってほしいです。放課後デイサービスが入れないので、移動支援を使うことが増えたが、居宅と移動支援をつけないとヘルパーも入らないので居宅も移動支援の利用によって増やしてほしい。レスパイトが出来ないので親が精神的にしんどいです。夏休みの放課後デイサービスが週 1 しか入れないので、家の事が全く出来ず困るので何とか改善してほしい。いつも同じような事を書いているのに改善されません。要望が届いていないのかと思ってしまいます。ポータブル電源、大容量のものは高額なので日常生活用具の助成に入れてほしいです。（女性/年齢 10～14 歳）
- 発達障害についてです。区外の民間の療育サービスを利用しています。具体的には、言語聴覚士、作業療法士、心理士の療育を月に 1 回 1 時間程度です。区のサービスで定期的な療育は出来なくても発達についての相談、指導、アドバイス、助言、カウンセラー的な事を教えてくれる専門の方がそれぞれいるとセカンドオピニオンのような利用も出来て助かるのではと考えます。入学前、園児の時まではそれも可能でしたが、小学生になってからはそれ（相談）もなくなり専門相談だけでもあればありがたいのになと感じました。ご検討いただけたら幸いです。（男性/年齢 5～9 歳）

就労支援について

2 件

- 現在子供は中学生でおかげ様で学校生活も、放課後もデイサービス等の利用で充実した日々をすごさせていただいています。心配なのは、子供がどういう形で就労するのかはまだ先の見えないことですが、成年期に利用できる公的な余暇活動の場がすくないことです。この子が成年になるころには、障害者の就労は早い時間に仕事がおわることも多いので、できれば平日、それがむりとしても土・日等に余暇をすごす場が、多くあって多少選ぶことが出来る様になっていたら…と思います。知的障害者の就労の場がこれから区内でふえていくことを希望しています。（男性/年齢 10～14 歳）
- 福祉事業所や作業所など高校卒業後の進路先の充実を進めてほしい。（男性/年齢 15～19 歳）

障害者への理解について

4 件

- 障がい児／者に対する目が冷たいです。「みんなちがってみんないい」が諸外国と比べると全くないと感じます。言いたくありませんが、福祉サービスに従事されている方も、ついつい本音をもらすタイミングがあり、身近なところでも、信頼していた人からいわれのない差別を受け、偏見の目で見られているように思います。中野区が、というより日本全体でどうにか意識を変えていただきたいです。（私も障害児の母になるまで気づかなかったことですので、仕方ないとは思いますが…）（男性/年齢 5～9 歳）
- 発達障害児についての認知、啓もう活動を増やしてほしい。周囲の理解、認知が進んでいない様に感じます。（男性/年齢 10～14 歳）

情報提供について

10 件

- とにかく全てわかりづらい。もっと簡潔なシステムにして欲しい。困った事があったらここに相談すれば全て情報をくれたり解決できる場所を一本化して欲しい。すこやかセンターが南部、中部、北部とあるが、あまりにも職員の技量が違いすぎる。一本化して欲しい。か、自分で好きに選べるようにして欲しい。(女性/年齢 10～14 歳)
- 情報に関して、1 つのデータでまとめてほしい。色々な所で同じ質問を受けるのがめんどくさく感じる。発達にくわしくない方などは、勉強するとか所属しないで欲しい。保護者の気持ちがわからない方がいる。(男性/年齢 10～14 歳)
- 自立生活に向けた施策の情報提供をお願いしたい。短期入所、グループホーム、金銭の預託管理、就労（継続支援）等…。障害児の幼児～学齢期～成人に至る全過程においてどのようなサービスがあるのか通覧できるロードマップのようなものがあるとよい。親なき後の支援についても情報やモデルケース等の紹介などがあるとよい。(男性/年齢 15～19 歳)
- 発達支援について、すこやか、ゆめなりあに相談に行ったり、発達支援を受けている他の子のお母さんから色々聞いたりしてやっとわかってきてたどり着きました。相談に行く前に民間の療育等の存在や支援等があるのか、受けられるのかもっと知っていたらと思いました。(男性/年齢 5～9 歳)

本調査について

22 件

- 就学前の方へのアンケート内容をわけて下さい。せっかくこのようないいアンケートなのに全員に回答というのかおかしいなと思います。年齢も 6 歳で就学前と後では変わります。(女性/年齢 10～14 歳)
- アンケートが手書きだけでなく、スマートフォンを利用したタイプのものなど併用して作ってくだされば、郵送の手間や集計の手間をはぶけるし、若いお母さん方がもっと手軽に協力してくれるのではないかと思います。(対象によっては手書きを残す必要もあるとは思いますが…) 案内のお手紙は郵送でもいいと思います。(男性/年齢 15～19 歳)

その他

16 件

- 今困っていることがあったとして、実際に対応してもらえるようになるまでの間、どうしたらいいのか先の見通しが立たないと思う点で不安に思う人も多いのではないかと思います。(男性/年齢 0～4 歳)
- 療育を早い段階から受けさせて頂き、子どもの成長にとってとても大きなものだったと思います。子どもにとっては、幼稚園や学校以外の場所（居場所）としても大変ありがたい存在です。これからも、このサービスをずっと継続して頂きたいと願います。(男性/年齢 5～9 歳)

Ⅲ 調査票と単純集計

れ い わ ね ん ど ね ん ど
令和2年度(2020年度)

しょうがいふ く し い こう ちょう さ
障害福祉サービス意向調査

しょうがいしゃ ちょう さ
《障害者調査》
ちょう さ ひょう
調 査 票

ちょう さ きにゆう ねが
【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人が答えることが難しい場合は、ご本人が答える支援をお願いします。ご本人が答えられない場合には、ご家族や介護されている方がご本人の意向を尊重してご記入ください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていた必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他(具体的に)」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、

れ い わ ね ん が つ に ち き ん よ う び
令和2年5月29日(金曜日)までに

み お う え どう ふ う へ ん し ん よ う ふ う と う き っ て ふ よ う い ゆ う そ う
三つ折りにした上で、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。

8. 調査報告書は、10月末から、図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれます。
9. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記まで お問い合わせください。

な か の く け ん こ う ふ く し ぶ し ょ う が い ふ く し か し ょ う が い し ゃ し さ く す い し ん が か り
中野区健康福祉部障害福祉課障害者施策推進係

で ん わ
電話 03-3228-8832 FAX 03-3228-5660

E-mail shogaihukusi@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に(全員のの方に)と記載のあるものは全員のの方が、(～の方に)とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

《あなた(あて名の方ご本人)の状況について、おうかがいします》

(全員のの方に)

問1 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. あなた(あて名の方ご本人)が自分で回答(代筆を含む) (77.3%)
2. ご家族 (19.2%)
3. その他の人 (0.3%)

無回答 (3.1%)

(全員のの方に)

問2 あなた(あて名の方ご本人)の性別と、令和2年4月1日現在の年齢をお答えください。(○は1つ、右づめで数字を記入)

〈回答者数：865〉

<性別> 1. 男性 (50.8%) 2. 女性 (46.6%) 3. その他 (0.1%) 無回答 (2.5%)

<年齢> 歳

(全員のの方に)

問3 あなた(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳・愛の手帳(療育手帳)・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は、等級または度数をお答えください。複数
の手帳をお持ちの方は、それぞれの等級または度数についてお答えください。

(1)身体障害者手帳(○は1つ)

〈回答者数：608〉

1. 1級 (33.1%) 2. 2級 (16.4%) 3. 3級 (18.4%)
4. 4級 (22.7%) 5. 5級 (4.6%) 6. 6級 (4.8%)

(2)愛の手帳(○は1つ)

〈回答者数：143〉

1. 1度 (8.4%) 2. 2度 (27.3%) 3. 3度 (20.3%)
4. 4度 (44.1%)

(3) 精神障害者保健福祉手帳(○は1つ)

〈回答者数：183〉

1. 1級 (13.1%) 2. 2級 (37.7%) 3. 3級 (49.2%)

(身体障害者手帳をお持ちの方に)

問3-1 あなた(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳に記載された障害名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：608〉

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 上肢機能障害 (15.3%) | 2. 聴覚障害・平衡機能障害 (9.0%) |
| 3. 下肢機能障害 (34.7%) | 4. 音声・言語・そしゃく機能障害 (2.3%) |
| 5. 体幹機能障害 (7.4%) | 6. 脳原性まひ (1.5%) |
| 7. 内部機能障害 (16.3%) | 8. 視覚障害 (5.8%) |
| 9. その他 (23.7%) | 無回答 (8.7%) |

(精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方に)

問3-2 差し支えがなければ、あなた(あて名の方ご本人)の診断名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：183〉

- | |
|---------------------------|
| 1. 統合失調症 (30.1%) |
| 2. てんかん (6.6%) |
| 3. 気分障害(躁うつ病、うつ病) (37.2%) |
| 4. アルコール、薬物依存症 (1.1%) |
| 5. 神経症 (2.7%) |
| 6. 人格および行動の障害 (1.6%) |
| 7. その他 (21.9%) |
| 無回答 (14.2%) |

(愛の手帳をお持ちの方に)

問3-3 差し支えがなければ、あなた(あて名の方ご本人)の診断名をお答えください。(直接記入)

()

(^{ぜんいん}全員の方に)

問4 あなた(^なあて名の方^{かた}ご本人^{ほんにん})は、^{しょうがいしえんくぶん}障害支援区分認定^うを受けていますか。

〈回答者数：865〉

- | | |
|---|------------------------------|
| 1. ^{しょうがいしえんくぶん} 障害支援区分認定は受けていない (62.8%) | 2. ^{くぶん} 区分1 (1.3%) |
| 3. ^{くぶん} 区分2 (3.4%) | 4. ^{くぶん} 区分3 (2.3%) |
| 6. ^{くぶん} 区分5 (1.2%) | 5. ^{くぶん} 区分4 (1.2%) |
| 7. ^{くぶん} 区分6 (1.6%) | 無回答 (26.4%) |

(^{ぜんいん}全員の方に)

問5 あなた(^なあて名の方^{かた}ご本人^{ほんにん})は^{かいごほけん}介護保険^{ようしえん}の要支援・^{ようかいご}要介護認定^うを受けていますか。

(○は1つ)

〈回答者数：865〉

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1. ^{ようしえん} 要支援・ ^{ようかいご} 要介護認定は受けていない (61.7%) | 2. ^{ようしえん} 要支援1 (4.7%) |
| 3. ^{ようしえん} 要支援2 (6.6%) | 4. ^{ようかいご} 要介護1 (2.7%) |
| 6. ^{ようかいご} 要介護3 (3.4%) | 5. ^{ようかいご} 要介護2 (3.0%) |
| 7. ^{ようかいご} 要介護4 (3.4%) | 8. ^{ようかいご} 要介護5 (1.6%) |
| | 無回答 (12.9%) |

(^{ぜんいん}全員の方に)

問6 あなた(^なあて名の方^{かた}ご本人^{ほんにん})の^{かぞくこうせい}家族構成^{こた}をお答えください。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

- | | |
|--|--|
| 1. ^ぐ ひとり暮らし (29.5%) | 2. ^{はいぐうしゃ} 配偶者と ^{どうきょ} 同居 (20.9%) |
| 3. ^{はいぐうしゃ} 配偶者と ^こ 子どもと ^{どうきょ} 同居 (12.5%) | 4. ^{おや} 親と ^{どうきょ} 同居 (18.4%) |
| 5. ^{おや} 親と ^こ 子どもと ^{どうきょ} 同居 (0.9%) | 6. ^こ 子どもと ^{どうきょ} 同居 (8.6%) |
| 7. ^た その他 (7.7%) | 無回答 (1.5%) |

《あなた(あて名の方ご本人)のお住まいについておたずねします》

(全員のの方に)

問7 あなた(あて名の方ご本人)のお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. 持ち家(マンションも含む) (59.0%)
2. 公営住宅(都営・区営住宅など) (6.9%)
3. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) (27.1%)
4. グループホームなど (1.7%)
5. その他 (4.2%)

無回答 (1.2%)

(全員のの方に)

問8 あなた(あて名の方ご本人)の住宅で困っていることはありますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. はい (31.7%)

2. いいえ (64.2%)

無回答 (4.2%)

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

問8-1 住宅で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：274〉

1. 部屋が狭い (39.4%)
2. バリアフリーになっていない (31.0%)
3. 家が老朽化している (41.6%)
4. 改修や建て替えができない (22.3%)
5. アパートなどの契約時の保証人がいない (5.8%)
6. 立ち退きを迫られている (2.9%)
7. 自分の住みたい場所が見当たらない (5.8%)
8. その他 (27.4%)

無回答 (0.4%)

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた})

問9 あなた(あて名^なの方^{かた}ご本人^{ほんにん})は、将来^{しょうらい}はどのようなところで生活^{せいかつ}したいと思^{おも}いますか。
(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. 今の住宅^{いま じゅうたく}に引き続き暮^ひらしたい (59.5%)
2. 公営住宅^{こうえいじゅうたく}(都営^{とえい}・区営^{くえい}住宅^{じゅうたく}など)に入居^{にゅうきょ}したい (11.1%)
3. グループホーム^{せいかつりょう}、生活寮^{にゅうきょ}に入居^{にゅうきょ}したい (3.1%)
4. 施設^{しせつ}に入所^{にゅうしょ}したい (5.2%)
5. わからない (12.5%)
6. その他^た (4.6%)

無回答 (3.9%)

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた})

問10 火事^かや地震^{じしん}などの災害^{さいがい}に関して、障害^{しょうがい}があるためにあなた(あて名^なの方^{かた}ご本人^{ほんにん})が不安^{ふあん}を感じ^{かん}ていることはありますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. はい (60.7%)

2. いいえ (34.2%)

無回答 (5.1%)

(問10で「1. はい」とお答え^{こた}の方^{かた}に)

問10-1 不安^{ふあん}を感じ^{かん}ていることはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：525〉

1. 災害^{さいがい}の内容^{ないよう}や避難指示^{ひなんし}等の情報^{じょうほう}を入手^{にゅうしゅ}または理解^{りかい}できるかどうか (33.7%)
2. 避難所^{ひなんじょ}等^{いどう}への移動^{いどう}ができるかどうか (56.8%)
3. 周囲^{しゅうい}の人^{ひと}や家族^{かぞく}等に状^{じょう}況^{きやう}や必要^{じょうきよう}な支援^{しえん}を伝^{つた}えることができるかどうか (30.3%)
4. 周囲^{しゅうい}の人^{ひと}から必要^{ひつよう}な支援^{しえん}を受^うけることができるかどうか (34.9%)
5. 避難所^{ひなんじょ}等^{ひつよう}で必要^{そうだん}な相談^{かいご}、介護^{かんご}、看護^{など}を受^うけることができるかどうか (46.9%)
6. 避難所^{ひなんじょ}等^{ひつよう}に必要な設備^{せつび}、食糧^{しょくりょう}、医薬品^{いやくひん}等^{など}があるかどうか (50.3%)
7. 連絡^{れんらく}をとりあう相手^{あいて}がいない (11.0%)
8. その他^た (13.9%)

無回答 (1.1%)

あなた(あて名の方ご本人)の日常生活の介助や支援についておたずねします

(全員の^{ぜんいん}の方^{かた}に)

問11 あなた(あて名の方ご本人)の日常生活で介助を必要とすることはありますか。

(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. はい (64.2%)

2. いいえ (34.2%)

無回答 (1.6%)

(問11で「1. はい」とお答えの方^{こた}に)

問11-1 日常生活で介助を必要とすることは具体的にどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：555〉

1. 食事 (20.7%)

2. 食事の支度や片付けなどの家事 (40.7%)

3. 排せつ (18.4%)

4. 入浴 (30.1%)

5. 着替え (18.9%)

6. 薬の管理 (27.0%)

7. 掃除・片付け (43.8%)

8. コミュニケーション (20.2%)

9. 外出 (38.0%)

10. 日常の買物 (40.2%)

11. お金の管理 (28.1%)

12. その他 (6.1%)

無回答 (24.5%)

問11-2 あなた(あて名の方ご本人)の主な介助者はどなたですか。(○は1つ)

〈回答者数：555〉

1. 父 (3.4%)

2. 母 (16.4%)

3. 配偶者 (26.7%)

4. 子ども (19.1%)

5. 近所の人、友人・知人 (3.1%)

6. ホームヘルパー (9.2%)

7. ボランティア (0.7%)

8. その他 (15.0%)

無回答 (6.5%)

問11-3 主な介助者のほかに、あなた(あて名の方ご本人)を日常的に介助できる方はいいますか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：555〉

1. いない (40.5%)

2. 父 (7.6%)

3. 母 (4.7%)

4. 配偶者 (9.4%)

5. 子ども (18.2%)

6. 近所の人、友人・知人 (4.1%)

7. ホームヘルパー (12.1%)

8. ボランティア (1.1%)

9. その他 (13.7%)

無回答 (3.8%)

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に)

問12 あなた(^なあて^{かた}名^{ほんにん}の方^{おも}ご本人)の主な^{かいじょしゃ}介助者が^{きゅうびょう}急病・^{じこ}事故などで^{かいじょ}介助が^{こんなん}困難になった^{ばあい}場合、どのようにしたいですか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

- | | |
|---|------------|
| 1. ^{どうきょ} 同居している ^{かぞく} 家族に ^{たの} 頼む (26.1%) | |
| 2. ^{どうきょ} 同居していない ^{かぞく} 家族や ^{しんせき} 親戚に ^{たの} 頼む (18.4%) | |
| 3. ^{かいじょ} 介助(^{かいご} 介護)や ^か 家事 ^{えんじょ} 援助などを ^{おこな} 行う ^{りょう} ホームヘルプサービスを利用する (20.7%) | |
| 4. ^{しせつ} 施設の ^{たんきにゅうしょ} 短期入所(ショートステイ)を ^{りょう} 利用する (12.8%) | |
| 5. ^た その他 (12.7%) | 無回答 (9.2%) |

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に)

問13 あなた(^なあて^{かた}名^{ほんにん}の方^{へいじつ}ご本人)は、^{にっちゅう}平日の日中は^{おも}主にどのように^す過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：865〉

- | | |
|---|------------|
| 1. ^{じたく} 自宅で ^す 過ごしている (63.1%) | |
| 2. ^{じょうきん} 常勤で ^{はたら} 働いている (13.2%) | |
| 3. アルバイト・パート・ ^{ひじょうきん} 非常勤・ ^{けいやくしゃいん} 契約社員などで ^{はたら} 働いている (9.1%) | |
| 4. ^{しゅうろういこう} 就労移行支援や ^{しゅうろうけいぞくしえん} 就労継続支援を行う ^{おこな} 事業所や ^{じぎょうしょ} 作業所などに ^{かよ} 通っている (8.2%) | |
| 5. ^{しんたいきのう} 身体機能や ^{せいかつのうりよく} 生活能力の ^{こうじょう} 向上のための ^{くんれん} 訓練を行う ^{おこな} 事業所に ^{かよ} 通っている (5.5%) | |
| 6. ^{せいかつかいご} 生活介護を行う ^{おこな} 事業所に ^{かよ} 通っている (5.0%) | |
| 7. ^{びょういん} 病院へ ^{つういん} 通院している (32.8%) | |
| 8. ^{がっこう} 学校(幼稚園等含む)に ^{かよ} 通っている (1.4%) | |
| 9. ^{しゅみ} 趣味や ^{かつどう} スポーツ活動をしている (12.3%) | |
| 10. ^た その他 (11.0%) | 無回答 (2.0%) |

あなた(あて名の方ご本人)の外出状況についておたずねします

(全員のの方に)

問14 あなた(あて名の方ご本人)は、一週間に、どのくらい外出しますか。

(○は1つ)

〈回答者数：865〉

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|
| 1. ほとんど毎日 (30.1%) | 2. 3～5日程度 (32.3%) | 3. 1～2日程度 (20.5%) |
| 4. ほとんど外出しない (9.9%) | 5. まったく外出しない (4.9%) | 無回答 (2.4%) |

(全員のの方に)

問15 あなた(あて名の方ご本人)の外出の主な目的は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：865〉

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 通勤や通学 (22.4%) | 2. 福祉施設や作業所などへの通所 (18.4%) |
| 3. 買物 (56.8%) | 4. 通院 (54.2%) |
| 5. 趣味・スポーツなど (19.7%) | 6. ボランティアや地域行事への参加 (3.0%) |
| 7. 友人と会うため (17.7%) | 8. 散歩 (39.0%) |
| 9. 特にない (2.1%) | 10. その他 (8.9%) |
| | 無回答 (2.5%) |

(全員のの方に)

問16 あなた(あて名の方ご本人)が外出する上で妨げになっていることはありますか。
(○は1つ) 〈回答者数 : 865〉

1. はい (38.7%)

2. いいえ (53.6%)

無回答 (7.6%)

(問16 で「1. はい」とお答えの方に)

問16-1 外出する上で妨げになっていることは具体的にどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○) 〈回答者数 : 335〉

1. 道路や駅などの利用が不便 (40.0%)
2. 電車やバスを使っの移動が不便 (46.3%)
3. 利用する建物の設備が整備されていない (11.6%)
4. 点字ブロックが破損等により利用が不便 (1.5%)
5. 介助者がいない (17.3%)
6. 情報がない (6.3%)
7. 問い合わせ先の連絡方法が整備されていないため、問い合わせができない (3.6%)
8. まわりの人の障害者に対する理解不足 (21.2%)
9. 障害を理由に施設などの利用を拒否される (2.7%)
10. 適切な指導者がいない (6.9%)
11. 一緒に行く仲間がいない (15.5%)
12. 障害者参加を想定していないため文字表示や点字など配慮がされていない (5.4%)
13. その他 (20.3%) 無回答 (0.6%)

(全員のの方に)

問17 あなた(あて名の方ご本人)が、外出に利用する主な交通手段は何ですか。
(あてはまるものすべてに○) 〈回答者数 : 865〉

1. 電車、地下鉄 (57.0%)
2. 路線バス (50.4%)
3. 徒歩または車いす (40.9%)
4. 自転車 (19.2%)
5. タクシー (35.3%)
6. リフト付きタクシー (4.3%)
7. 自家用車(家族などが運転) (14.5%)
8. 自家用車(自分で運転) (6.0%)
9. ボランティアによる移送サービス (0.8%)
10. 電動三輪車(電動車いす) (0.5%)
11. 障害者福祉会館や特別支援学校などの送迎バス (5.1%)
12. その他 (3.9%) 無回答 (4.2%)

《^{はたら}働くことについておたずねします》

(^{ぜんいん}全員の^{かた}方に)

問18 あなた(^{あて}名の方^ご本人)は、^{きゅうりょう}給料など^{しゅうろう}就労による^{ていきてき}定期的な^{しゅうにゅう}収入はありますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. はい (39.3%) 2. いいえ (54.9%) → 問18-4 へ(^{つぎ}次のページ) 無回答 (5.8%)

(問18 で「1. はい」とお^{こた}えの方^{かた}に)

問18-1 あなた(^{あて}名の方^ご本人)の^{げんざい}現在の^{しゅうろうけいたい}就労形態をお^{こた}えください。
(○は1つ)

〈回答者数：340〉

- | | |
|--|--|
| 1. ^{じょうきん} 常勤の ^{かいしゃいん} 会社員、 ^{こうむいん} 公務員、 ^{だんたいしよくいん} 団体職員 (30.3%) | 2. ^{じえいぎょう} 自営業、 ^{かぞくじゅうぎやういん} 家族従業員 (11.8%) |
| 3. ^{アルバイト} 、 ^{パート} 、 ^{ひじょうきんしよくいん} 非常勤職員 (21.8%) | 4. ^{ゆうしやう} 有償ボランティア (0.0%) |
| 5. ^{ないしよく} 内職 (0.0%) | 6. ^{さぎやうじょ} 作業所に ^{つうしょ} 通所 (16.8%) |
| 7. ^た その他 (10.0%) | 無回答 (9.4%) |

問18-2 あなた(^{あて}名の方^ご本人)は、^{げんざい}現在の^{しごと}仕事をどのような^{ほうほう}方法で見つけましたか。(○は1つ)

〈回答者数：340〉

- | | |
|--|--|
| 1. ^{しょうかい} ハローワークの紹介 (6.8%) | 2. ^{がっこう} 学校の紹介 (8.8%) |
| 3. ^{やくしょ} 役所の紹介 (2.9%) | 4. ^{ゆうじん} 友人や ^{ちじん} 知人の紹介 (7.9%) |
| 5. ^{しょうがいしやしゅうろうしえんきかん} 障害者就労支援機関の利用 (16.5%) | 6. ^{ちよくせつじぶん} 直接自分で探した (18.5%) |
| 7. ^{しんぶん} 新聞や ^{きゅうじんじょうほうし} 求人情報誌で探した (5.3%) | 8. ^た その他 (18.5%) |
| 無回答 (14.7%) | |

問18-3 あなた(^{あて}名の方^ご本人)は、^{げんざい}現在の^{しごと}仕事に関して^{ふあん}不安や^{ふまん}不満はありますか。(○は1つ)

〈回答者数：340〉

1. はい (41.5%) 2. いいえ (51.5%) → 問19 へ 無回答 (7.1%)

問18-3-1 へ(^{つぎ}次のページ)

(問18-3で「1. はい」とお答えの方に)

問18-3-1 あなた(あて名の方ご本人)は、現在の仕事に関してどのような不安や不満がありますか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：141〉

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. 収入が少ない (47.5%) | 2. 作業内容が難しい (7.1%) |
| 3. 休みが取りにくい (9.9%) | 4. 就業時間が長い (7.1%) |
| 5. 作業ペースが人と合わない (8.5%) | 6. 職場の人間関係がうまくいかない (16.3%) |
| 7. 体力的に負担が大きい (19.1%) | 8. 雇用形態が不安定 (9.9%) |
| 9. 障害者用の設備が整っていない (7.8%) | 10. 昇給や昇進が不平等である (14.2%) |
| 11. 通勤時間が長い (7.1%) | 12. 特にない (16.3%) |
| 13. その他 (19.9%) | 無回答 (1.4%) |

(全員のの方に)

問18-4 あなた(あて名の方ご本人)は、今後、どのように働きたいと思いますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

- | |
|--|
| 1. 一般企業などで常勤の社員として働きたい (8.8%) |
| 2. 一般企業などでパート・アルバイトとして働きたい (4.0%) |
| 3. 障害者が多く働いている職場で働きたい (2.7%) |
| 4. 指導員やジョブコーチなどがいて支援をしてくれる職場で働きたい (2.2%) |
| 5. 作業所や就労支援事業所などで働きたい (2.8%) |
| 6. 働きたいが、働く場所については特に希望はない (3.7%) |
| 7. 働きたくない (19.8%) |
| 8. わからない (12.6%) |
| 9. その他 (15.3%) |
| 無回答 (28.2%) |

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に)

問19 あなた(^なあて^{かた}名^{ほんにん}の方^ご本人)は、^{しょうがいしゃ}障害者が^{はたら}働くためには、どのような^{かんきょう}環境が^{ととの}整っていることが^{たいせつ}大切だと思^{おも}いますか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：865〉

- | | |
|--|-------------|
| 1. ^{いどうしゅだん} 移動手段が ^{かくほ} 確保されていること (33.6%) | |
| 2. ^{けんこうじょうたい} 健康状態にあわせた ^{はたら} 働き方ができること (50.2%) | |
| 3. ^{じぎょうぬし} 事業主や ^{しょくば} 職場の ^{ひと} 人が ^{しょうがいしゃ} 障害者について ^{じゅうぶんり} 十分理解していること (48.2%) | |
| 4. ^{じりつ} 自立した生活ができる ^{せいかつ} 給料 ^{きゅうりょう} であること (34.7%) | |
| 5. ^{しょくば} 職場の ^{しせつ} 施設や ^{せつび} 設備が ^{しょうがい} 障害のある ^{ひと} 人にも ^{りよう} 利用できる ^{はいりょ} よう配慮されていること (28.7%) | |
| 6. ^{しょくば} 職場に ^{てきせつ} 適切な ^{じょげん} 助言や ^{しどう} 指導、 ^{はいりょ} 配慮をして ^{ひと} くれる ^{ひと} 人がいること (36.1%) | |
| 7. ^{じぶん} 自分の ^{しょうがい} 障害にあ ^{しごと} った仕事があること (44.6%) | |
| 8. ^{しゅうろう} 就労の ^ば 場をあ ^{そうだん} っせんしたり、 ^ば 相談できる ^{ととの} 場が整っていること (23.0%) | |
| 9. ^{しゅうろう} 就労のための ^{きかい} ジョブトレーニングの機会があること (17.1%) | |
| 10. ^{とく} 特 ^{とく} にない (11.8%) | |
| 11. ^た その他 (3.2%) | 無回答 (16.4%) |

《健康福祉サービスについておたずねします》

(^{ぜんいん}全員^{かた}の方に)

問20 あなた(^{あて}名^なの方^{かた}ご本人^{ほんにん})は、過去^か1年^{こねん}の間^{あいだ}に、相談^{そうだん}サービスを利用^{りよう}したことがありますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. はい (25.4%)

2. いいえ (67.2%)

無回答 (7.4%)

(問20で「1. はい」とお答えの方に)

問20-1. 利用^{りよう}した相談^{そうだん}サービスをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：220〉

1. 区役所^{くやくしょ}での相談^{そうだん} (38.2%)

2. すこやか福祉^{ふくし}センターでの相談^{そうだん} (52.7%)

3. 障害者^{しょうがいしゃ}地域^{ちいき}自立^{じりつ}生活^{くわつ}支援^{しえん}センター「つむぎ」での相談^{そうだん}
(ピアカウンセリング^{ふく}含む) (2.7%)

4. 地域^{ちいき}生活^{くわつ}支援^{しえん}センター「せせらぎ」での相談^{そうだん} (8.6%)

5. 民生委員^{みんせいいいん}・児童委員^{じどういいん}との相談^{そうだん} (1.8%)

6. 中野区^{なかのく}障害者^{しょうがいしゃ}福祉^{ふくし}事業^{じぎょう}団(ニコニコ事業^{じぎょう}団)での就^{しゅう}業^{ぎょう}相談^{そうだん} (11.4%)

7. その他^た (19.1%)

無回答 (0.0%)

(全員のほうに)

問21 あなた(あて名の方ご本人)は、次のサービスを利用していますか。また今後利用したいと考えますか。(①から⑦のそれぞれについて、「現在利用しているか」と「今後利用したいか」の両方を回答(番号に○)してください)

〈回答者数：865〉

	現在、利用 していますか			今後、利用 したいですか		
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
①居宅介護(ホームヘルプ) 自宅で食事や入浴、排せつなどの 介助を行うサービス	9.0%	73.8%	17.2%	23.7%	50.9%	25.4%
②重度訪問介護 重度の障害があり常に介護が必要な方 に、自宅で食事や入浴、排せつなどの介助 や外出時の移動の補助を行うサービス	2.4%	75.3%	22.3%	13.5%	57.5%	29.0%
③同行援護 視覚障害により移動が著しく困難な 方に、外出に必要な情報の提供や 移動の援護などを行うサービス	1.6%	74.6%	23.8%	9.7%	59.3%	31.0%
④行動援護 知的障害や精神障害により行動が困難で常に 介護が必要な方に、行動するとき必要な介助や 外出時の移動の補助などを行うサービス	2.9%	73.4%	23.7%	13.2%	56.0%	30.9%
⑤生活介護 常に介護が必要な方に、施設で入浴 や排せつ、食事の介護や創作的活動な どの機会を提供するサービス	7.1%	70.9%	22.1%	18.5%	52.9%	28.6%
⑥自立訓練(機能訓練) 自立した日常生活や社会生活ができ るよう、一定の期間における身体機能 のために必要な訓練を行うサービス	8.2%	70.6%	21.2%	21.2%	51.0%	27.9%
⑦自立訓練(生活訓練) 自立した日常生活や社会生活ができるよ う、一定の期間における生活能力向上の ために必要な訓練を行うサービス	5.0%	72.7%	22.3%	21.4%	50.3%	28.3%

	げんざいりよう 現在利用 していますか			こんごりよう 今後利用 したいですか		
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
⑧就労移行支援 しゅうろういこうしえん つうじょう じぎょうしょ はたら いたてい 通常の事業所で働きたい方に、一定 の期間、就労に必要な知識及び能力 きかん しゅうろう ひつよう ちしきおよ のうりよく の向上のための訓練を行うサービス こうじょう くんれん おこな	1.7%	74.2%	24.0%	12.4%	56.8%	30.9%
⑨就労継続支援(A型、B型) しゅうろうけいぞくしえん がた がた つうじょう じぎょうしょ はたら こんなん かた 通常の事業所で働くことが困難な方に、 就労の機会の提供や生産活動その他の しゅうろう きかい ていきよう せいさんかつどう た 活動の機会の提供、知識や能力の向上 かつどう きかい ていきよう ちしき のうりよく こうじょう のための訓練を行うサービス くんれん おこな	5.0%	71.2%	23.8%	12.6%	56.0%	31.4%
⑩療養介護 りょうようかいご いりよう ひつよう かた つね かいご ひつよう かた 医療が必要な方で、常に介護を必要とする方 おも ひるま びょういんなど きのうくんれん に、主に昼間に病院等において機能訓練、 りょうようじょう かんり かんご ていきよう 療養上の管理、看護などを提供するサービス	2.1%	74.0%	23.9%	12.3%	56.8%	31.0%
⑪短期入所(ショートステイ) たんきにゅうしょ ざいたく しょうがいしゃ じ かいご かた びょうき ぼ 在宅の障害者(児)を介護する方が病気の場 あい しょうがいしゃ しせつ たんきかん にゅうしょ 合などに、障害者が施設に短期間入所し、 にゅうよく はい しょくじ かいご おこな 入浴、排せつ、食事の介護などを行うサービス	6.7%	70.6%	22.7%	22.3%	49.8%	27.9%
⑫共同生活援助(グループホーム) きょうどうせいかつえんじょ やかん きゅうじつ きょうどう せいかつ おこな じゅうきょ 夜間や休日、共同生活を行う住居で、 そうだん にちじょうせいかつじょう えんじょ おこな 相談や日常生活上の援助を行うサービス	2.2%	73.9%	23.9%	11.9%	57.8%	30.3%
⑬施設入所支援 しせつにゅうしょしえん しゅ やかん しせつ にゅうしょ しょうがいしゃ 主として夜間、施設に入所する障害者 じ たい にゅうよく はい しょくじ かいご (児)に対し、入浴、排せつ、食事の介護な しえん おこな どの支援を行うサービス	1.3%	74.6%	24.2%	10.6%	58.6%	30.8%
⑭相談支援 そうだんしえん ふくし かん もんだい かいごしゃ 福祉に関する問題や介護者からの そうだん おう ひつよう じょうほう ていきよう 相談に応じて、必要な情報の提供や じよげん おこな 助言などを行うサービス	10.3%	67.5%	22.2%	38.2%	34.0%	27.9%
⑮移動支援 いどうしえん おくがい いどう こんなん しょうがいしゃ たい 屋外での移動が困難な障害者に対し がいしゅつ しえん おこな て、外出のための支援を行うサービス	8.2%	69.5%	22.3%	25.1%	46.8%	28.1%

	現在利用 していますか			今後利用 したいですか		
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
⑩自立生活援助 障害者支援施設やグループホームから 一人暮らしに移行した方を訪問し、生活 について助言を行うサービス	1.4%	75.6%	23.0%	12.4%	57.8%	29.8%
⑪就労定着支援 就労に伴う生活の課題に対応できるよう に、事業所などを訪問し支援を行うサービス	2.8%	72.7%	24.5%	11.7%	57.6%	30.8%

(問21の「現在利用していますか」の設問で、1つ以上「1. はい」とお答えの方に)

問21-1 あなた(あて名の方ご本人)がサービス等利用計画について、不満に思うことを次の中から選んでください。(あてはまるものすべてに○)〈回答者数：296〉

- 希望するサービスが利用できない (9.1%)
 - 希望しないサービスが、サービス等利用計画に含まれている (2.0%)
 - 希望する事業者が利用できない (4.4%)
 - サービスの利用回数や時間が少ない (13.2%)
 - サービスの利用料金が安い (8.8%)
 - 相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない (5.7%)
 - 不満な点はない (42.2%)
 - その他 (7.8%)
- 無回答 (23.6%)

(問21の「現在利用していますか」の設問で、全てに「2. いいえ」とお答えの方に)

問21-2 障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：408〉

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 自力で生活できるから (65.7%) | 2. 家族が介助しているから (26.7%) |
| 3. 他人が家に入ってほしくないから (9.3%) | 4. 利用したいサービスがないから (10.3%) |
| 5. 事業者に対して信頼が持てないから (1.7%) | 6. 事業者から断られたから (0.2%) |
| 7. 施設が遠いから (0.7%) | 8. 利用料が支払えないから (4.2%) |
| 9. 利用方法が分からないから (11.3%) | 10. サービスを知らなかったから (9.8%) |
| 11. 病院・診療所に入院しているから (1.5%) | 12. その他 (5.4%) |

無回答 (12.0%)

(全員のの方に)

問22 障害者に対する理解はどの程度進んでいると思いますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 十分に進んでいる (5.5%) | 2. ある程度進んでいる (31.0%) |
| 3. どちらともいえない (14.1%) | 4. あまり進んでいない (20.9%) |
| 5. 全く進んでいない (4.4%) | 6. わからない (14.5%) |
| 7. その他 (0.8%) | |

無回答 (8.8%)

(全員のの方に)

問23 あなた(あて名の方ご本人)はヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

1. ヘルプマークの意味を含めて知っている (42.1%)
2. ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない (22.3%)
3. 知らない (26.5%)

無回答 (9.1%)



(全員のの方に)

問24 あなた(あて名の方ご本人)は次の施策のうち、特に充実してほしいと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：865〉

1. 障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 (37.5%)
2. ピアサポート(当事者同士の相談活動) (6.9%)
3. 障害当事者の文化活動、社会貢献活動など (11.4%)
4. 余暇活動の支援 (13.6%)
5. 活動の場、憩いの場の整備 (14.9%)
6. 一般企業などへの就労支援 (17.7%)
7. 利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) (31.1%)
8. 病気や障害に対する理解の促進 (35.3%)
9. 特にない (19.5%)
10. その他 (4.6%)

無回答 (12.8%)

(全員のの方に)

問25 障害のある人への差別をなくすことを目的として、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つ)

〈回答者数：865〉

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 名前知っている (22.1%) | 2. 内容も知っている (7.9%) |
| 3. 知らない (61.7%) | 無回答 (8.3%) |

(全員のの方に)

問26 あなた(あて名の方ご本人)は過去3年の間に、日常生活の中で、障害を理由に、差別的な対応を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：865〉

- | |
|---|
| 1. 誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた (1.7%) |
| 2. 飲食店やホテルなどで利用を断られた (1.0%) |
| 3. 鉄道・バス・タクシー・飛行機などで乗車を拒否された (1.2%) |
| 4. アパートの契約を断られた (1.4%) |
| 5. スポーツクラブや習い事などで入会を断られた (1.2%) |
| 6. 催しへの出席を断られた (0.8%) |
| 7. 仕事の求人への応募を拒否された (3.4%) |
| 8. 職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い (3.8%) |
| 9. 希望した学校に入学できなかった (0.5%) |
| 10. 職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた (4.7%) |
| 11. その他 (5.4%) |
| 12. 特にない (68.7%) |
| 無回答 (14.1%) |

(^{ぜんいん} ^{かた}全員の方に)

問27 ^と日常生活で^{にちじょうせいかつ}困^{こま}っていることがありましたら、ご^{じゆう}自由^かにお書きください。

(^{ぜんいん} ^{かた}全員の方に)

問28 ^{けんこうふくしぎょうせい}健康福祉行政^{こんかい}に関する^{ちょうさ}ことや^{ようぼう}今回の調査^{いけん}について、ご^{じゆう}要望^かやご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

^{きょうりよく}
ご協力ありがとうございました

れ い わ ね ん ど ね ん ど
令和2年度(2020年度)
 し ょ う が い ふ く し い こ う ち ょ う さ
障害福祉サービス意向調査
 し せ つ に ゅ う し ょ し ゃ
《施設入所者》
 ち ょ う さ ひ ょ う
調 査 票

ち ょ う さ き に ゅ う ね が
【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人が**お答え**ください。ご本人が**答える**ことが
 難**い**場合は、ご本人が**答える**支援をお願いします。ご本人が**答えられない**場合
 には、ご家族や介護されている方がご本人の意向を尊重してご記入ください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他(具体的に)」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的に**ご記入**く
 ださい。
7. **ご記入**いただきました調査票は、

れ い わ ね ん が つ に ち き ん よ う ひ
令和2年5月29日(金曜日)までに

- み お う え どう ふ う へ ん し ん よ う ふ う と う き っ て ふ よ う い ゆ う そ う
 三つ折りにした上で、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。
8. 調査報告書は、10月末から、図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどで
 覧になれます。
 9. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記まで お
 問合せください。

な か の く け ん こ う ふ く し ぶ し ょ う が い ふ く し か し ょ う が い し ゃ し さ く す い し ん が か り
中野区健康福祉部障害福祉課障害者施策推進係
 で ん わ
電話 03-3228-8832 FAX 03-3228-5660
E-mail shogaihukusi@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に(全員のの方に)と記載のあるものは全員のの方が、(～の方に)とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

(全員のの方に)

問1 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ) 〈回答者数：148〉

- | | |
|--|------------|
| 1. あなた(あて名の方ご本人)が自分で回答(聞き取りなどによる代筆を含む) (37.8%) | |
| 2. ご家族 (4.1%) | |
| 3. その他の人 (56.8%) | 無回答 (1.4%) |

(全員のの方に)

問2 あなた(あて名の方ご本人)の性別と令和2年4月1日現在の年齢をお答えください。
(○は1つ、右づめで数字を記入) 〈回答者数：148〉

- | | | | | |
|------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| <性別> | 1. 男性 (51.4%) | 2. 女性 (42.6%) | 3. その他 (0.0%) | |
| <年齢> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 歳 無回答 (6.1%) |

(全員のの方に)

問3 あなた(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳・愛の手帳(療育手帳)の等級をお答えください。両方の手帳をお持ちの方は、それぞれについてお答えください。

(1)身体障害者手帳(○は1つ)

〈回答者数：59〉

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 1級 (47.5%) | 2. 2級 (27.1%) | 3. 3級 (10.2%) |
| 4. 4級 (13.6%) | 5. 5級 (0.0%) | 6. 6級 (1.7%) |

(2)愛の手帳(○は1つ)

〈回答者数：148〉

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 1度 (4.0%) | 2. 2度 (62.4%) | 3. 3度 (23.2%) |
| 4. 4度 (10.4%) | | |

(身体障害者手帳をお持ちの方に)

問3-1 あなた(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳に記載された障害名をお答えください。(あてはまるものすべてに○) 〈回答者数：95〉

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 上肢機能障害 (18.9%) | 2. 聴覚障害・平衡機能障害 (3.2%) |
| 3. 下肢機能障害 (23.2%) | 4. 音声・言語・そしゃく機能障害 (6.3%) |
| 5. 体幹機能障害 (18.9%) | 6. 脳原性まひ (9.5%) |
| 7. 内部機能障害 (1.1%) | 8. 視覚障害 (2.1%) |
| 9. その他 (16.8%) | |

(愛の手帳をお持ちの方に)

問3-2 差し支えがなければ、あなた(あて名の方ご本人)の診断名をお答えください。(直接記入)

()

(全員のの方に)

問4 あなた(あて名の方ご本人)の、障害支援区分をお答えください。(○は1つ)

〈回答者数：148〉

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 障害支援区分の認定を受けていない (1.4%) | 2. 区分1 (0.0%) |
| 3. 区分2 (1.4%) | 4. 区分3 (4.1%) |
| 5. 区分4 (13.5%) | |
| 6. 区分5 (29.1%) | 7. 区分6 (46.6%) |
| | 無回答 (4.1%) |

(全員のの方に)

問5 あなた(あて名の方ご本人)が現在入所している施設は、次のどれにあてはまりますか。
(○は1つ)

〈回答者数：148〉

- | |
|-----------------------------|
| 1. 指定障害者支援施設(身体障害者) (17.6%) |
| 2. 指定障害者支援施設(知的障害者) (79.1%) |
| 3. 療養介護 (0.0%) |
| 4. その他 (2.0%) |
| 無回答 (1.4%) |

(全員のの方に)

問6 現在の施設に入所して何年になりますか。(○は1つ)

〈回答者数：148〉

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 1年未満 (0.0%) | 2. 1年以上5年未満 (13.5%) |
| 3. 5年以上10年未満 (15.5%) | 4. 10年以上 (70.9%) |
| | 無回答 (0.0%) |

(全員のの方に)

問7 現在の施設に入所することになった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：148〉

- | |
|---|
| 1. 心身の機能が著しく低下したため (14.2%) |
| 2. 介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため (46.6%) |
| 3. 介助者が病気や転勤のため、介助(介護)できなくなったため (18.9%) |
| 4. 段差が多いなど、住まいに支障があるため (4.7%) |
| 5. 在宅生活を続けるために必要なサービスが不十分なため (26.4%) |
| 6. 専門的な訓練を受けたかったため (5.4%) |
| 7. その他 (17.6%) |
| 無回答 (0.7%) |

(全員のの方に)

問8 施設のある場所は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

〈回答者数：148〉

- | | |
|--|------------|
| 1. 東京都 (56.8%) | |
| 2. 関東各県 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県) (20.3%) | |
| 3. その他 (22.3%) | 無回答 (0.7%) |

(全員のの方に)

問9 今後、どこで生活したいですか。(○は1つ)

〈回答者数：148〉

- | | |
|---------------------------------|---------|
| 1. 施設を出て地域の中で暮らしたい (5.4%) | → 問9-1へ |
| 2. 施設を出て地域のグループホームで暮らしたい (6.1%) | |
| 3. 現在のように、入所施設で暮らしたい (54.1%) | |
| 4. わからない (25.7%) | |
| 5. その他 (8.8%) | |

(問9で「1」または「2」に○をつけた方に)

問9-1 仮に施設を退所するとしたら、どのような生活を送りたいですか。

(○は1つ)

〈回答者数：17〉

- | | |
|---|---------------|
| 1. 家族やヘルパー、支援員などから介助(介護)を受けて生活したい (52.9%) | |
| 2. 働いて経済的に自立した生活を送りたい (35.3%) | |
| 3. 通所施設などに通いながら生活したい (5.9%) | |
| 4. わからない (5.9%) | 5. その他 (0.0%) |
| | 無回答 (0.0%) |

問9-2 施設を退所したら、どこに住みたいですか。(○は1つ)

〈回答者数：17〉

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 中野区内に住みたい (52.9%) | 2. 今生活している施設の近く (0.0%) |
| 3. 特に場所はこだわらない (23.5%) | |
| 4. その他 (17.6%) | 5. わからない (5.9%) |
| | 無回答 (0.0%) |

(全員のの方に)

問10 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

きょうりよく
ご協力ありがとうございました

令和 2 年度(2020 年度)
障害福祉サービス意向調査
《発達支援等調査》
調査票

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、ご家族や介護されている方がお答えください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン、又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他()」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、

令和2年5月29日(金曜日)までに

三つ折りにした上で、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。

8. 調査報告書は、10 月末から図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれます。
9. 調査の内容や記入の方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区子ども教育部子ども特別支援課子ども発達支援係

TEL. 03-3228-5613 FAX. 03-3228-5680

E-mail kodomotokubetusien@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に(全員の方に)と記載のあるものは全員の方が、(～の方に)とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

《お子さん(あて名の方ご本人)の状況について、お伺いします》

(全員の方に)

問1 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ) 〈回答者数 : 337〉

1. ご家族 (99.1%)	2. その他の人 (0.0%)	無回答 (0.9%)
----------------	-----------------	------------

(全員の方に)

問2 お子さん(あて名の方ご本人)の性別と、令和2年4月1日現在の年齢をお答えください。
(○は1つ、右づめで数字を直接記入) 〈回答者数 : 337〉

〈性別〉	1. 男性 (74.5%)	2. 女性 (23.7%)	3. その他 (0.0%)	無回答 (1.8%)
------	---------------	---------------	---------------	------------

〈年齢〉		歳
------	---	---

(全員の方に)

問3 お子さん(あて名の方ご本人)と同居するご家族をお答えください。
(あてはまるものすべてに○) 〈回答者数 : 337〉

1. 父 (89.3%)	2. 母 (97.9%)	3. 兄弟姉妹 (58.8%)
4. その他 (10.7%)		無回答 (0.9%)

(全員の方に)

問4 次のサービス等を現在、利用していますか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：337〉

- | | | |
|------------------------------------|-------------------------|------------------------|
| 1. 専門医 (28.8%) | 2. 地域主治医 (11.0%) | 3. 訪問看護ステーション (5.3%) |
| 4. 訪問リハビリ (8.9%) | 5. リハビリ目的での通院 (6.8%) | 6. 居宅介護(ホームヘルプ) (3.9%) |
| 7. 移動支援 (10.4%) | 8. 短期入所(ショートステイ) (4.2%) | 9. 相談支援事業所 (11.6%) |
| 10. 在宅レスパイト事業 (1.8%) | 11. 児童発達支援 (16.3%) | 12. 医療型児童発達支援 (1.8%) |
| 13. 居宅訪問型児童発達支援 (0.3%) | | 14. 放課後等デイサービス (44.2%) |
| 15. アポロ園及びゆめなりあの保育園等巡回訪問支援 (11.3%) | 16. 保育所等訪問支援 (0.9%) | |
| 17. 区立障害児通所支援施設一時保護事業 (3.9%) | | |
| 18. 医療型障害児入所支援施設 (0.0%) | | |
| 19. 福祉型障害児入所支援施設 (0.6%) | | 20. 居宅訪問型保育事業 (0.6%) |
| 21. 保育所 (4.7%) | 22. 幼稚園 (8.0%) | 23. 学童クラブ (9.8%) |
| 24. ペアレントメンターによる相談 (0.0%) | | 25. 患者会・親の会 (4.2%) |
| 26. 利用していない (18.1%) | 27. その他 (3.0%) | 無回答 (3.0%) |

(全員の方に)

問4-1 これまで利用できなかったサービス等がありますか。(○は1つ)

〈回答者数：337〉

- | | | |
|---------------|----------------|------------|
| 1. はい (16.0%) | 2. いいえ (78.6%) | 無回答 (5.3%) |
|---------------|----------------|------------|

(問4-1で「1. はい」とお答えの方に)

問4-2 利用できなかったサービス等は何ですか。(あてはまるものすべてに○) 〈回答者数：54〉

- | | | |
|------------------------------------|--------------------------|------------------------|
| 1. 専門医 (5.6%) | 2. 地域主治医 (9.3%) | 3. 訪問看護ステーション (3.7%) |
| 4. 訪問リハビリ (3.7%) | 5. リハビリ目的での通院 (3.7%) | 6. 居宅介護(ホームヘルプ) (5.6%) |
| 7. 移動支援 (5.6%) | 8. 短期入所(ショートステイ) (18.5%) | 9. 相談支援事業所 (0.0%) |
| 10. 在宅レスパイト事業 (5.6%) | 11. 児童発達支援 (7.4%) | 12. 医療型児童発達支援 (3.7%) |
| 13. 居宅訪問型児童発達支援 (9.3%) | | 14. 放課後等デイサービス (14.8%) |
| 15. アポロ園及びゆめなりあの保育園等巡回訪問支援 (11.1%) | 16. 保育所等訪問支援 (1.9%) | |
| 17. 区立障害児通所支援施設一時保護事業 (7.4%) | | |
| 18. 医療型障害児入所支援施設 (5.6%) | | |
| 19. 福祉型障害児入所支援施設 (3.7%) | 20. 居宅訪問型保育事業 (5.6%) | |
| 21. 保育所 (16.7%) | 22. 幼稚園 (18.5%) | 23. 学童クラブ (14.8%) |
| 24. ペアレントメンターによる相談 (9.3%) | 25. 患者会・親の会 (7.4%) | |
| 26. その他 (7.4%) | | 無回答 (0.0%) |

(全員の方に)

問5 お子さん(あて名の方ご本人)は日常的に医療的ケア(※)が必要ですか。(○は1つ)

〈回答者数 : 337〉

1. はい (12.5%)

2. いいえ (86.6%)

無回答 (0.9%)

※医療的ケアとは、医師の指導の下に、保護者や看護師が日常的に行っている経管栄養・痰の吸引等の医療行為を言います。

(問5で「1. はい」とお答えの方に)

問5-1 日常的にどのような医療的ケアが必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数 : 42〉

1. 人工呼吸器(TPPV・NPPV・夜間のみも含む。) (11.9%)

2. 気管切開 (16.7%)

3. 鼻咽頭エアウェイ (0.0%)

4. 酸素 (14.3%)

5. 吸引 (28.6%)

6. 吸入(ネブライザー) (23.8%)

7. IVH(中心静脈栄養) (0.0%)

8. 経管栄養(経鼻・胃ろう) (26.2%)

9. 腸ろう (2.4%)

10. 透析(腹膜透析も含む) (0.0%)

11. 定期導尿 (2.4%)

12. 人工肛門 (2.4%)

13. 与薬 (31.0%)

14. その他 (4.8%)

無回答 (52.4%)

問5-2 身体能力についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数 : 42〉

1. 寝たきり (31.0%)

2. 座位可 (61.9%)

3. 立位可 (50.0%)

4. 独歩可 (59.5%)

5. 走れる (54.8%)

無回答 (0.0%)

(お子さん(あて名の方ご本人)が手帳をお持ちの方に)

問6 お子さん(あて名の方ご本人)が身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は、等級または度数をお答えください。複数の手帳をお持ちの方は、それぞれの等級または度数についてお答えください。

(1) 身体障害者手帳(○は1つ)

〈回答者数：32〉

1. 1級 (65.6%)	2. 2級 (21.9%)	3. 3級 (0.0%)
4. 4級 (3.1%)	5. 5級 (0.0%)	6. 6級 (9.4%)

(2) 愛の手帳(○は1つ)

〈回答者数：92〉

1. 1度 (3.3%)	2. 2度 (17.4%)	3. 3度 (31.5%)	4. 4度 (47.8%)
--------------	---------------	---------------	---------------

(3) 精神障害者保健福祉手帳(○は1つ)

〈回答者数：5〉

1. 1級 (0.0%)	2. 2級 (40.0%)	3. 3級 (60.0%)
--------------	---------------	---------------

(身体障害者手帳をお持ちの方に)

問6-1 お子さん(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳に記載された障害名をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：32〉

1. 上肢機能障害 (53.1%)	2. 聴覚・平行機能障害 (12.5%)
3. 下肢機能障害 (40.6%)	4. 音声・言語・そしゃく機能障害 (3.1%)
5. 体幹機能障害 (59.4%)	6. 脳原性まひ (21.9%)
7. 内部機能障害 (9.4%)	8. 視覚障害 (6.3%)
9. その他 (6.3%)	無回答 (3.1%)

(全員の方に)

問6-2 差し支えなければ、お子さん(あて名の方ご本人)の診断名(疑いなども含む)をお答えください。(直接記入)

()

(全員の方に)

問6-3 上記の診断に関することで気がついた年齢をお答えください。

(把握時点が複数ある場合は直近のものを記入)(右づめで直接記入)

		歳
--	--	---

《児童福祉法のサービスについておたずねします》

(全員の方に)

問7 児童発達支援を知っていますか。(○は1つ)

※児童発達支援とは、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練、その他必要な支援を行うサービスです。

〈回答者数：337〉

1. はい (84.9%)

2. いいえ (13.9%)

無回答 (1.2%)

(全員の方に)

問8 児童発達支援を現在、利用していますか。(○は1つ)

〈回答者数：337〉

1. はい (30.3%)

2. いいえ (68.0%)

無回答 (1.8%)

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

問8-1 現在、利用している児童発達支援事業所は何か所ですか。(○は1つ) 〈回答者数：102〉

1. 1か所 (65.7%)

2. 2か所 (20.6%)

3. 3か所 (4.9%)

4. 4か所以上 (2.0%)

無回答 (6.9%)

問8-2 現在、利用している児童発達支援事業所には、週にどの程度通われていますか。

複数か所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。(○は1つ)

〈回答者数：102〉

1. 週に1日 (23.5%)

2. 週に2日 (17.6%)

3. 週に3日 (6.9%)

4. 週に4日 (3.9%)

5. 週に5日 (10.8%)

6. 月に2、3日 (22.5%)

7. その他 (7.8%)

無回答 (6.9%)

問8-3 児童発達支援について、希望する利用日数はどの程度ですか。(○は1つ)

〈回答者数：102〉

1. 週に1日 (23.5%)

2. 週に2日 (20.6%)

3. 週に3日 (11.8%)

4. 週に4日 (4.9%)

5. 週に5日 (14.7%)

6. 月に2、3日 (17.6%)

7. その他 (4.9%)

無回答 (2.0%)

(全員の方に)

問9 児童発達支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

〈回答者数：337〉

1. はい (42.7%)	2. いいえ (27.3%)	3. 分からない (26.4%)	無回答 (3.6%)
---------------	----------------	------------------	------------

(問9で「2. いいえ」とお答えの方に)

問9-1 児童発達支援を利用したくない理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：92〉

1. 必要ない (58.7%)	2. 利用したい事業所がない (4.3%)
3. 利用できる事業所がない (7.6%)	4. 家から遠くて利用できない (2.2%)
5. その他 (22.8%)	無回答 (8.7%)

(全員の方に)

問10 居宅訪問型児童発達支援を、今後利用したいですか。

(○は1つ)

※居宅訪問型児童発達支援とは、通所が著しく困難な場合に、障害のあるお子さんの居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与等の支援を行うサービスです。

〈回答者数：337〉

1. はい (5.9%)	2. いいえ (74.8%)	3. 分からない (17.5%)	無回答 (1.8%)
--------------	----------------	------------------	------------

(問10で「1. はい」とお答えの方に)

問10-1 どの程度の日数を利用したいですか。(○は1つ)

〈回答者数：20〉

1. 週に1日 (45.0%)	2. 週に2日 (25.0%)	3. 月に2、3日 (15.0%)
4. その他 (5.0%)	無回答 (10.0%)	

(全員の方に)

問11 放課後等デイサービスを知っていますか。(○は1つ)

※放課後等デイサービスとは、授業の終了後又は学校の休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他必要な支援を行うサービスです。

〈回答者数：337〉

1. はい (84.6%)	2. いいえ (13.1%)	無回答 (2.4%)
---------------	----------------	------------

(全員の方に)

問 12 放課後等デイサービスを現在、利用していますか。(○は1つ)

〈回答者数 : 337〉

1. はい (44.2%)

2. いいえ (55.5%)

無回答 (0.3%)

(問 12 で「1. はい」とお答えの方に)

問 12-1 現在、利用している放課後等デイサービス事業所は何か所ですか。(○は1つ)

〈回答者数 : 149〉

1. 1か所 (59.1%)

2. 2か所 (29.5%)

3. 3か所 (8.1%)

4. 4か所以上 (2.0%)

無回答 (1.3%)

問 12-2 現在、利用している放課後等デイサービス事業所には、週にどの程度通われていますか。複数か所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。

(○は1つ)

〈回答者数 : 149〉

1. 週に1日 (30.9%)

2. 週に2日 (17.4%)

3. 週に3日 (12.1%)

4. 週に4日 (9.4%)

5. 週に5日 (15.4%)

6. 月に2、3日 (4.7%)

7. その他 (9.4%)

無回答 (0.7%)

問 12-3 放課後等デイサービスについて、希望する利用日数はどの程度ですか。

(○は1つ)

〈回答者数 : 149〉

1. 週に1日 (18.8%)

2. 週に2日 (17.4%)

3. 週に3日 (15.4%)

4. 週に4日 (10.7%)

5. 週に5日 (21.5%)

6. 月に2、3日 (5.4%)

7. その他 (8.7%)

無回答 (2.0%)

(全員の方に)

問 13 放課後等デイサービスを今後、利用したいですか(○は1つ)

〈回答者数 : 337〉

1. はい (58.2%)	2. いいえ (22.3%)	3. 分からない (19.6%)	無回答 (0.0%)
---------------	----------------	------------------	------------

(問 13 で「2. いいえ」とお答えの方に)

問 13-1 放課後等デイサービスを利用したくない理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数 : 75〉

1. 必要ない (64.0%)	2. 利用したい事業所がない (9.3%)
3. 利用できる事業所がない (8.0%)	4. 家から遠くて利用できない (6.7%)
5. 学童クラブを利用している (9.3%)	6. その他 (10.7%)
無回答 (2.7%)	

(区外の児童発達支援や放課後等デイサービス事業所を利用している方に)

問 14 区外の児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所を利用している方にお尋ねします。

区外の事業所を利用している理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数 : 91〉

1. 障害特性にあった療育を受けるため (45.1%)	2. 区内事業所に空きがないため (14.3%)
3. 自宅に近い (18.7%)	4. 通学先に近い (8.8%)
5. その他 (13.2%)	

(全員の方に)

問 15 保育所等訪問支援を知っていますか。(○は1つ)

※保育所等訪問支援とは、障害や発達に課題のあるお子さんが在籍する保育所や幼稚園等へ訪問し、専門的な助言・支援を行うものです。

〈回答者数 : 337〉

1. はい (72.4%)	2. いいえ (26.1%)	無回答 (1.5%)
---------------	----------------	------------

(全員の方に)

問 16 保育所等訪問支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

〈回答者数：337〉

1. はい (19.3%)	2. いいえ (56.1%)	3. 分からない (20.2%)	無回答 (4.5%)
---------------	----------------	------------------	------------

(問 16で「1. はい」とお答えの方に)

問 16-1 保育所等訪問支援を、どの程度利用したいですか。(○は1つ)

〈回答者数：65〉

1. 月に1日 (55.4%)	2. 月に2日 (16.9%)	3. 月に3日 (10.8%)
4. その他 (12.3%)	無回答 (4.6%)	

(全員の方に)

問 17 障害児相談支援を知っていますか。(○は1つ)

※障害児相談支援とは、保護者等からの相談に応じて、必要な情報の提供や助言などを行ったり、児童発達支援や放課後等デイサービス等の通所給付決定の申請に係る、お子さんの心身の状況や環境、利用意向等を勘案し、障害児支援利用計画を作成したりするサービスです。

〈回答者数：337〉

1. はい (76.9%)	2. いいえ (20.8%)	無回答 (2.4%)
---------------	----------------	------------

(全員の方に)

問 18 障害児相談支援(障害児相談支援事業所)を利用したことがありますか。(○は1つ)

〈回答者数：337〉

1. はい (59.6%)	2. いいえ (38.9%)	無回答 (1.5%)
---------------	----------------	------------

(全員の方に)

問 19 障害児支援利用計画を作成する際には、どここの障害児相談支援事業所の利用を希望しますか。
(あてはまるものすべてに○)

※児童発達支援や放課後等デイサービス等の通所給付決定には、指定障害児相談支援事業者が作成するお子さんの心身の状況や環境、利用意向等を勘案し作成した、障害児支援利用計画が必要です。

〈回答者数：337〉

1. 自宅近くの障害児相談支援事業所 (30.9%)	2. すこやか障害者相談支援事業所 (45.7%)
3. 通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 (22.6%)	4. 利用を希望しない (19.6%)
無回答 (4.5%)	

(全員の方に)

問 20 障害児相談支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

〈回答者数：337〉

1. はい (52.8%)	2. いいえ (21.1%)	3. 分からない (24.9%)	無回答 (1.2%)
---------------	----------------	------------------	------------

(全員の方に)

問 21 障害児に対する地域の理解はどの程度進んでいると思いますか。(○は1つ)

〈回答者数：337〉

1. 十分に進んでいる (1.8%)	2. ある程度進んでいる (19.9%)
3. どちらともいえない (24.9%)	4. あまり進んでいない (28.2%)
5. 全く進んでいない (7.1%)	6. 分からない (17.2%)
無回答 (0.9%)	

(全員の方に)

問 22 次の施策・サービス等、特に充実してほしいと思うものはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈回答者数：337〉

1. サービスの利用などの福祉に関する様々な相談支援 (46.3%)
2. パARENTメンター(※1)による相談 (25.8%)
3. パARENTトレーニング(※2)等の保護者支援 (42.7%)
4. 余暇活動の支援 (34.1%)
5. 活動の場、憩いの場の整備 (35.0%)
6. 利用できるサービスについての広報・周知 (51.3%)
7. 病気や障害に対する理解の促進 (42.7%)
8. 特にない (6.2%)
9. その他 (8.6%)
無回答 (2.7%)

※1 パARENTメンターとは、同じ障害のある子どもを育てる保護者が相談相手になること。悩みを共有し、実際の子育ての経験を通して助言することができる。

※2 パARENTトレーニングとは、保護者が自分の子どもの行動を理解したり、特性をふまえた褒め方や叱り方を学ぶための支援。

(全員の方に)

問23 日常生活や就園・就学・進路・就職等で困っていることがありましたら、ご自由にお書きください。

(全員の方に)

問 24 健康福祉行政に関することや今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

令和２年度（2020 年度）
障害福祉サービス意向調査
報 告 書

発行日／令和２年（2020 年）９月

印刷登録番号／２中健福第９７３号

発 行／中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係

中野区健康福祉部 障害福祉課 障害者施策推進係

中野区子ども教育部 子ども特別支援課 子ども発達支援係

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電話 03-3228-8832 / 03-3228-5613

編集分析／株式会社アイアールエス

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-1-3 第1 富澤ビル 7 F

電話 03-3357-7181（代表）

この冊子は環境に配慮して再生紙を使用しています。

